

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第141集

政 田 仙 道 上 遺 跡

2019

岐阜県文化財保護センター

まさ だ せん どう うえ
政 田 仙 道 上 遺 跡

2019

岐阜県文化財保護センター



出土遺物集合写真



井戸柵（SE 5）復元状況（東辺側板撤去）



井戸柵（SE 5）復元状況



井戸柵（SE 5）復元状況（南・東辺側板撤去）

序

このたび、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所による東海環状自動車道建設事業に伴い、本巣市南部に所在する政田仙道上遺跡の発掘調査を実施しました。

本巣市南部は、北部の山岳地帯から複数の河川が南流し、清らかな水が流れ込んで肥沃な耕地を形成し、古来より様々な文化や産業が営まれてきた地区です。

発掘調査では、主に中世後期の遺構を検出しましたが、溝によって区切られた区画を2箇所確認し、それぞれその内側で掘立柱建物、柵、柱穴、井戸、土坑を検出したことから屋敷地であったと考えられます。また、土器や石器、金属製品及び木製品が出土しましたが、土師器皿と瀬戸美濃産陶器が出土遺物の大半を占める中、特に土師器皿が高い比率で出土し、そこに暮らす人々の階層をうかがうことができました。明治時代の字絵図では、調査で検出した区画溝との関連が指摘できる地割が発掘区の周辺で確認できることから、中世の地割が遺存していたことが考えられます。本報告書が、広く県民の皆様に活用され、埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史的研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成に当たりまして、御理解と御協力をいただきました関係機関並びに関係者各位、本巣市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成31年2月

岐阜県文化財保護センター

所長 野村 幹也

例　言

- 1 本書は、岐阜県本巣市政田に所在する政田仙道上遺跡（岐阜県遺跡番号 21218-11267）の発掘調査報告書である。
 - 2 本調査は、東海環状自動車道建設に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
 - 3 宇野隆夫帝塚山大学教授の指導のもとに、発掘作業は平成 27・29 年度に実施した。整理等作業は平成 29 年度に実施した。
 - 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。
 - 5 本書の執筆は、佐竹正憲が行った。なお、第 3 章第 4・5 節については、小野木学・佐竹の所見をもとに佐竹が行った。また、編集は佐竹が行った。
 - 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は、国際文化財株式会社（平成 27 年度）、橋本技術株式会社（平成 29 年度）に委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、橋本技術株式会社に委託して行った。
 - 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
 - 8 漆製品の塗膜分析は株式会社吉田生物研究所、生材の樹種同定は株式会社イビソクと株式会社吉田生物研究所、花粉分析は株式会社パレオ・ラボ、木製品保存処理は株式会社イビソク、金属製品保存処理は株式会社吉田生物研究所に委託してを行い、第 4 章に掲載した。第 4 章第 1 節は佐竹が執筆した。
 - 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
- 井川祥子、恩田知美、樋上昇、藤澤良祐、渡邊博人、本巣市教育委員会
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。
 - 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2014『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
 - 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

卷頭図版

序

例言

第1章 調査の経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の方法と経過.....	3
第2章 遺跡の環境.....	7
第1節 地理的環境.....	7
第2節 歴史的環境.....	11
第3章 調査の成果.....	15
第1節 基本層序.....	15
第2節 遺構の概要.....	17
第3節 遺物の概要.....	19
第4節 中世の遺構.....	22
第5節 近世以降の遺構.....	122
第6節 その他の遺構出土遺物.....	128
第7節 扰乱坑・遺物包含層出土遺物.....	130
第4章 自然科学分析.....	181
第1節 分析の概要と成果.....	181
第2節 花粉分析.....	182
第3節 木製品の樹種同定.....	187
第4節 塗膜分析.....	193
第5章 総括.....	199
第1節 遺物について.....	199
第2節 遺構について.....	210
引用・参考文献.....	216

写真図版

報告書抄録

挿図目次

図 1 遺跡位置図	1	図 42 SD15 出土遺物実測図（3）	64
図 2 試掘・確認調査坑、本発掘調査範囲	2	図 43 SD16・17 遺構図	65
図 3 発掘区地区割図	3	図 44 SD16 出土遺物実測図	66
図 4 発掘区周辺の小字名	7	図 45 SD19 遺構図	67
図 5 発掘区周辺地形図（昭和 40 年）	8	図 46 SD19 出土遺物実測図（1）	68
図 6 発掘区周辺地形図（平成 25 年）	8	図 47 SD19 出土遺物実測図（2）	69
図 7 遺跡周辺の地形分類図	9	図 48 SD19 出土遺物実測図（3）	70
図 8 発掘区周辺等高線図（昭和 40 年測量）	10	図 49 SD20 遺構図・出土遺物実測図	71
図 9 周辺遺跡位置図	14	図 50 SD21・22 遺構図	73
図 10 基本層序模式図	16	図 51 SD21 出土遺物実測図（1）	74
図 11 木製品実測図の例	20	図 52 SD21 出土遺物実測図（2）	75
図 12 SB 1 出土遺物実測図	22	図 53 SD23 遺構図・出土遺物実測図	76
図 13 SB 1 遺構図（1）	23	図 54 SD28 遺構図・出土遺物実測図	77
図 14 SB 1 遺構図（2）	24	図 55 SD29・30 遺構図・出土遺物実測図	78
図 15 SB 2 遺構図（1）	25	図 56 SE 1 遺構図（1）	80
図 16 SB 2 遺構図（2）	26	図 57 SE 1 遺構図（2）	81
図 17 SB 2 出土遺物実測図	27	図 58 SE 1 出土遺物実測図（1）	82
図 18 SB 3 遺構図（1）	28	図 59 SE 1 出土遺物実測図（2）	83
図 19 SB 3 遺構図（2）・出土遺物実測図	29	図 60 SE 2 遺構図・出土遺物実測図	85
図 20 SB 4 遺構図	31	図 61 SE 3 遺構図・出土遺物実測図	86
図 21 SA 1 遺構図	32	図 62 SE 4 遺構図・出土遺物実測図（1）	88
図 22 SA 2 遺構図・出土遺物実測図	33	図 63 SE 4 出土遺物実測図（2）	89
図 23 SA 3 遺構図・出土遺物実測図、SA 4 出土遺物実測図	35	図 64 SE 5 遺構図（1）	91
図 24 SA 4・5 遺構図	36	図 65 SE 5 遺構図（2）	92
図 25 SA 6・7 遺構図、SA 6 出土遺物実測図	38	図 66 SE 5 出土遺物実測図（1）	93
図 26 SP 6 遺構図・出土遺物実測図	39	図 67 SE 5 出土遺物実測図（2）	94
図 27 SP 8 遺構図・出土遺物実測図	40	図 68 SE 5 出土遺物実測図（3）	95
図 28 SP26・27・28・32 遺構図・出土遺物実測図	42	図 69 SE 5 出土遺物実測図（4）	96
図 29 SP47・50・51 遺構図、SP50 出土遺物実測図	44	図 70 SE 5 出土遺物実測図（5）	97
図 30 SP57・59・67 遺構図・出土遺物実測図	46	図 71 SK15 遺構図・出土遺物実測図	98
図 31 SP69・78・83 遺構図・出土遺物実測図	48	図 72 SK37・38・48・51 遺構図、SK48・51 出土遺物実測図	100
図 32 SP89・91・92 遺構図・出土遺物実測図	50	図 73 SK76・77 遺構図・出土遺物実測図	102
図 33 SP93・94 遺構図、SP93 出土遺物実測図	51	図 74 SK79 遺構図・出土遺物実測図	103
図 34 SD 1・2 遺構図・SD 1 出土遺物実測図	53	図 75 SK85・107・111・116・128 遺構図・出土遺物実測図	105
図 35 SD 3 遺構図・出土遺物実測図	54	図 76 SK169・176・177・181・192・遺構図・出土遺物実測図	107
図 36 SD 5・7 遺構図・出土遺物実測図	56	図 77 SK207・212・227・246 遺構図・出土遺物実測図	109
図 37 SD 8～10 遺構図、SD 9・10 出土遺物実測図	58	図 78 SK252・279 遺構図・出土遺物実測図	111
図 38 SD12・13 遺構図	59	図 79 SK285 遺構図・出土遺物実測図	112
図 39 SD14・15・18 遺構図、SD14 出土遺物実測図	61	図 80 SK318・326 遺構図・出土遺物実測図	113
図 40 SD15 遺構図、SD15 出土遺物実測図（1）	62		
図 41 SD15 出土遺物実測図（2）	63		

図 81	SK373・405・432 遺構図、SK405 出土遺物実測図	115
図 82	SK435・440 遺構図、SK435 出土遺物実測図	116
図 83	SK451 遺構図、出土遺物実測図	117
図 84	SK480・490・503 遺構図、SK480・490 出土遺物実測図	118
図 85	SK520～524 遺構図、SK520・522～524 出土遺物実測図	120
図 86	SD24 遺構図、出土遺物実測図	122
図 87	SD25 遺構図、出土遺物実測図	123
図 88	SD26 遺構図、出土遺物実測図	125
図 89	SD27 遺構図、出土遺物実測図	126
図 90	SK258 遺構図、出土遺物実測図	127
図 91	その他の遺構出土遺物実測図（1）	128
図 92	その他の遺構出土遺物実測図（2）	129
図 93	擾乱坑・遺物包含層出土遺物（1）	131
図 94	擾乱坑・遺物包含層出土遺物（2）	132
図 95	擾乱坑・遺物包含層出土遺物（3）	133
図 96	擾乱坑・遺物包含層出土遺物（4）	134
図 97	擾乱坑・遺物包含層出土遺物（5）	135
図 98	発掘区全域図 割付図	136
図 99	発掘区全域図 分割図（1）	137
図 100	発掘区全域図 分割図（2）	138
図 101	発掘区全域図 分割図（3）	139
図 102	発掘区全域図 分割図（4）	140
図 103	発掘区全域図 分割図（5）	141
図 104	発掘区全域図 分割図（6）	142
図 105	発掘区全域図 分割図（7）	143
図 106	発掘区全域図 分割図（8）	144
図 107	発掘区全域図 分割図（9）	145
図 108	発掘区全域図 分割図（10）	146
図 109	発掘区全域図 分割図（11）	147
図 110	発掘区全域図 分割図（12）	148
図 111	発掘区全域図 分割図（13）	149
図 112	発掘区全域図 分割図（14）	150
図 113	発掘区全域図 分割図（15）	151
図 114	発掘区全域図 分割図（16）	152
図 115	発掘区全域図 分割図（17）	153
図 116	発掘区全域図 分割図（18）	154
図 117	花粉分布図	183
図 118	漆塗膜のスペクトル図（1）	194
図 119	漆塗膜のスペクトル図（2）	195
図 120	漆塗膜のスペクトル図（3）	196
図 121	漆塗膜の電子顕微鏡画像と EDX 分析のスペクトル図（1）	196
図 122	漆塗膜の電子顕微鏡画像と EDX 分析のスペクトル図（2）	196
図 123	中世陶器の時期別破片数	200
図 124	土師器皿の口径分布	204
図 125	遺物出土分布図（1）	205
図 126	遺物出土分布図（2）	206
図 127	遺物出土分布図（3）	207
図 128	遺物出土分布図（4）	208
図 129	遺構変遷図	211
図 130	発掘区周辺の字絵図	213
図 131	字絵図の区画と構の位置	214

表目次

表 1	試掘・確認調査結果	2
表 2	周辺道路一覧表	13
表 3	検出遺構一覧表	17
表 4	出土遺物一覧表	19
表 5	木製品・金属製品一覧表	20
表 6	掘立柱建物一覧表	155
表 7	掘立柱建物付属遺構一覧表	155
表 8	堆一覧表	155
表 9	堆付属遺構一覧表（1）	155
表 10	堆付属遺構一覧表（2）	156
表 11	柱穴一覧表（1）	156
表 12	柱穴一覧表（2）	157
表 13	溝状遺構一覧表（1）	157
表 14	溝状遺構一覧表（2）	158
表 15	井戸一覧表	158
表 16	土坑一覧表（1）	158
表 17	土坑一覧表（2）	159
表 18	土坑一覧表（3）	160
表 19	土坑一覧表（4）	161
表 20	土坑一覧表（5）	162
表 21	土坑一覧表（6）	163
表 22	土坑一覧表（7）	164
表 23	土坑一覧表（8）	165
表 24	土器観察表（1）	166
表 25	土器観察表（2）	167
表 26	土器観察表（3）	168
表 27	土器観察表（4）	169
表 28	土器観察表（5）	170
表 29	土器観察表（6）	171
表 30	土器観察表（7）	172

表 31 土器観察表（8）	173	表 44 樹種同定結果一覧表	188
表 32 土器観察表（9）	174	表 45 調査資料	193
表 33 土器観察表（10）	175	表 46 成分分析結果	197
表 34 土器観察表（11）	176	表 47 漆器の断面観察結果表	198
表 35 石製品観察表	177	表 48 編年対応表	200
表 36 金鳳製品観察表	177	表 49 山茶碗の時期別個体数	201
表 37 木製品観察表（1）	178	表 50 古瀬戸・大窯の器種別破片数（1）	201
表 38 木製品観察表（2）	179	表 51 古瀬戸・大窯の器種別破片数（2）	202
表 39 木製品観察表（3）	180	表 52 古瀬戸・大窯の用途別破片数	202
表 40 分析資料一覧表	182	表 53 常滑産陶器の器種別破片数	203
表 41 産出花粉孢子一覧表（1）	183	表 54 中国産陶磁器の器種別破片数	203
表 42 産出花粉孢子一覧表（2）	184	表 55 土師器皿の分類別個体数	203
表 43 出土木製品の器種別樹種構成	187	表 56 岐阜県内遺跡板組井戸	210

挿入写真目次

写真 1 発掘区周辺空中写真	9	写真 4 掲載遺物の顕微鏡写真（2）	191
写真 2 政田仙道上遺跡から出土した花粉化石	186	写真 5 漆塗断面の顕微鏡写真	198
写真 3 掲載遺物の顕微鏡写真（1）	190		

写真図版目次

巻頭図版

図版 1 出土遺物集合写真	
図版 2 井戸枠（SE5）復元状況（東辺側板撤去）	
井戸枠（SE5）復元状況	
井戸枠（SE5）復元状況（南・東辺側板撤去）	

図版 13 中世の遺構（10）	
図版 14 中世の遺構（11）	
図版 15 中世の遺構（12）	
図版 16 中世の遺構（13）	
図版 17 出土遺物（1）	
図版 18 出土遺物（2）	
図版 19 出土遺物（3）	
図版 20 出土遺物（4）	
図版 21 出土遺物（5）	
図版 22 出土遺物（6）	
図版 23 出土遺物（7）	
図版 24 出土遺物（8）	
図版 25 出土遺物（9）	
図版 26 出土遺物（10）	
図版 27 出土遺物（11）	
図版 28 出土遺物（12）	
図版 29 出土遺物（13）	
図版 30 出土遺物（14）	

巻末図版

図版 1 発掘区全景（1）	
図版 2 発掘区全景（2）	
図版 3 発掘区近景	
図版 4 中世の遺構（1）	
図版 5 中世の遺構（2）	
図版 6 中世の遺構（3）	
図版 7 中世の遺構（4）	
図版 8 中世の遺構（5）	
図版 9 中世の遺構（6）	
図版 10 中世の遺構（7）・近世以降の遺構	
図版 11 中世の遺構（8）	
図版 12 中世の遺構（9）	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

政田仙道上遺跡は、南北約800m、東西約750mの範囲に広がる遺跡であり、本巣市政田、竹後、溝口地内に位置する（図1）。当遺跡内には、小字「仙道上」、「仙道下」という地名が残り、当遺跡の北部に所在する東山道路から南南東約250mの地点に今回の発掘区が位置する。

政田仙道上遺跡及びその周辺において、東海環状自動車道が建設されることになった。東海環状自動車道は、東名・名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道などを、環状にネットワーク化することを目的とし、計画された自動車専用道路である。この事業に伴う政田仙道上遺跡の試掘・確認調査は、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所（以下「岐阜国道事務所」という。）からの依頼により平成26年度に岐阜県教育委員会が実施した。試掘調査坑は、政田仙道上遺跡の範囲内及びその周辺の事業予定地内に28箇所（TP1～TP28）設定された（図2：試掘調査坑番号は試掘・確認調査時の名称を記載した）。その結果、TP10・12・14・15で構や土坑を検出し、TP2～12、TP14～16、TP18～21、TP23～27で土師器や須恵器、山茶碗、中世陶器などの遺物が出土した（表1）。

試掘・確認調査の結果をもとに、岐阜県教育委員会社会教育文化課は、平成26年8月28日に平成26年度第1回岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会を開催し、2,478.7m²の本発掘調査が必要であると結論づけた。

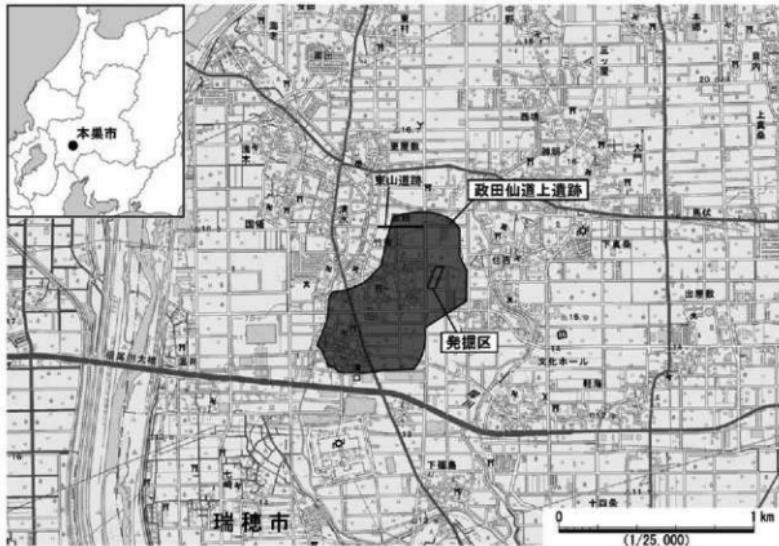


図1 遺跡位置図（平成28年国土地理院発行2万5千分の1地形図「北方」）

2 第1章 調査の経過



図2 試掘・確認調査坑、
本発掘調査範囲

本工事は、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、岐阜国道事務所長から岐阜県教育委員会教育長（以下「県教育長」という。）あて埋蔵文化財発掘の通知（平成27年3月31日付け国部整岐調第273号）が提出され、同条第4項の規定に基づき、県教育長は同事務所長あて発掘調査の実施を求める勧告（平成27年4月3日付け社文第54号の8）をした。同事務所長は県教育長に発掘調査の実施を依頼し、岐阜県文化財保護センター（以下「当センター」という。）が実施した。本発掘調査は、平成27年度に2,413.6m²、平成29年度に65.1m²を対象に、当センターが発掘調査を実施した。当センターは調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告（平成27年5月15日付け文財セ第77号、平成29年5月8日付け文財セ第86号）を県教育長に提出した。

表1 試掘・確認調査結果

調査坑 No.	検出遺構 (基数)	出土遺物(点数)					合計
		土師器	須恵器	灰釉 陶器	山茶碗	中近世 陶磁器	
TP1	なし	0	0	0	0	0	0
TP2	なし	0	0	0	0	2	2
TP3	なし	0	1	0	0	0	1
TP4	なし	0	0	0	0	1	1
TP5	なし	0	0	0	0	3	3
TP6	なし	0	0	0	1	1	2
TP7	なし	7	0	0	4	1	12
TP8	なし	1	0	0	1	3	5
TP9	なし	6	1	0	12	4	23
TP10	溝1	0	0	0	14	0	14
TP11	なし	0	0	0	0	1	1
TP12	溝2 土坑1	61	0	0	25	13	99
TP13	なし		0	0	0	0	0
TP14	土坑3	4	0	0	0	0	4
TP15	溝3 土坑9	21	0	0	8	10	39
TP16	なし	1	1	0	1	1	4
TP17	なし	0	0	0	0	0	0
TP18	なし	0	0	0	0	2	2
TP19	なし	0	0	0	0	1	1
TP20	なし	0	0	1	0	1	2
TP21	なし	0	0	0	1	0	1
TP22	なし	0	0	0	0	0	0
TP23	なし	1	0	0	2	2	5
TP24	なし	1	0	1	0	0	2
TP25	なし	1	0	0	2	0	3
TP26	なし	2	0	1	10	0	13
TP27	なし	0	0	0	1	7	8
TP28	なし	0	0	0	0	0	0

本発掘調査範囲

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘区中央の東西方向の市道の北側をA地点、南側をB地点と呼称した。発掘作業は、平成27年度に2,413.6 m²を実施し、平成29年度に平成27年度発掘区B地点の北東に隣接する65.1 m²を実施した。

世界測地系座標をもとに100m×100mの大グリッドを設定し、発掘区の北側（A地点）をA、南側（B地点）をBとした。さらにその中に5m×5mの小グリッド（以下「グリッド」という。）を設定し、南北列にA～Tのアルファベット、東西列に1～20のアラビア数字を付けて併用した（図3）。そのため、A地点北西端のグリッドはA I 11、B地点南東端のグリッドはB J 9となる。

表土掘削は重機を用いて行い、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削はスコップ・草刈り鎌・移植ゴテなどを用いて人力で行った。遺構埋土は半截又は4分割して土層堆積状況などの必要な記録を作成した後

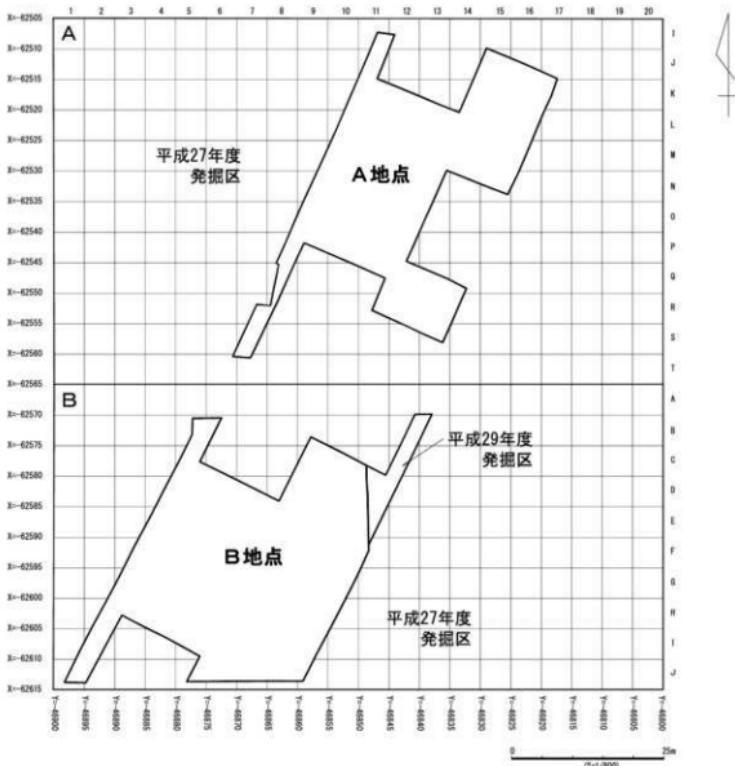


図3 発掘区地区割図 (1 : 800)

4 第1章 調査の経過

に完掘した。また、遺構基盤層と遺構埋土の識別が困難な場合は、必要最低限のサブトレーナーを設定し、両者の識別を明確にした上で遺構埋土を掘削した。なお、発掘区内は湧水が激しいため、排水溝を発掘区内に掘削して、排水を行いつつ作業を実施した。

遺物包含層掘削及び遺構検出時に出土した遺物は、原則として層位、グリッド単位で取り上げた。また、遺構出土遺物は半截前後で取り上げ方法を変えた。すなわち、半截前は検出面から約5cm下までをa、約5~10cm下をb、というように遺構内を概ね5cm単位の人工層位として取り上げ、半截後は分層した層位ごとに取り上げた。また、溝については土層観察用畦部分を分層した層位で、それ以外を人工層位で取り上げた。なお、遺構の性格や時期が分かるなど、遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、出土状況図の作成あるいは、トータルステーションを用いた3次元測量による出土位置の測定を行い取り上げた。

遺構番号は、原則として検出順に通番を付し、平成27年度は、A地点の遺構はSと3桁の数字で表記し、B地点は2名の担当調査職員が調査を実施したため、各担当者が調査した遺構ごとに、それぞれAと3桁の数字、Bと3桁の数字で表記した。また、平成29年度はCと3桁の数字で表記した。この番号は二次整理作業時に遺構種別ごとに振り替えたが、今後の資料活用時に支障を来さぬよう、本書の遺構一覧表（表6~23）に「調査番号」として記載した。

遺構等の実測作業は、原則として平面図はデジタル測量にて、断面図は手測り測量にて、それぞれ実施した。図面の縮尺は20分の1を基本としつつ、実測対象に応じて適切な縮尺を選択した。

写真撮影は、35mmフィルムカメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）、6×4.5cm版フィルムカメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）、デジタルカメラを使用した。また、全地点の完掘後に景観写真撮影を実施した。

自然科学分析は、SD10・SD21・SE3埋土の花粉分析と、出土木製品の樹種同定、出土塗膜の成分分析を行った。出土木製品の樹種同定と出土塗膜の成分分析は、それぞれの実測図や写真撮影などの記録を作成した後に実施した。

2 調査の経過

発掘調査日誌から抜粋して、週毎の調査経過を以下に記載する。

平成27年度

第1週（5/12~5/15） 重機によるB地点の表土掘削開始。

第2週（5/18~5/22） B地点の表土掘削終了。B地点の壁面整形開始。B地点の排水溝掘削開始。B地点の遺物包含層掘削・遺構検出開始。

第3週（5/25~5/29） 遺物包含層から古瀬戸有耳壺・古瀬戸仏像出土。

第4週（6/1~6/5） SP59柱根検出。

第5週（6/8~6/12） 重機による発掘区東側（B F 7~B J 9グリッド）大規模攪乱坑掘削開始。SB2-P1から銭貨出土。重機による大規模攪乱坑掘削終了。SD27から古瀬戸天目茶碗出土。並行する2条の区画溝を検出（SD16・SD21）。

第6週（6/15~6/19） SD24完掘後底面での遺構検出開始。

第7週（6/22~6/26） SD20から銭貨3枚出土。SB1-P5底部で地下式礎石を確認。SB1-P1底部で地下式礎石を確認。

- 第8週（6/29～7/3） 大規模搅乱坑完掘後底面での遺構検出開始。SB3-P3から銭貨出土。
- 第9週（7/6～7/10） SP8から銭貨6枚出土。
- 第10週（7/13～7/17） 埋蔵文化財等基礎講座（県社会教育文化課開催）21名来訪。SE5井戸枠検出。遺物包含層から青磁碗出土。
- 第11週（7/20～7/24） 重機による発掘区西側（B C 6～B E 6 グリッド）大規模搅乱坑掘削開始。重機による大規模搅乱坑掘削終了。B地点の遺物包含層掘削・遺構検出終了。A091から銭貨出土。
- 第12週（7/27～7/31） SK285から大窯擂鉢出土。SD19から大窯端反皿出土。
- 第13週（8/3～8/7） SK285から石臼出土。SD21から古瀬戸燭台出土。SP6から底部穿孔土師器皿出土。
- 第14週（8/10～8/14） 夏期休業。
- 第15週（8/17～8/21） SE4で曲物検出。SD18から石臼出土。SE3から棒材・板材出土。SD19から土師器皿がまとまって出土。
- 第16週（8/24～8/28） 重機によるA地点の表土掘削開始。SD21調査終了。
- 第17週（8/31～9/4） 重機によるA地点の表土掘削終了。A地点の排水溝掘削・壁面整形開始。
- 第18週（9/7～9/11） A地点の遺物包含層掘削開始。A地点の遺構検出開始。
- 第19週（9/14～9/18） 発掘区西側（AK10～AP11 グリッド）にある搅乱坑の掘削終了。
- 第20週（9/21～9/25） 雨天のため作業休止。
- 第21週（9/28～10/2） 宇野隆夫氏（帝塚山大学教授）現地指導。
- 第22週（10/5～10/9） SD1検出。SE1検出。
- 第23週（10/12～10/16） SD2検出。
- 第24週（10/19～10/23） A地点の遺物包含層掘削・遺構検出終了。
- 第25週（10/26～10/30） B地点の井戸（SE4・SE5）の調査再開。SE5から編物出土。
- 第26週（11/2～11/7） 全発掘区、ラジコンヘリコプターによる景観写真撮影実施。現地見学会実施（参加者130名）。
- 第27週（11/9～11/13） A・B地点、井戸を除く全遺構の調査終了。発掘区埋戻し作業開始。
- 第28週（11/16～11/20） 本巣市文化財保護審議会委員8名見学。SE4から曲物出土。SE4調査終了。SE1から曲物出土。SE1調査終了。A地点調査終了。SE5調査終了。
- 第29週（11/23～11/27） B地点調査終了（11/24）。
- 第30週（11/30～12/3） 発掘区埋戻し作業終了（12/2）。
- 平成29年度
- 第1週（4/24～4/28） 重機による表土掘削開始・終了。
- 第2週（5/1～5/5） 遺構検出開始。遺構掘削開始。平成27年度調査で確認した区画溝の延長部分を検出。
- 第3週（5/8～5/12） SD23検出。SE2検出。
- 第4週（5/15～5/19） 全遺構の調査終了。景観写真撮影実施（5/15）。発掘区埋戻し作業終了（5/18）。出土遺物の洗浄や注記等の一次整理作業は平成27年度と平成29年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は平成29年度に、それぞれ当センターにおいて実施した。平成28年2月3日に樋上昇氏（愛知県埋蔵文化財センター）に木製品に関する指導を、平成29年7月10日に井川祥子氏（岐阜市教育委員会）に土師器皿に関する指導を、同年7月24日に渡邊博人氏（各務原市教育委員会）に須恵器に関する指導を、

6 第1章 調査の経過

同年7月31日、9月4日に藤澤良祐氏（愛知学院大学）に灰釉陶器と中近世陶磁器に関する指導を受けた。また、平成30年1月15日に、宇野隆夫氏（帝塚山大学教授）に調査成果全体についての指導を受けた。なお、SD10・SD21・SE3埋土の花粉分析を平成27年度に、出土木製品の樹種同定及び保存処理を平成28年度に、出土塗膜の成分分析と出土漆器の樹種同定及び保存処理、出土金属製品の保存処理を平成29年度に実施した。

3 調査体制

発掘調査及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長	宮田敏光（平成27年度）、羽田能崇（平成29年度）
総務課長	二宮 隆（平成27年度）、加藤武裕（平成29年度）
調査課長	成瀬正勝（平成27年度）、春日井恒（平成29年度）
調査担当係長	吉田 靖（平成27年度）、古屋寿彦（平成29年度）
担当調査職員	小野木学（平成27年度）、佐竹正憲（平成27・29年度）

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

当遺跡が所在する本巣市は濃尾平野の北部に位置し、条里地割が広く展開していた地域として著名であるが、当遺跡周辺では明確な条里地割は確認できない（図5）。今回調査した発掘区とその周辺は、主に水田や果樹園として利用されていたが、昭和40年代に実施された圃場整備後は道路と用排水路が整備され、耕地の宅地化が進んでいる（図6）。発掘区は旧「政田村」に位置し、その小字名は「中川筋」であるが、その北には「仙道下」と「仙道上」が存在し（図4）、両小字の境界付近を東山道推定ルートが通り、その一部が「東山道跡」として市史跡に指定されている。

当遺跡は、標高約13～15mの根尾川の旧河道又は扇状地上に位置する。根尾川は現在、本巣市西端を流れているが、時代により何度か本流の流れを変えている。発掘区東側を南北に流れる犀川は、古代において古代大野・本巣の郡界を決めた当時の根尾川の本流だったと見られ、川の西側を大野郡、川の東側を本巣郡と境界されている。この扇状地内には旧河道が網の目のように展開しており、扇端部から下流方向へは、自然堤防と後背湿地の卓越する地域へと漸移している（図7）。発掘区周辺の等高線は、扇状地の地形に沿うようにおよそ南西から北東方向に向かって延びている（図8）。発掘区は扇状地上に点在する微高地の辺縁部に位置すると考えられ、発掘区周辺では昭和40年代までガマと呼ばれる湧水が自然湧出していた。発掘区周辺の米軍撮影の空中写真（写真1）を見ると、発掘区から東へ約80m付近から色調が濃くなり、この辺りから南東に向かって地形が一段下がる。平成26年度に本巣市教委が実施した試掘・確認調査では、遺構が存在せず、表層の耕作土下で犀川の旧河川敷と考えられる砂礫層を確認した。



図4 発掘区周辺の小字名 (国土地理院発行 1:2,500 国土基本図 VII-MC18-1,2 網掛け範囲：発掘区)



図5 発掘区周辺地形図（昭和40年）（国土地理院発行 1：2,500 國土地基図VII-MC-18-1,2 網掛け範囲：発掘区）



図6 発掘区周辺地形図（平成25年）（本巣市基本図 1/2,500 網掛け範囲：発掘区）

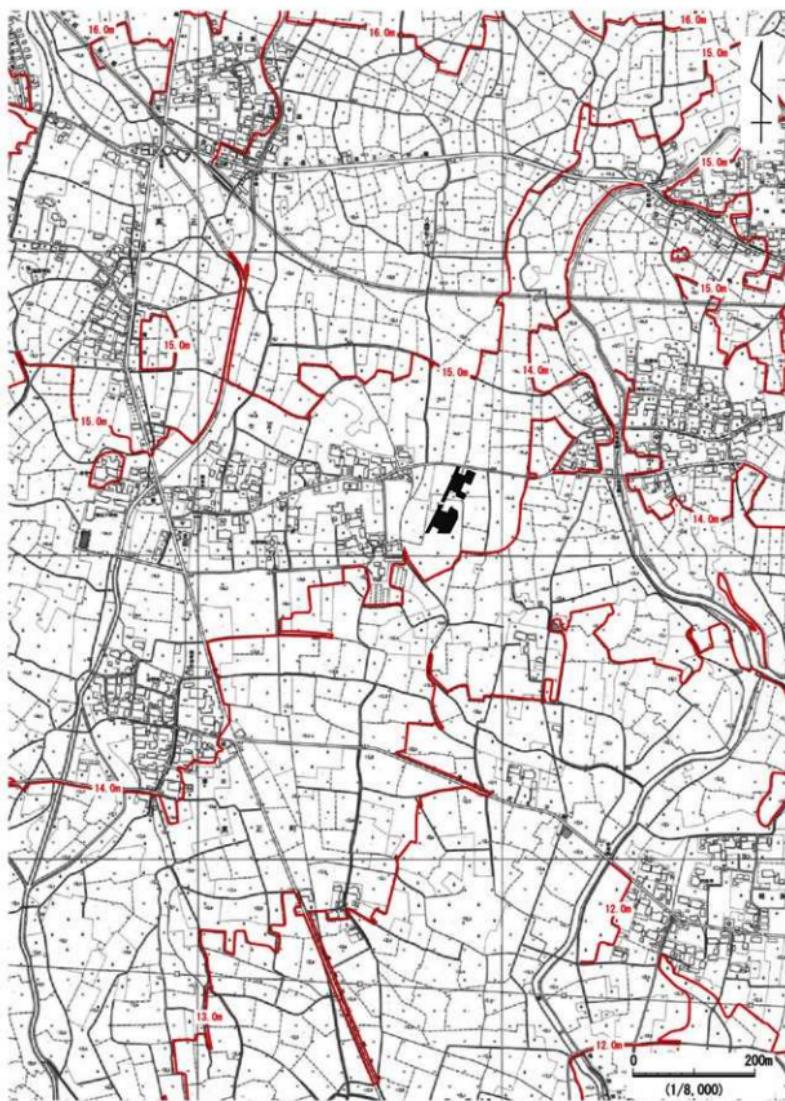


図8 発掘区周辺等高線図(昭和40年測量)

(昭和40年測量図(国土地理院発行 1:2,500 国土基本図VII-MC18-1,2)の等高線を再トレス 網掛け範囲:発掘区)

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺には数多くの遺跡が分布しており、本節では各時期の主要な遺跡について、概要を時代順に記す¹⁾が、本巣市教育委員会（以下「市教委」という。）が平成19～23年度に実施した詳細遺跡分布調査では、当遺跡周辺において須恵器と灰釉陶器、中世陶磁器が多量に採集された遺跡が目立つことから、ここでは時期区分を「古代」、「中世」、「近世」と分けず、「古代以降」として取り扱う。なお、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2、図9と一致する。

旧石器時代 当遺跡周辺では確認されていない。

縄文時代 六里遺跡（3）では、平成26年度に当センターが発掘調査を行い、晚期の土器埋設遺構が確認されている。

弥生時代 十四条土器田遺跡（32）で弥生土器が採集されているが、詳細は不明である。

古墳時代 番場遺跡（33）では平成26年度に当センターが発掘調査を行い、前期の竪穴建物や掘立柱建物、櫛、方形周溝墓、土坑、溝状遺構などを検出し、多数の土器類とともに石器・石製品、木製品が出土した。また番場遺跡では、縄文時代と弥生時代の遺構と遺物も確認している。宗慶大塚古墳（34）は県史跡であり、昭和63年に真正町教育委員会により測量調査と範囲確認調査が行われた。全長63mの前方後円墳であり、周溝から弥生時代終末期から古墳時代前期の土器が出土した。ハツ又大正寺遺跡（28）では、平成21年度に市教委が試掘・確認調査と立会調査を実施し、古墳時代前期の土器片を含む土坑や竪穴状遺構を検出した。

古代以降 政田仙道上遺跡（1）では須恵器や中世陶磁器が採集され、遺跡南側に位置する光明寺では、昭和初期の民家改築の際に地下約3m下から多量の五輪塔とともに室町時代初期の前卓が出土した。口頭伝承²⁾によると、この場所には戦国時代に大乘院という天台寺院があったが、永祿4（1561）年の織田信長の美濃攻めの際、軽海合戦で焼失し、廢寺となり、江戸時代に池田郡溝口村にあった光明寺が移ったとされる。また、遺跡の北側には仙道上、仙道下などの「仙道」地名が残り、東山道路（2）が推定されている。六里遺跡（3）では当センターによる調査で、古墳時代から平安時代にかけての集落跡と、古墳時代から中世までの水田跡を確認し、条里地割施行前後の土地利用の状況が明らかになっている。また稻荷遺跡（4）では平成26年度に当センターが発掘調査を行い、奈良時代から平安時代にかけての集落跡と水田跡を確認した。法喫寺遺跡（20）では須恵器・灰釉陶器・山茶碗などが採集され、遺跡内には岐阜県重要文化財である「法喫寺觀音堂」と「法喫寺護摩堂」がある。教念寺遺跡（23）では、須恵器・灰釉陶器・山茶碗等の中世陶器が多量に採集され、平成20・21年度に市教委が実施した試掘・確認調査では幅約2mの溝を検出し、底面から近世陶器が出土した。また、円面鏡や転用鏡なども出土している。十四条土器田遺跡（32）では、多量の須恵器の他に、綠釉陶器や転用鏡などが採集されている。なお、昭和40年代の圃場整備事業前までは、当遺跡周辺に条里型地割が広域に残っており、十四条地区と重里地区との境に残る小溝が条里遺跡（36）として本巣市史跡となっている。

一方、当遺跡周辺には城館跡も多い。八居城跡（15）の築城時期は明らかではないが、高さ約1.2mの土塁と、幅約1mの堀跡が遺存している。相羽城跡（6）も築城時期が明らかではないが、『新撰美濃志』には、鎌倉初期に土岐光俊が住み、その子の国綱以後代々が居住したとある。また『圓興寺過去帳』によると、天文16（1547）年に斎藤道三に攻められ落城した後に鷹司氏が入り、天文17（1548）年8月、同18

(1549) 年3月には織田信長との合戦の場となった。現在、城跡は周辺より2m程高くなっている、八幡神社が存在する。輕海西城跡(29)も築城時期が明らかでないものの、加留美長勝が創建し、以後は稻葉氏数代の居城であったとされる。天正18(1590)年以後に廢城となり、現在では長さ約5m、高さ約1mの土塁が認められる。輕海西城跡の東側を流れる赤瀬川は、次のような口頭伝承がある³⁾。永禄4(1561)年、織田信長と斎藤龍興が軽海の地で激しく戦い、傷つき倒れる者が折り重なり、流れる血は真っ赤になって川をなした。それ故に赤血川と呼ばれ、それが訛って赤瀬川となった。この戦いは「軽海合戦」と呼称され、織田勢が西軽海に、斎藤勢が東軽海に陣を置いたとされている。なお、『新撰美濃志』によると、番場遺跡の西端付近に加留美長勝、朝倉高清、稻葉通高、安藤守宗の居城である軽海東城が存在していたとされるが、正確な位置は判明していない。近世の遺跡は、政田仙道上遺跡周辺には存在しない。

このように、弥生時代以前の様相は不明な点が多いものの、古墳時代の遺構は番場遺跡や宗慶大塚古墳周辺、ハツ又大正寺遺跡など、いずれも扇状地末端付近に位置する点が共通している(図7)。古代の遺跡は政田仙道上遺跡周辺に点在するが、政田仙道上遺跡、番場遺跡、法暎寺遺跡、教念寺遺跡、十四条土器田遺跡などで多くの遺物が採集されている。その中でも古代瓦や縁軸陶器、円面鏡、転用鏡など、官衙や寺院で出土例が多い遺物が採集されていることは、当地域の一つの特徴といえる。一方、古代の遺物が多く採集された遺跡では中世の遺物も多く、中世には当遺跡周辺に国衙領の浅木郷と軽海郷や、彈正莊、真桑荘、船木荘(十四条郷)が存在していた。また、八居城跡などの城跡も幾つか存在しており、永禄4(1561)年の軽海合戦では、斎藤道三に仕えた稻葉一鉄の叔父である稻葉常通(稻葉又右衛門)が戦死している。常通の墓は東軽海の烟中にあって、三尺余りの盛土がされ、松の大木があったとされている⁴⁾。このような盛土を伴う塚は、大門塚(24)、長塚(26)、軽海塚(30)、十四条塚(31)など政田仙道上遺跡の東側に点在しており、いずれも中世頃に造営されたと推定されている。

注

1)各遺跡の記述は、以下の文献を参考とした。

岐阜県教育委員会2002『岐阜県中世城館跡総合調査報告書 第1集(西濃地区・本巣郡)』

真正町1975『真正町史 通史編』

真正町教育委員会1988『宗慶大塚古墳集落範囲確認調査概報』

本巣市教育委員会2011『本巣市埋蔵文化財試掘・確認調査報告書一平成18年度~21年度一』

本巣市教育委員会2016『本巣市詳細遺跡分布調査報告書 改訂版』

大野町教育委員会2009『大野町遺跡詳細分布調査報告書 資料(考古)編』

なお、表2の遺跡名、種別、時代と、図9の遺跡位置、範囲は、岐阜県教育委員会2007『改訂版 岐阜県遺跡地図』を参考とした。

また、その後の改訂については、本巣市教育委員会2016『本巣市詳細遺跡分布調査報告書 改訂版』を参考とした。

2)真正町1975『真正町史 通史編』

3)真正町1975『真正町史 通史編』

4)真正町1975『真正町史 通史編』

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	政田仙道上遺跡	散布地・集落跡	弥生～近世
2	東山遺跡	その他の遺跡	古代
3	六里遺跡	散布地・集落跡・その他の墓・生産遺跡（田畠）	縄文～中世
4	稻荷遺跡	集落跡・生産遺跡（田畠）	古代～中世
5	黒野八幡神社遺跡	散布地	古代～中世
6	相羽城跡	城館跡	中世
7	屋井横田遺跡	散布地	中世
8	郡家遺跡	散布地	中世
9	数屋高田遺跡	散布地	弥生～近世
10	有里村遺跡	散布地	古墳～近世
11	数屋古川遺跡	散布地	古墳～中世
12	神王神社遺跡	散布地	弥生～近世
13	東ノ里遺跡	散布地	古代～中世
14	堂の城跡	城館跡	古代～近世
15	八居城跡	城館跡	古代～中世
16	寺藪塚跡	その他の墓	古墳
17	花ノ木城遺跡	散布地	弥生～中世
18	浅木国領遺跡	散布地	弥生～近世
19	山伏塚	その他の墓	中世
20	法峯寺遺跡	散布地	弥生～近世
21	旦内薬師寺遺跡	散布地	古代～近世
22	旦内諸木前遺跡	散布地	弥生～近世
23	教念寺遺跡	散布地	縄文～近世
24	大門塚	その他の墓	中世
25	馬伏遺跡	散布地	弥生～近世
26	長塚	その他の墓	中世
27	大門前遺跡	散布地	弥生～近世
28	八ツ又大正寺遺跡	散布地	弥生～近世
29	軽海西城跡	城館跡	弥生～近世
30	軽海塚	その他の墓	古墳～中世
31	十四条塚	その他の墓	中世
32	十四条土器田遺跡	散布地	弥生～近世
33	番場遺跡	散布地・集落跡・その他の墓	縄文～近世
34	宗慶大塚古墳	古墳	古墳
35	十四条菩提坊遺跡	散布地	弥生～近世
36	条里遺跡	その他の遺跡	古代
37	伊久良河宮跡	その他の遺跡	時期不明



図9 周辺遺跡位置図（平成28年国土地理院発行2万5千分の1地形図「北方」）

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

基本層序は、以下のとおりⅠ層からⅢ層に分層した（図10）。

Ⅰ層 表土

Ⅰa層 2.5Y6/3にぶい黄色土～5Y3/1オリーブ黒色土

A・B地点全域で確認した。層厚は約0.05～0.65mである。昭和40年代の圃場整備後の耕作土と敷土をまとめてⅠa層とした。古代から近現代までの遺物を含む。

Ⅰb層 2.5Y4/2暗灰黄色土

A地点東半で確認した。層厚は約0.05～0.4mである。古代から近世までの遺物を含む。

Ⅱ層 遺物包含層

Ⅱa層 2.5Y5/2暗灰黄色土～5Y4/2灰オリーブ色土

A地点の南西部と北西端部、南東部で確認した。層厚は約0.05～0.2mである。古代から近世までの遺物を含む。A地点南東部では、Ⅰb層の下でⅡa層を確認した。

Ⅱb層 2.5Y5/3黄褐色土～2.5Y6/3にぶい黄色土

A地点の南西部と南東部で確認した。層厚は約0.05～0.3mである。中世の遺物を含む。近世以前の開発に伴う整地土の可能性がある。

Ⅲ層 基盤層

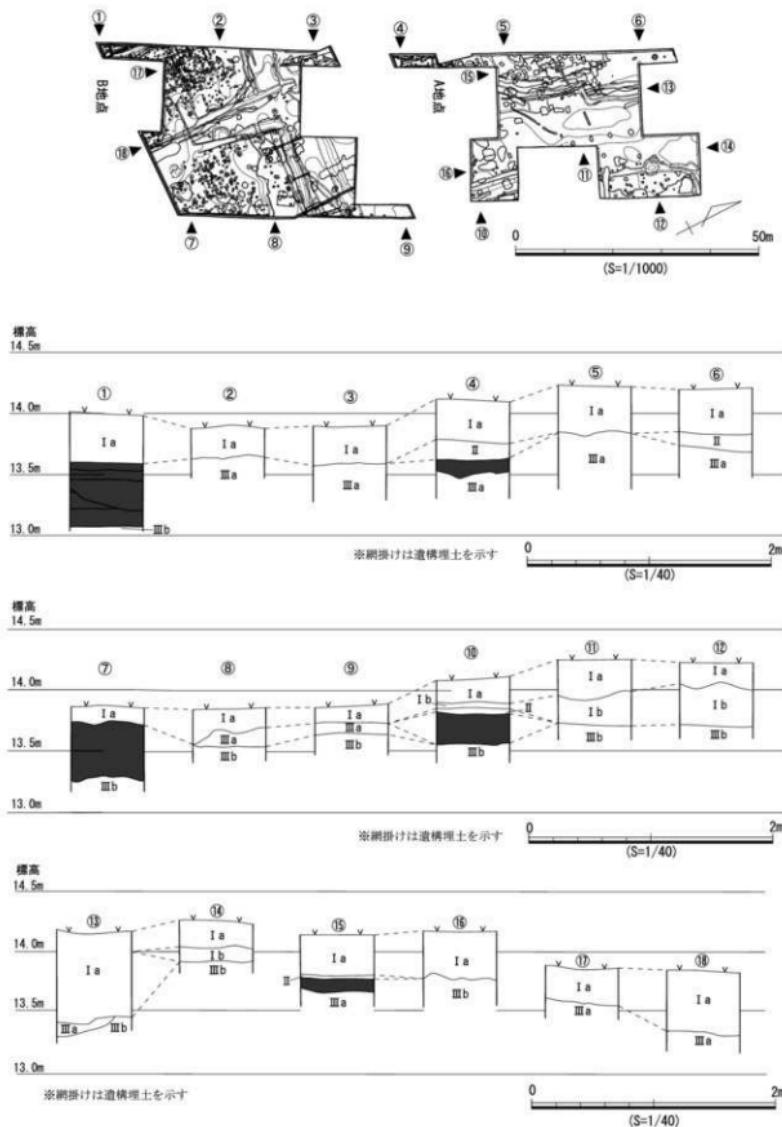
Ⅲa層 2.5Y5/1黄灰色土～5Y4/2灰オリーブ色土

A地点では西半で確認し、B地点では南東部を除く区域で確認した。B地点南東部のⅢa層は、圃場整備時に削平されたと考えられる。A地点のS091以西と、B地点南東部以外では、Ⅲa層の上面で遺構を検出した。層厚は約0.05～0.6mであり、無遺物層である。

Ⅲb層 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂礫～5Y3/2オリーブ黒色砂礫

発掘区全域で確認した。A地点の東半と、B地点南東部では、Ⅲb層上面を遺構検出面とした。1辺10cm以下の円礫又は亜円礫で構成され、河川堆積と考えられる。なお、本層から下位の堆積物については確認していない。

遺構はⅢa層又はⅢb層の上面で検出したが、遺物包含層（Ⅱ層）が存在しないA地点北東部とB地点全域では、検出面の呼称として「Ⅰa層基底面」又は「Ⅰb層基底面」を用いた。A地点全域とB地点北部では、Ⅲa層は発掘区の西側で厚く堆積し、東に向かってⅢa層の堆積が薄くなる。特にA地点ではその傾向が顕著で、AK13～AP12グリッド（SD1の東側）を境として、東側ではⅢa層が存在しない。A地点の北東部が最も標高が高いが、発掘区の東側では犀川に向かって地形が降下する。



第10図 基本層序模式図

第2節 遺構の概要

1 概要

今回の調査では、中世後期を中心とした多数の遺構を検出した。検出した遺構数は表3のとおりであり、所属時期は中世後期と近代以降の2時期である。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係、埋土の類似性などから判断した。また、出土遺物が複数の時代にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料とした。

本報告書では、これらの遺構のうち、掘立柱建物や柵、井戸は遺跡の性格を反映すると考えられるものであることから、すべての遺構を報告した。溝状遺構や土坑などは検出数が多いため、区画施設のように遺跡の性格を検討する上で重要な遺構や、一括性の高い遺物が出土した遺構、出土例の少ない遺物が出土した遺構などを抽出して報告した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

表3 検出遺構一覧表

時代	SB	SB付属	SA	SA付属	SP	SD	SE	SK	合計
中世	4	39	7	30	94	27	5	523	729
近世以降	0	0	0	0	0	4	0	1	5
合計	4	39	7	30	94	31	5	524	734

2 遺構略号

遺構の略号は以下のとおりである。

SB—掘立柱建物、SA—柵、SP—柱穴、SD—溝状遺構、SE—井戸、SK—土坑、
P—掘立柱建物柱穴・柵柱穴

なお、建物と柵に付属する柱穴は、「SB1-P3」のように付属する建物や柵の番号を先頭に記し、続けて通し番号を付与した。

3 遺構の分類

今回の調査で確認した遺構はそれぞれ、形状と規模、構造から、掘立柱建物、柵、柱穴、溝状遺構、井戸、土坑に分類した。各遺構の分類基準は以下のとおりである。

掘立柱建物

向かい合う辺が2組以上確認できるように、規則的に並んだ複数の柱穴によって構成され、上屋構造を有すると推定できる遺構を掘立柱建物とした。

柵

建物を構成せず、直線的に並んだ複数の柱穴・杭跡によって構成された遺構を柵とした。

柱穴

柱根や柱痕跡が残存しているものや、底部に礎盤石若しくは根石が確認できる遺構のうち、規則的な配列が確認できず、建物や柵として認定できなかつたものを柱穴とした。

溝状遺構

人為的に掘られた、細長い平面形（短軸と長軸比=1：3以上）の遺構を溝状遺構とした。ただし、短軸と長軸比が1：3未満のものでも連続していると見なせる遺構については含めることとする。

井戸

水を得ることができる程度にまで掘り込まれており、曲物等の集水施設や、井戸枠を有する遺構を井戸とした。

土坑

上記以外の人為的に掘り込まれた遺構を土坑とした。

4 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

検出面 基本層序の層位名を使用し、遺物包含層（II層）掘削後III a層上面で検出した遺構は「III a 上」、III b層上面で検出した遺構は「III b 上」とした。しかし、表土（I層）下にII層が存在せず、基盤層上で遺構を検出した場合は、その上に堆積した土層の基底面の遺構とし、「I a 基」もしくは「I b 基」と表記した。

平面形 以下のとおり、形状をアルファベットで表記した。

A－円形、B－不整円形、C－方形、D－不整形形、E－不定形、F－不明

埋土 以下のとおり、堆積状況をアルファベットで表記し、分層した層位数を数字で表記した。

A－埋土が單一層、B－ほぼ水平な堆積、C－中央がU字状に窪むような堆積、

D－窪みが偏った堆積、E－最上層が掘り込んだ状態となるもの、F－柱痕跡状の土層があるもの、

G－その他

断面形 以下のとおり、形状をアルファベットで表記した。

A－半円形、B－方形、C－逆三角形、D－逆台形、E－フラスコ状、F－二段の掘り込み、

G－その他

規模 () は残存長を示す。

重複関係 「新>古」の関係を示す。

出土遺物 以下のとおり、記号化して表記した。

H－土師器、P－須恵器、K－灰釉陶器、Y－山茶碗、T－山茶碗以外の中近世陶磁器、

D－土製品、S－石器類、W－木製品、I－金属製品、N－種子類、B－骨

第3節 遺物の概要

1 概要

今回の調査では、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、石器類、木製品、金属製品、その他（骨等）が出土した。その出土数は表4のとおりであり、土師器が最も多い¹⁾。本報告書では、これらの遺物のうち、遺構の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

①土器類

出土した土器類の種別ごとの点数は表4のとおりである。時期は中世後期が中心で、中世前期以前の遺物が出土する遺構は、区画溝などの一部の遺構に限定される。出土点数は土師器が最も多く、大半を皿が占める。その他に羽釜や内耳鍋などの煮炊具が少量出土している。中近世陶磁器は山茶碗類が多く出土している。尾張型は第5・6型式期のものが中心である。東濃型は明和1号窯式以前のものは微量で、大洞

表4 出土遺物一覧表

種 別		A地點			B地點			接合前 破片數 合計	接合後 破片數 合計	口縁部 残存率 合計
		接合前 破片數	接合後 破片數	口縁部 残存率	接合前 破片數	接合後 破片數	口縁部 残存率			
古代	土師器（皿、甕）	31	23	4	8	8	5	39	31	9
	須恵器	89	76	15	80	78	12	169	154	27
	灰釉陶器	23	23	6	73	59	10	96	82	16
土器類	土師器皿	734	672	136	6,864	6,302	1,880	7,598	6,974	2,016
	土師器（羽釜・鍋）	86	74	6	154	132	37	240	206	43
	山茶碗類	375	358	128	2,413	2,280	710	2,788	2,638	838
	片口鉢	12	8	6	28	28	7	40	36	13
	古瀬戸・大窓	54	51	11	967	792	291	1,021	843	302
	常滑産陶器	126	85	2	348	310	10	474	395	12
	中国産陶磁器	3	2	0	19	19	12	22	21	12
近世	陶器	66	60	10	166	140	36	232	200	46
	磁器	11	10	3	21	21	4	32	31	7
	近代 陶器	3	3	2	2	2	0	5	5	2
合 計		1,613	1,445	329	11,143	10,171	3,014	12,756	11,616	3,343
その他	瓦	5	5	—	3	2	—	8	7	—
	土製品	1	1	—	15	13	—	16	14	—
	石器	15	15	—	68	68	—	83	83	—
	木製品	108	108	—	222	222	—	330	330	—
	金属製品	0	0	—	8	8	—	8	8	—
	錢貨	0	0	—	23	23	—	23	23	—
	その他（種子）	4	4	—	26	26	—	30	30	—
小 計		133	133	—	365	362	—	498	495	—

表5 木製品・金属製品一覧表

木製品区分	器種	分類	点数	金属製品	銭種	点数
器具	食事具	箸	1		開元通寶（唐）	初鑄年：845年
	容器	曲物	6		太平通寶（北宋）	初鑄年：976年
		曲物底板	2		咸平元寶（北宋）	初鑄年：998年
	小計12点	小計9点	漆器椀		祥符通寶（北宋）	初鑄年：1009年
		網組製品	編物		天禧通寶（北宋）	初鑄年：1017年
部材	建築部材	柱	8		嘉祐元寶（北宋）	初鑄年：1056年
	小計200点	施設部材	井戸枠部材		熙寧元寶（北宋）	初鑄年：1068年
					元豐通寶（北宋）	初鑄年：1078年
加工材・残材	板材		87		元祐通寶（北宋）	初鑄年：1086年
	棒材		10		紹聖元寶（北宋）	初鑄年：1094年
	小計116点	残材	19		政和通寶（北宋）	初鑄年：1111年
その他	漆塗膜		2		永樂通寶（明）	初鑄年：1408年
	合計		330		不明銭	7
					合計	23

東1号窯式前後のものが多い。山茶碗類以外では、瀬戸美濃産陶器、常滑産陶器が出土している。古瀬戸は後期のものが多く、特に後IV期に集中する。大窯は古瀬戸に比べて少量だが、第1・2段階を中心に一定量が出土している。美濃中世後期土器師皿、中近世陶磁器、中国産磁器の年代観や器種分類は既存の研究に従った⁹⁾。なお、中近世陶器は藤澤良祐氏（愛知学院大学）から、土器師皿は井川祥子氏（岐阜市教育委員会）から、須恵器は渡邊博人氏（各務原市教育委員会）から、それぞれ指導をいただいた。

②石器類

砥石が47点、敲石が4点、石臼が2点、加工痕が確認できる不明製品が2点出土した。

③木製品

出土した木製品の器種・分類別の点数は表5のとおりである。曲物はSE1、SE2、SE4から出土しており、いずれも井戸底部で集水施設として用いられたものである。SE1の井戸枠の破損部分周辺から出土した板材のうち、井戸枠を形成する部材と同形状のものについて、井戸枠の構造材として扱った。実測図を掲載した木製品はいずれも樹種同定を行い、その結果を第4章に記載した。漆器と漆塗膜については塗膜成分分析を行い、その結果を第4章に記載した。また、実測図に示した欠損範囲、炭化範囲、年輪模式図の凡例は図11のとおりである。なお、木製品は樋上昇氏（愛知県埋蔵文化財センター）から指導をいただいた。



図11 木製品実測図の凡例

④金属製品

出土した金属製品の種別は表5のとおりである。銭貨は唐銭が1点、北宋銭が14点、明銭が1点、錢種不明のものが7点出土した。複数が溶着して出土した銭貨については剥離し、各個体の錢種を確認した。

⑤その他の出土遺物

その他の遺物として、骨片5点、種子25点が出土した。種子は井上好章氏・可児美紀氏（岐阜県博物館）から指導をいただき、SD16・SE4・SE5の説明文中に指導結果を記載した。

2 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

出土位置 複数の地区（グリッド）や遺構から出土した遺物が接合した場合は、すべての出土位置を表記した。

出土層位 表土と遺物包含層から出土した場合は、基本層序名（I a・I b・II）を表記した。また、遺構出土の場合、土層分層前は埋土を深さ約5cmごとに区切り、上層から順に「a・b・c・・」の順に表記し、土層分層後はその土層番号（1・2・3・・）を表記した。なお、複数の土層から出土した遺物が接合した場合は、すべての層位を表記した。

大きさ () は復元長を示す。なお、土錐は口径の欄に長さ、底径の欄に直径を示した。

器面調整 磨滅等により不明な場合は、「調整不明」と記載した。

胎土 含有物は肉眼観察による。

注

- 1) 口縁部残存率の計測は以下の文献を参考とし、12分の1未満の破片は12分の1に切り上げ、12分の1以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。また、底部残存率の計測は、4分の1未満の破片は4分の1に切り上げ、4分の1以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。

宇野隆夫1992『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館

- 2) 出土遺物の年代緯や器種分類は、以下の文献を参考とした。

井川祥子2006『美濃中世後期土器器皿の分類と編年』『守護所と城下町』、高志書院

愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潮戸系』

中野晴久1995『生産地における編年について』『常滑焼と中世社会』、小学館

日本貿易陶磁研究会1982『貿易陶磁研究 第2号』

第4節 中世の遺構

1 堀立柱建物

SB 1 (図12・13・14)

検出状況 BG 3～BG 4 グリッド、I a 層基底面で P 1～P 9 を検出した。いずれも平面形は明瞭であった。

規模・形状 枝行 3間 (5.8m、柱間2.2m-1.8m-1.8m)、梁行 2間 (3.1m、柱間1.5m-1.6m) の側柱建物と考えられる。主軸方位はN-18°-Wで、SA 2・SA 3と似る。P 4に対応する北辺側柱の位置でSK521を検出したが、他の柱穴に比べて規模が大きく異なる。このため、SK521はSB 1の廃絶後のものであり、本建物の柱穴は残存していないと判断した。

柱穴 柱穴の平面形は円形又は梢円形で、径は0.28～0.55m、深さは0.19～0.53mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P 1では扁平な礫が底面に2点重なって出土しており、礎盤石と考えられる。礎盤石は全体に熱を受けていた。また、P 5では底面に径20cmの亜円礫が1点出土しており、礎盤石と考えられる。

遺物出土状況 P 1から土師器24点、山茶碗類10点、瀬戸美濃産陶器2点、石製品1点、P 2から土師器4点、山茶碗類1点、瀬戸美濃産陶器1点、P 3から土師器4点、P 4から土師器3点、山茶碗類1点、P 5から土師器12点、山茶碗類2点、瀬戸美濃産陶器1点、石製品1点、P 6から土師器2点、瀬戸美濃産陶器1点、P 7から土師器15点、P 8から土師器10点、瀬戸美濃産陶器2点、P 9から土師器7点が出土した。特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 土師器はP 7出土の羽釜1点以外は全て皿、山茶碗類は全て山茶碗、瀬戸美濃産陶器は擂鉢と碗類、皿で、大半が分類不能な小片である。P 7出土の1とP 8出土の2は美濃中世後期土師器皿のC 1類である。P 1出土の3は安山岩製の砥石で、P 5出土の4は、砂岩製の砥石である。

時期 本遺構より古いSK193とSK252から大洞東1号窯式の山茶碗、SK165から美濃中世後期土師器皿のC 1類とC 2類が出土していることから、16世紀中葉以降の造営と考えられる。

SB 2 (図15・16・17)

検出状況 BG 3～BH 4 グリッド、I a 層基底面で P 1～P 10 を検出した。いずれも平面形は明瞭であった。

規模・形状 枝行 3間 (5.8m、柱間2.0m-2.0m-1.8)、梁行 2間 (4.0m、柱間2.0m-2.0m) の側柱建物と考えられる。主軸方位はN-6.5°-Wである。

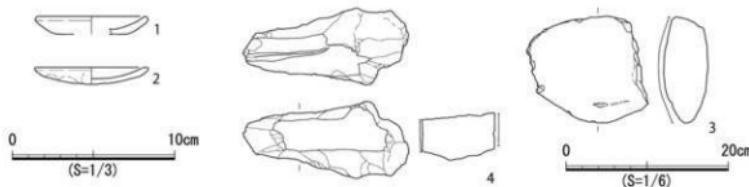


図12 SB 1 出土遺物実測図

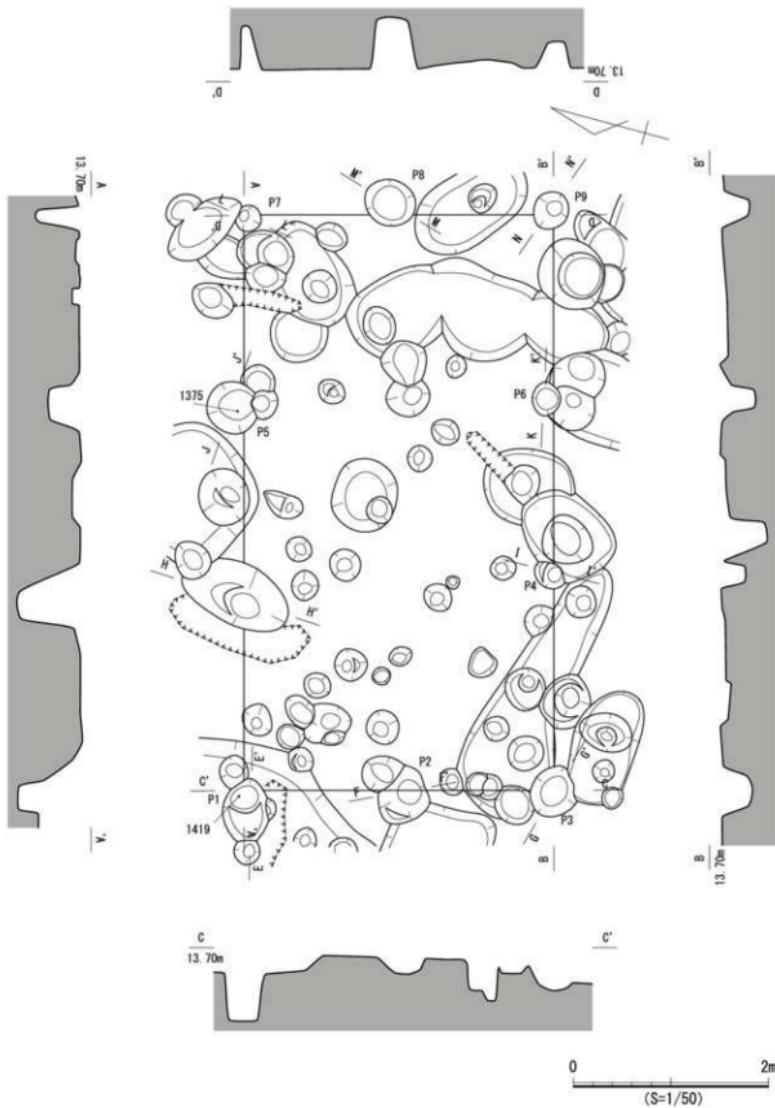


図13 SB 1 遺構図（1）

24 第3章 調査の成果

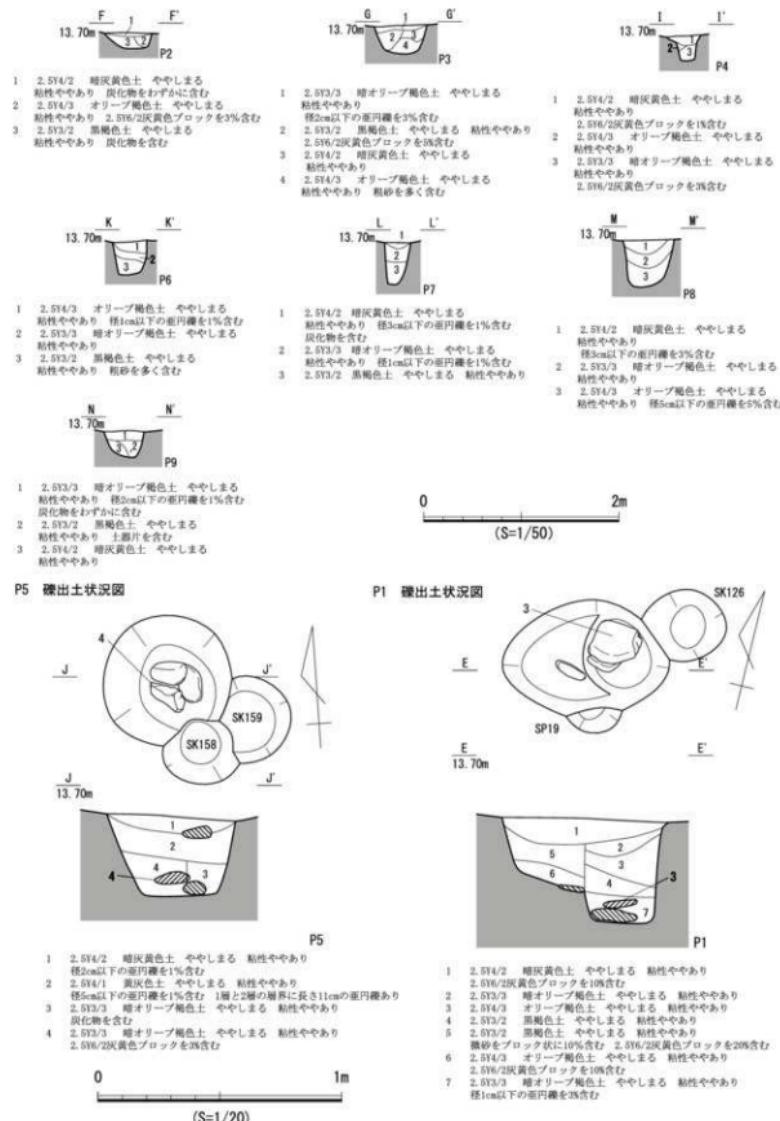


図14 SB 1遺構図（2）

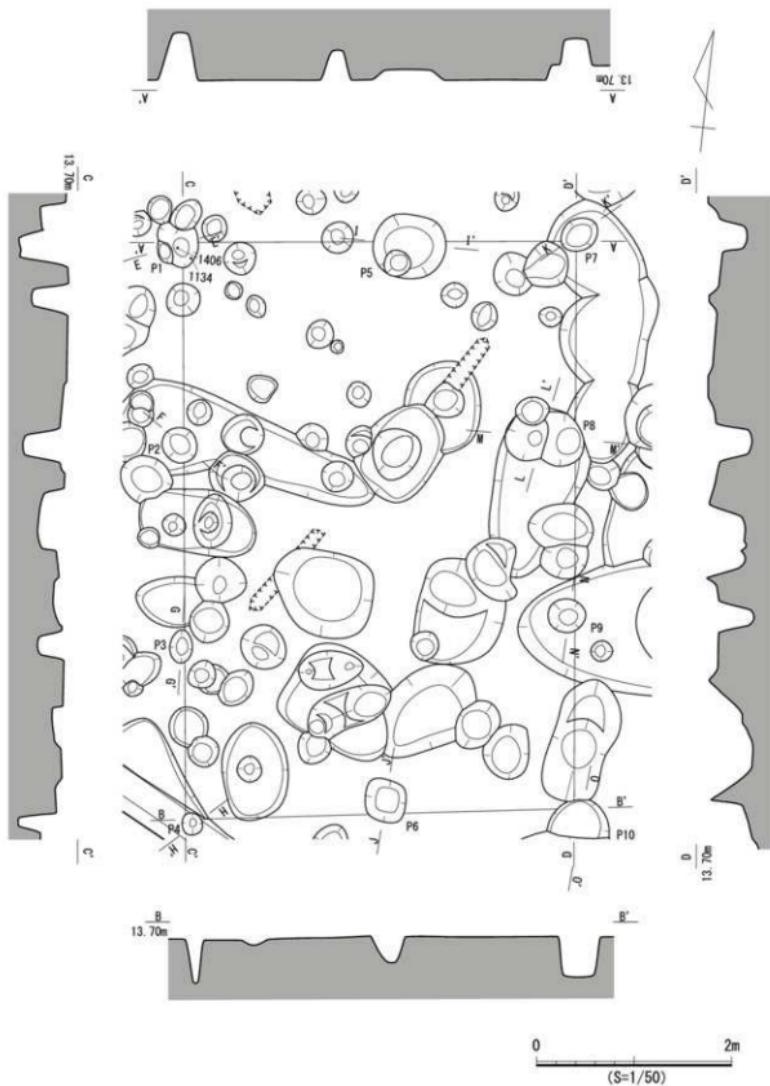


図15 SB 2 遺構図（1）

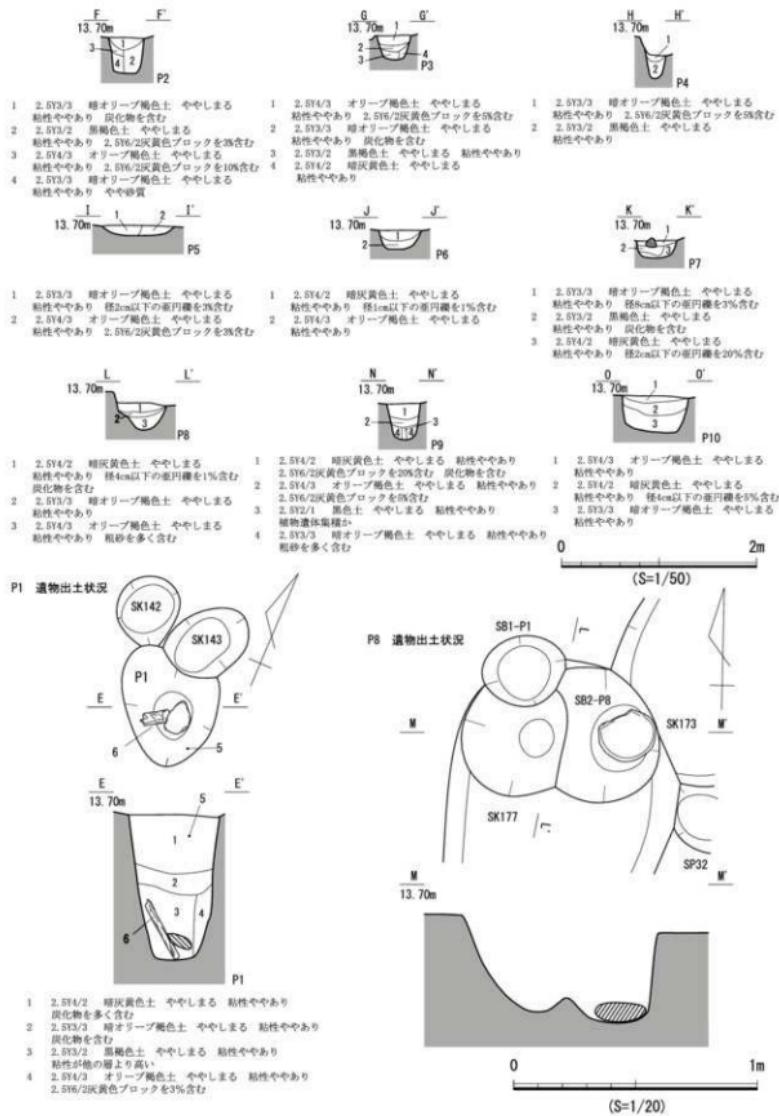


図16 SB 2 遺構図 (2)

柱穴 柱穴の平面形は円形と梢円形で、径は0.28~0.55m、深さは0.19~0.53mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。またP 6では、底面に径24cmの被熱した花崗岩が水平な面を上にして置かれており、礎盤石と考えられる。

遺物出土状況 P 1から土師器48点、山茶碗類8点、瀬戸美濃産陶器2点、銭貨1点、木製品1点、P 2から土師器7点、山茶碗類2点、P 3から土師器8点、山茶碗類1点、P 4から土師器2点、P 5から土師器7点、瀬戸美濃産陶器2点、P 6から土師器1点、P 7から土師器6点、P 8から土師器19点、中国産陶磁器1点、P 9から土師器1点、山茶碗類2点、P 10からは土師器38点、山茶碗類9点が出土した。土器・陶器は大半が小片で、特徴的な出土状況は確認できなかった。P 1出土の銭貨(5)は検出面下約4cmの位置から水平な状態で出土した。意図的な埋納か否かは不明である。棒状木製品(6)は傾いており、径14cmの扁平な円環が木製品の上方から出土した。木製品と礎との関係は不明である。

遺物 土師器は全て皿で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のB 2-a類(7・8)とC 1類がある。山茶碗は小片のみで、分類可能なものには大畠大洞4号窯式がある。瀬戸美濃産陶器は擂鉢の小片で、分類不能である。中国産陶磁器は青磁碗の小片で分類不能である。5は紹聖元寶である。6は長さ28cm、径8cmのサワラの棒材で、一方の端部にL字状の切り欠きがあり、他遺構出土の柱根と比べて細いため、柱根ではないと判断した。

時期 本遺構より古いSK256から大洞東1号窯式の山茶碗が出土し、新しいSK171から古瀬戸後III期又は後IV期古段階の鉢皿が出土しており、15世紀中葉頃のものであろうか。

SB 3 (図18・19)

検出状況 BG 3~BH 5グリッド、I a層基底面でP 1~P 12を検出した。いずれも平面形は明瞭であ

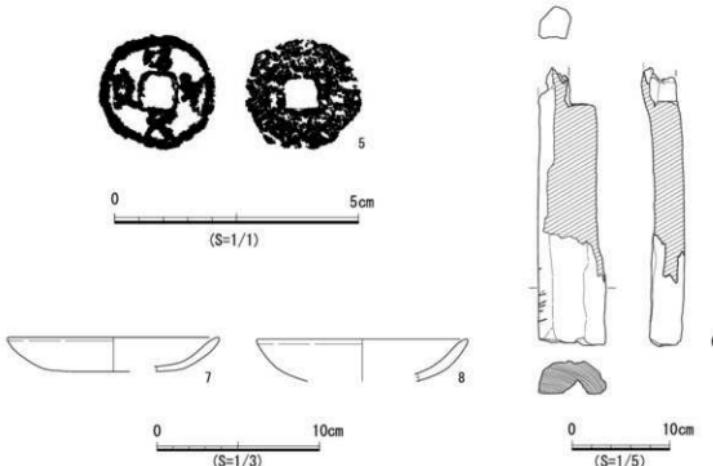


図17 SB 2出土遺物実測図

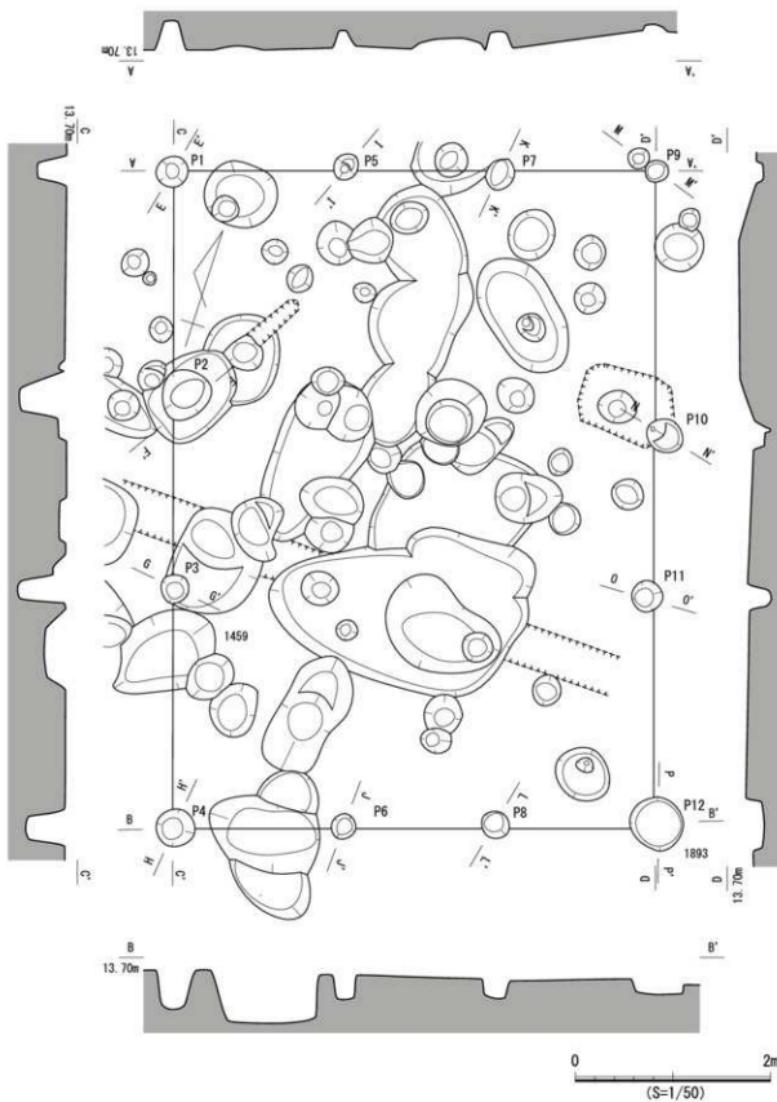


図18 SB 3遺構図(1)

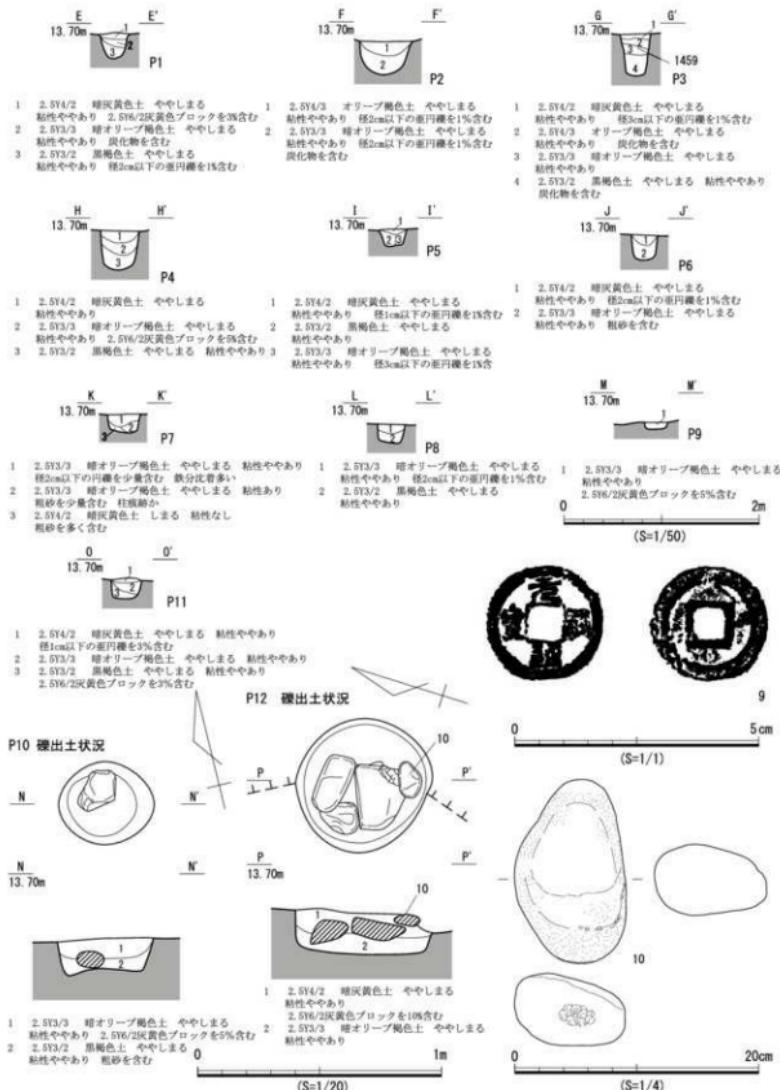


図19 SB 3 遺構図 (2)・出土遺物実測図

った。

規模・形状 枠行3間（6.6m、東側柱間2.2m-2.1m-2.3m、西側柱間2.6m-1.7m-2.3m）、梁行3間（4.9m、柱間1.7m-1.5m-1.7m）の側柱建物と考えられる。主軸方位はN-18°-Wである。

P 9からP 10の柱間が他の柱間よりも長いが、P 10の北側が搅乱を受けており、本来の柱穴が壊されている可能性がある。

柱穴 柱穴の平面形は円形で、径は0.28~0.55m、深さは0.19~0.53mである。いずれも柱痕跡は確認できなかったが、P 5では底面で柱当たりを確認した。P 12では1・2層の境界付近で、長軸長15~26cmの円・亜円礫4点がほぼ水平に並んで出土した。最も大きな礫は扁平な面が上を向き、その下には径数cmの礫が充填されていた。礫盤石の可能性がある。P 10では底面直上で長軸長約20cmの亜円礫が出土したが、平坦面を上にしておらず、礫盤石ではないと思われる。

遺物出土状況 P 1から土師器2点、P 2から土師器5点、須恵器1点、山茶碗類2点、瀬戸美濃産陶器1点、P 3から土師器2点、山茶碗類3点、P 4から土師器6点、山茶碗類1点、P 7から土師器1点、P 10から土師器2点、瀬戸美濃産陶器1点、瀬戸美濃産陶器2点、P 12から石器1点が出土した。土器・陶器とともに全て小片で、特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 土器類は全て分類不能である。P 3出土の9は元祐通寶で、P 12出土の10は、砂岩製の蔽石である。

時期 本遺構より古いSK193とSK252から大洞東1号窯式の山茶碗、SK165から美濃中世後期土師器皿のC 1類とC 2類が出土していることから、15世紀後半以降のものと考えられる。

SB 4（図20）

検出状況 BG 7～BH 8グリッド、大型搅乱坑の底面でP 1～P 8を検出した。いずれも埋土が基盤層のⅢ b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 枠行3間（6.1m、柱間1.8m-2.2m-2.1m）、梁行1間（2.1m）の側柱建物と考えられる。主軸方位はN-1°-Eで、本遺構の東2.5mに位置する南北方向の柵SA 5と主軸方位が揃う。

柱穴 柱穴の平面形は円形又は梢円形で、径は0.24~0.74m、深さは0.07~0.24mである。P 2とP 3では柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 P 4から山茶碗類1点、P 5から土師器3点が出土したが、特徴的な出土状況は確認できなかった。なお、他の柱穴からは、遺物は出土しなかった。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。

時期 時期が判明する遺物がなく、重複する遺構からの分類可能な出土遺物は、本遺構より新しいSP67から古瀬戸後II期の折縁深皿が出土しており、14世紀中葉以前のものと思われる。

2 柵

SA 1（図21）

検出状況 AL16～AM16グリッド、I b層基底面でP 1～P 4を検出した。いずれも平面形は明瞭であった。

規模・形状 南北方向に4基の柱穴が直線上に並ぶことから柵とした。主軸方位がN-18.5°-E、柱穴間は2.1~2.3m、南北長6.3mである。発掘区外へ広がる掘立柱建物の可能性もある。

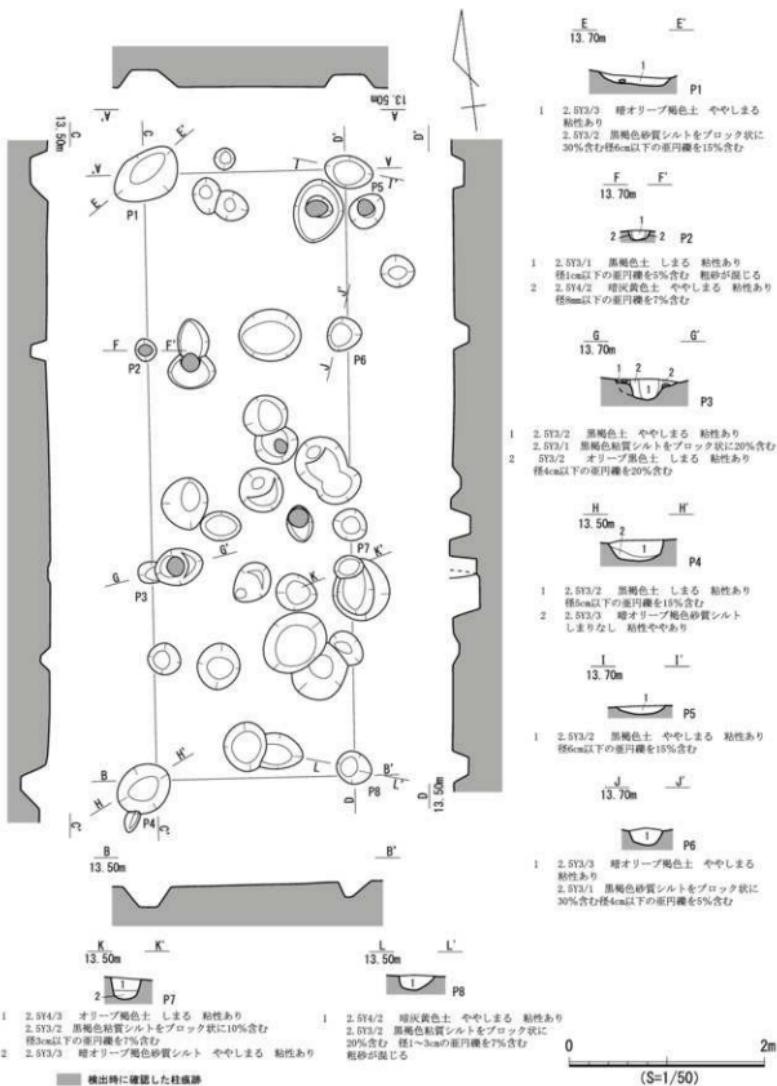


図20 SB 4 遺構図

柱穴 柱穴の平面形は円形で、径は0.34～0.53m、深さは0.25～0.41mである。いずれの柱穴もほぼ垂直に掘り込まれる。全ての柱穴で柱根や柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P 1 から須恵器 1 点と土錐 1 点、P 2 から土師器 1 点が出土した。いずれも特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 いずれも小片で摩滅が激しい。須恵器は壺、土師器は器種不明である。

時期 時期が確定できる遺物が出土せず、重複する造構も明確な時期が判断できない。しかし、北から西に位置するSD 3 は区画溝と考えられ、本造構はその区画内に位置しており、関連性が強いと考えられることからSD 3 と同じ14世紀後半頃のものと考えられる。

SA 2 (図22)

検出状況 BF 3 ～BF 4 グリッド、I a 層基底面で P 1 ～P 4 を検出した。いずれも平面形は明瞭であった。

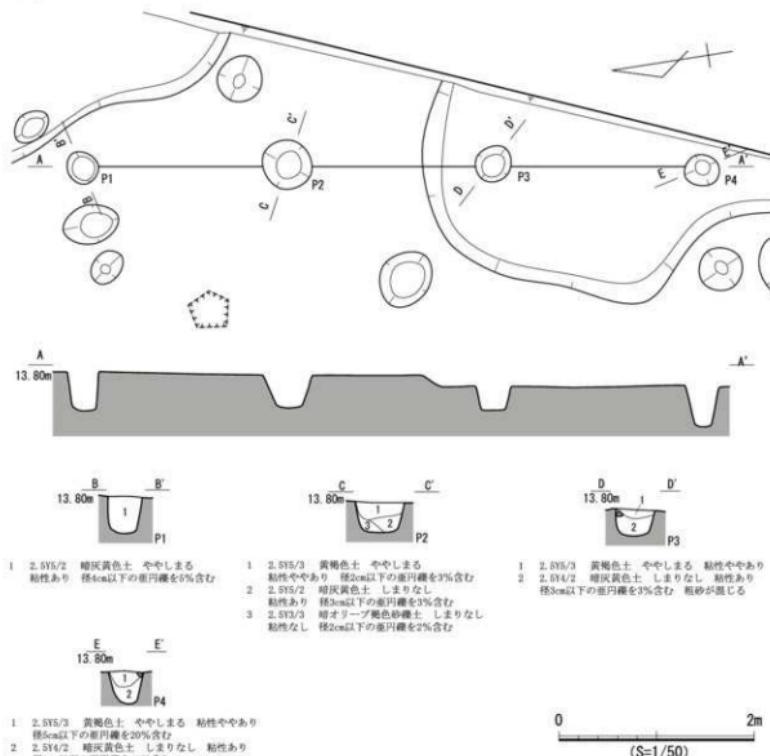


図21 SA 1 造構図

規模・形状 東西方向に4基の柱穴が直線上に並ぶことから柵とした。主軸方位がN-82.5°-E、柱穴間は1.5~1.7m、南北長5mである。西側は発掘区外へ広がる可能性がある。

柱穴 柱穴の平面形は円形又は梢円形で、径は0.46~0.84m、深さは0.28~0.53mである。全ての柱穴で柱根や柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P1から土師器13点、山茶碗類1点、瀬戸美濃産陶器1点、P2から土師器21点、山茶碗類4点、瀬戸美濃産陶器1点、P3から土師器4点、P4から土師器45点、灰釉陶器1点、山茶碗類3点が出土した。遺物はいずれも埋土中から散在して出土しており、特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 分類可能なものには、P1出土の美濃中世後期土師器皿C1類(11)、大洞東1号窯式又は脇

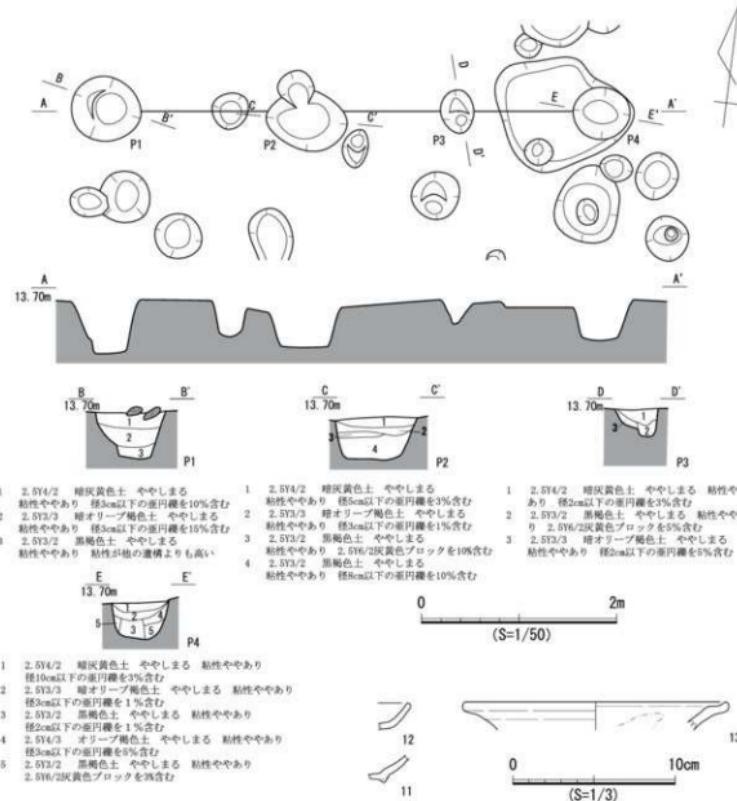


図22 SA 2 遺構図・出土遺物実測図

之島3号窯式の山茶碗、P2出土の大洞東1号窯式の山茶碗(12)、大窯第3段階の折縁皿(13)がある。

時期 出土遺物から16世紀後半以降のものと考えられる。

SA3(図23)

検出状況 BF3～BF5グリッド、Ia層基底面でP1～P5を検出した。いずれも平面形は明瞭であった。

規模・形状 東西方向に5基の柱穴が直線上に並ぶことから柵とした。主軸方位がN-2.5°-W、柱穴間は2～2.3m、南北長8.2mである。

柱穴 柱穴の平面形は円形で、径は0.28～0.55m、深さは0.19～0.53mである。全ての柱穴で柱根や柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P1から土師器19点、P2から土師器13点、P3から土師器4点、P4から土師器3点、瀬戸美濃産陶器1点が出土した。遺物はいずれも埋土中から散在して出土しており、特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 分類可能なものには、P3出土の美濃中世後期土師器皿C1類(14)、P4出土の後IV期新段階の擂鉢(15)がある。

時期 出土遺物から15世紀後半以降のものと考えられる。

SA4(図23・24)

検出状況 BG4～BG5グリッド、Ia層基底面でP1～P4を検出した。いずれも平面形は明瞭であった。

規模・形状 東西方向に4基の柱穴が直線上に並ぶことから柵とした。主軸方位がN-76°-E、柱穴間は2～2.3m、南北長8.2mである。西側は発掘区外へ広がる可能性がある。

柱穴 柱穴の平面形は円形で、径は0.51～0.46m、深さは0.19～0.29mである。全ての柱穴で柱根や柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P1から土師器3点、山茶碗類2点、常滑産陶器1点、P2から土師器6点、P3から土師器1点、P4から土師器3点、瀬戸美濃産陶器2点が出土した。遺物はいずれも埋土中から散在して出土しており、特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 分類可能なものには、P4出土の大窯第1段階又は第2段階の端反皿又は丸皿(16)がある。

時期 出土遺物から15世紀後半以降のものと考えられる。

SA5(図24)

検出状況 BG8～BH8グリッド、大型擾乱坑の底面でP1～P4を検出した。いずれも埋土が基盤層のIIIb層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 4基の柱穴が、ほぼ等間隔で直線上に並び、SB4の東側に方向を揃えて位置することから柵とした。主軸方位はN-1°-Eで、SB4の主軸方位とほぼ同じである。柱穴間は1.4～1.7m、南北長4.4mである。

柱穴 柱穴の平面形は円形又は梢円形で、径は0.24～0.74m、深さは0.07～0.17mである。全ての柱穴で柱根や柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P4から土師器1点が出土したが、特徴的な出土状況は確認できなかった。なお、P

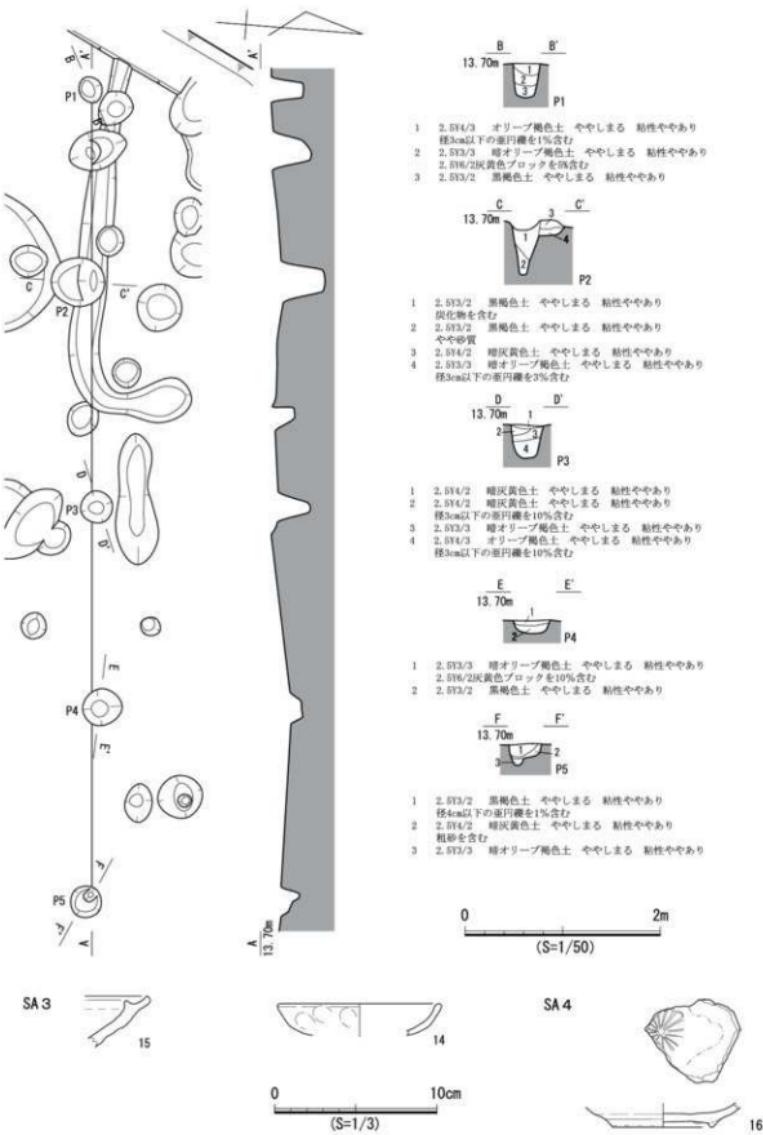


図23 SA 3 遺構図・出土遺物実測図・SA 4 出土遺物実測図

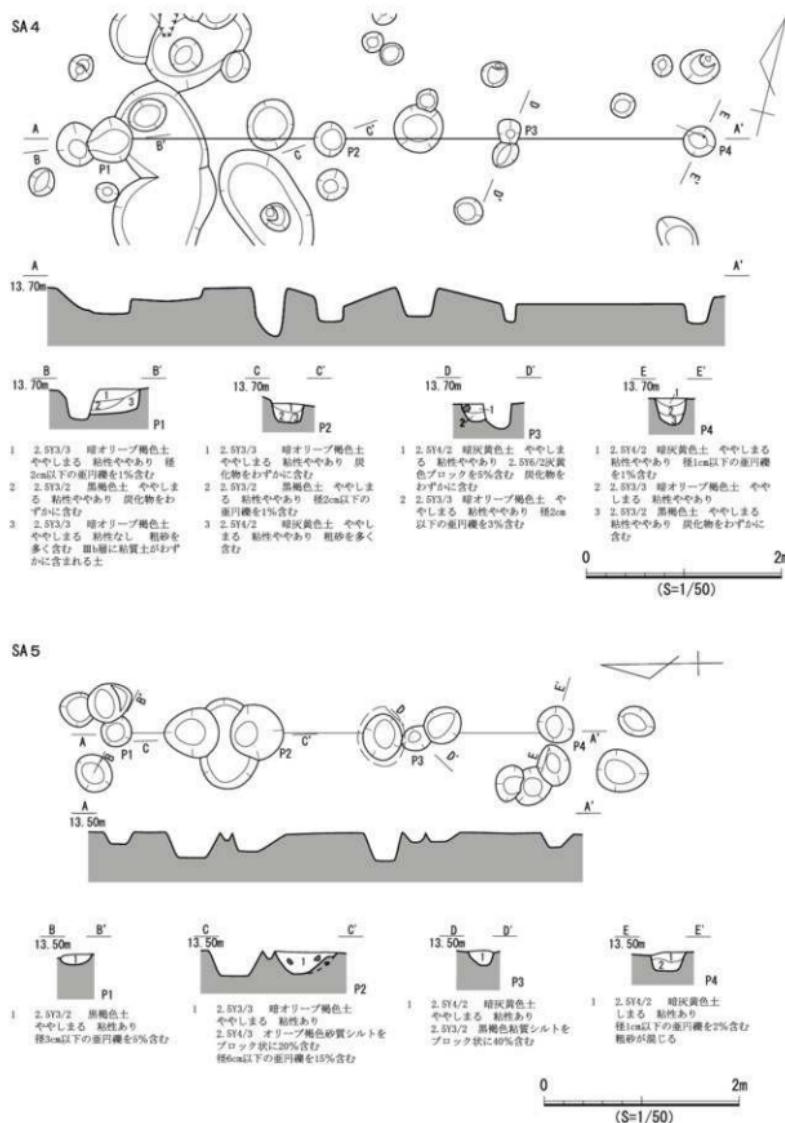


図24 SA 4・5 遺構図

1～P 3 からは遺物が出土しなかった。

遺物 P 4 出土の土師器は皿の小片で、分類不能である。

時期 P 3 より古いSK406から大洞東 1 号窯式の山茶碗が出土していることから、15世紀前半以降のもとのと考えられる。

SA 6 (図25)

検出状況 BH9～BI8 グリッド、大型搅乱坑の底面で P 1～P 4 を検出した。いずれも埋土が基盤層のⅢ b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 4 基の柱穴が、ほぼ等間隔で直線上に並ぶことから柵とした。主軸方位は N-17° - E で、約 1 m 東に位置する SA 7 とほぼ同じである。柱穴間は 2 ~ 2.2 m、南北長 6.2 m である。

柱穴 柱穴の平面形は円形又は梢円形で、径は 0.3 ~ 0.53 m、深さは 0.15 ~ 0.29 m である。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。

遺物出土状況 P 2 から山茶碗類 1 点、P 4 から土師器 2 点と山茶碗類 1 点が出土したが、特徴的な出土状況は確認できなかった。なお、P 1・P 3 からは遺物が出土しなかった。

遺物 分類可能なものには、P 4 出土の美濃中世後期土師器皿の C 類 (17) がある。

時期 P 3 より古いSK455から脇之島 3 号窯式の山茶碗が出土していることから、15世紀後半以降のもとのと考えられる。

SA 7 (図25)

検出状況 BH9～BI8 グリッド、大型搅乱坑の底面で P 1～P 5 を検出した。いずれも埋土が基盤層のⅢ b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 5 基の柱穴が、ほぼ等間隔で直線上に並ぶことから柵とした。主軸方位は N-16° - E で、約 1 m 西側に並行する SA 6 とほぼ同じである。柱穴間は 1.3 ~ 1.6 m、南北長 5.9 m である。

柱穴 柱穴の平面形は円形又は梢円形で、径は 0.35 ~ 0.53 m、深さは 0.13 ~ 0.32 m である。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。

遺物出土状況 P 2 から土師器 1 点、P 3 から山茶碗類 2 点が出土したが、特徴的な出土状況は確認できなかった。なお、P 1・P 4・P 5 からは遺物が出土しなかった。

遺物 遺物はいずれも小片で、分類不能である。

時期 時期を判断できる遺物が出土していないが、SA 6 と方位が同じであることから、近い時期のもとのと考えられる。

3 柱穴

SP 6 (図26)

検出状況 BF4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土は基盤層のⅢ a 層と類似し、輪郭が漸移的であった。

規模・形状 長軸長 0.47 m、短軸長 0.43 m、深さ 0.34 m である。平面形は円形、断面形は半円形で、底面はやや丸みを帯びる。底面に長さ 20 cm の扁平な縄が置かれており、礎盤石と考えられる。

埋土 4 層に分層したが堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器 35 点、山茶碗類 2 点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器では皿と鍋類があり、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿の C 1 類 (18) がある。

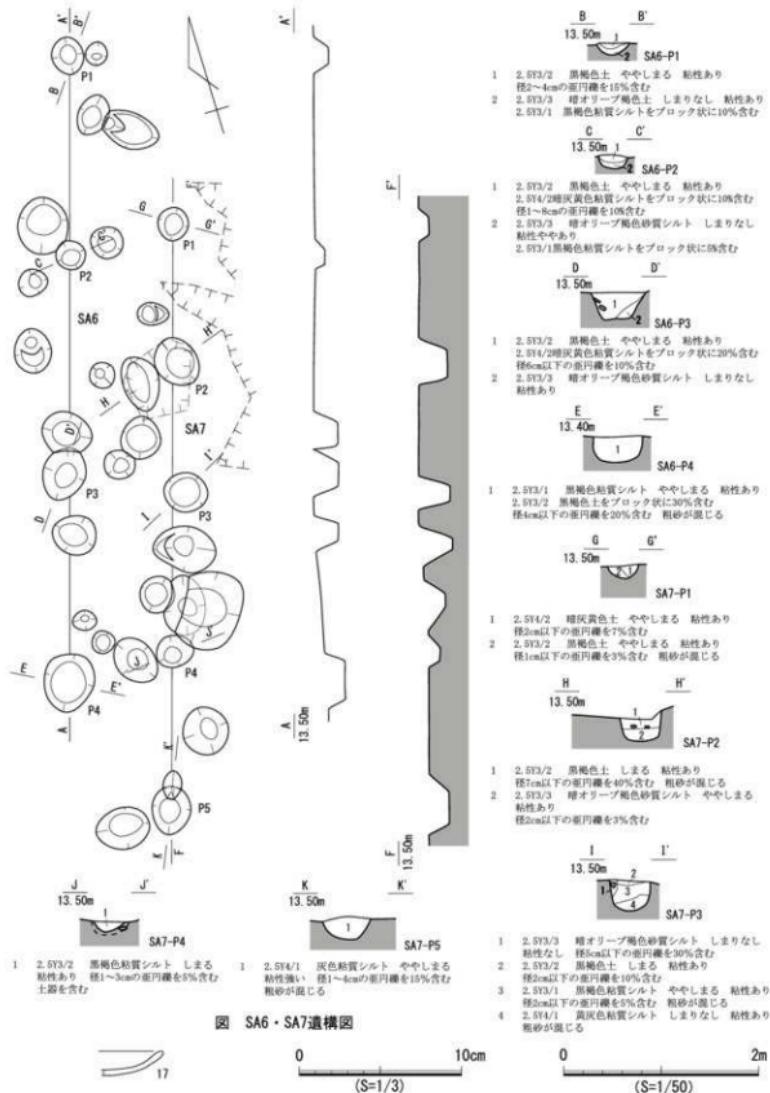


図 SA6・SA7造構図

図25 SA6・7造構図・SA6出土遺物実測図

18は底面中央に小穴が貫通する。山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。

時期 出土遺物から15世紀前半以降と考えられる。

SP 8 (図27)

検出状況 BF4グリッド、I a層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.48m、深さ0.48mである。平面形は円形で、壁面は立ち上がる、底面の南部分が一段深くなるため、ここに柱を設置していた可能性が考えられる。しかし、出土した遺物から地鎮に伴う埋納土坑の可能性もある。

埋土 6層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 土師器41点、山茶碗類1点、銭貨7枚が出土した。銭貨は5枚が溶着したもの(19~23)と、2枚が溶着したもの(24・25)があり、いずれも銭差しはなかった。5枚が溶着したものは2層から、2枚が溶着したものは3層から、それぞれ縦位で出土した。また、底面から約4分の1が残存する土師器皿(26)が、内面を下にして出土した。これらの遺物は、地鎮などに伴う埋納遺物の可能性がある。その他の遺物は、埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1類(26)とC 2類がある。

山茶碗は胴部の小片で、分類不能である。銭貨は、19は元豊通寶、20は嘉祐元寶、21は政和通寶、22は天禧通寶、24は祥符通寶で、いずれも北宋銭である。23と25は腐食により銭種不明である。

時期 出土遺物から15世紀前半頃と考えられる。

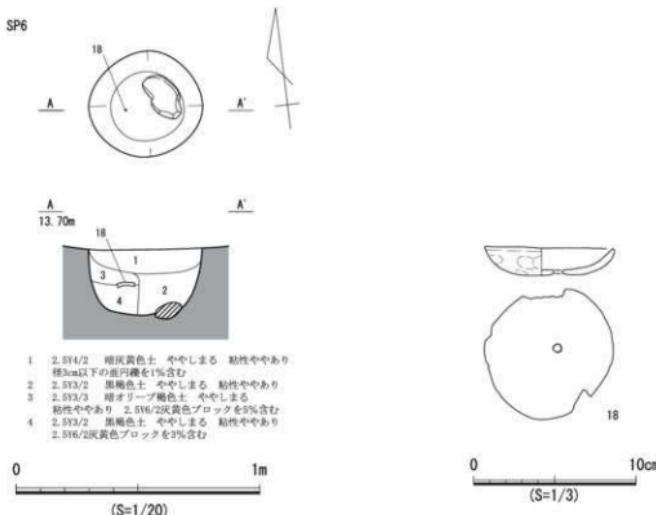


図26 SP 6 遺構図・出土遺物実測図

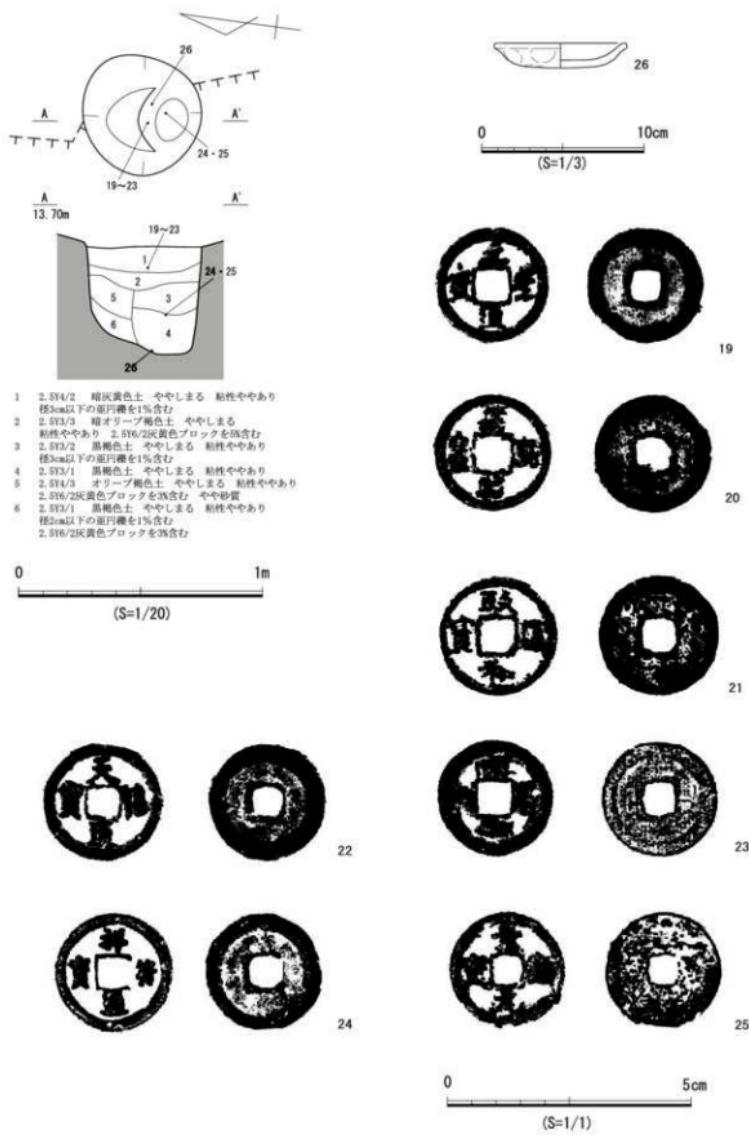


図27 SP 8 遺構図・出土遺物実測図

SP26 (図28)

検出状況 BG 3 グリッド、SK235の底面で検出した。埋土が基盤層のⅢ a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。当初はSK136よりも古ないと判断していたが、SK136の掘削時に新旧関係が逆であることが判明した。

規模・形状 長軸長0.24m、短軸長0.18m以上、深さ0.28mである。平面形はほぼ円形で、断面形は方形である。底面に長さ14cmの扁平な礫が置かれ、礎盤石と考えられる。礫は水平ではなく、北に向かって少し傾斜する。

埋土 5層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器3点が3層から出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1 類(27)がある。

時期 出土遺物から15世紀前半頃と考えられる。

SP27 (図28)

検出状況 BG 3 グリッド、SK235の底面で検出した。埋土が基盤層のⅢ a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.44m、短軸長0.41m、深さ0.25mである。平面形は不整円形、断面形は逆台形で、壁面は立ち上がる。底面に長さ14cmの扁平な礫が置かれており、礎盤石と考えられる。礫は花崗斑岩で、上面が被熱する。

埋土 3層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 土師器4点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿で、分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のC 2 類がある。

時期 出土遺物から15世紀後葉から16世紀中葉頃と考えられる。

SP28 (図28)

検出状況 BG 3 グリッド、SK235の底面で検出した。埋土は炭化物を含み、基盤層のⅢ a 層と明確に異なるが、輪郭は漸移的であった。

規模・形状 長軸長0.32m、短軸長0.32m、深さ0.44mである。平面形は円形、断面形は逆台形で、壁面が立ち上がり、形状から柱穴の可能性があると思われる。

埋土 5層に分層したが堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器9点が出土した。2層から、2分の1が残存する土師器皿1点(28)が出土した。28は内面が遺構内側を向き、壁面に沿って縦位で出土した。28以外は埋土中から散在して出土した。

遺物 28は美濃中世後期土師器皿のC 1 類で、その他の土師器は全て皿の小片で分類不能である。

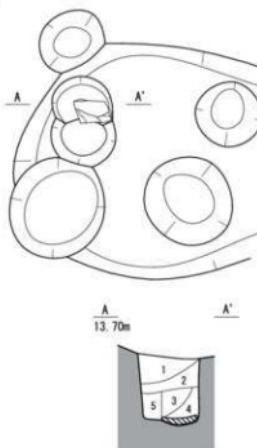
時期 出土遺物から15世紀前半頃と考えられる。

SP32 (図28)

検出状況 BG 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のⅢ a 層と類似し、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK173・SK177・SK182より新しい。

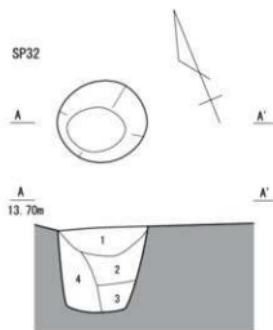
規模・形状 長軸長0.36m、短軸長0.33m、深さ0.32mである。平面形は円形、断面形は逆台形で、壁面が立ち上がり、形状から柱穴の可能性があると思われる。

SP26

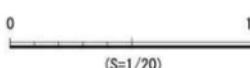


1. 2.5Y3/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 塗化物を含む
2. 2.5Y4/2 緑灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
3. 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 長さ3cmの塗化物を含む
4. 2.5Y3/3 緑オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 2.5Y6/2灰黄色ブロックを1%含む
5. 2.5Y4/2 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 2.5Y6/2灰黄色ブロックを10%含む

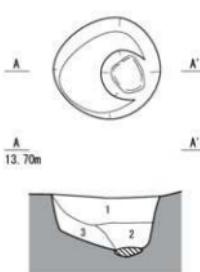
SP32



1. 2.5Y3/3 緑オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径2cm以下の圓錐形を1%含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
3. 2.5Y3/3 緑オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 粗砂を多く含む
4. 2.5Y4/2 緑灰黄色土 ややしまる 粘性なし 粗砂を多く含む

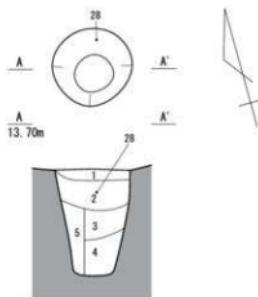


SP27



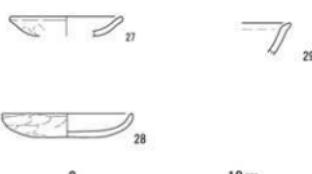
1. 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり ブロックを3%含む 塗化物を含む
2. 2.5Y4/2 緑オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 粗砂をわざがんこを含む
3. 2.5Y6/2 緑灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 粗砂を多く含む

SP28



1. 2.5Y3/3 緑オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 塗化物
2. 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径4cm以下の粗砂を1%含む
3. 2.5Y6/2 緑灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり やや砂質
4. 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
5. 2.5Y4/2 緑灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 2.5Y3/3オリーブブロックを10%含む

SP32



SP28

図28 SP26・27・28・32遺構図・出土遺物実測図

埋土 4層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 瀬戸美濃産陶器1点が2層から出土した。

遺物 29は大窯第1段階の天目茶碗である。

時期 出土遺物から15世紀末以降と考えられる。

SP47 (図29)

検出状況 BH3グリッド、SK175の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a層と類似し、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK230、SK231より古い。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.32m以上、深さ0.19mである。平面形は他の遺構と重複しているが、梢円形に近いと思われ、断面形は方形で、壁面は立ち上がる。底面に径18cmの扁平な円礫が置かれていることから、礎盤石と考えられる。礫は表面が被熱する。

埋土 4層に分層したが、各土層においてブロック土を含むことから、人為堆積の可能性が考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺構より新しいSK230の時期は出土遺物からは明確にできないが、中世の屋敷地の区画内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

SP50 (図29)

検出状況 BH3グリッド、SK251の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.93m、短軸長0.38m、深さ0.32mであるが、2基の遺構となる可能性も考えられる。平面形は梢円形で、南側壁面の傾斜はほぼ垂直である。底面に径15cmの扁平な円礫が置かれており、礎盤石と考えられる。径10cmの扁平な円礫が、礎盤石の北西側に隣接して出土したが、性格は不明である。

埋土 6層に分層したが堆積状況は不明である。1層と2層は別遺構の可能性がある。

遺物出土状況 土師器13点、山茶碗類1点が出土した。5層と6層の層界付近から、約2分の1が残存する土師器皿(30)が出土した。その他の遺物は、全て埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1類(30・31)がある。山茶碗は胴部の小片で分類不能である。

時期 出土遺物から、15世紀前半以降と考えられる。

SP51 (図29)

検出状況 BH3グリッド、I a層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.43m以上、短軸長0.39m、深さ0.43mである。平面形は梢円形で、壁面は立ち上がる。底面に径15cmの礫が置かれた状態で出土しており、礎盤石と考えられる。

埋土 5層に分層したが、5層にはブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 時期を判別できる遺物が出土していないが、中世の屋敷地の区画内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

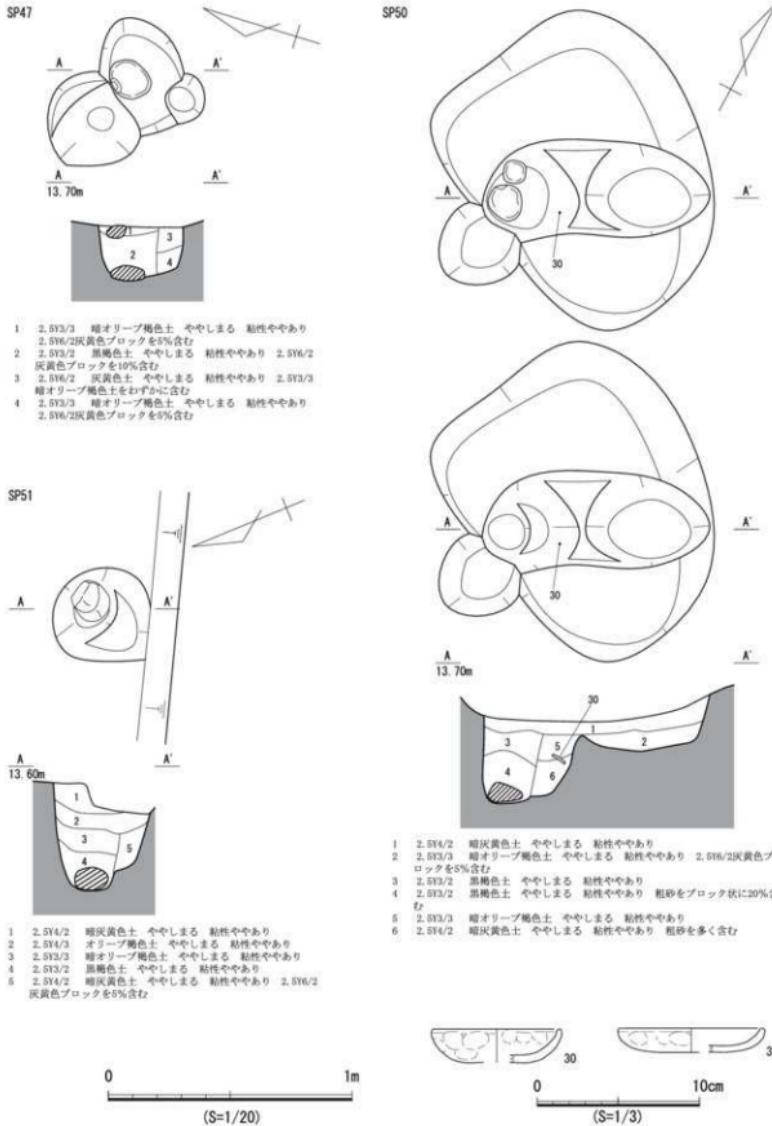


図29 SP47・50・51遺構図・SP50出土遺物実測図

SP57（図30）

検出状況 BI 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK285より古い。

規模・形状 長軸長0.82m、短軸長0.46m以上、深さ0.6mで、柱根が残存する柱穴である。遺構の大部分がSK285と重複するため、平面形は不明である。壁面は立ち上がる。

埋土 6層に分層したが、3～5層が柱掘方埋土である。なお、1層は別の遺構の埋土となる可能性がある。

遺物出土状況 土師器5点、山茶碗類4点、柱根1点が出土した。土器類は全て小片で、埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は皿の小片で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1類がある。山茶碗類では、山茶碗2点と小皿2点があり、全て小片のため分類不能である。柱根（32）はクリの芯持丸木材で、径10.5cm、長さ25cmである。腐食が進み、加工痕は確認できない。

時期 出土遺物から15世紀前半以降と考えられる。

SP59（図30）

検出状況 BJ 5 グリッド、I a 層基底面で検出した。遺構埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK519より新しい。

規模・形状 長軸長0.63m、短軸長0.61m、深さ0.62mで、柱根が残存する柱穴である。平面形は円形で、壁面は立ち上がり、東側には段がある。柱根取り上げ後の底面で、柱当たりを確認した。

埋土 7層に分層したが、2～7層は柱掘方埋土で、粘質土と砂質土を交互に入れている。また、7層は小径の礫を多量に含む。

遺物出土状況 土師器7点、柱根1点が出土した。土師器は大半が皿の小片で、埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は皿と鍋の小片で、分類不能である。柱根（33）は、径24cm、長さ56cmである。本遺跡出土の柱根で唯一芯材を用いておらず、サワラの丸太材を4分の1にミカン割りし、角を面取りして円柱状に成形している。また、底部も角を落とし、丸みを帯びた形状に仕上げている。成形に用いた道具は不明である。

時期 本遺構、重複する遺構ともに時期を判別できる遺物が出土していないが、中世の屋敷地の区画内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

SP67（図30）

検出状況 BH 7 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。検出時に柱痕跡を確認した。他遺構との重複関係は、SB 4 より新しい。

規模・形状 長軸長0.5m、短軸長0.38m、深さ0.24mで、柱痕跡が残存する柱穴である。平面形は梢円形で、断面形は逆台形であるが、壁面に段を持つ。柱痕跡は径0.2mである。

埋土 2層に分層した。2層は柱掘方埋土で、礫を多く含む。

遺物出土状況 濑戸美濃産陶器1点が出土した。

遺物 34は古瀬戸後II期の折縁深皿である。

時期 出土遺物から14世紀末以降と考えられる。

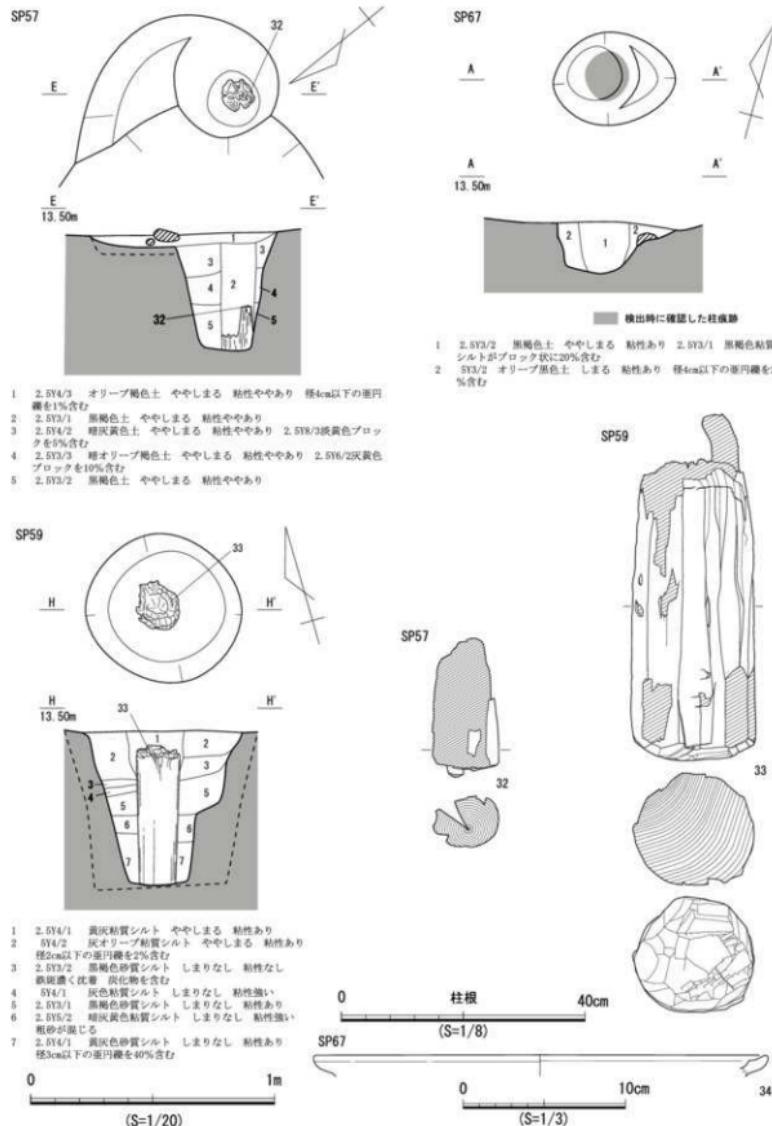


図30 SP57・59・67遺構図・出土遺物実測図

SP69（図31）

検出状況 BH 7 グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。検出時にSK391と同一の遺構として認識していたが、土層観察時に重複関係を確認し、別遺構と判断した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であったが、検出時に柱痕跡は確認できなかった。他遺構との重複関係は、SK391より古い。

規模・形状 長軸長0.52m、短軸長0.44m以上、深さ0.21mで、柱根が残存する柱穴である。柱掘方の底面で、径15cmの扁平な亜円礫2点が重なった状態で出土した。

埋土 2層に分層し、2層を柱掘方埋土と判断した。しかし、1層と2層の層界で底面のレベルが異なることから、別遺構の可能性がある。

遺物出土状況 土師器6点、山茶碗類1点、柱根1点が出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。柱根（35）はサワラの芯持丸木材で、長さ19cm、径8.5cmである。表面の腐食が激しく、加工痕などは確認できない。

時期 本遺構、重複する遺構ともに時期を判別できる遺物が出土していないが、土師器皿と山茶碗類が出土していることから、中世の遺構と考えられる。

SP78（図31）

検出状況 BH 8 グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SB 4 より古い。

規模・形状 長軸長0.39m以上、短軸長0.37m、深さ0.23mである。平面形は楕円形、断面形は方形である。底面で長さ13cmの扁平な亜円礫が横位で出土した。柱痕跡は存在しないが、礫の形状と位置から、礫盤石と判断した。

埋土 2層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺構、重複する遺構ともに時期を判別できる遺物が出土していないが、中世の屋敷地の区内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

SP83（図31）

検出状況 BH 9 グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。また、検出時に柱痕跡を確認した。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.32m、深さ0.27mで、柱痕跡が残存する柱穴である。平面形は楕円形、断面形は方形で、壁面は立ち上がる。底面では柱当たりを確認した。

埋土 2層に分層したが、1層が柱痕跡で、2層が柱掘方埋土である。柱痕跡は径18cmであるが、土層断面位置が柱痕跡からずれたため、土層断面図では部分的にしか記録できていない。

遺物出土状況 土師器3点、山茶碗類2点、金属製品1点が出土した。土器類はいずれも小片で、散在して出土した。金属製品は小柄（36）で、遺構底面から出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。36は銅製で、表面は腐食しており装飾は確認できない。戸尻から1.5cmの位置に、径2mmの穴が貫通する。

時期 時期判別できる遺物が出土していないが、土師器皿と山茶碗類が出土していることから、中世の遺構と考えられる。

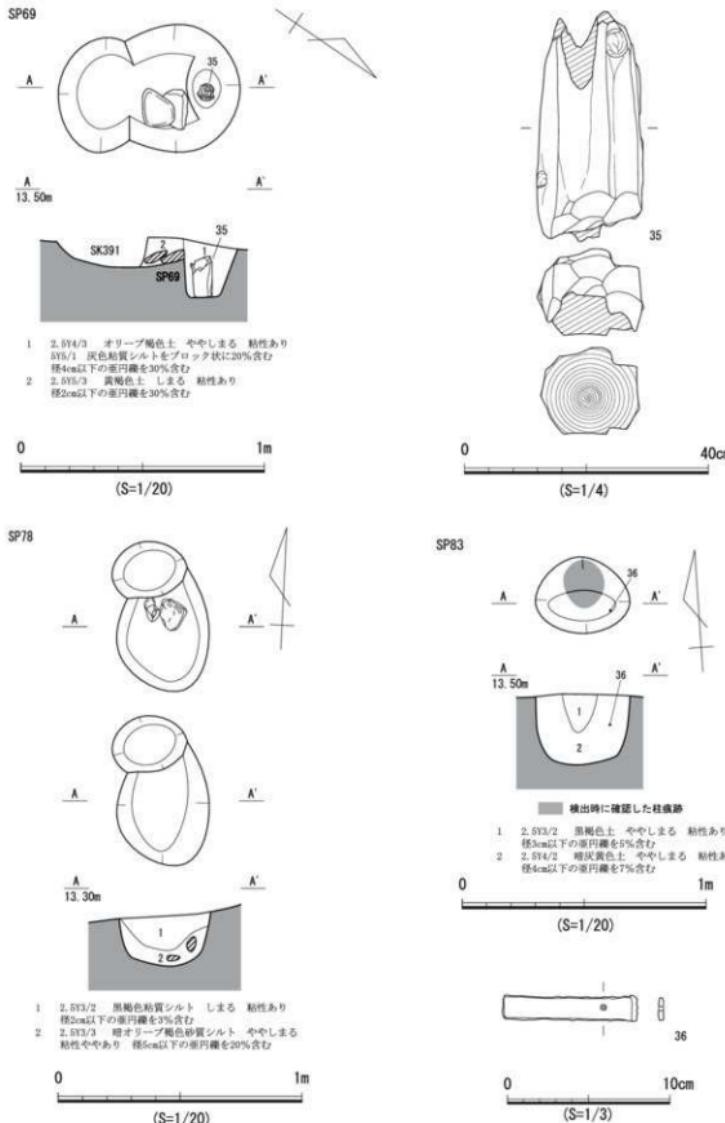


図31 SP69・78・83遺構図・出土遺物実測図

SP89（図32）

検出状況 BI 7～BI 8 グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のⅢ b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.80m、短軸長0.66m、深さ0.41mのやや大型の柱穴で、柱根が残存する柱穴である。平面形は楕円形、断面形は逆台形である。柱根取り上げ後の底面は平坦で、柱当たりは確認できなかった。

埋土 3層に分層したが、2・3層は柱掘方埋土で、2層は礫を含み固くしまる。

遺物出土状況 柱根1点が出土した。

遺物 柱根（37）はクリの芯持丸木材で、径30cm、長さ46cmである。腐食が進み、芯部は空洞で、表面の加工痕は確認できない。他の柱穴出土の柱根と比べて大型である。

時期 時期を判別できる遺物が出土していないが、中世の屋敷地の区画内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

SP91（図32）

検出状況 BI 8～BI 9 グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のⅢ b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK474より新しい。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.35m、深さ0.28mで、柱痕跡が残存する柱穴である。平面形は不整円形で、断面形は半円形に近く、底面はやや丸味がある。検出時に確認した柱痕跡は径14cmで、柱穴のほぼ中央に位置する。

埋土 3層に分層したが、1層は柱痕跡、2・3層は柱掘方埋土で、3層は礫を含みよくしまる。

遺物出土状況 山茶碗類1点が1層から出土した。

遺物 38は大烟大洞4号窯式の山茶碗である。

時期 柱痕跡から出土した遺物は混入であるが、中世の屋敷地の区画内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

SP92（図32）

検出状況 BI 8～BI 9 グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のⅢ b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SP93より古い。

規模・形状 長軸長0.62m、短軸長0.55m、深さ0.28mで、柱根が残存する柱穴である。平面形は楕円形、断面形は半円形で、底面はやや丸みがある。柱根は掘り方の中央から東寄りの位置で出土した。また、径20cmの扁平な亜円礫が、柱根の西側に隣接して出土したが、性格は不明である。また、礫は被熱している。

埋土 4層に分層したが、2～4層は柱掘方埋土で、特に2層は固くしまる。

遺物出土状況 土師器4点、山茶碗1点、柱根1点が出土した。土器類はいずれも小片で、散在して出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。柱根（39）はクリの芯持丸木材で、径10.7cm、長さ30.3cmである。表面は腐食が進み、加工痕は確認できない。

時期 時期判別できる遺物が出土していないが、土師器皿と山茶碗類が出土していることから、中世の遺構と考えられる。

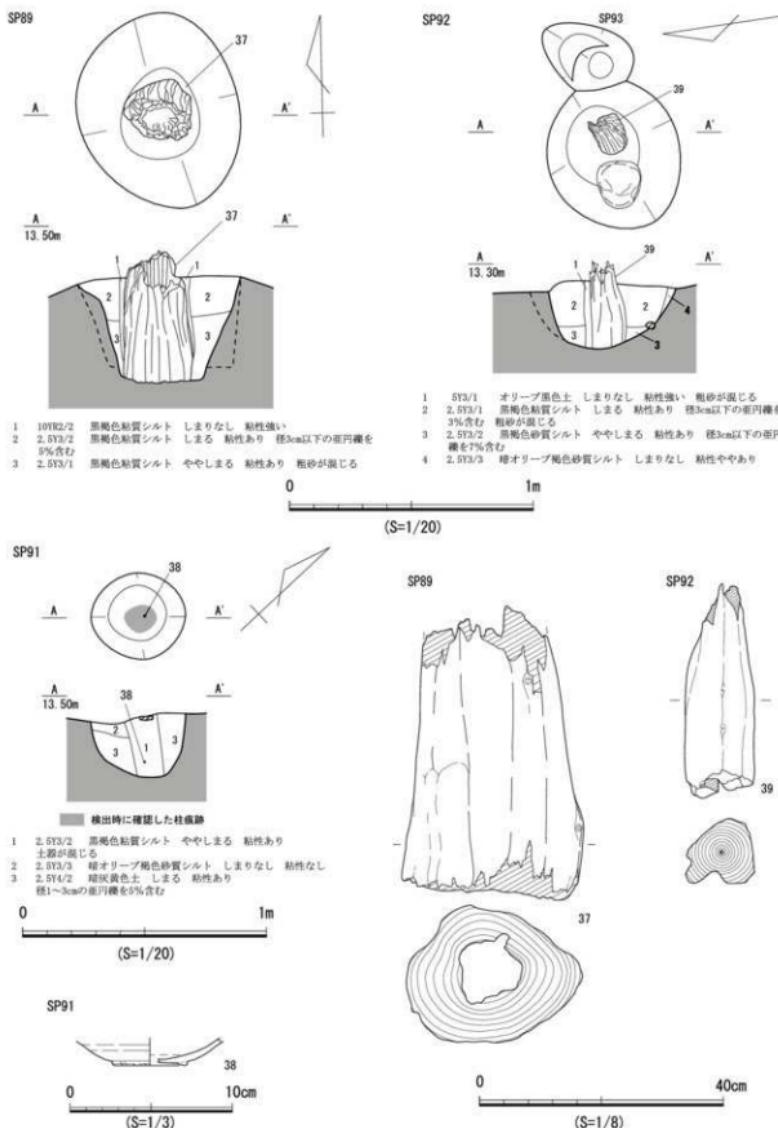


図32 SP89・91・92遺構図・出土遺物実測図

SP93（図33）

検出状況 BI 9 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.55m、短軸長0.45m、深さ0.23mで、柱根が残存する柱穴である。平面形は梢円形で、底面は柱部分がさらに一段深くなる。

埋土 3層に分層したが、2・3層は柱掘方埋土で礫を含む。

遺物出土状況 土師器2点、山茶碗類1点、柱根1点が出土した。土器類はいずれも掘方埋土から出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。柱根（40）はクリの芯持丸木材で、長さ19cm、径8.9cmである。表面の腐食が激しく、加工痕などは確認できない。

時期 時期を判別できる遺物が出土していないが、土師器皿と山茶碗類が出土していることから、中世の遺構と考えられる。

SP94（図33）

検出状況 BJ 8 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.51m、短軸長0.44m、深さ0.35mで、底面に礎盤石が残存する柱穴である。平面形は梢円形、断面形は逆台形で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 木製品1点が出土した。底面で、長さ17cmの扁平な礫が横位で出土しており、木製品は礫の上から横位で出土した。礫は位置と形状から礎盤石と考えられる。

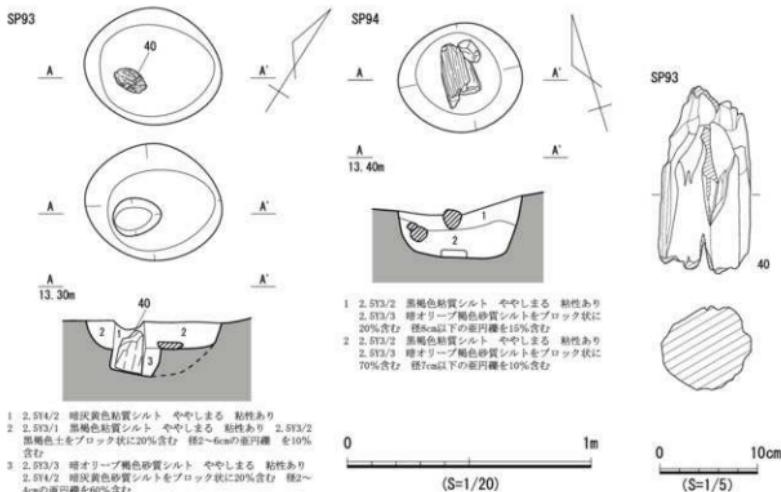


図33 SP93・94遺構図・SP93出土遺物実測図

遺物 木製品は長さ25cm、幅10.5cm、厚さ0.4cmである。柱根の可能性があるが、腐食が進み当初の形状は不明である。

時期 時期を判別できる遺物が出土していないが、中世の屋敷地の区画内に位置することから、中世の可能性が考えられる。

3 溝状遺構

SD 1（図34）

検出状況 AK9～AP12グリッド、III a層上面で検出した。遺構西辺の輪郭が漸移的で不明瞭であった。重複するSD2より新しく、SD5とSK74より古い。検出時、SD1とSD2は同一のもので、SD1屈曲箇所北側で分岐する溝と考えていたが、発掘区北壁面で両遺構の埋土が異なることを確認した。遺構平面の観察では明瞭な重複関係が確認できなかったため、B-B'ラインを設定して土層断面を観察した。その結果、SD2埋没後にSD1を掘削したことを確認した。

規模・形状 AM11～AM12グリッドでクランク状に屈曲し、南北端は発掘区外に展開する。屈曲箇所周辺には、溝の形状に影響を与える要因が確認できない。しかし、SD1を検出したあたりはIII a層が堆積し、その上面で検出されたが、SD1の東西ではIII a層が確認できないことから、旧地形が谷状に少し壅む位置にSD1を掘削していると思われ、耕作等の土地利用に関わる溝と考えられる。主軸方位は屈曲箇所北側がN-19.5°-E、南側がN-24.5°-Eであり、B地点の区画溝群とは主軸方位が異なる。屈曲箇所北側では、幅0.98m、深さ0.25m、南側では、幅2.86m、深さ0.46mと、屈曲箇所を境として幅が大きく異なる。東側壁面の傾斜は急だが、西側は緩やかで、西辺に沿って平坦な段が帯状に続く。完掘後の底面は、III b層の円礫が露出する。底面は北から南に向かって緩やかに傾斜する。

埋土 D-D'断面では埋土中にIII a層に類似する土がブロック状に混じり、人為堆積と考えられるが、発掘区北壁付近ではA-A'断面の3層に植物遺体が多く含まれ、草本類が生育した湿地状の環境だった時期があったと考えられる。

遺物出土状況 土師器35点、須恵器10点、灰釉陶器2点、山茶碗類25点、古瀬戸6点、常滑産陶器1点、產地不明陶器3点が出土した。遺物の大半は分岐箇所南側から出土しており、北側の出土遺物は広口瓶1点(41)のみである。いずれも埋土中から散在して出土しており、特徴的な出土状況は確認できなかった。

遺物 土師器は皿や羽釜等の小片である。42は美濃中世後期土師器皿のC2類である。山茶碗類は東濃型では大畠大洞4号窯式新段階(43)、大洞東1号窯式、脇之島3号窯式の山茶碗、尾張型では第5型式の山茶碗と小皿、第6型式の山茶碗がある。古瀬戸は後Ⅰ期から後Ⅱ期の天目茶碗(44)と平碗、後Ⅲ期から後Ⅳ期古段階の縁釉小皿(45)がある。41は產地・時期不明の広口瓶の胴部片である。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀後半頃と考えられる。

SD 2（図34）

検出状況 AM1～AK12グリッド、III a層上面で検出した。遺構西辺の輪郭が漸移的で不明瞭であった。重複するSD1より古い。

規模・形状 北端は発掘区外に展開し、南端はSD1と重複するが、このあたりで収束していた可能性がある。主軸方位はN-19.5°-Eであり、B地点の区画溝群とは主軸方位が異なる。東側壁面の一部には、浅いテラス状の部分があり、幅1.91m、深さ0.33mである。底面はIII b層の円礫が露出し、

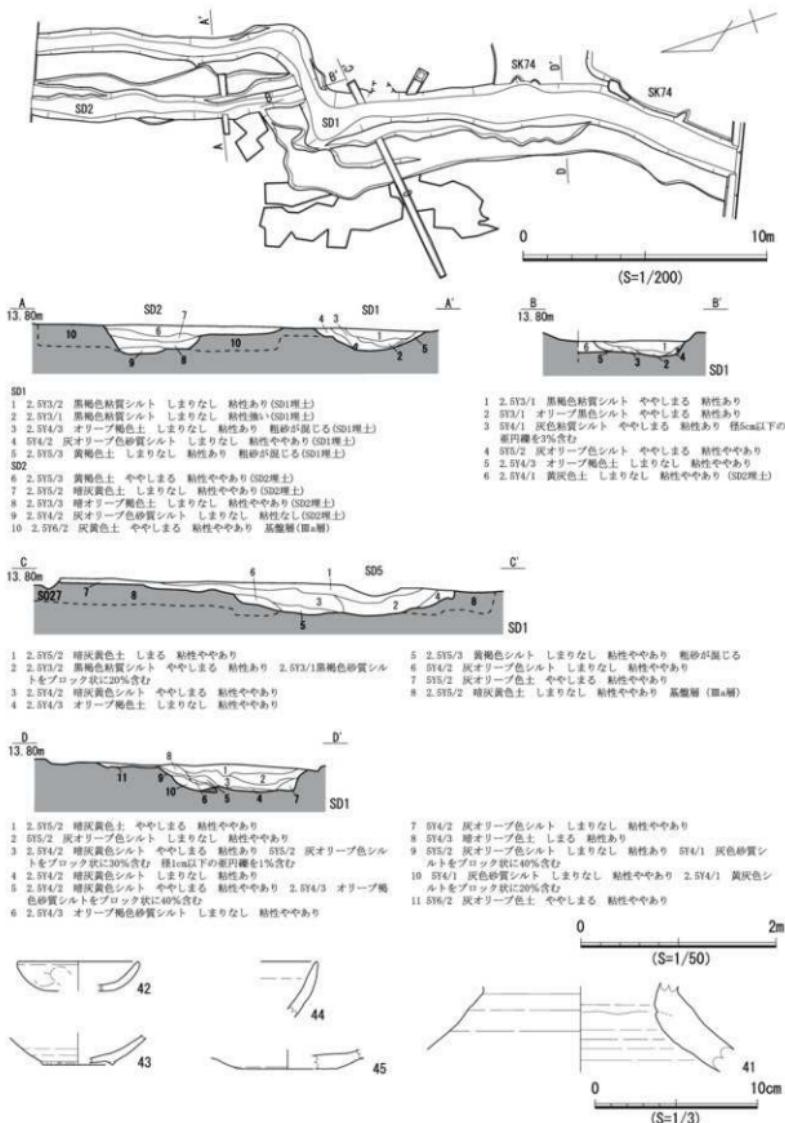


図34 SD 1・2 遺構図、SD 1 出土遺物実測図

北から南に向かって緩やかに傾斜する。

埋土 4層に分層した。いずれも水平堆積で、各層の埋土が均質なことから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 検出面付近から、灰釉陶器1点が出土した。

遺物 灰釉陶器の壺類の胴部片である。

時期 重複するSD1よりも古いことから、15世紀後半以前と考えられる。

SD3 (図35)

検出状況 AJ16～AM15グリッド、I b層基底面で検出した。本遺構は重複するSK15より古い。検出時、

SD3

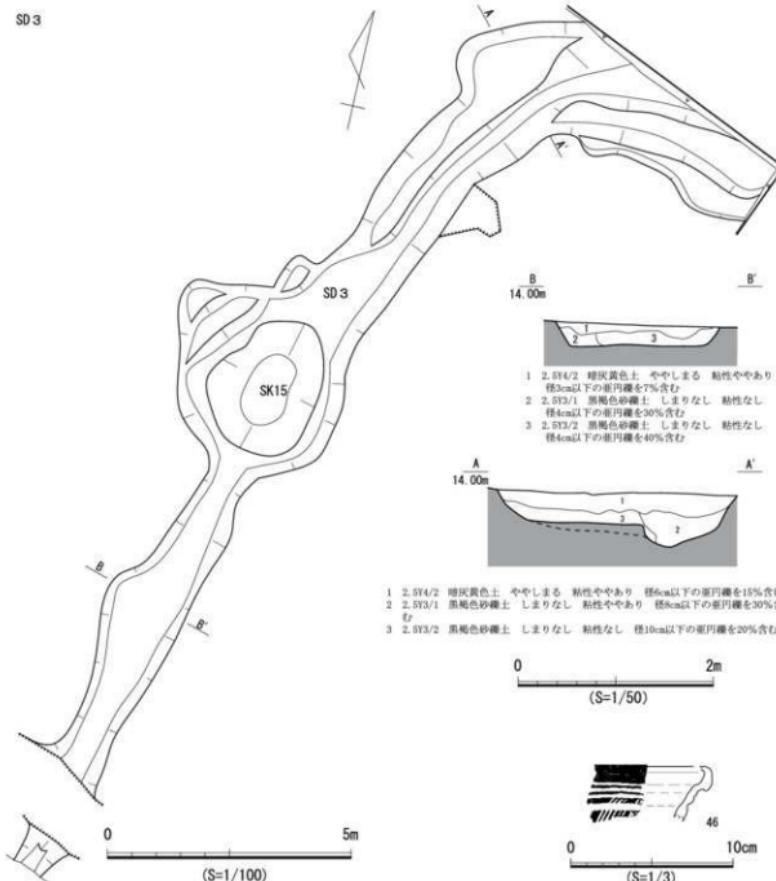


図35 SD3 遺構図・出土遺物実測図

SK15との明瞭な重複関係を確認できず、同一遺構として掘削を進めたが、土層断面観察時に埋土の土質が異なり、堆積状況に矛盾が生じることを確認したため、別遺構と判断した。

規模・形状 AJ16グリッドでほぼ東に強く湾曲し、南北端は発掘区外に展開する。南北方向に伸びる直線部分の主軸方位はN-17.5°-Eで、幅1.7m、深さ0.41mである。円形に膨らむ箇所は幅3.7m、深さ0.91mで、西側の壁面は平坦部が階段状に2段ある。遺構北西部の湾曲部分の外縁にも平坦部があり、そこから北東に向かって深く掘り込まれ、最深部の深さは0.75mである。直線部分の断面形は逆台形で、底面は平坦である。底面の傾斜は規則性がなく、一定方向への導水を意識していないようである。また、本遺構の東西で周辺の遺構密度が異なることから、本遺構は区画を目的とした溝である可能性が考えられる。

埋土 3層に分層した。3層ともにⅢb層の礫が混じり、人為堆積と考えられる。水が流れていた痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器5点、須恵器6点、山茶碗類2点、常滑産陶器67点が出土した。小片が多く、いずれも散在していたが、常滑産の甕は全て、湾曲部分以東から出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗は小片のみで、分類不能である。46は須恵器の甕の頭部である。常滑産陶器は全て甕で、大半が胴部の破片である。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀後半と考えられる。

SD 5（図36）

検出状況 AM10～AP11グリッド、Ⅲa層上面で検出した。平面形は明瞭で、SD 1より新しい。

規模・形状 北から南西方向に向かって緩やかに湾曲して伸びている。発掘区南側壁面では本遺構の埋土を確認できなかった。主軸方位はN-15°-Eで、長さ17.91m、幅0.6m、深さ0.12mである。断面形状は浅い皿状で、両端部の底面標高に大きな差は確認できない。SD 1の西側に位置するSD 4は本遺構と規模と主軸方位が類似する。

埋土 単層である。埋土に礫は含まないが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器1点、山茶碗類5点、常滑産陶器1点が出土した。いずれも小片で、散在して出土した。

遺物 東濃型大畑大洞4号窯式から脇之島3号窯式にかけての山茶碗と、尾張型第5型式と第6型式の山茶碗(47)がある。常滑産陶器は甕の胴部で、分類不能である。

時期 出土遺物から、15世紀後半頃と思われる。

SD 7（図36）

検出状況 AR 7～AS 7グリッド、Ⅲa層上面で検出した。他遺構との重複関係は、検出状況からSK56、SK59、SK61、SK75より新しく、SK48、SK51、SK54より古いと判断した。

規模・形状 遺構の北側は発掘区外へ展開し、南側は搅乱坑に切られる。主軸方位はN-24°-Eで、幅0.71m、深さ0.19mである。断面形は浅い皿状で、底面は平坦である。底面標高は、南端部分が最も高い。

埋土 単層である。小径の亜円礫を少量含むが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器34点、山茶碗類6点、常滑産陶器2点が出土した。大半が小片で、散在して出土した。

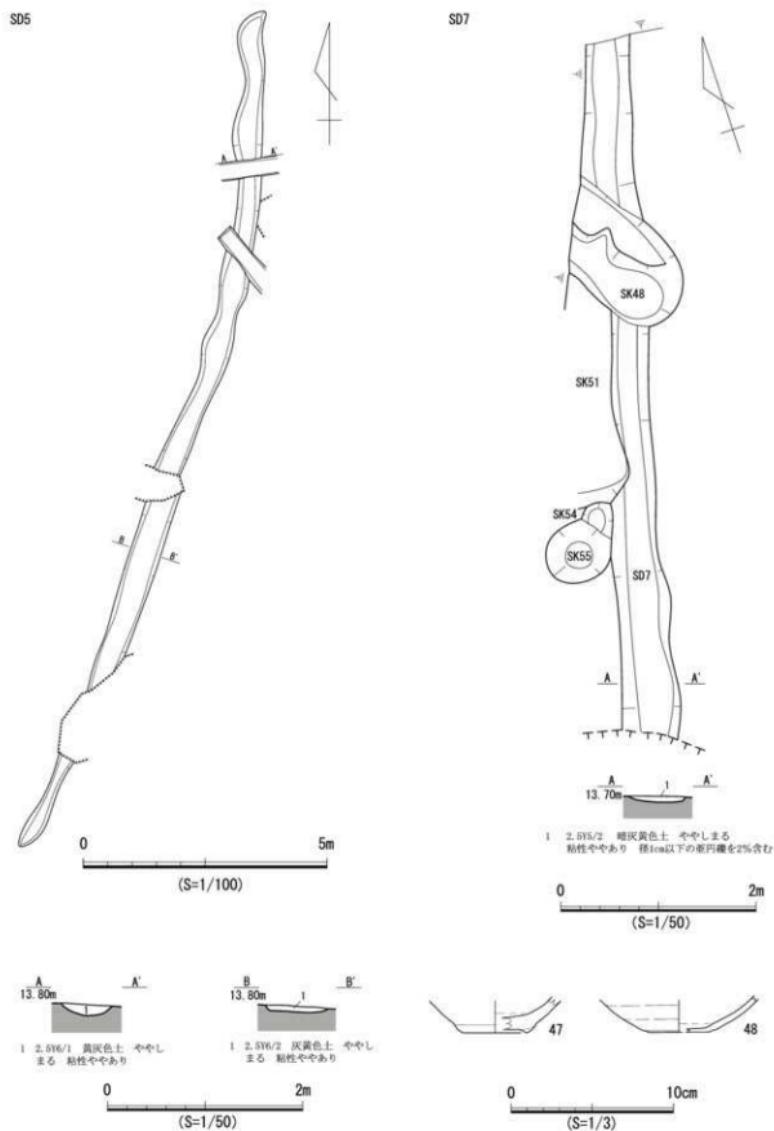


図36 SD 5・7 遺構図・出土遺物実測図

遺物 土師器は大半が皿の小片で、分類不能である。48は脇之島3号窯式の山茶碗である。常滑産陶器は甕と器種不明の破片である。

時期 出土遺物から、15世紀後半頃と思われる。

SD 8（図37）

検出状況 AR 7～AR 8 グリッドのSK76の底面で検出した。SD 8・SD 9・SD 10の3条の溝が重複しており、SD 8が最も新しく、SD 10が最も古い。

規模・形状 遺構の北側と東側が発掘区外となる。発掘区西側壁面で本遺構の埋土が確認できなかったため、北方向に曲がると考えられる。幅0.54m、深さ0.13mで、断面形はほぼ逆台形である。

埋土 3層に分層した。3層の粘質シルトは礫を含むため、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 検出面付近から須恵器1点が出土した。

遺物 須恵器の甕の小片1点が出土した。

時期 重複関係にあるSK76とSD10の出土遺物の最新型式は、いずれも尾張型第8型式又は9型式の山茶碗で、美濃中世後期土師器皿のC1類も出土したことから、15世紀前半以降と考えられる。

SD 9（図37）

検出状況 AR 7・8 グリッド、SK76の底面で検出した。SD 8・SD 9・SD 10の3条の溝が重複しており、SD 8が最も新しく、SD 10が最も古い。SD 9は埋土がSD 8と似るため、検出時は同一遺構として認識していたが、発掘区壁面でSD 8と重複する堆積を確認したため、別の遺構と判断した。

規模・形状 遺構の東西端が発掘区外に延びる。幅0.77m、深さ0.32mで、断面形は半円形に近い。

埋土 4層に分層した。水平堆積で、全層に亜円礫が混じる。植物遺体を含む3層が堆積していた頃は草本類が生育した湿地状の環境だったと考えられ、4層の砂質シルトは流水による堆積の可能性がある。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SD10との重複関係から、15世紀前半より古いと考えられる。

SD10（図37）

検出状況 AR 7～AR 8 グリッド、SK76の底面で検出した。SD 8・SD 9・SD 10の3条の溝が重複しており、SD 8が最も新しく、SD 10が最も古い。また、SK44・SK45・SK54より新しい。

規模・形状 ほぼ直角に屈曲し、西方向と南方向に向かって延びる溝で、西端と南端は発掘区外へ展開する。また、屈曲箇所の外縁部が北東方向へ膨らむことから、発掘区外で北東方向へ延びる可能性もある。幅0.86m、深さ0.3mで、断面形は逆台形である。

埋土 2層の水平堆積で、A-A'断面では南壁側に壁面崩落土が見られる。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器25点、山茶碗類4点、常滑産陶器1点、木製品1点、種子1点が出土した。土器類はいずれも小片で、散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、49は美濃中世後期土師器皿のC1類である。山茶碗類は尾張型第8又は9型式(50)と大畑大洞4号窯式新段階(51)の山茶碗が出土した。常滑産陶器は、甕の胴部1点が出土した。52は長さ7.9cm、幅4.6cm、厚さ3.4cmのサフラの棒材で、1つの面に長さ4.4cm、幅0.9cm、深さ1.1cmの方形の穴が開けられる。用途は不明である。種子はの種別は不明である。

時期 出土遺物と、SK76とSD 8との重複関係から、15世紀前半以降と考えられる。

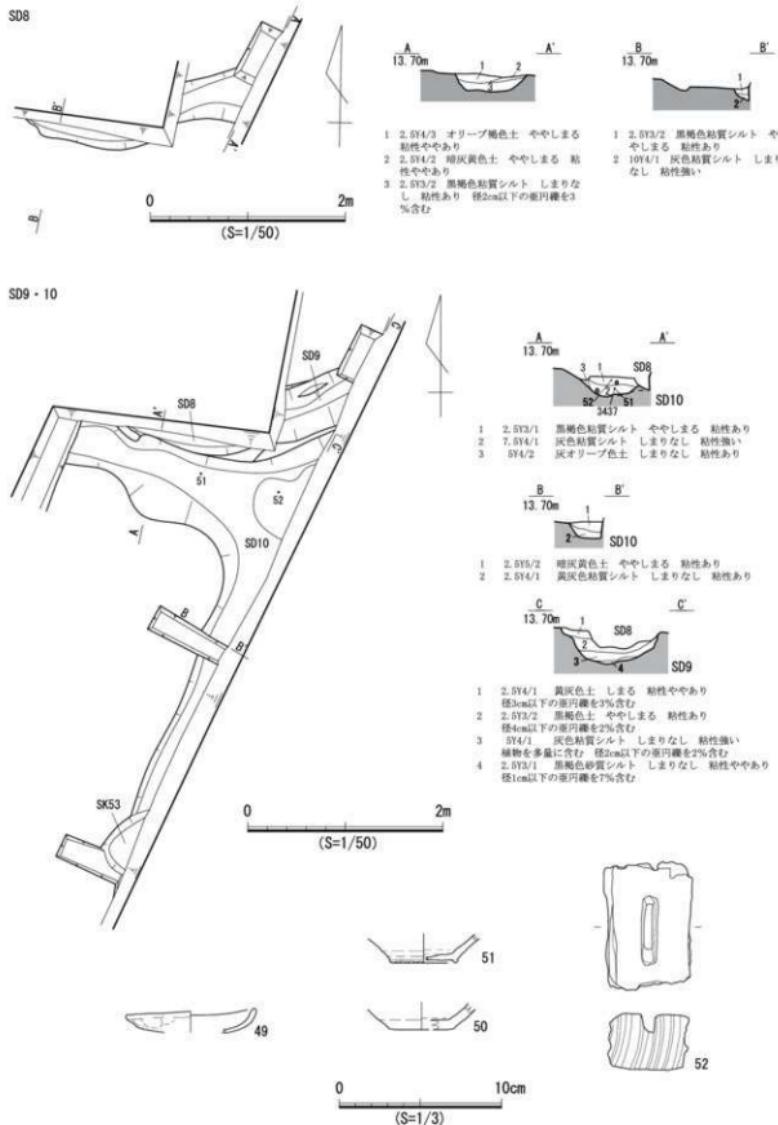


図37 SD 8～10遺構図・SD 9・10出土遺物実測図

SD12 (図38)

検出状況 AR13～AS13グリッド、SK77の底面で検出した。いずれも平面形は明瞭だった。

規模・形状 南側が発掘区外となり、幅0.75m、深さ0.14m、主軸方位はN-1°-Wである。断面形は浅い皿状で、底部形状は平坦である。

埋土 2層に分層した。埋土は礫を含むシルトで、流水の痕跡は確認できない。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺構より新しいSK77から古瀬戸中期の瓶又は壺が出土しており、14世紀前半よりも古いと考えられる。

SD13 (図38)

検出状況 AQ14～AS14グリッド、SK77の底面で検出した。平面形は明瞭だった。

規模・形状 北側と南側が発掘区外となり、幅0.29m、深さ0.12m、主軸方位はN-9°-Eである。断面形は浅い皿状で、底部形状は平坦である。

埋土 単層である。埋土は礫を含むシルトで、流水の痕跡は確認できない。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器2点、山茶碗類1点が出土した。遺物はいずれも小片で、散在して出土した。

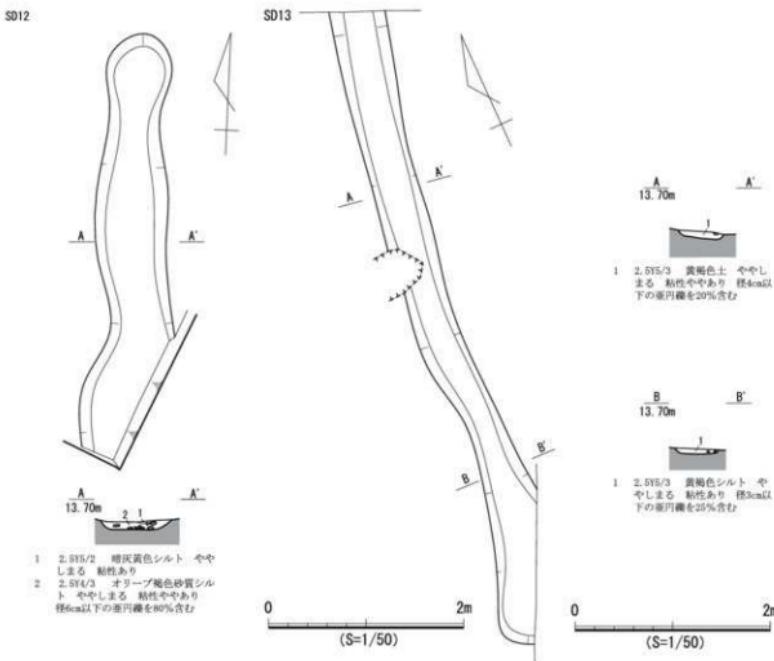


図38 SD12・13遺構図

遺物 土師器は2点とも皿、山茶碗は尾張型で、いずれも時期は不明である。

時期 出土遺物から時期を判断できないが、本遺構より新しいSK77から古瀬戸中期の瓶又は壺が出土しており、14世紀前半よりも古いと考えられる。

SD14（図39）

検出状況 BB5～BB6グリッド、I a層基底面で検出した。他遺構との重複関係は、SK83、SK85より新しく、SK82より古い。遺構の輪郭は不明瞭だった。

規模・形状 L字状に緩やかに屈曲し、両端は発掘区外へ展開する。幅0.51m、深さ0.13mで、断面形状は壁面の傾斜が急な逆台形、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平堆積で、上層にブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器20点、山茶碗類8点、古瀬戸1点、産地不明陶器1点、土製品1点が埋土中から散在して出土した。

出土遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。山茶碗類は、大畠大洞4号窯式の小皿（53）以外は、小片のため分類不能である。54は古瀬戸後III期又はIV期の壺で、断面に漆による補修の痕跡が残る。55は土鍊である。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前半頃と考えられる。

SD15（図39～42）

検出状況 BB5～BI6グリッド、I a層基底面で検出した。遺構埋土と基盤層のIII a層は明確に異なり、平面形状は明瞭である。他遺構との重複関係は、SK82・SK207より新しい。

規模・形状 BH6グリッドからBD6グリッドにかけて南北方向に直線的に延び、BE6グリッドで西に向かって枝分かれする。発掘区西部の屋敷地の北辺と東辺を区画する溝である。また、BD6グリッドで東西両方向へ分岐し、西側部分がBC6グリッドで北に向かって屈曲する。北部や東部、西部は発掘区外に延び、東部は発掘区外でSD16と接続する可能性がある。南部は搅乱坑底面で検出したため、最下層のわずかな埋土のみ残存していた。発掘区南壁面で本遺構の埋土は確認できず、南端は発掘区内で収束していると考えられる。主軸方位は、南北方向の直線部分がN-1.5°-E、東西方向の直線部分がN-82°-Wで、A地点の溝とは大きく異なる。幅は最大4.88m、最小1.52m、深さ0.5mである。BD4～BE5グリッドと、本遺構とSD21との間に遺構密度の低い空閑地が存在するが、道路状遺構や土塁などの区画施設は確認できなかった。H-H'断面周辺では、他の箇所に比べて底面形状の凹凸が著しい。

埋土 3～13層に分層した。基本的には水平堆積で、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。A-A'断面付近では東から、C-C'断面付近では北から、F-F'断面では西から、H-H'断面では南から、それぞれ壁面崩落土を確認した。

遺物出土状況 土師器391点、須恵器4点、灰釉陶器3点、山茶碗類125点、古瀬戸1点、大窯3点、常滑産陶器1点、土製品1点、石器4点、骨片3点が散在して出土した。骨片はいずれもH-H'断面の東側の土坑状の縞みから出土した。

遺物 土師器は皿が主体で、他に羽釜、内耳鍋が出土した。分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のB1類（56・57）、B2-a類（58）、B2-b類（59～61）、C1類（62）、C2類（63～67）、C類（68～70）があり、71・72は分類が不明である。73～76は羽釜である。須恵器は全て甕の

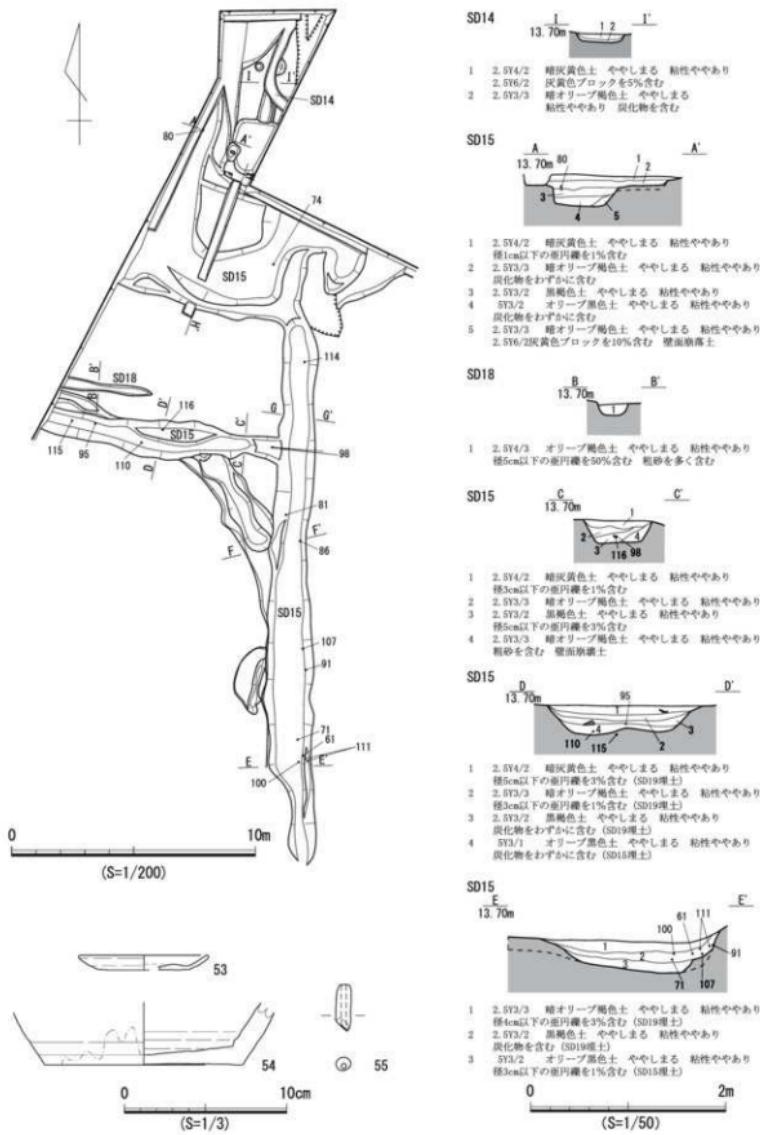


図39 SD14・15・18遺構図、SD14出土遺物実測図

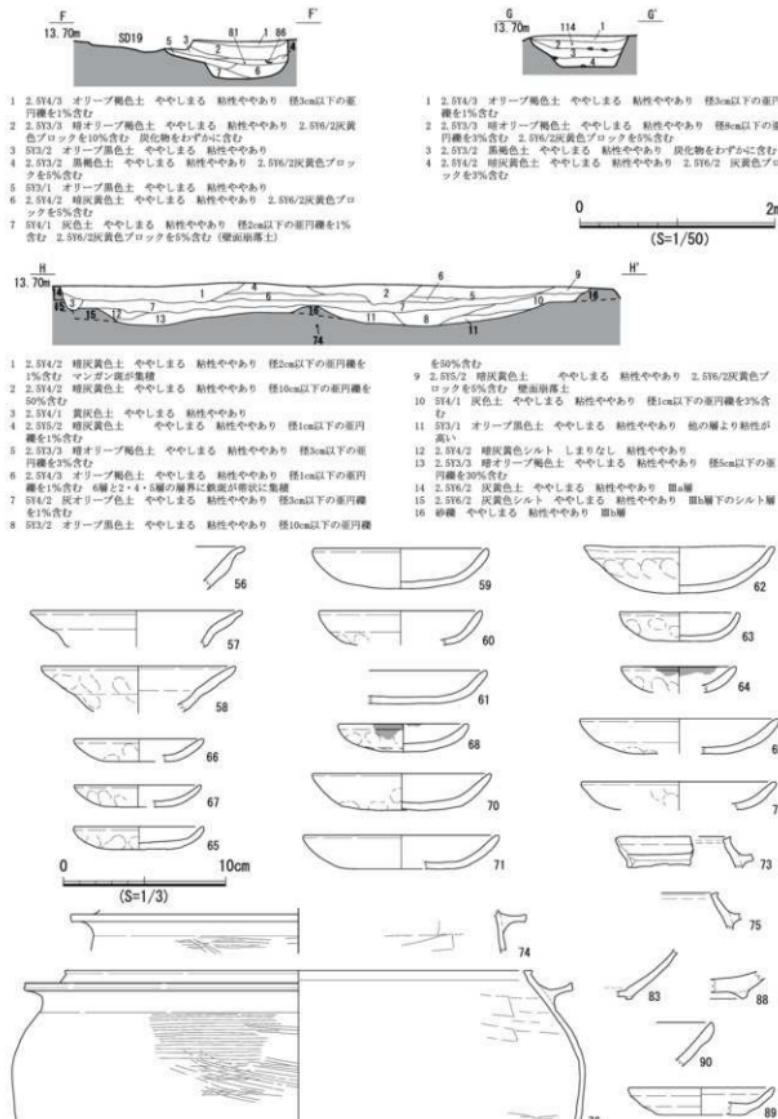


図40 SD15遺構図、SD15出土遺物実測図（1）

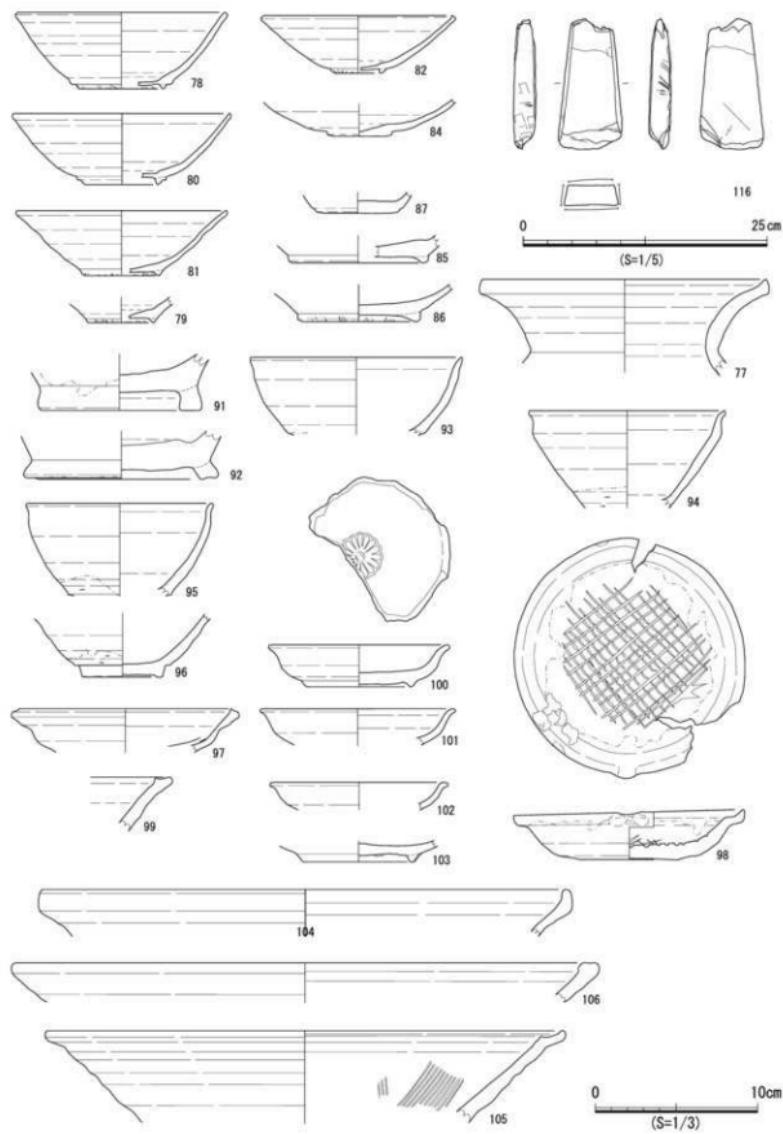


図41 SD15出土遺物実測図（2）

小片（77）で、いずれも表面が摩滅している。山茶碗類の主体は東濃型で、78～81は大畠大洞4号窯式新段階、82・83は大洞東1号窯式、84は脇之島3号窯式で、尾張型では、85～88は第5型式、89は第6型式、90は第7又は8型式である。瀬戸美濃産陶器は古瀬戸後II期から大窯第2段階のものまでが出土し、古瀬戸後IV期が主体である。91・92は四耳壺で、91は古瀬戸後IV期、92は後IV期古段階である。93～96は天目茶碗で、93は古瀬戸後II期、94・95は後IV期新段階、96は大窯第1段階である。97・98は鉢皿で、97は古瀬戸後I期、98は後IV期新段階である。99は古瀬戸後IV期古段階の御目付皿、100と101は大窯第1段階の端反皿、102は大窯第2段階の端反皿、103は大窯第1又は2段階の端反皿又は丸皿である。104～112は擂鉢で、104～106は古瀬戸後IV期新段階、107は後IV期古段階、108～110は大窯第1段階、111・112は大窯第2段階である。113は古瀬戸後IV期古段階の内耳鍋である。114は常滑産の広口壺で、第2段階第5型式である。115は白磁E群の端反皿である。116・117は、凝灰岩製の砥石である。

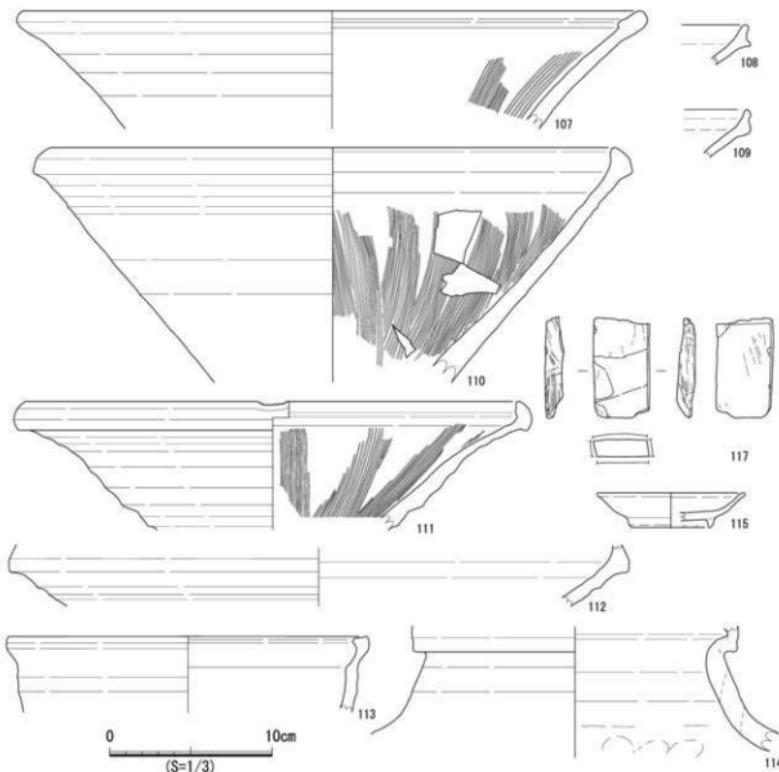


図42 SD15出土遺物実測図（3）

時期 本遺構より古いSK207からは大窯第1段階の擂鉢とC1類の土師器皿が出土しており、出土遺物の最新型式と、本遺構より古いSK207から大窯第1段階の擂鉢が出土していることから、16世紀中葉以降と考えられる。

SD16（図43・44）

検出状況 BC8～BD12グリッド、I a層基底面で検出した。遺構埋土は礫が多く含まれるが、輪郭が漸移的で平面形は不明瞭だった。他遺構との重複関係は、SE2・SK310より古く、SD23・SK307・SK308・SK309より新しい。屋敷地を区画する他の溝と主軸方位が揃うため、同様の性格と考えられる。本遺構の北側と、本遺構の南側に並行するSD21に挟まれた区域は遺構密度の低い空閑地だが、道路状遺構や土壙などの区画施設は確認できなかった。

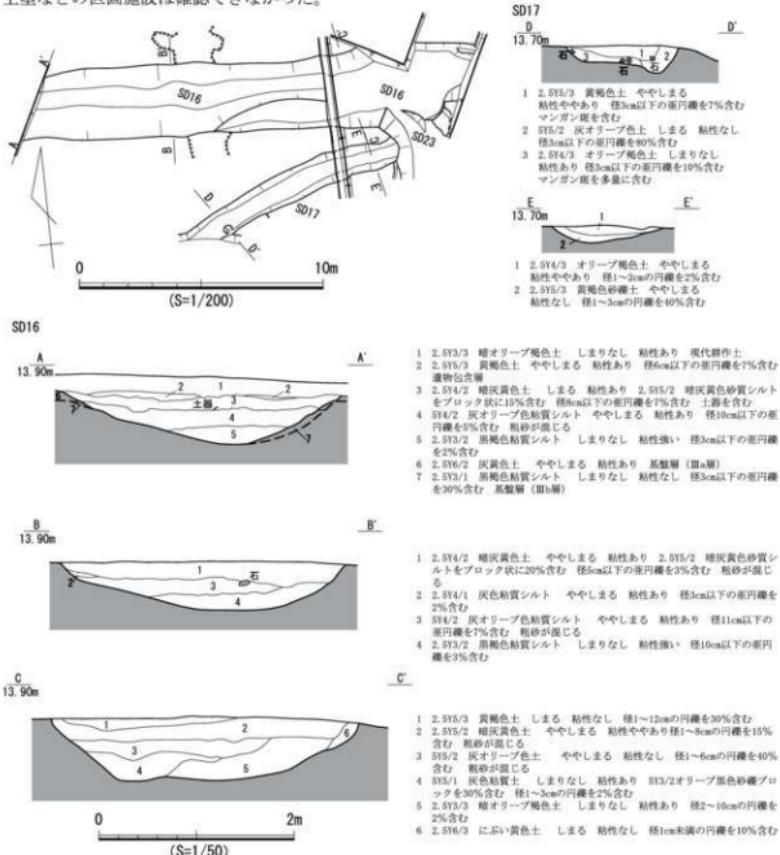


図43 SD16・17遺構図

規模・形状 東西方向に延びる溝で、東部及び西部は発掘区外に延びる。前述のように発掘区外でSD15と連接する可能性がある。幅2.9m、深さ0.7mである。断面形状は半円形だが、南北で壁面の傾斜が異なり、北側壁面の傾斜が急である。主軸方位はE - 2° - Nで、SD21の東西方向の直線部分と平行する。

埋土 ほぼ水平堆積で、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器53点、須恵器6点、灰釉陶器15点、山茶碗類26点、瀬戸美濃産陶器59点、常滑産陶器14点、中国産陶磁器2点が埋土中から出土した。

遺物 土師器は大半が皿の小片で、分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のM3類(118)、C1類、C2類(119)がある。須恵器は甕と坏身、灰釉陶器は碗の小片があるが、120は明和27号窯式である。山茶碗類は東濃型が主体で、大畑大洞4号窯式から脇之島3号窯式が存在する。尾張型は第5型式(121)のみが出土した。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸中期から大窯第3又は4段階のものが出土し、古瀬戸後IV期が主体である。122は古瀬戸前I期の水注、123は後III又はIV期の瓶子皿類、124は後IV期古段階の縁軸小皿、125は後IV期の卸皿である。126～132は擂鉢で、126～129は古瀬戸後IV期古段階、130は後IV段階、131は大窯第1段階、132は大窯3又は4段階である。常滑産陶器は、分類不能の甕と鉢が出土した。133は白磁D群の皿である。

時期 出土遺物の最新型式から、16世紀後半以降のものと思われる。

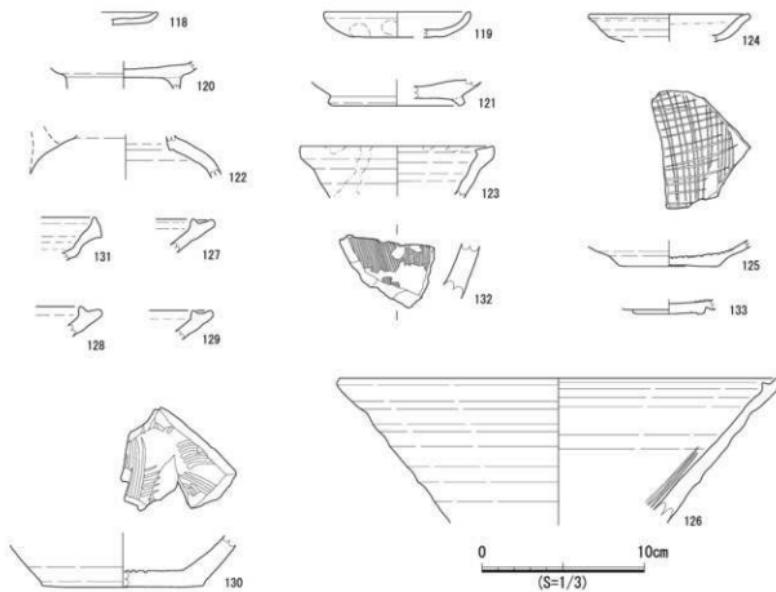


図44 SD16出土遺物実測図

SD17 (図43)

検出状況 BE9～BD11グリッド、I a層基底面で検出した。遺構埋土が基盤層のIIIa層と類似し、平面形は不明瞭だった。他遺構との重複関係は、SD16、SD23より古い。

規模・形状 主軸方位はN-25°-Wで、B地点の区画溝と異なる。幅1.32m、深さ0.35mで、断面形は浅い皿状である。遺構両端部の底面標高に差はない、導水ではなく区画を目的とした溝と考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 重複する遺構の出土遺物から、16世紀中葉以前と考えられる。

SD18 (図39)

検出状況 BE4グリッド、I a層基底面で検出した。遺構埋土と基盤層が異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 東西方向の溝で、幅0.49m、深さ0.13m、主軸方位はN-6°-Eである。断面形状は逆台形、底面は平坦で傾斜は確認できない。

埋土 埋土は単層で多量の礫を含む。

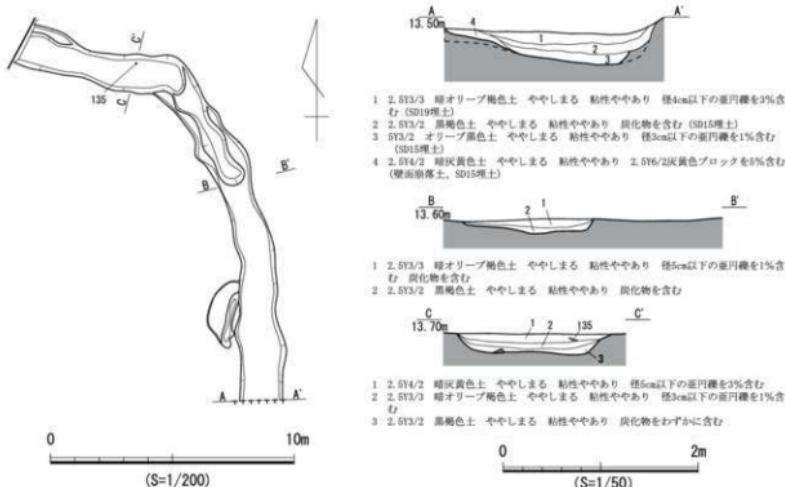
遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 周辺の区画溝と主軸方位が類似するため、16世紀後半頃のものと思われる。

SD19 (図45～48)

検出状況 BE4～BH6グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。遺構埋土と基盤層であるIIIa層が明確に異なり、平面形状は明瞭だった。他遺構との重複関係は、SD15・SK207より新しい。

規模・形状 北へ向かって直線的に延び、西へ緩やかに湾曲する。西部は発掘区外となり、南部は搅



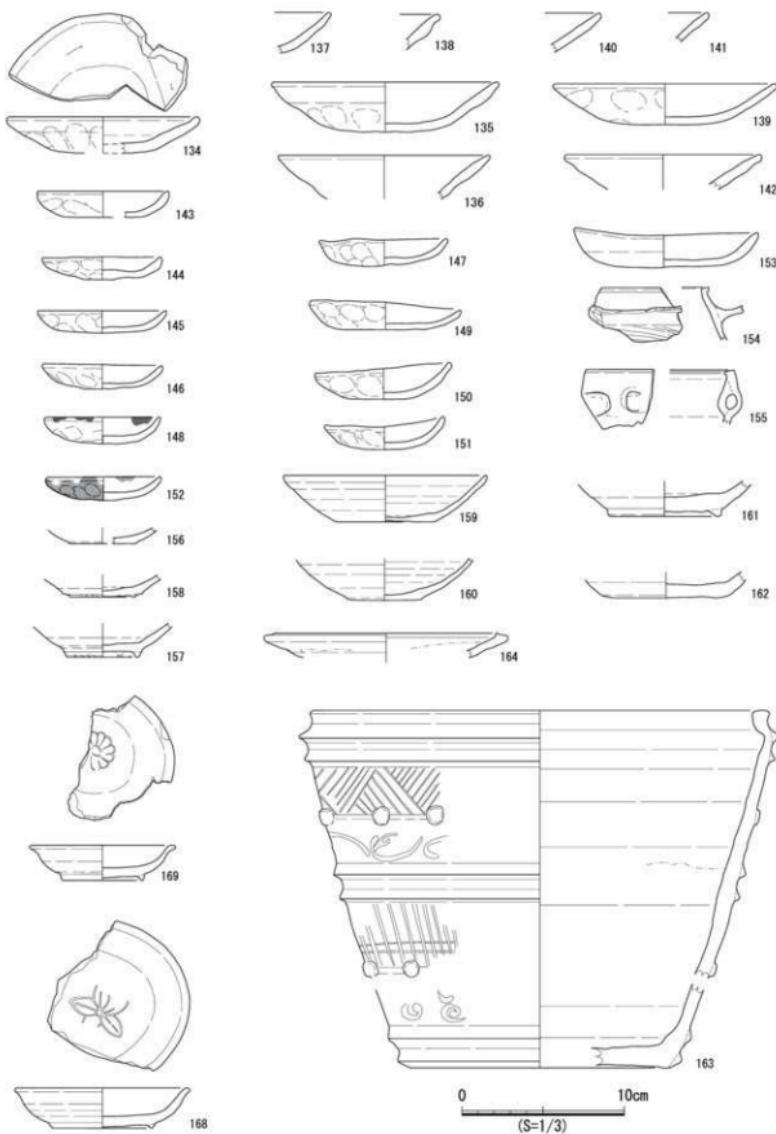


図46 SD19出土遺物実測図（1）

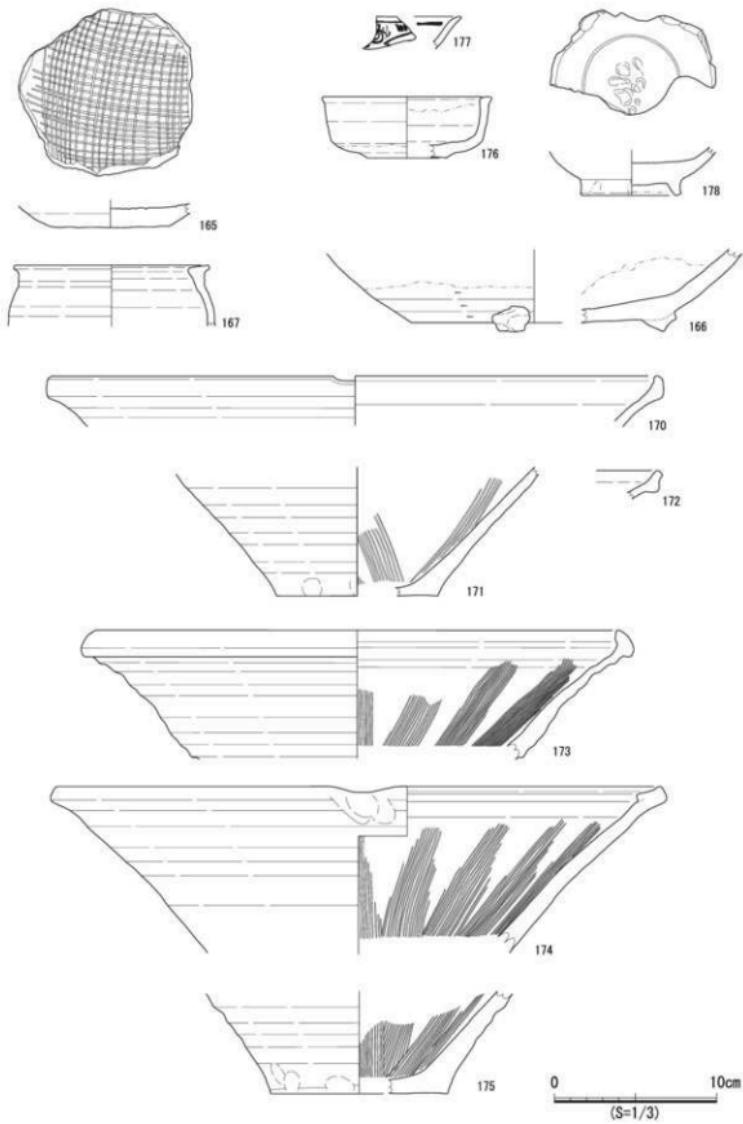


図47 SD19出土遺物実測図（2）

乱坑によって消滅している。幅1.85m、深さ0.26mで、断面形は浅い皿状又は逆台形状である。底面標高は、北西から南に向かって緩やかに低くなる。直線部分の主軸方位は、南北方向がN-1°-E、東西方向がN-77°-Wである。SD15埋没後に掘削されており、南北・東西方向の直線部分がSD15と重複する。

埋土 1~3層に分層した。埋土は礫を含む粘質の土で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器564点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗類62点、瀬戸美濃産陶器95点、常滑産陶器15点、近世陶器2点、中国産陶器3点、石器2点、錢貨2点、木製品2点が埋土中から散在して出土した。残存状態の良好な土師器皿は、湾曲部分の外縁部付近からまとめて出土した。

遺物 土師器のうち553点が皿で、他に羽釜、内耳鍋が出土した。分類可能なものは、美濃中世後期土師器皿のB1類(134~138)、B2-a類(139~142)、C1類(143~151)、C2類(152)、C類(153)がある。154は羽釜、155は内耳鍋である。須恵器は甕と壺蓋、灰釉陶器は碗の破片が出土した。山茶碗類は東濃型が主体で、窯洞1号窯式又は白土原1号窯式から生田3号窯式までが存在する。156は脇之島3号窯式の小皿、157は大畑大洞4号窯式古段階、158は大畑大洞4号窯式新段階、159・160は生田2号窯式の山茶碗である。尾張型で分類可能なものは第5型式の山茶碗(161・162)がある。瀬戸美濃産陶器は古瀬戸後IV期古段階から大窯第4段階のものまでが主体である。163は古瀬戸後IV期新段階の桶で、胴部外面の上部に斜格子文と円形の貼付文、中央から下部に劃花文と唐草文が施される。164・165は鉢皿で、164は古瀬戸後IV期古段階、165は古瀬戸中期又は後期である。166は古瀬戸後III期又はIV期の盤類、167は大窯の広口有耳壺、168・169は大窯第1段階の端反皿で、底部内面に

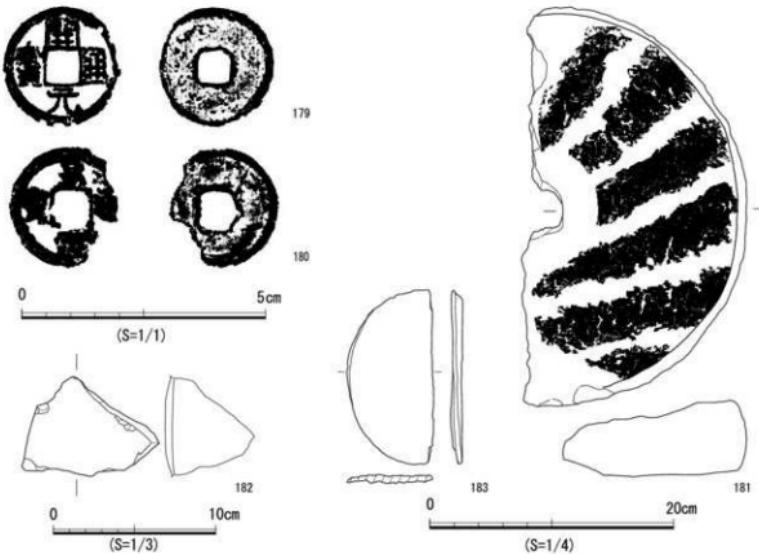


図48 SD19出土遺物実測図（3）

印花文が施される。170～175は擂鉢で、170は古瀬戸後IV期新段階、171は後IV期、172は大窯第1段階、173は大窯第2段階、174は大窯第4段階後半、175は大窯である。176は登窯第9小窯の筒型香炉で、足がない浅型のタイプである。常滑産陶器は全て壺の破片で、分類不能である。中国産陶磁器は、177は染付皿B群、178は龍泉窯系の青磁碗D2類で、内面底部に草花文が彫られる。179は開元通寶、180は腐食が激しく錢種不明で、2枚が溶着した状態で出土した。石器は181が花崗岩製の石臼で、182は砂岩製の砥石である。183はサワラの柱目材で、曲物の底板と考えられる。

時期 出土遺物の主体は16世紀だが、109は19世紀前半と時期差が大きい。遺構上層から出土した109は、攪乱坑埋土から混入した可能性がある。このため、出土遺物の最新型式とSD15との重複関係から、16世紀後半以降と考えられる。

SD20（図49）

検出状況 BF3グリッド、Ia層基底面で検出した。遺構埋土と基盤層が類似しており、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK111・SA3より新しく、SP4・SK112・SK115より古い。

規模・形状 東西方向の溝で、東端は北へ屈曲し、西端は発掘区外となる。幅0.31m、深さ0.05m、主軸方位はN-86°-Wである。断面形状は逆台形、底面は平坦で東西端部での傾斜は確認できない。

埋土 単層で堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器7点、山茶碗類1点、瀬戸美濃産陶器2点、錢貨3点が埋土中から散在して出土した。錢貨は3枚が溶着した状態で出土したが、錢を束ねる紐は残存していないかった。

遺物 土師器皿と山茶碗は全て小片で、分類不能である。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸後III期又はIV期の小壺又は小瓶と、古瀬戸後IV期新段階又は大窯第1段階の擂鉢である。錢貨は184が咸平元寶、185

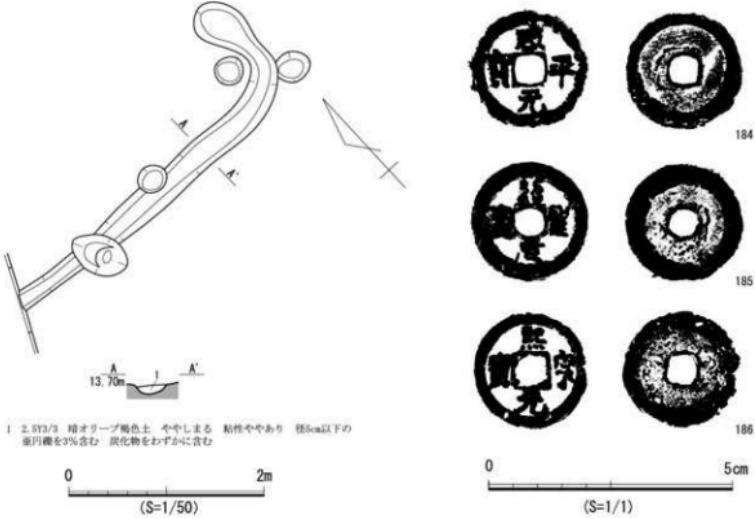


図49 SD20遺構図、出土遺物実測図

が紹聖元寶、186が熙寧元寶である。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構より古いSK111から脇之島3号窯式の山茶碗が出土していることから、16世紀末以降に掘られたと考えられる。

SD21（図50～52）

検出状況 BG 6～BF11グリッド、I a層基底面で検出した。遺構埋土と基盤層が類似しており、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD17・SK315・SK316・SK318・SK319より新しく、SD23より古い。南北方向の直線部分はSD15と、東西方向の直線部分はSD16とそれぞれ並行する。

規模・形状 南端部は大型の土坑状で、南北方向に直線状に延び、BE 7グリッドで東へ向かってL字状に屈曲し、東部は発掘区外となる。南部の土坑状部分は東側が攪乱坑によって消滅しており、長軸2.03m、深さ0.69mである。壁面に平坦部が巡り、2段に掘り込まれる。底面は平坦である。溝部分は幅4.1m、深さ0.73mで、主軸方位は南北方向の直線部分がN-8°-E、東西方向の直線部分がE-2°-Nである。SD15との間に遺構密度の低い空閑地が存在するが、道路状遺構や盛土状の区画施設の痕跡は存在しない。東西方向の直線部分は南北で壁面の傾斜が異なり、南側壁面の傾斜が緩やかである。発掘区東部の屋敷地の北辺と西辺を区画する溝である。

埋土 3～8層に分層した。礫とブロック土を含むことから人為堆積と思われる。溝に沿った土壌からの崩落土など、区画施設の存在を示す堆積は確認できなかった。土坑状部分の5層は植物遺体を多く含む湿地性堆積である。

遺物出土状況 土師器487点、須恵器9点、灰釉陶器5点、山茶碗類231点、瀬戸美濃産陶器84点、常滑産陶器48点、中国産陶磁器3点、石器9点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器のうち473点が皿で、他に羽釜と鍋、甕がある。分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のB 1類（187～189）、C 1類（190・191）、C 2類（192～201）、M 4類（202）、M類（203）がある。204は羽釜である。須恵器は、鉢（205）・杯蓋・杯身・瓶類・甕・高杯の小片がある。灰釉陶器の206は、黒帯90号窯式の角型高台碗である。山茶碗類は、尾張型では第3型式（207）、第5型式（208・209）、第8型式又は第9型式（210・211）、第9型式（212）の碗が出土した。東濃型では大畠大洞4号窯式古段階（213）、大洞東1号窯式（214）、大洞東1号又は脇之島3号窯式（215）の山茶碗と、大畠大洞4号窯式新段階（216）の小皿が出土した。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸中II期から大窯第3又は4段階にかけてのものがある。217・218は折縁小皿で、217は古瀬戸中II期、218は後II期である。219・220は折縁深皿で、219は古瀬戸中III期、220は中IV期である。221・222は縁釉小皿で、221は古瀬戸後I期又はII期、222は後IV期古段階である。223は卸皿、224は卸目付大皿で、いずれも古瀬戸後IV期古段階である。225は古瀬戸後I期の平碗、226は後I期又はII期の盤類、227は中期の瓶子又は梅瓶、228は後III期又はIV期の燭台、229は後III期又はIV期古段階の筒形容器、230は後IV期新段階の天目茶碗、231は大窯2段階の丸皿類、232は後期の器種不明陶器である。233～237は擂鉢で、233は古瀬戸後IV期古段階、234は後IV期新段階、235は後IV期又は大窯第1段階、236は大窯第3又は4段階、237は大窯である。常滑産陶器は全て甕の破片で、238は第3段階第10型式である。中国産陶磁器の239は、龍泉窯系の青磁碗D II類で、内面底部に草花文が彫られる。石器は砥石が4点（240・241）と、花崗岩製の未成品（242）が出土した。木製品では、243はコウヤマキ製の箸で、1本のみ出土した。他には漆塗膜2点と、板状の木片5点が出土した。

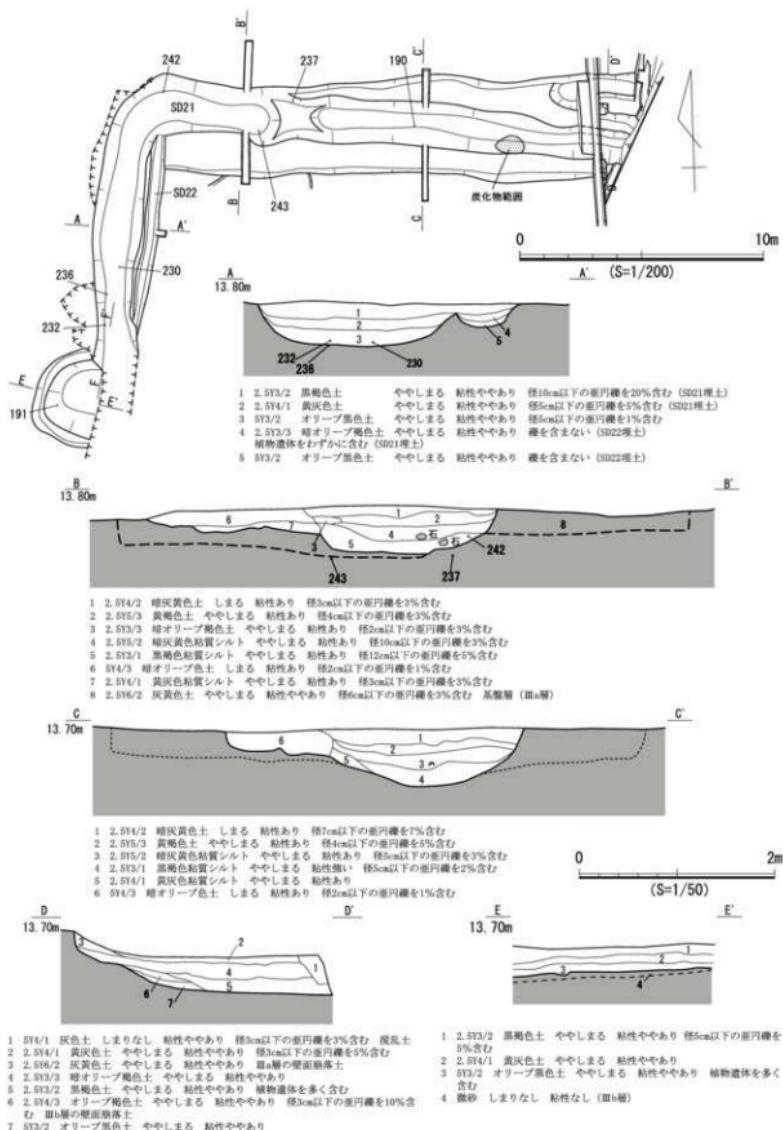


図50 SD21・22遺構図

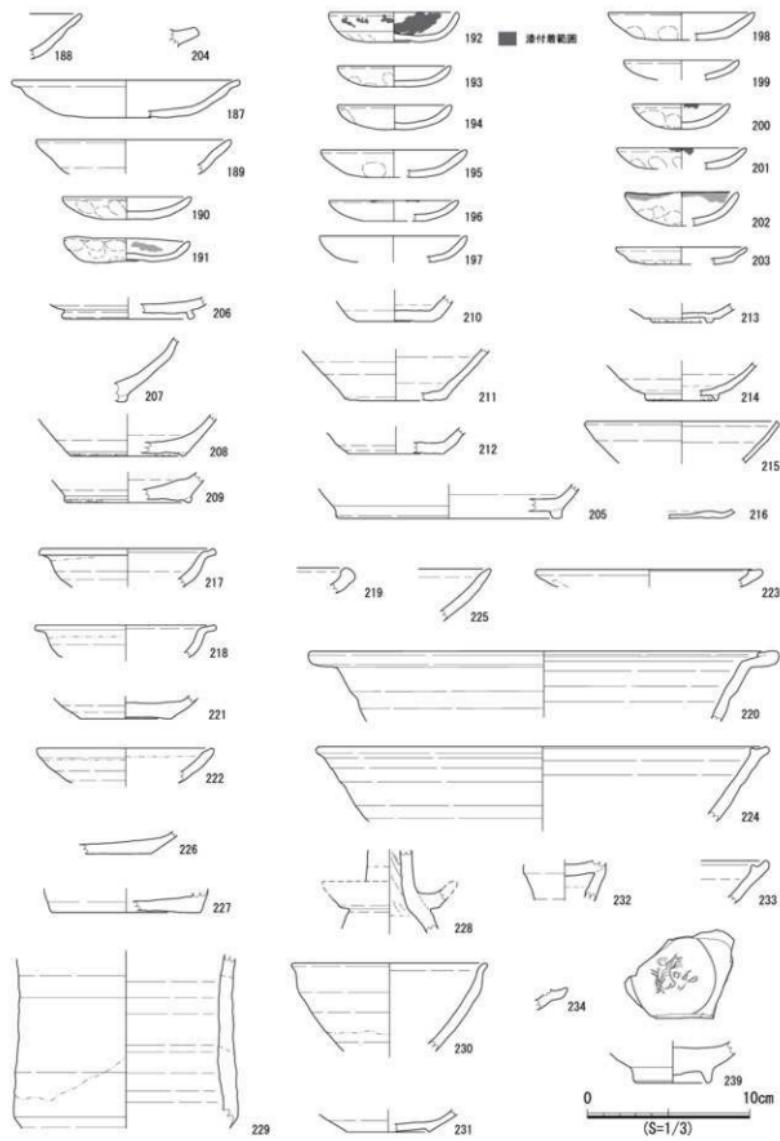


図51 SD21出土遺物実測図（1）

時期 本遺構より古いSK318から大洞東1号窯式の山茶碗が出土していることから、15世紀中葉以降のものと思われる。

SD22(図50)

検出状況 BE7～BG7グリッド、I a層基底面で検出した。遺構埋土と基盤層のIII a層が明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD20より古い。

規模・形状 南北方向の溝で、SD21の直線部分と並行する。長さ7.8m、幅0.58m、深さ0.28m、主軸方位はN-9°-Eである。断面形状は浅い皿状で、底部はIII b層が露出する。底面は平坦で傾斜は確認できない。

埋土 2層に分層した。埋土は礫を含まない。検出時には、SD21に関連する塙などの掘方を想定したが、そうした痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器3点、山茶碗類1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器皿はいずれも分類不能の小片で、山茶碗は尾張型の第7型式である。

時期 SD21と方向性が同じであることから、同時存在していたと考えられ、15世紀中葉以降のものと

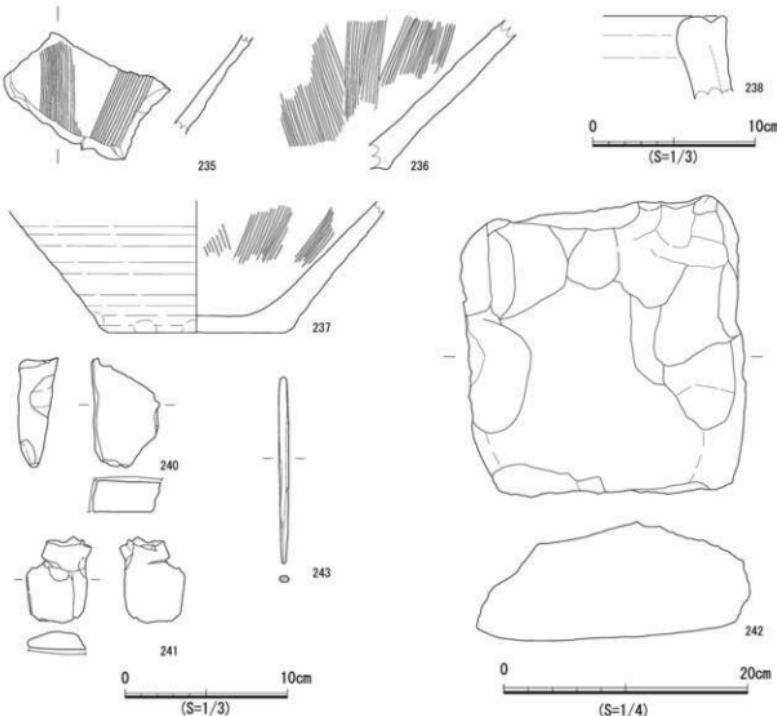


図52 SD21出土遺物実測図(2)

思われる。

SD23（図53）

検出状況 BD11～BE11グリッド、I a層基底面で検出した。検出時、SD16の埋土と区別できなかったため、SD16として掘削していたが、埋土上部を除去した段階で、別の遺構であると判断した。他遺構との重複関係は、SE12・SD16・SD17・SD21より新しく、SK306・SK307より古い。

規模・形状 南へ向かって緩やかに湾曲する溝で、南端は発掘区外となる。幅1.75m、深さ0.61m、断面形状は逆台形である。

埋土 4層に分層した。ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土器類5点、灰釉陶器2点、須恵器1点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器1点が、埋土中から散在して出土した。

遺物 土器類は全て皿の小片で、分類不能である。灰釉陶器は、12世紀の短頸壺(244)と時期不明の碗が出土した。瀬戸美濃産陶器は分類不能の描鉢で、常滑産陶器は第3段階第10型式の壺(245)である。

時期 SD16・SD21との重複関係から、16世紀末以降と考えられる。

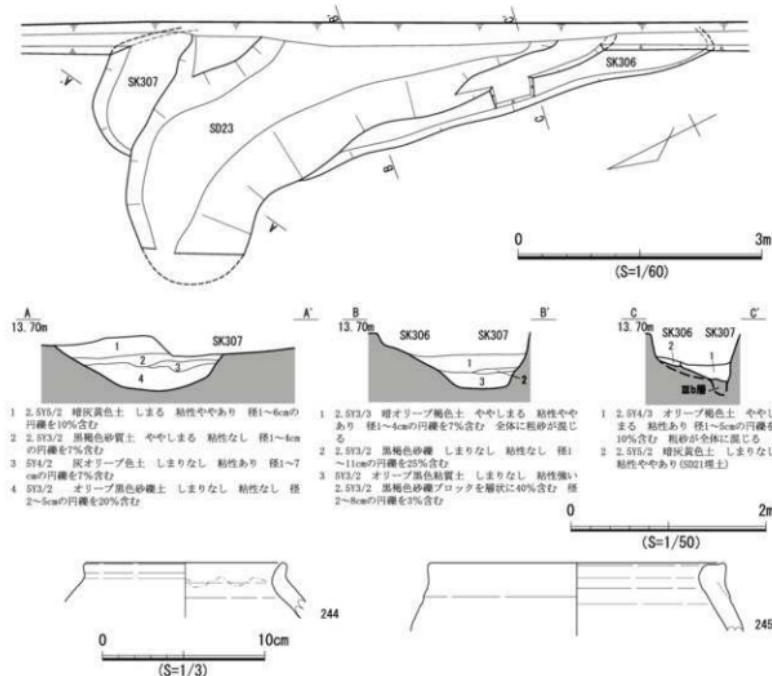


図53 SD23遺構図、出土遺物実測図

SD28（図54）

検出状況 BJ 1 グリッド、SD30 の底面で検出した。遺構埋土と基盤層のⅢ a 層は明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD29より新しく、SK278・SK276より古い。

規模・形状 溝の東肩のみを検出し、それ以外は発掘区外となる。深さ 0.2m、主軸方位は N-7° - E で、屋敷地の西辺を規定する南北方向の区画溝と考えられる。底面はおよそ平坦で、壁面の傾斜は緩やかである。

埋土 2 層に分層した。2 層ともブロック土を含むことから人為堆積と思われる。

遺物出土状況 土師器 12 点、山茶碗類 14 点、瀬戸美濃産陶器 5 点、常滑産陶器 2 点、骨片 1 点が埋土中から散在して出土した。骨片は南端部の底面で出土した。

遺物 土師器は皿と内耳鍋がある。分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿の C 2 類がある。大洞東 1 号窯式（246）と第 5 型式の山茶碗がある。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸の香炉、天目茶碗、大窯第 2 段階の擂鉢（247）が出土した。常滑産陶器は、甕と鉢の胴部小片である。

時期 出土遺物の最新型式から、16世紀後半以降と考えられる。

SD29（図55）

検出状況 BI - BJ 2 グリッド、SD30 の底面で検出した。遺構埋土と基盤層のⅢ a 層は明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD27・SD28・SK278より古い。完掘後の底面で SK273 を検出した。

規模・形状 南北方向の溝で、南部及び北部は発掘区外となる。また、遺構の大半が SD28 と重複しており、幅約 0.2m が残存するだけである。深さ 0.08m、主軸方位は N-20° - E である。

埋土 単層である。炭化物が混じり、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器 27 点、山茶碗類 2 点が埋土中から散在して出土した。

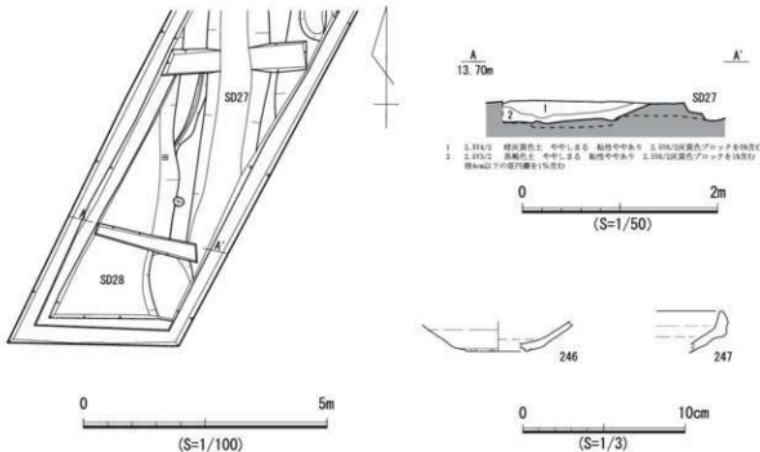


図54 SD28遺構図、出土遺物実測図

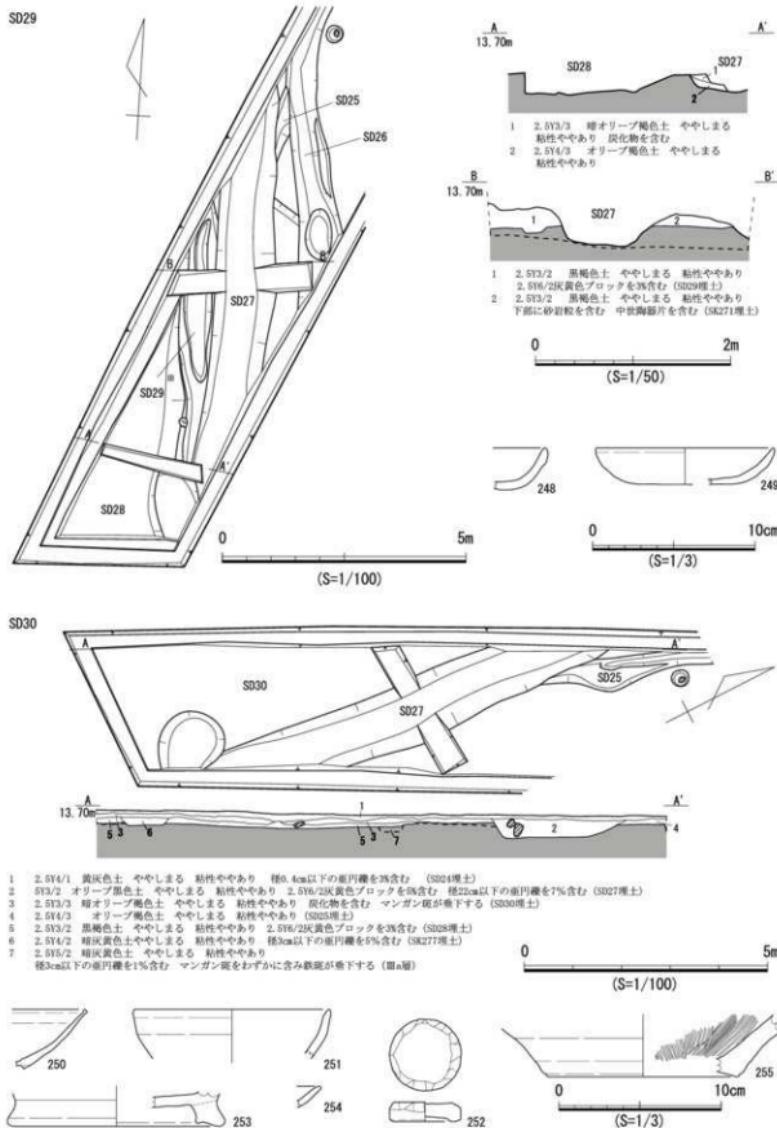


図55 SD29・30造構図、出土遺物実測図

遺物 土師器は皿と羽釜があり、分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のC 1類（248）、M 3類（249）がある。

時期 出土遺物から16世紀後半頃と考えられる。

SD30（図55）

検出状況 BI 2～BJ 2 グリッド、SD24の底面で検出した。他遺構との重複関係は、SD24・SD25・SD27・SK278より古く、底面で検出したSK276・SD28・SD29より新しい。

規模・形状 遺構の西部と南部、北部は発掘区外となり、東肩はSD27によって消滅している。深さは0.05mで、底面は平坦である。

埋土 単層でブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器13点、灰釉陶器1点、瀬戸美濃産陶器5点、常滑産陶器4点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、灰釉陶器は碗の小片である。山茶碗類の分類可能なものには、東濃型の大洞東1号窯式（250）がある。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸後II期の天目茶碗（251）、後III期の天目茶碗を転用した加工円盤（252）、後IV期の四耳壺（253）、大窯第2段階の丸皿（254）、大窯第3段階又は4段階の擂鉢（255）がある。

時期 出土遺物の最新型式から、16世紀後半以降と考えられる。

4 井戸

SE 1（図56・57・58・59）

検出状況 AQ 8 グリッド、SK76完掘後の底面で検出した。重複するSK39はSK76より古く、本遺構より新しい。また、検出面では重複を確認できなかったが、発掘区東壁面で本遺構より古いSK37との重複関係を確認した。埋土上面には径3～7cmの円碟が散在し、掘方の平面形は明瞭に確認できた。

規模・形状 遺構の東側は発掘区外となり、長軸長1.87m以上、短軸長1.21m以上、深さ1.22mである。井戸枠上の堆積土には径12～14cmの亜円碟が含まれ、検出面から約0.3m下で井戸枠を確認した。井桁などの地上施設は確認できず、井戸枠の上端部は欠損している。井戸枠は、長軸長0.64m、短軸長0.49mで、板材を縦方向に組み、四隅に立てた柱に取り付けた横桟で保持する構造で、B地点のSE 5と同じ構造である。北側と西側の側板は内側に向けて大きく傾き、損傷が激しい。

構造 角柱（264）は南東隅のみ確認した。角柱は長さ57cm、幅12.5cm、厚さ9cmのコウヤマキの柾目材で、丸木芯材を4分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が台形の角材を切り出している。木目に沿って割ったと考えられるが、明瞭なチョウナ痕などは確認できず、表面の成形については不明である。下端部はほぼ垂直に切断されている。横桟を固定するための枘穴が、隣り合う2つの面に1箇所ずつ開けられる。枘穴は方形で、2箇所とも未貫通である。北東隅柱の位置で、遺構底部から竹材の破片が立位で出土したが、残存状況が悪く、井戸枠の構造との関係は不明である。竹材の節が抜かれていたかは不明だが、井戸廃絶時に息抜きとして設置された可能性がある。横桟は3点出土した。東側（265）と南側（266）のものは井戸機能時の位置をほぼ保つが、角柱との結合部は外れていた。267は西側の側板の外周部から出土した。長さは48～57cm、幅は3～5cmのコウヤマキの棒材で、一つの面の長軸長方向にスリットが施され、両端部は角柱の枘穴の大きさに合わせて細く加工される。265と266はスリットが刻まれた面を上にして設置されていた。スリットの用途は不明だが、

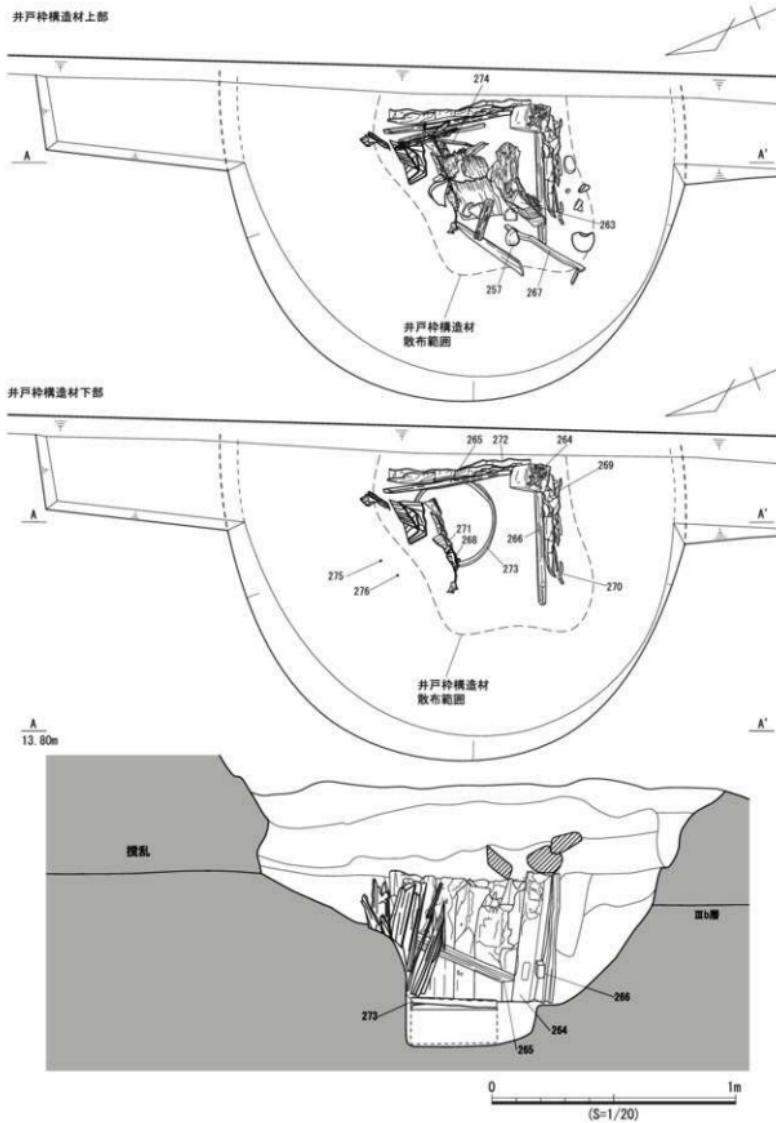


図56 SE 1遺構図（1）

3点とも同様の加工が見られるため、別の部材からの転用ではないと考えられる。側板は、268・269のような方形の扁平な板材が使われており、長さ28~52cm、幅5~15cm、厚さ0.5~1.6cmである。木取りは板目と柵目、両方が存在する。側板の中には、井戸の構造と無関係の加工が施されたものがあり、転用材と考えられる。270は下端部にU字状の切れ込みが見られ、271は直径0.5cmの穴が2箇所に貫通し、272は直径0.4cmの5箇所の穴のうち、2箇所は貫通し、3箇所は貫通せず列状に等間隔で並ぶ。265・267・266・269はコウヤマキ、268はサフランが使われている。側板は2~3枚が重ねて設置され、場所によって重なる枚数が異なる。残存状況が良好な東側では、井戸枠の最も内側に、幅が異なる5枚の側板が並ぶのを確認した。横桟と側板を固定するための加工は確認できなかった。また、側板同士を結合していた痕跡はなく、内側は横桟、外側は掘方埋土によって固定されていたようである。

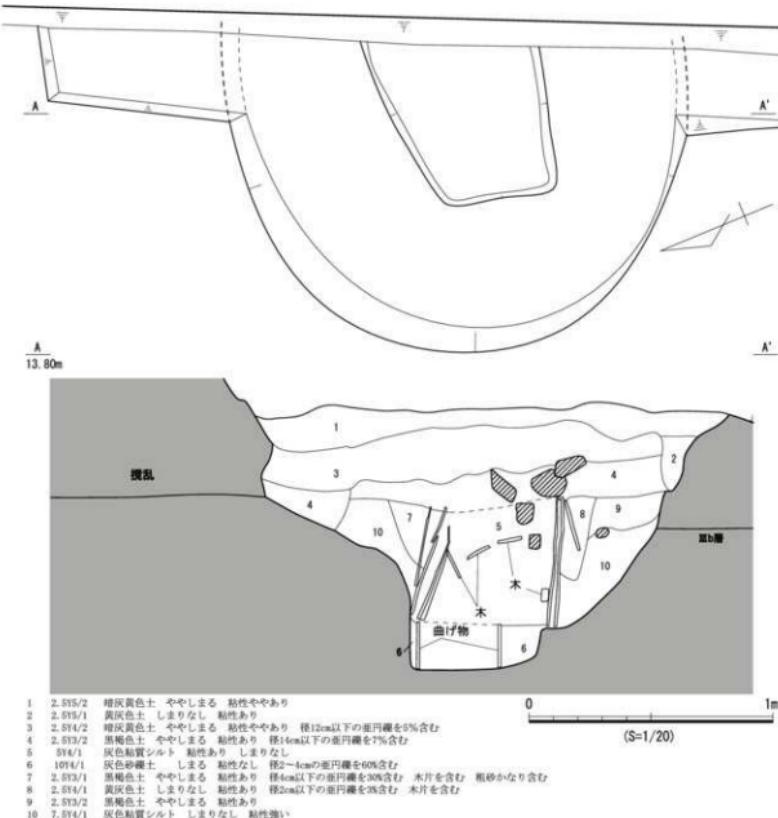


図57 SE 1 遺構図（2）

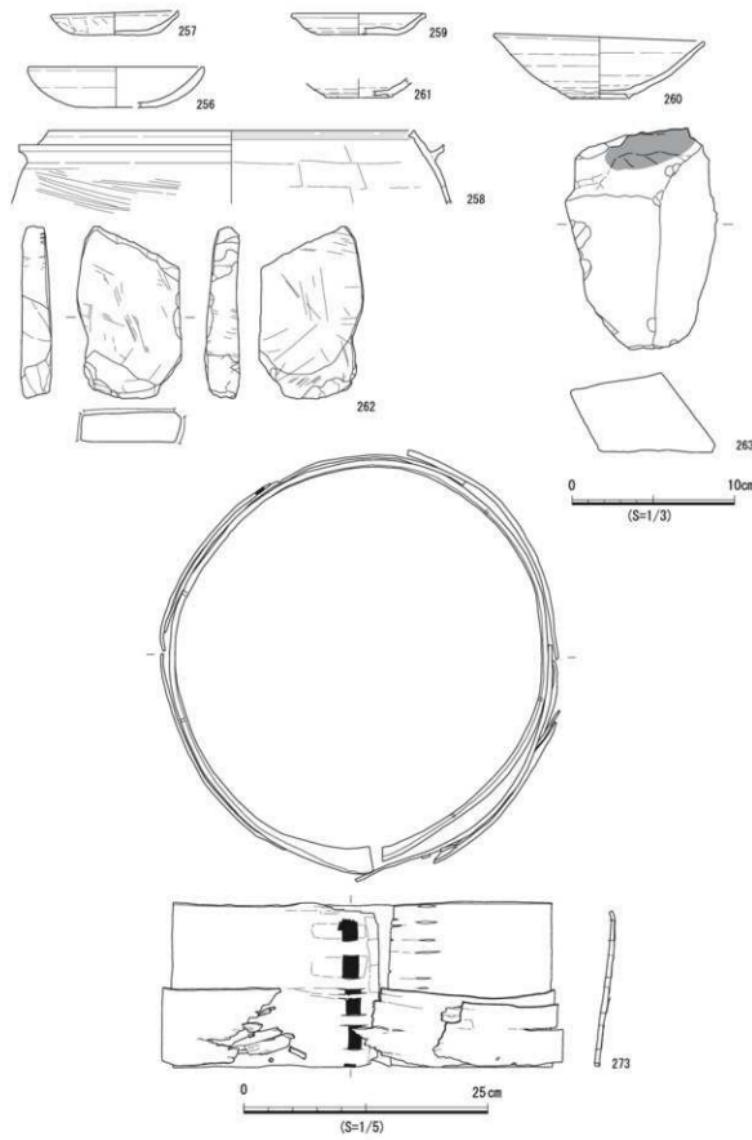


図58 SE 1 出土遺物実測図（1）

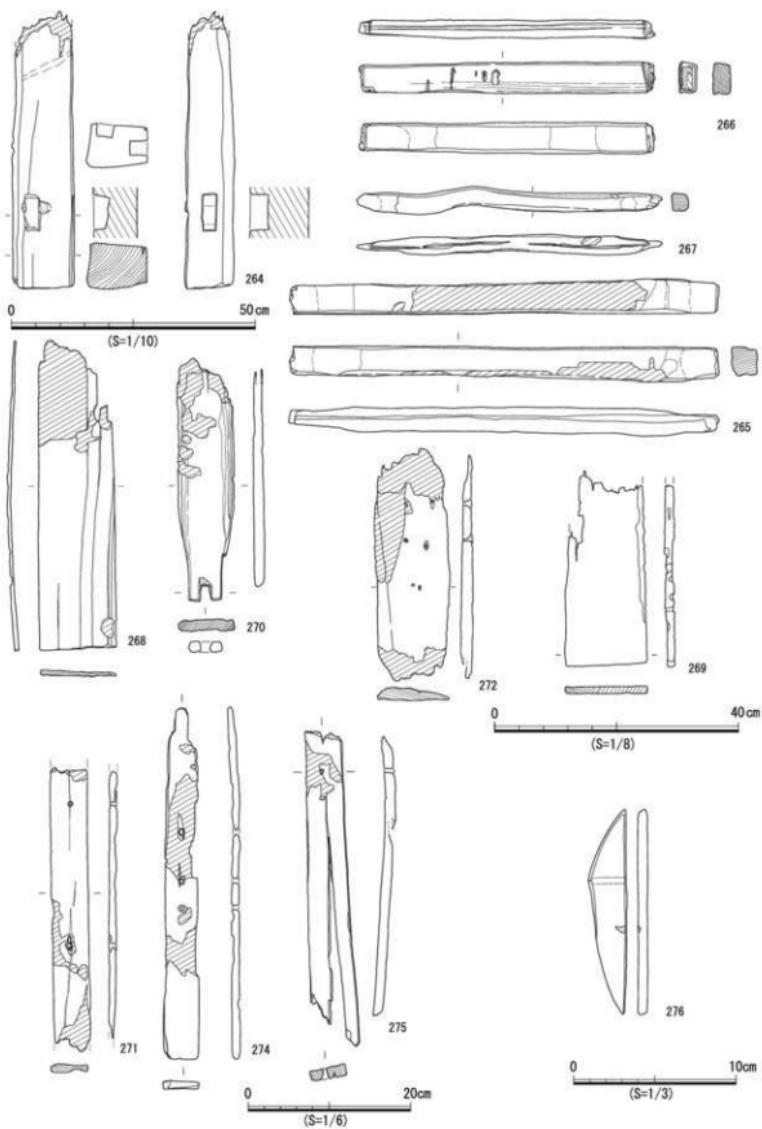


図59 SE 1 出土遺物実測図（2）

底部には集水施設として、底板が存在しない木製曲物（273）が、井戸枠中央から少し北に寄った位置に据えられていた。曲物の直径は36cmで、長さ125cm、幅15cm、厚さ0.6cmのヒノキの板目板材で、内面に罫引き線を引き、丸めて重なった箇所を長さ2cm、幅1.5cmの樹皮（サクラか）4点で綴っている。また、曲物の外周に、幅8cm、厚さ0.6cmの板目板材が巻かれる。内面に罫引き線は引かれていらない。丸めて重なった箇所を長さ2cm、幅1.5cmの樹皮（サクラか）2点で綴っている。外周の板材は、曲物を補強する目的で設置されたと考えられる。井戸の底面はIII b層の砂礫が露出し、浄水装置は確認できなかった。

埋土 10層に分層した。1～4層は土器の細片や大きめの礫が多く含まれ、井戸枠の構造材を含まないことから、井戸廃絶時に地上施設を撤去し、南東隅柱以外の柱を抜き取った後に埋め戻したと考えられる。5層は井戸枠内部を埋めた土で、集水施設内も同じ土で埋まっている。6層は集水施設の掘方埋土で、III b層と類似した砂礫が含まれ固く締まる。7～10層は掘方埋土で、裏込めのための練などは確認できなかった。

遺物出土状況 土師器55点、山茶碗類15点、常滑産陶器3点、灰釉陶器1点、須恵器2点、石器2点、木製品219点が出土した。井戸に關わる祭祀が行われたと考えられるような遺物の出土状況は、確認できなかった。土師器は小片が多く、散在して出土したが、うち51点が1～4層からの出土である。多量の板材の小片が井戸枠の内側と周辺から出土しており、その大半は井戸枠部材だと考えられる。井戸枠内底部からは砥石2点が出土した。

出土遺物 土師器は皿と羽釜が出土した。皿は大半が細片で、M3類（256）とC1類（257）がある。258は羽釜で、尾張平野の分類でいうA4類である。山茶碗類は小片が多く、259と260は大畑大洞4号窯式で、261は大洞東1号窯式である。常滑産陶器は時期不明の甕のみが出土した。木製品では、井戸枠内埋土から出土した274はサワラの板材で、直径0.4～0.5cmの穴が3箇所に貫通し、275はコウヤマキの板材で、直径4cmの穴が1箇所に貫通する。2点は井戸枠部材の可能性がある。井戸の構造部材以外に、曲物の底板と考えられるヒノキ材（276）が掘方埋土から出土した。石器では2点の砥石が出土しており、262は凝灰岩製、263は砂岩製で、いずれも被熱している。

時期 掘方埋土出土遺物の最新型式は大洞東1号窯式の山茶碗で、井戸枠内埋土出土遺物の最新型式は大畑大洞4号窯式の山茶碗である。また、井戸枠内からはC1類の土師器皿も出土していることから、15世紀前半に機能していたと考えられる。

SE 2（図60）

検出状況 BD11～BD12グリッド、SD16の底面で検出した。集水施設の平面形は明瞭であった。掘方埋土はIII b層に類似する。

規模・形状 掘方は長軸長1.31m、短軸長1.19、深さ0.39m、集水施設は長軸長0.41m、短軸長0.4m、深さ0.48mで、掘方、集水施設ともに平面形は円形である。遺構上部が残存しておらず、上部構造は不明である。地上施設と井戸枠は確認できなかったが、集水施設を確認したため、井戸と判断した。集水施設は掘方の北壁に寄せて掘られ、北東壁面に薄い板状の木片が張り付いていた。木片は損傷が激しいが、内面に罫引き線が確認できたため、出土状況と併せて曲物と判断した。

埋土 5層に分層した。1・2層は集水施設内を埋める土で、3～5層は掘方埋土である。3～5層はIII b層とよく似る砂礫だが、若干異なる。集水施設底部ではIII b層の砂礫が露出しており、浄水装

置は確認できなかった。

遺物出土状況 挖方底部から山茶碗(277)の破片が1点出土しただけで、井戸に関わる祭祀が行われたと考えられるような遺物の出土状況は、確認できなかった。

出土遺物 277は大畠大洞4号窯式新段階の山茶碗である。

時期 出土遺物が1点のみのため、遺物から所属時期を確定することは難しいが、本遺構より新しいSD16の出土遺物の主体が、古瀬戸後IV期と脇之島3号窯式の山茶碗類であることから、本遺構の所属時期は14世紀後半頃と考えられる。

SE 3 (図61)

検出状況 BH5グリッド、I層基底面、大型搅乱坑完掘後の底面で検出した。埋土上面南側には径5~8cmの円礫が散在し、掘方の平面形は明瞭だった。

規模・形状 遺構上部は大型搅乱坑によって削平され、地上施設は確認できなかった。長軸長0.99m、短軸長0.86m、深さ0.4mで、平面形は橢円形である。遺構底面中央が円形に窪み、周縁にテラス状の段がある。壁面の傾斜は急である。検出面から10~20cm掘削すると、長軸長6~23cmの亜円礫が散在して出土した。これらの礫を外すと、中央の窪み部分の西壁沿いに細かい板状の木片が張り付いて出土した。竹の節が認められたものもある。さらに掘り下げる、東壁から西壁にかけて、細かい板状の木片が壁面に沿って出土した。また、木片周辺の礫の多くは、木片直上の壁面に沿って出土している。木片同士が編んであるような状況は確認できず、鋤引き線などの加工痕は見られないが、木片と礫の出土状況から、3層部分は集水施設と考えられる。また、遺構底面での湧水が著しいことも併せ

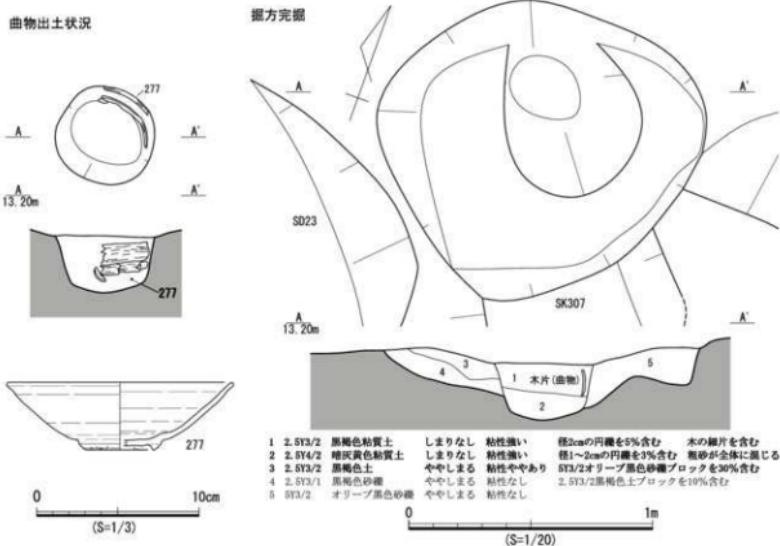


図60 SE 2 遺構図、出土遺物実測図

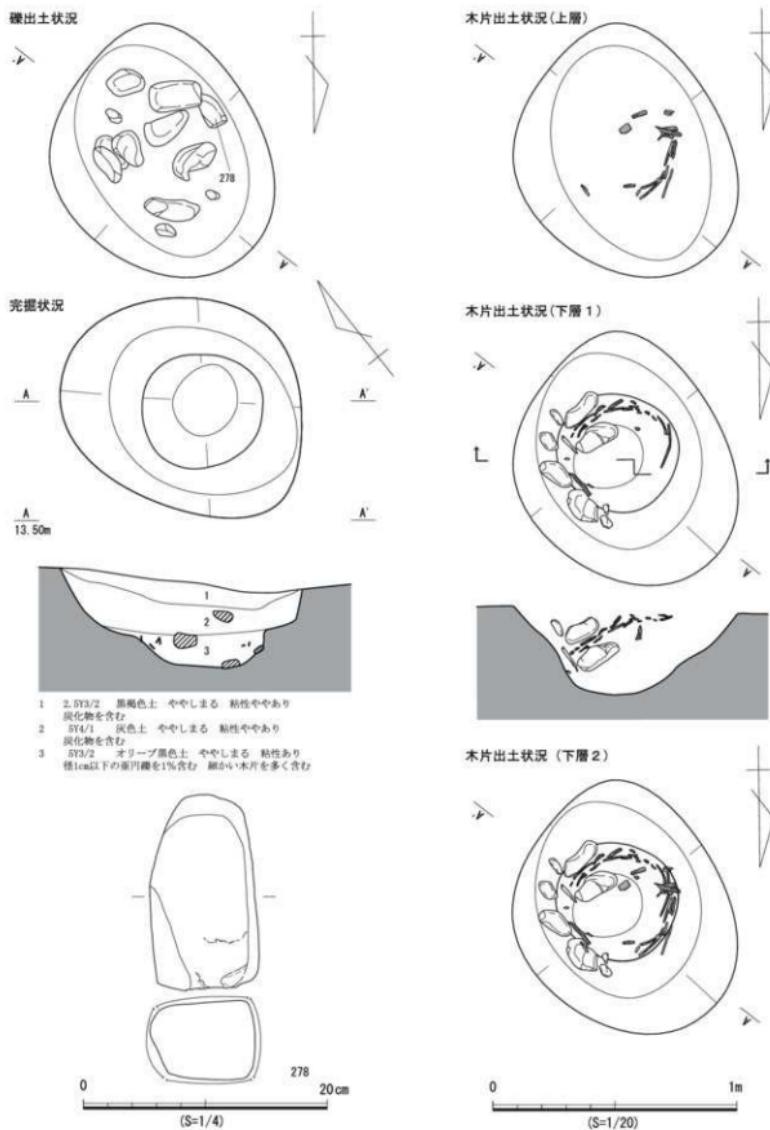


図61 SE 3 遺構図、出土遺物実測図

て、本遺構を井戸として扱った。また、本遺構と同様に2段の掘り込みが見られるSE4は、集水施設より上部の遺構壁面を礫で覆っており、本遺構の上層で出土した礫も、当初は遺構壁面を覆う井戸枠を構成していた可能性がある。

埋土 3層に分層した。1・2層は炭化物が混じり、3層は多くの細かい木片が散在し、植物遺体を少量含む。3層ともに礫が散在して含まれる。

遺物出土状況 土師器2点、灰釉陶器1点、中世陶器1点、石器1点、木製品24点が出土した。井戸に関わる祭祀が行われたと考えられるような遺物の出土状況は、確認できなかった。土師器の皿と灰釉陶器の碗はいずれも小片で、散在して出土した。古瀬戸の天目茶碗の小片は、2層上部で出土した。砥石(278)は割れており、井戸枠と考えられる礫に混じって出土した。同一個体の破片は確認できなかった。木製品24点は、集水施設の構造部材と考えられる板材の小片のみである。

出土遺物 古瀬戸の天目茶碗は胴部のみで、詳細な時期は不明である。278は砂石製の置き砥石である。

時期 重複する遺構ではなく、土器はいずれも小片だが、古瀬戸の天目茶碗が出土していることから、中世の遺構と考えられる。

SE4(図62・63)

検出状況 BH9・10グリッド、I層基底面、SK441の底面で検出した。井戸枠部分(1層)の平面形は明瞭だが、掘方埋土はIIIb層と類似しており、検出が困難であった。

規模・形状 長軸長1.23m、短軸長1.03m、深さ0.59m、検出面から約20cm下で湧水している。掘方の平面形は梢円形で、遺構上部はSK441によって削平され、地上施設は確認できなかった。擂鉢状に掘り込まれ、底部へ向かって狭くなる。井戸枠として、擂鉢状の掘り込みの壁面に、長軸長約15~20cmの亜円礫が扁平面を下にして横位で敷かれている。このうち原位置を保っていると考えられる礫は20個あり、礫の多くに被熱痕が見られる。集水施設として、直径約33cmの4点の木製曲物が縦に積まれる。曲物外面からは、3点の竹製の棒が、立位でほぼ等間隔に並んで出土した。竹製の棒は部分的にしか残っておらず、曲物との接合は確認できなかったが、曲物を固定する支柱など、集水施設の一部だった可能性がある。井戸底部ではIIIb層が露出しており、浄水装置は確認できなかった。

埋土 7層に分層した。1層は井戸枠の埋土、2層は集水施設の埋土で、廃絶時の埋め戻しによるものである。1層はIIIa層ブロックを含む。2層からは井戸枠に使われた礫と類似する礫が出土しており、井戸廃絶時に入り込んだものと思われる。3~7層は井戸の掘方埋土で、5・6層には裏込と考えられる多量の礫が含まれ、5層には最大で長軸長15cmの亜円礫を含む。

遺物出土状況 土師器14点、須恵器2点、灰釉陶器1点、山茶碗類6点、古瀬戸1点、石器1点、金属製品1点、木製品8点、種子4点が出土した。279の須恵器の無台坏は掘方南東の底部から出土した。

279と木製品を除く遺物は、井戸枠内、集水施設内、掘方埋土の各箇所から散在して出土しており、井戸に関わる祭祀の痕跡と考えられる、特徴的な出土状況は確認できなかった。

出土遺物 土師器皿のうち、分類可能な4点は全てC1類で、井戸枠内から出土した。279は須恵器の坏身で、外面底部にヘラ記号と考えられる2条の平行な線が刻まれ、内外面口縁部には煤が付着し、灯明皿としての使用が考えられる。焼成不良のため全体的に白っぽい。山茶碗類は碗の小片が4点あり、時期の判別が可能な1点は大畑大洞4号窯式(280)で、集水施設内から出土した。古瀬戸は後II期の折縁小皿(281)が出土した。

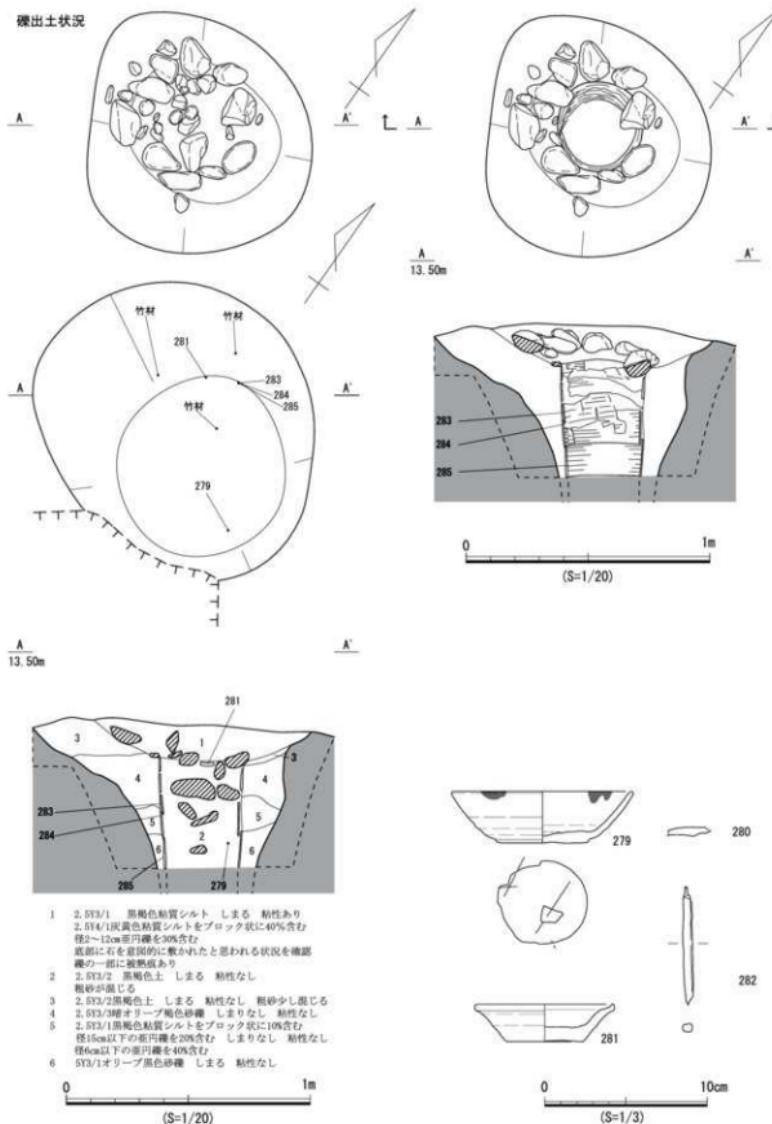


図62 SE 4遺構図、出土遺物実測図（1）

木製品は井戸枠の構成部材が出土した。283～285は曲物の側板で、W283が上から2段目、284が上から3段目、285が上から4段目で重なって集水施設を構成している。最上段のものは残存状況が悪く、取り上げた時にはばらばらの状況だったため、出土状況を記録することはできなかった。また、2～4段目は取り上げた時に崩れ、原形を保っていないため、一部のみを図化した。283はサワラの板目板材で直径33cm、幅7cm、厚さ0.3cm、284はヒノキの柾目板材で直径33cm、幅8cm、厚さ0.3cm、285はサワラの板目板材で直径32cm、幅14cm、厚さ0.3cmで、いずれも内面に釘引き線が引かれる。283と284は複数の小径の穴が貫通するが、用途は不明である。3点とも丸まって重なった箇所の接合部に、幅約1cmの樹皮（サクラか）を用いている。283は接合部が一部残っており、細長い樹皮2枚を2列に並べ、板を縫いつけるようにして綴っている。284は樹皮が2点付着していたが、残存状況が悪く、詳細

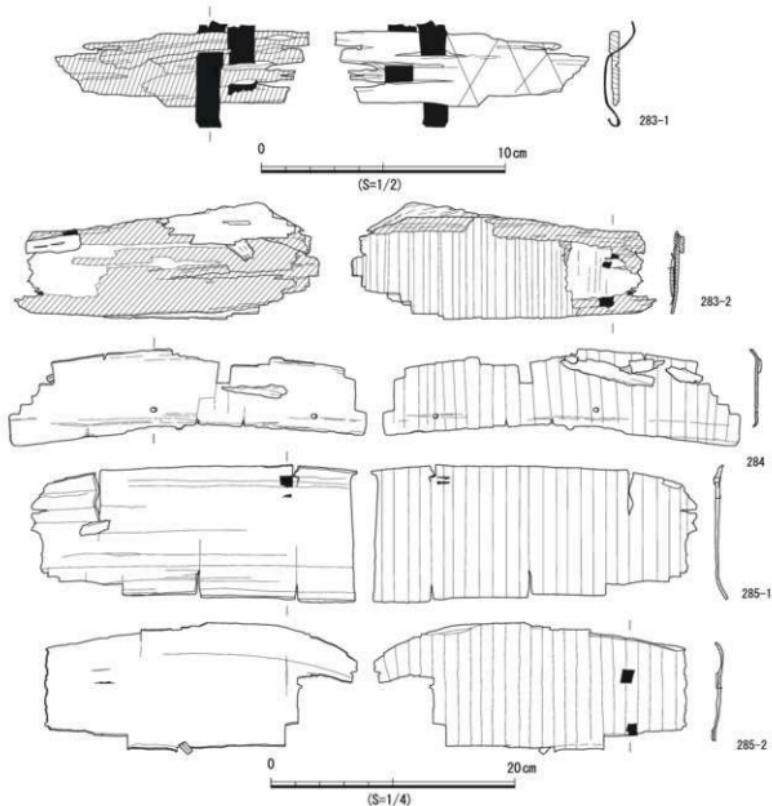


図63 SE 4 出土遺物実測図（2）

は不明である。285は、3点の樹皮を用いて3箇所を綴っている。282は角釘で、両端ともに細いため、頭の部分が欠損していると思われる。種子はいずれもウメで、3点が井戸枠埋土から、1点が掘方埋土から出土している。

時期 堀方埋土から時期の判別可能な遺物は出土しておらず、井戸枠内出土遺物の最新型式は古瀬戸後II期である。また、重複するSK441からは、大洞東1号窯式の山茶碗類とC1類の土師器皿が出土しており、15世紀前後頃までは機能していた可能性がある。

SE 5 (図64~70)

検出状況 BI 7 ~ BJ 7 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。検出時、重複するSK451との境界が確認できず、2つを同一遺構と認識していたが、検出面から約0.3mの深さまで半蔵した段階で遺構の重複を確認し、本遺構の平面形を確定した。このため、掲載した断面図と平面図に齟齬が生じる箇所がある。SK451と重複し本遺構が新しい。

規模・形状 長軸長2.21m、短軸長1.5m、深さ0.72mで、堀方の平面形は椿円形である。遺構上部は削平を受けており、井桁などの地上施設は確認できなかった。井戸枠の上端部は欠損しているが、隅柱(298~301)と横桟(302~305)、側板(306~321)は全て残存しており、井戸機能時の状態を留めている。井戸枠は、板材を縦方向に組み、四隅に立てた柱に取り付けた横桟で保持する構造で、長軸長0.65m、短軸長0.57mである。A地点のSE 1と同じ構造である。

構造 隅柱は、長さ70.7~78.5cm、幅10.3~14.1cm、厚さ6.2~12.4cmである。W 4は中央で折れており、299は中央で折れかけている。樹種は4本ともコウヤマキで、丸木芯材を8分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が台形の角材を切り出している。木目に沿って割ったと考えられるが、明瞭なチョウナ痕などは確認できず、表面の成形については不明である。下端部はほぼ垂直に切断されているが、明瞭な加工痕は確認できない。横桟を固定するための方形の枘穴が、隣り合う2つの面に1箇所ずつ開けられる。北東隅柱(300)と北西隅柱(301)の枘穴は2箇所とも未貫通だが、南東隅柱(298)と南西隅柱(299)の枘穴は東西方向に貫通し、南北方向のものは未貫通である。いずれの未貫通孔の底面にも、ノミ状の加工痕が確認できる。北西隅柱底部には長軸長17cmの亜円礫が扁平面を上にして置かれる。横桟はいずれも、両端部が隅柱の枘穴にはまつ状態で出土した。断面がほぼ方形の棒状の木製品で、長さ46.3~54.1cm、幅3.4~6cm、厚さ2.3~3.4cmである。302・303はヒノキ、304はコウヤマキ、305はサワラが用いられている。4点とも両端部が先端に向かって細く加工されているが、302・304は先端部が少し膨らむ。302・303・305は側板に接する面に不規則な凹凸が見られ、側板による圧痕の可能性がある。304は中央付近が湾曲して折れかかり、305は一方の先端部が一部欠損している。側板は場所によって2重3重に重ねられており、井戸枠の最も内側のもの(306~321)は、井戸枠の東辺に3枚、北辺と西辺に4枚ずつ、南辺に5枚の計16枚が整然と並ぶが、外周のものは、堀方壁面との隙間を埋めるように66枚設置されている。井戸枠の最も内側の側板は、ヒノキとサワラの板目材で、長さ57.8~64.5cm、幅10.5~12.5cm、厚さ2~3.4cmである。表面に工具による加工痕は確認できず、断面は年輪に沿った湾曲が見られるため、木目に沿って割ったと考えられる。側板の下端から4.5~6cmの位置に方形の穴が貫通する。穴は2.5~4cm、幅3.3~4.5cmであり、ノミ状の工具で板の両面から穿孔されている。集水施設に底板がある井戸では、水を通すために側板に穴を開ける事例があるが、当遺構では底板がない。また、井戸枠の内側の面には、下端から23~35cmの位置

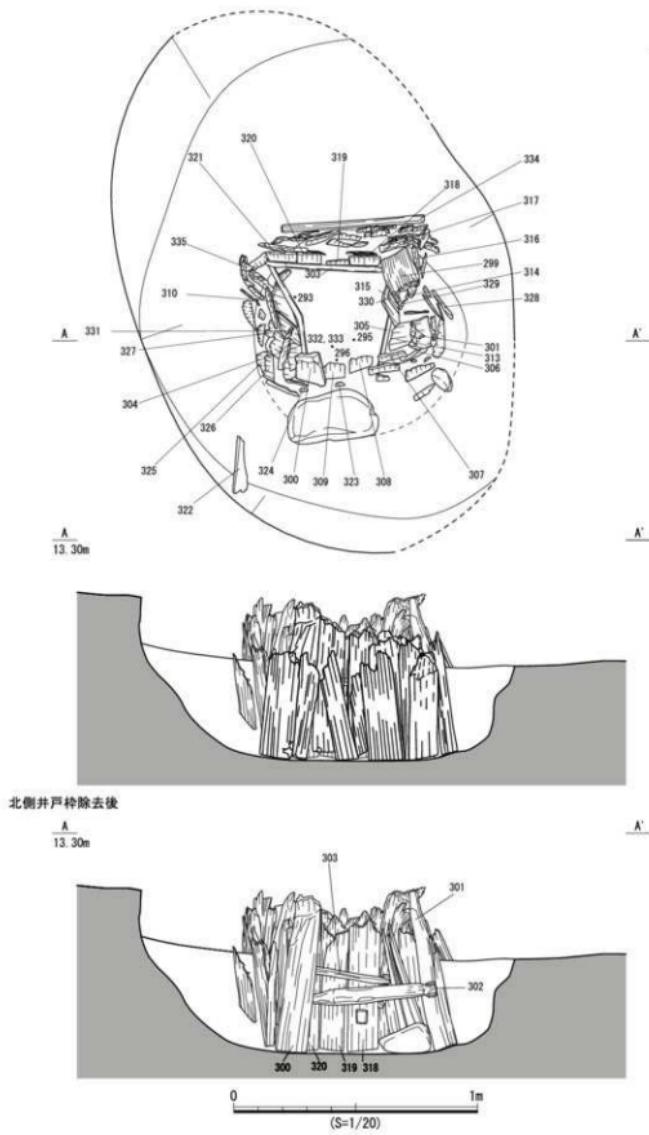


図64 SE 5 遺構図（1）

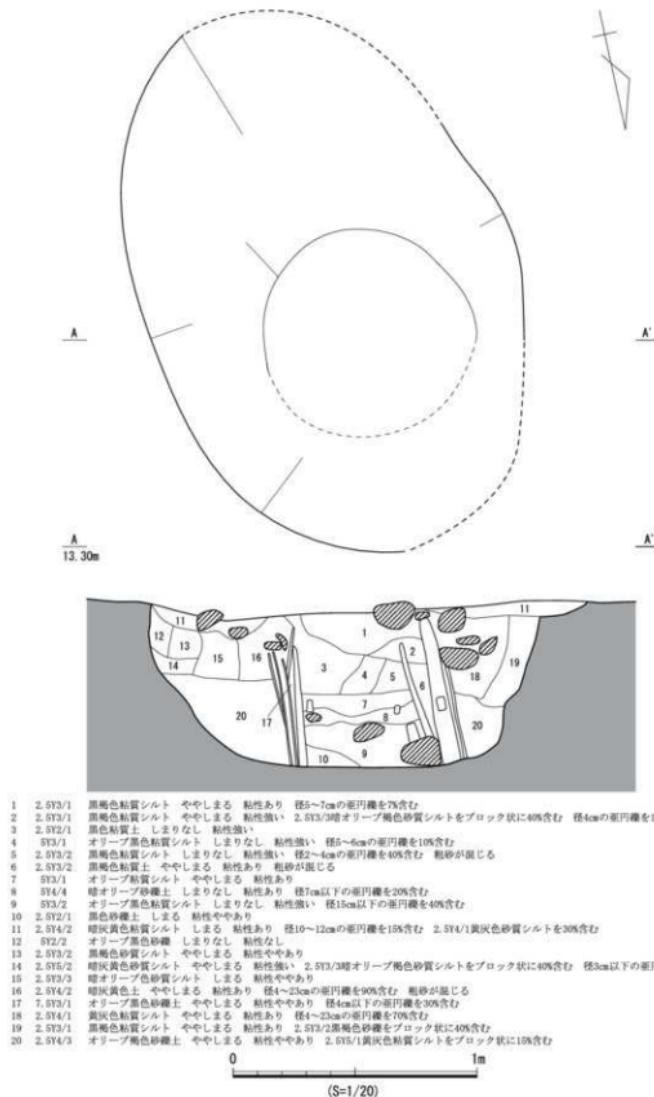


図65 SE5 遺構図（2）

に微少な高まりが設けられ、この高まりを境に上端に向けて薄く加工される。遺物出土時の位置関係から、横桟を支えるための加工と考えられる。下端部の形状は個体によって異なる。横桟と接しない外周の側板は長さ23~77.5cm、幅6~16cm、厚さ0.3~2.2cmである。個体による形状の差異が見られないため、残存状況が良好な9点(322~330)と、炭化部位を確認した1点(331)を図化した。図化した10点の樹種はいずれもコウヤマキで、上端は欠損しており、下端はほぼ垂直に切断されている。上端に向けて薄くなる扁平な板目板で、表面に工具による加工痕はなく、木目に沿って割ったと考えられる。内外周ともに側板同士は固定されておらず、内側は横桟、外側は掘方埋土によって固定されていたようである。底部に集水施設や浄水装置は確認できなかった。

埋土 20層に分層した。1~10層は井戸廃絶時の埋め戻しに伴う堆積と考えられる。11~20層は掘方埋土で、井戸枠北側では周囲の砂礫と比べて明らかに大きい礫が多量に入っている、裏込めに使われたものと考えられる。

遺物出土状況 土師器26点、須恵器2点、灰釉陶器1点、山茶碗類35点、古瀬戸3点、常滑産陶器3点、石器2点、木製品108点、種子12点が出土した。井戸に関わる祭祀が行われたと考えられるような遺物の出土状況は、確認できなかった。土器類は小片が多く、井戸枠埋土と掘方埋土から散在して出土した。木製品は井戸枠部材が104点で、その他が4点である。なお、井戸枠周辺から出土した板材のうち、他の井戸枠部材と類似する形状をもつ板材19点も井戸枠部材として扱った。

出土遺物 土師器は全てが皿の小片で、分類可能なものはM3類(286・287・288)とB1類(289)が存在する。山茶碗類は東濃型が主体を占め、器種は碗と小皿がある。掘方埋土からは碗20点が出土し、東濃型では、大畑大洞4号窯式古段階(290)、大畑大洞4号窯式新段階(291)、尾張型では第7型式(292)、第8又は9型式がある。また、井戸枠内埋土からは碗5点と小皿1点が出土し、東濃型では、大畑大洞4号窯式古段階の碗(293)と小皿(294)、脇之島3号窯式の碗(295・296)、尾張

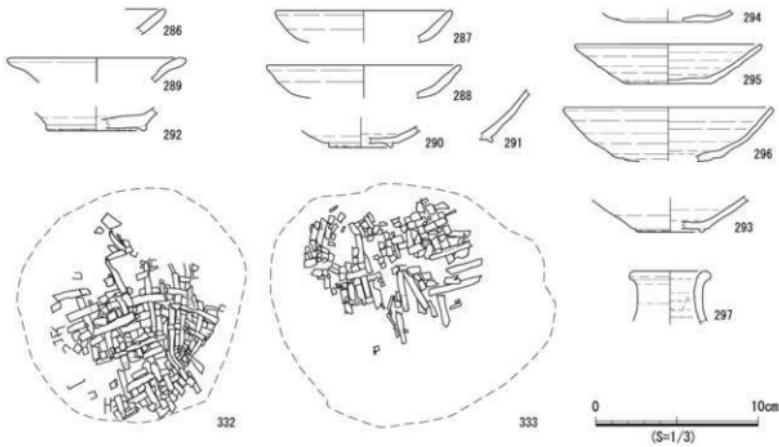


図66 SE5出土遺物実測図(1)

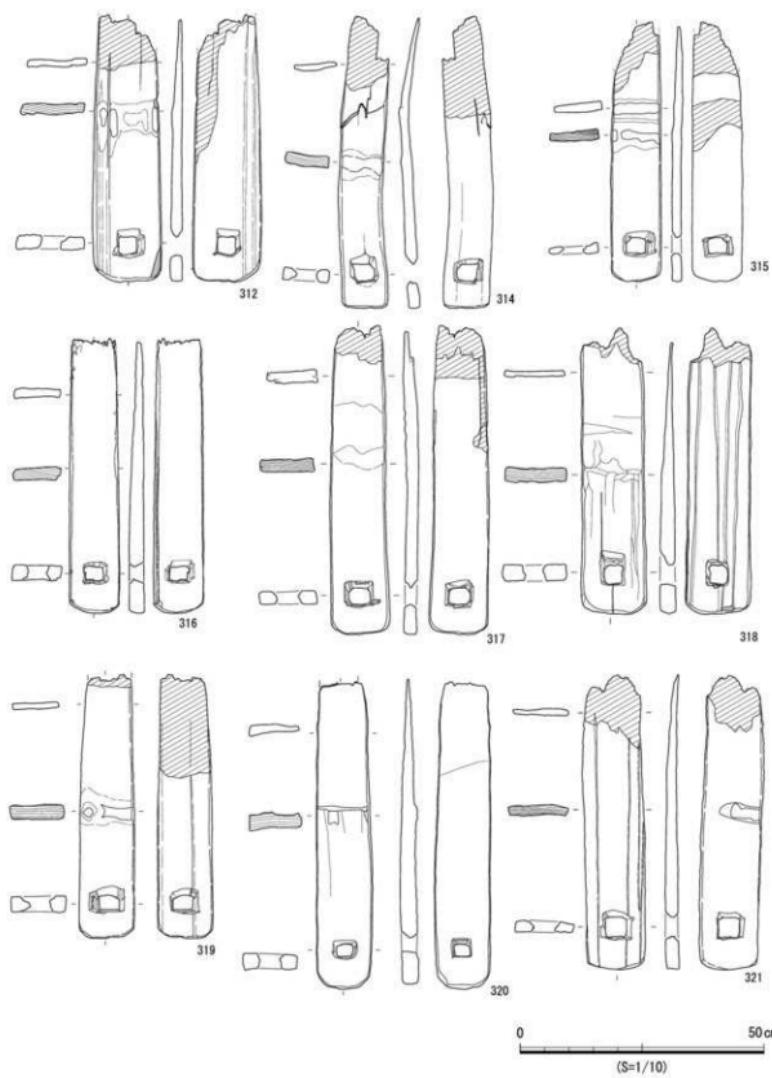


図67 SE 5 出土遺物実測図（2）

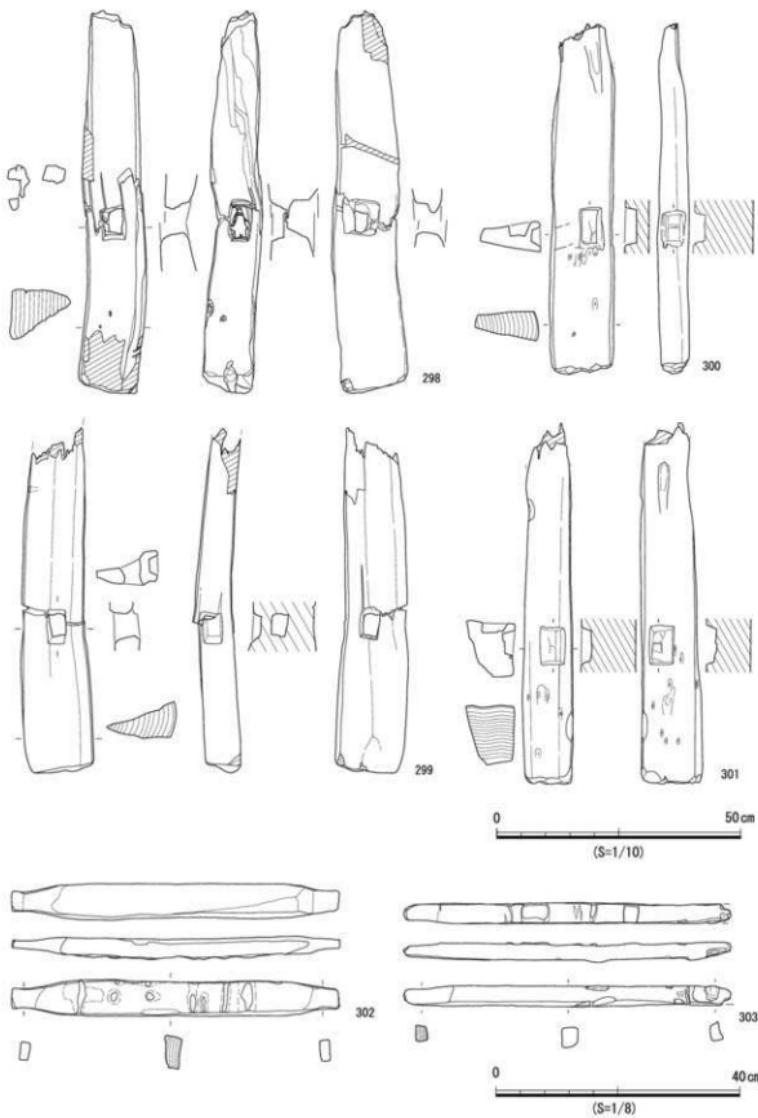


図68 SE 5 出土遺物実測図（3）

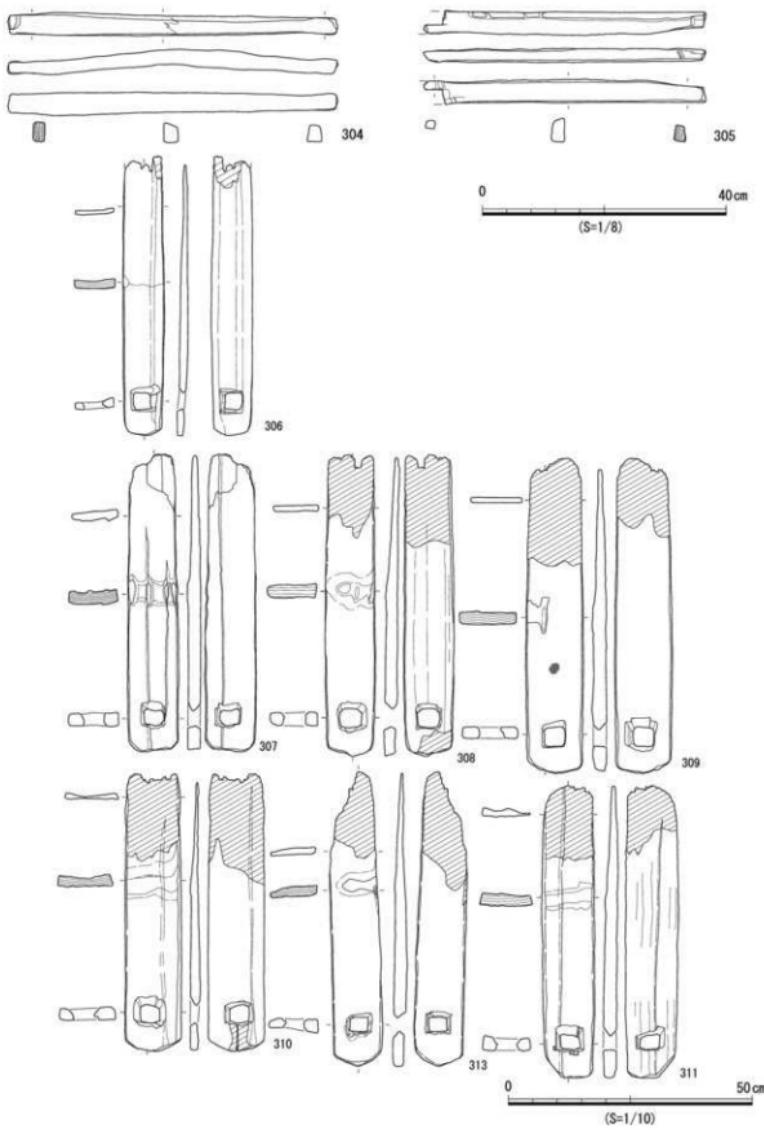


図69 SE 5出土遺物実測図（4）

型では第6型式の碗がある。古瀬戸は後期の天目茶碗と古瀬戸後Ⅲ期又はⅣ期の瓶子Ⅲ類(297)、常滑産陶器は時期不明の甕が、いずれも井戸枠内埋土から散在して出土した。木製品では、322・333は編物で、取り上げ時に片面ずつ剥離したが、同一個体である。ヒノキ材を割り裂いたヒゴを茎葉目編みしている。334は南側の掘方埋土から出土したサワラの板目材で、長さ58cm、幅21cm、厚さ2.0cmで、直径0.9cmの穴が4隅に貫通する。両面に刻まれた線状の加工痕は方向に一定の規則性をもつ。井戸枠との関係は不明である。335は長軸長6.4cmの半円形の板材で、ヒノキの柾目材が使われる。元は円形の木製品と考えられ、中心に径約1.5cmの穴が貫通するが、用途は不明である。種子は、ウメ1点が掘方埋土から、ウメ2点とイネ科の植物9点が井戸枠埋土から出土した。

時期 掘方埋土から大畑大洞4号窯式新段階の山茶碗が、井戸枠内埋土から脇之島3号窯式の山茶碗が出土したことから、14世紀後半から15世紀中頃のものと思われる。

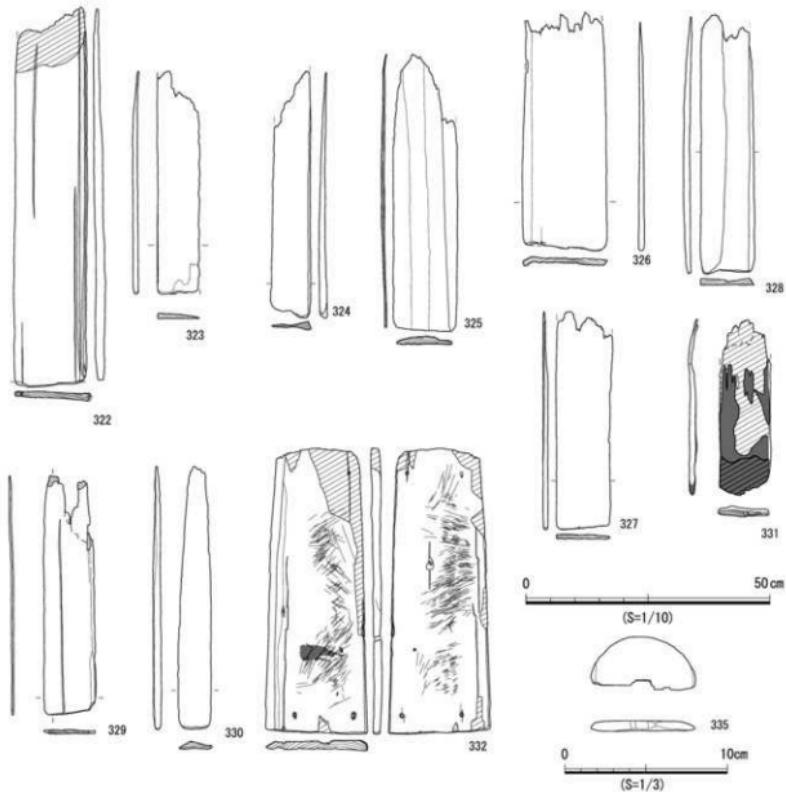


図70 SE 5 出土遺物実測図（5）

3 土坑

SK15 (図71)

検出状況 AK15～AL16グリッド、I b層基底面で検出した。重複するSD 3より新しいが、検出時はSD 3と同じ遺構として掘削を開始した。この部分のみ土坑状に深くなることや、土層堆積状況の観察からSD 3とは別の土坑と判断した。

規模・形状 SD 3との重複部分の平面形状を確認できなかったが、遺構西部がやや突出した不整円形と考えられる。長軸長3.7m、短軸の推定長3.5m、深さ0.91mである。断面形はなだらかな半円形で、西肩部はテラス状の平坦部が2段、階段状に設けられる。

埋土 8層に分層した。埋土にブロック土や礫が混じることから、人為堆積の可能性が考えられる。なお、8層は壁面崩落土と考えられる。

遺物出土状況 土師器6点、須恵器1点、山茶碗類6点、中国産陶磁器2点、石器2点が出土した。大半

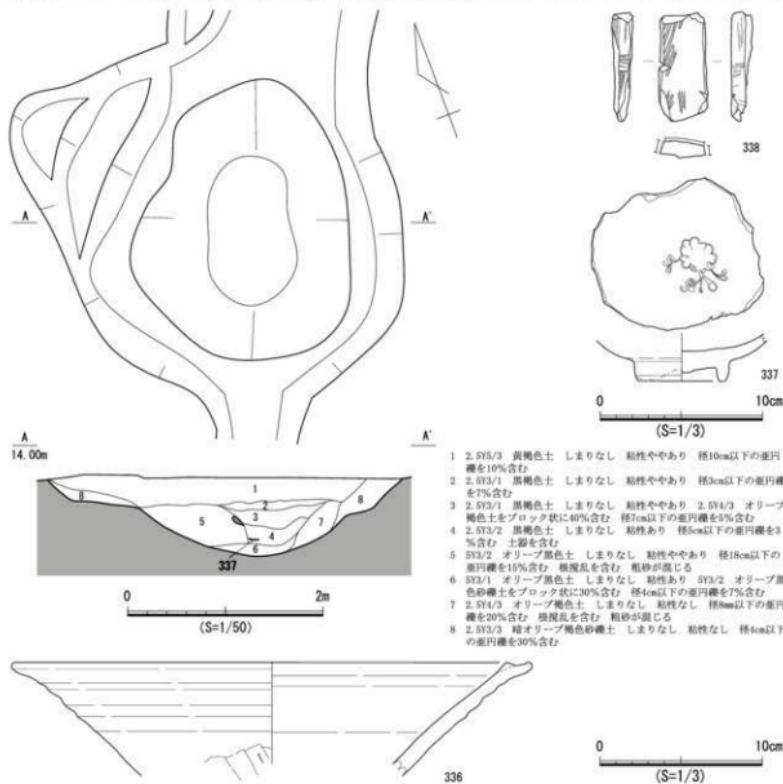


図71 SK15遺構図・出土遺物実測図

は小片で、2～5層から散在して出土した。

出土遺物 土師器皿と山茶碗は小片のみで、分類不能である。片口鉢（336）は尾張型第10型式である。中國陶磁器（337）は龍泉窯系の青磁碗D 1類で、内面底部に草花文が彫られる。石器は流紋岩製の砥石（338）である。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀後半頃と考えられる。

SK37（図72）

検出状況 A8グリッド、SK76の底面で検出した。埋土上面には径8cm以下の円碟が散在し、平面形は明瞭に確認できた。検出面では重複関係を確認しなかったが、発掘区東壁面でSE1やSK81と重複することを確認し、本遺構はSE1とSK81より古い。なお、SK81は発掘区壁面のみで確認した。土層断面の観察を発掘区東壁面で行ったため、平面図と断面図に齟齬が生じた部分がある。

規模・形状 遺構の東側は発掘区外となり、長軸長1.84m以上、短軸長1.19m以上、深さ0.24mである。2段階に掘り込まれ、平面形は上層が円形に近く、下層は方形である。底部はなだらかで、IIIa層が露出する。

埋土 4層に分層した。各層に大きめの礫が混じり、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器26点、山茶碗類5点、古瀬戸1点、常滑産陶器1点が出土した。大半が小片で、1・2層から散在して出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗は小片のみで、分類不能である。339は古瀬戸中III期又はIV期の折縁深皿である。常滑産の甕は胴部の小片で、時期不明である。

時期 出土遺物の最新型式と、SE1・SK76との重複関係から、14世紀前半から15世紀前半と考えられる。

SK38（図72）

検出状況 A地点A8～AR8グリッド、SK76の底面で検出した。埋土がIIIa層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 遺構東部は発掘区外となり、発掘区東壁面で土層断面を観察した。壁面が崩落する可能性があったため、壁面際は埋土3層の途中までの掘削に止めたため、中央よりも西側部分のみ底面まで掘削した。長軸長1.46m以上、短軸長0.76m以上、深さ0.6m以上である。断面形状は逆台形で、底部面にはIIIb層の亜円碟が露出する。

埋土 5層に分層した。3層にはブロック土が混じり、各層に礫を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器19点、山茶碗類6点、古瀬戸1点、常滑産陶器4点、木製品2点が出土した。特徴的な出土状況はなく、いずれも埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器はいずれも皿の小片で、分類不能である。340は尾張型第8型式、341は大洞東1号窯式の山茶碗である。古瀬戸は後I期又は後II期の盤類で、常滑産陶器は甕の小片である。木製品は漆器（342）と板材の破片が出土した。342は幅3.5cm、高さ1.8cm、厚さ0.2cm、樹種はブナ材で、湾曲する形状から椀と考えられる。内外面ともに炭粉渋下地の上に赤色漆が塗られる。漆の大半が剥離している。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前半頃と考えられる。

SK48（図72）

検出状況 A地点AR7グリッド、SK76埋土上面で検出した。埋土がSK76と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD7、SP3、SK51、SK54より新しく、底面でSK46を検出した。

規模・形状 排水溝西壁面において、遺構が発掘区外西側へ広がることを確認した。長軸長1.28m以上、短軸長0.91m、深さ0.19mである。平面形は東西方向に長い楕円形と考えられる。底部は南に向かって緩やかに深くなる。

埋土 2層に分層したが、2層が底面に薄く堆積し、その上を1層が覆う。

遺物出土状況 土師器23点、山茶碗類5点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は大半が皿の小片で、分類可能なものはC1類(343)が存在する。また、他には羽釜の小片1点がある。山茶碗類は全て碗の小片で、分類可能なものは、尾張型第8型式又は9型式(344)がある。

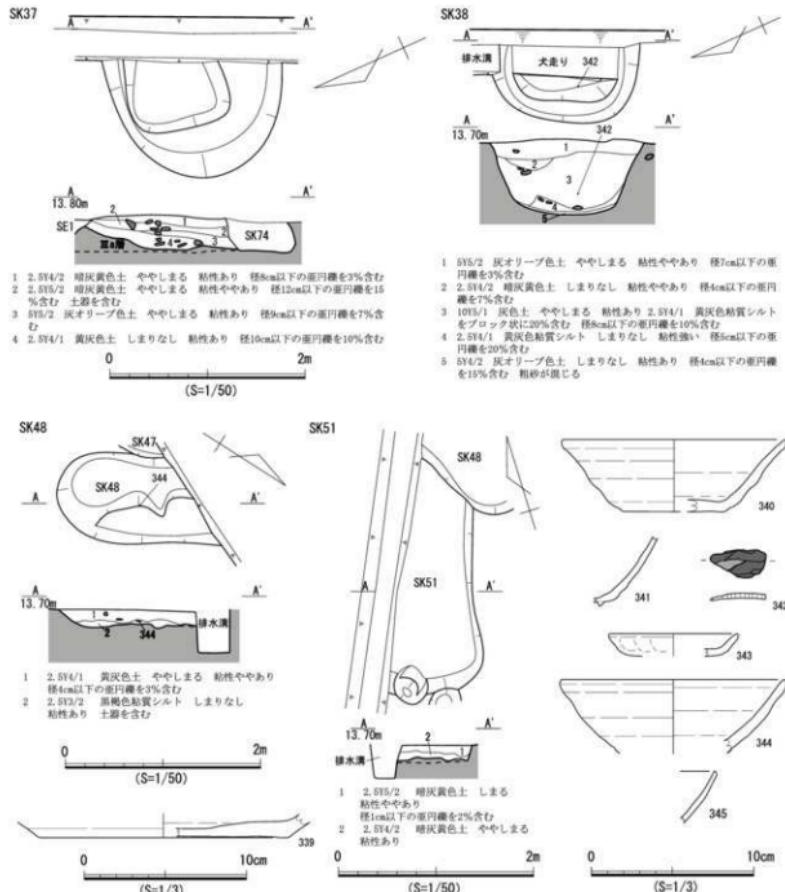


図72 SK37・38・48・51遺構図、SK48・51出土遺物実測図

時期 出土遺物の最新型式と、重複するSD 7から脇之島3号窯式、SK51から大洞東1号又は脇之島3号窯式の山茶碗が出土したことから、15世紀後半頃と考えられる。

SK51（図72）

検出状況 A地点AR 7～AS 7グリッド、SK76埋土の上面で検出した。埋土がSK76と類似し、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD 7より新しく、SP 3・SK48・SK54より古い。

規模・形状 発掘区西壁面において、遺構が発掘区外の西側へ広がることを確認した。長軸長2.04m以上、短軸長0.77m以上、深さ0.2mである。東肩部は傾斜が急で、底面は凹凸がある。

埋土 2層に分層した。少量の礫を含む水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器23点、山茶碗類5点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。山茶碗は全て東濃型の小片で、345は大洞東1号又は脇之島3号窯式である。

時期 出土遺物の最新型式と、SD 7とSK48との重複関係から、15世紀後半頃と考えられる。

SK76（図73）

検出状況 AP 9～AT 6グリッド、III a層上面で検出した。埋土がIII a層と類似し、埋土上面で複数の遺構を検出したが、遺物を含むことや発掘区西壁面でのIII a層との関係から遺構と認識した。他遺構との重複関係は、SD 8・SD 9・SD 10・SE 1などより新しく、SD 7・SP 3・SK47・SK48などより古い。

規模・形状 遺構の大半が発掘区外となるような大型の遺構であり、窪地状の地形での堆積とも考えられたが、大型の土坑状のものとしておく。深さは0.31mで、底面には凹凸がある。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器47点、須恵器3点、山茶碗類13点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器1点が埋土中から散在して出土した。遺物はAS 7～AR 7グリッドに集中し、AR 7グリッドより北側では、土師器が1点出土しただけであった。

遺物 土師器は大半が皿の小片で、分類可能なものにはB 1類とC 1類（346・347）が存在する。また、羽釜の小片が2点出土した。山茶碗は全て小片で、尾張型第8又は9型式（348）が存在する。須恵器の甕と瓶や常滑産の甕が、それぞれ1点ずつ出土した。349は古瀬戸後IV期古段階の天目茶碗である。

時期 底面で検出した遺構は15世紀前半頃と考えられ、また、出土遺物の最新型式と、重複するSD 7から脇之島3号窯式、SK51から大洞東1号又は脇之島3号窯式の山茶碗が出土していることから、15世紀後半頃と考えられる。

SK77（図73）

検出状況 AQ13～AS14グリッド、III b層上面で検出し、底面ではSD12・SD13・SK78を検出した。

規模・形状 遺構の大半が発掘区外となるような大型の遺構であり、窪地状の地形での堆積とも考えられたが、大型の土坑状のものとしておく。深さ0.32mで、底面は東に向けて緩やかに傾斜し、遺構の最深部は発掘区外に存在すると考えられる。

埋土 単層である。埋土はしまりのある均質な土で、少量の礫を含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器10点、山茶碗類10点、古瀬戸2点、常滑産陶器1点、中国産陶磁器1点が埋土中から散在して出土した。

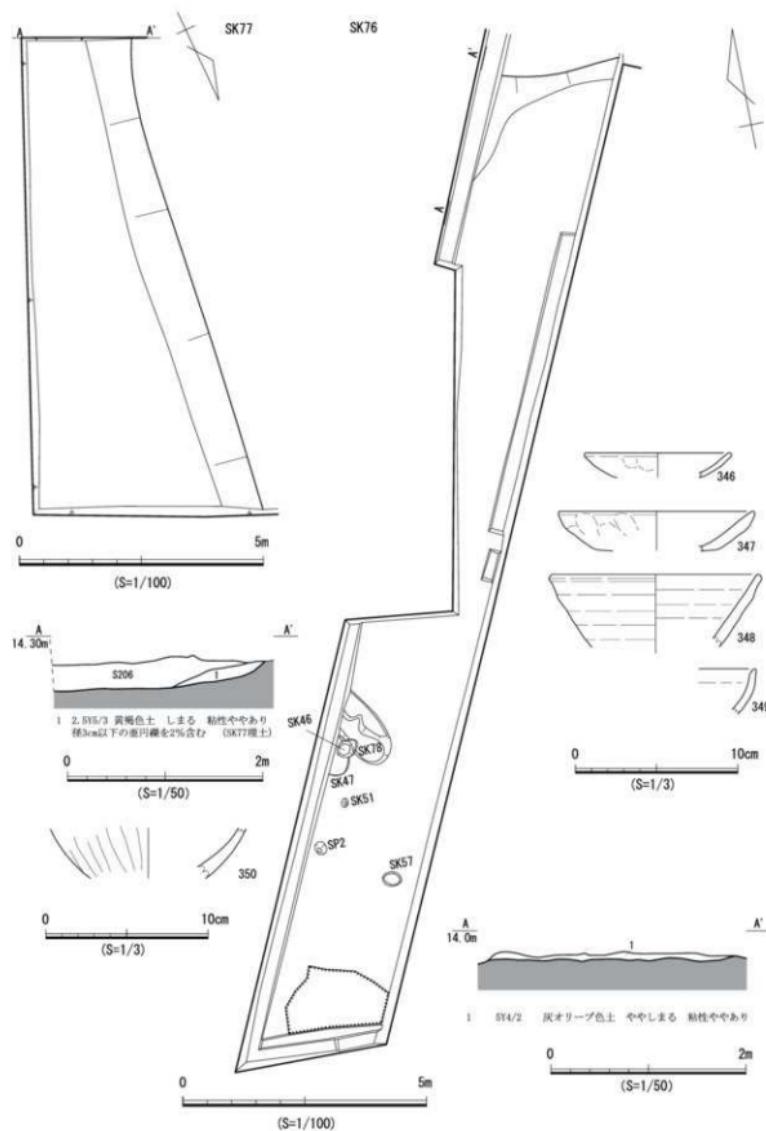


図73 SK76・77遺構図、出土遺物実測図

遺物 土師器皿と山茶碗は全て小片で、分類不能である。古瀬戸は中期の壺又は瓶、常滑産は甕の胴部が出土した。中国産陶器（350）は龍泉窯系の青磁碗B類で、胴部外面に蓮弁文が彫られる。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀前半頃と考えられる。

SK79（図74）

検出状況 A010～AP11グリッド、III a層上面で検出した。他遺構との重複関係は明瞭で、SD1より新しく、SD5、SD6より古い。遺構埋土がIII a層と類似するため、当初は遺構と認識していなかった。しかし、SD1掘削後に発掘区南壁において、掘り込みがあることやSD1よりも新しいことが確認できた。そのため、北部をSD1として掘削してしまった。

規模・形状 遺構南部は発掘区外となり、短軸長4.25m、深さ0.21mである。底面は北部が浅くなり、回凸がある。

埋土 A-A'断面は2層、B-B'断面は3層に分層した。A-A'断面の2層とB-B'断面の3層は、壁面崩落土である。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器7点、須恵器3点、灰釉陶器4点、山茶碗類1点、石製品1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器の皿はいずれも小片で分類不能である。351は大畑大洞古段階の山茶碗である。須恵器は甕と壺蓋、灰釉陶器は甕と高杯の脚部が出土した。砥石は流紋岩製の砥石（352）である。

時期 出土遺物の最新型式と、SD1とSD5との重複関係から、15世紀後半頃と考えられる。

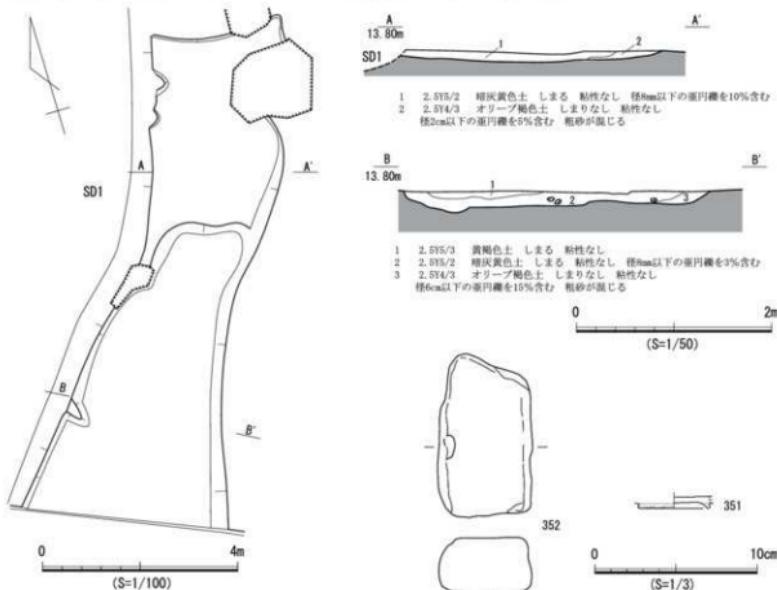


図74 SK79遺構図、出土遺物実測図

SK085 (図75)

検出状況 BB 5 グリッド、SD20の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。重複するSD14やSK086より古い。

規模・形状 長軸長1.15m以上、短軸長0.66m、深さ0.19mである。他の遺構の削平を受けているため形状は不明であるが、壁面の傾斜は緩やかで、底面は西側に向かって全体的に深くなる。

埋土 単層で堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器19点、瀬戸美濃産陶器1点、中国産陶磁器1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器はいずれも皿の小片で、分類不能である。瀬戸美濃産陶器は器種不明の小片である。中国産陶磁器は、龍泉窯系の青磁碗A類（353）である。

時期 重複するSD14から古瀬戸後Ⅲ期又はIV期の壺が出土しており、15世紀前半以前と考えられる。

SK107 (図75)

検出状況 BF 3 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK108より新しい。

規模・形状 遺構西側が発掘区外に延びる。長軸長0.52m以上、短軸長0.44m、深さ0.35mである。平面形は不明であるが、壁面は立ち上がり、底面は平坦である。底面の北東隅で、扁平な梢円形の縫（354）が出土した。

埋土 4層に分層したがほぼ水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器36点、瀬戸美濃産陶器1点、石製品1点が出土した。土器類は埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。瀬戸美濃産陶器は擂鉢の胴部で、分類不能である。354は凝灰岩製の敲石である。

時期 時期が判明した遺物がないが、中世の屋敷地内で検出したことから、中世の可能性があると思われる。

SK111 (図75)

検出状況 BF 3 グリッド、SD20の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD20より古い。

規模・形状 長軸長0.38m、短軸長0.31m、深さ0.3mである。平面形は梢円形で、壁面は立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

埋土 2層に分層したが堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器1点、山茶碗1点、石器1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は分類不能の皿の小片で、355は東濃型の山茶碗で脇之島3号窯式である。356は砂岩製の砥石で、被熱痕がある。

時期 出土遺物から15世紀後半以降と考えられる。

SK116 (図75)

検出状況 BF 4 グリッド、SK175の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と類似し、平面形は不明瞭であった。重複するSP9より新しい。

規模・形状 長軸長0.34m、短軸長0.26m、深さ0.35mである。平面形は円形で、壁面は立ち上がり、底

面は平坦である。

埋土 3層に分層したがほぼ水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器2点、瀬戸美濃産陶器1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器はいずれも皿の小片で、分類不能である。357は古瀬戸後IV期新段階の袴腰形香炉である。

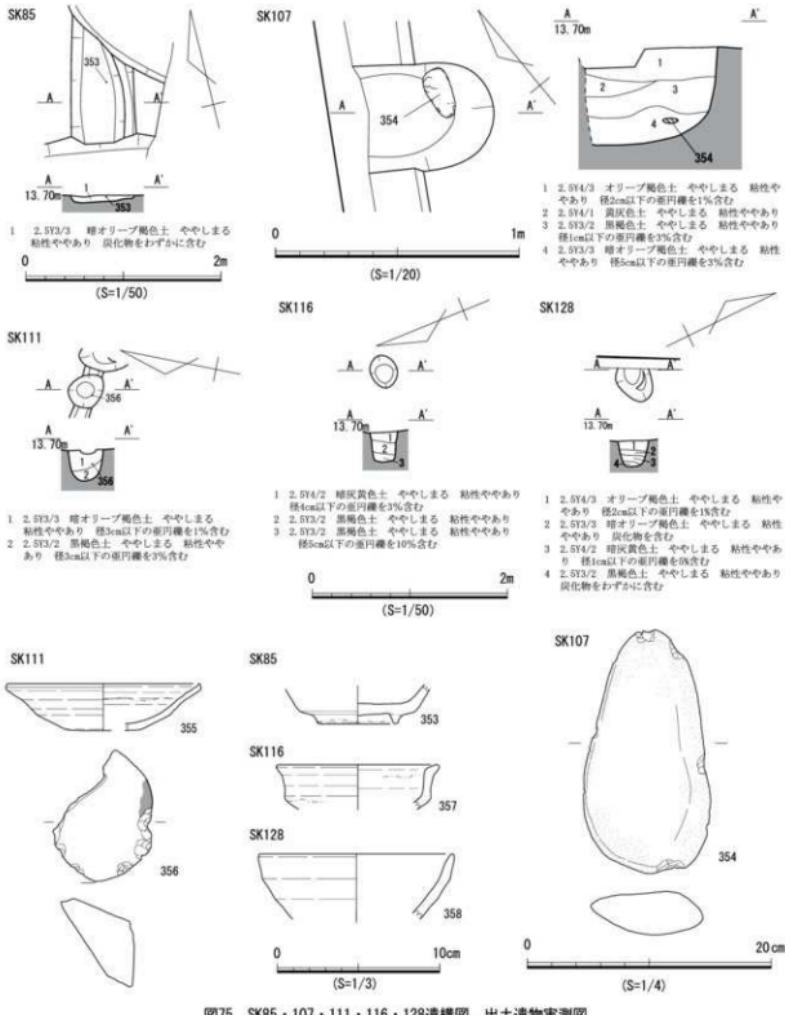


図75 SK85・107・111・116・128造構図、出土遺物実測図

時期 出土遺物から15世紀後半以降と考えられる。

SK128 (図75)

検出状況 BG 3 グリッド、SD24の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 西部は発掘区外となるため全形不明であるが、長軸長0.44m以上、短軸長0.35m、深さ0.25mである。平面形は梢円形で、壁面は立ち上がり、底面は東部にテラス状の段がある。

埋土 4 層に分層したがほぼ水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器5点、山茶碗類2点、瀬戸美濃産陶器1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸後IV期新段階の天目茶碗（358）で灰釉が施される。

時期 出土遺物から15世紀後半以降と考えられる。

SK169 (図76)

検出状況 BG 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SA 4 よりも新しい。

規模・形状 長軸長0.44m、短軸長0.4m、深さ0.31mである。平面形は円形、断面形は逆台形で、壁面の傾斜が垂直に近い。

埋土 2 層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器10点、山茶碗類6点、瀬戸美濃産陶器1点が埋土中から散在して出土した。半分に割れた土師器皿（359）が、1層から逆位で出土した。

遺物 土師器は全て皿で、大半が小片である。分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1 類（359・360）がある。359は、焼成後に底部が外面から穿孔されている。山茶碗は東濃型の小片で、分類不能である。瀬戸美濃産陶器は器種不明である。

時期 出土遺物から15世紀前半以降と考えられる。

SK176 (図76)

検出状況 BG 4 グリッド、SK175の底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 遺構西部は発掘区外となる。長軸長0.35m、短軸長0.35m、深さ0.28mである。平面形は不整円形で、壁面は立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 3 層に分層したがほぼ水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 底面から土師器皿（361）が内面を上に、その横で口縁部が欠損した平碗（362）が底面上にして出土した。他の土師器は埋土中から散在して出土した。

遺物 361は美濃中世後期土師器皿のC 1 類で、その他の土師器は分類不能の皿の小片である。362は古瀬戸後IV期古段階の平碗で、表面が被熱している。

時期 出土遺物から15世紀後半以降と考えられる。

SK177 (図76)

検出状況 BG 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土は基盤層のIII a 層と明確に異なるが、輪郭が漸移的で、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SB1・SK173・SB2・SP52・SK212より新しく、

SP32・SP53より古い。

規模・形状 長軸長1.76m、短軸長0.94m、深さ0.12mである。平面形は橢円形で、断面形は浅い皿上である。

埋土 2層に分層したが、堆積状況は不明である。

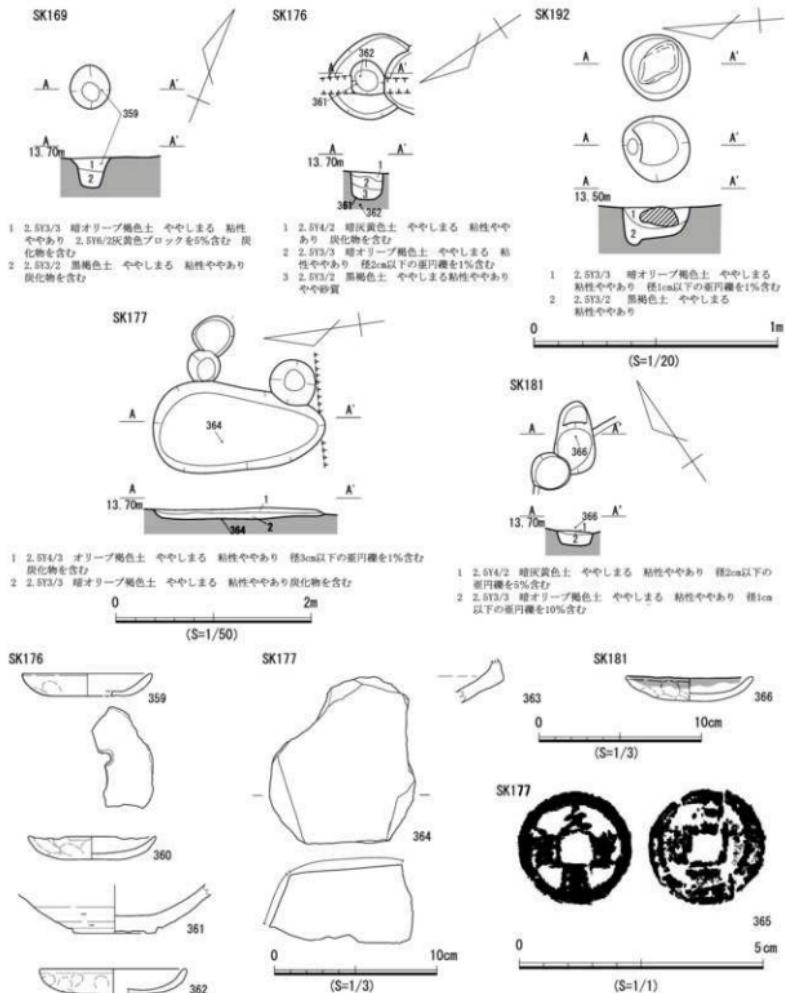


図76 SK169・176・177・181・192・遺構図、出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器12点、山茶碗類2点、瀬戸美濃産陶器1点が埋土中から散在して出土した。砥石(364)は底面の中央西寄りで斜位で出土した。錢貨(365)は割れており、1層中から出土した。

遺物 土師器は皿の小片、山茶碗は東濃型の小片で、いずれも分類不能である。瀬戸美濃産陶器は、大窯の擂鉢(363)である。364は砂岩製の砥石、365は元豊通寶である。

時期 本遺構より古いSK212から大窯第1段階の天目茶碗が出土しており、16世紀中葉以降と考えられる。

SK181 (図76)

検出状況 BG 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と類似し、輪郭が不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK183より新しく、SK179・SK180より古い。

規模・形状 長軸長0.74m、短軸長0.42m、深さ0.17mである。平面形は不整円形で、北側は浅く段を持ち、南側は深くなる。

埋土 2層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 検出面において土師器3点が出土したが、同一個体の皿(366)であった。

遺物 366は美濃中世後期土師器皿のC I類で、口縁部に煤が巡り、灯明皿として使用されたと考えられる。

時期 本遺構より古いSK180から大洞東1号窯式の山茶碗が出土しており、15世紀前半以降と考えられる。

SK192 (図76)

検出状況 BG 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸0.27m、短軸0.26m、深さ0.16mである。平面形は不整円形で、底面は平坦だが、北端がわずかに窪む。1層中で、長軸20cmの亜円碟が横位で出土した。礎盤石の可能性を検討したが、埋土に柱痕跡がなく、碟上面にも柱当たりが確認できなかった。

埋土 2層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 出土遺物がなく重複する遺構も存在しないことから、時期は不明である。

SK207 (図77)

検出状況 BG 5 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD15より古い。

規模・形状 長軸長2.76m、短軸長1.06m、深さ0.21mである。平面形は不定形で、底面は東に向かって傾斜し、東端では一段深くなる。

埋土 4層に分層したが、西側から土砂の流入の可能性が考えられる。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器17点、山茶碗類7点、瀬戸美濃産陶器2点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は分類可能なものに、美濃中世後期土師器皿C I類(367)がある。瀬戸美濃産陶器は、大窯第1段階の擂鉢(368)と器種不明の小片である。

時期 出土遺物から16世紀前半頃と考えられる。

SK212 (図77)

検出状況 BG 4～BH 4 グリッド、SK177の底面で検出した。遺構の輪郭が漸移的で、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK177、SP53より古い。

規模・形状 長軸長0.67m、短軸長0.41m以上、深さ0.37mである。平面形は橢円形で、壁面は立ち上がり

り、底面は丸みを帯びる。

埋土 3層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 濑戸美濃産陶器1点が、底面から出土した。

遺物 369は大窓第1段階の天目茶碗である。

時期 出土遺物から16世紀前半以降と考えられる。

SK227(図77)

検出状況 BH3グリッド、I a層基底面で検出した。埋土は炭化物を含み、基盤層のIII a層と明確に異なるが、輪郭は漸移的であった。他遺構との重複関係は、SD14・SD15・SK82より新しく、SD24より古い。

規模・形状 長軸長1.23m、短軸長0.76m、深さ0.08mである。平面形は不整橢円形で、断面形は浅い皿

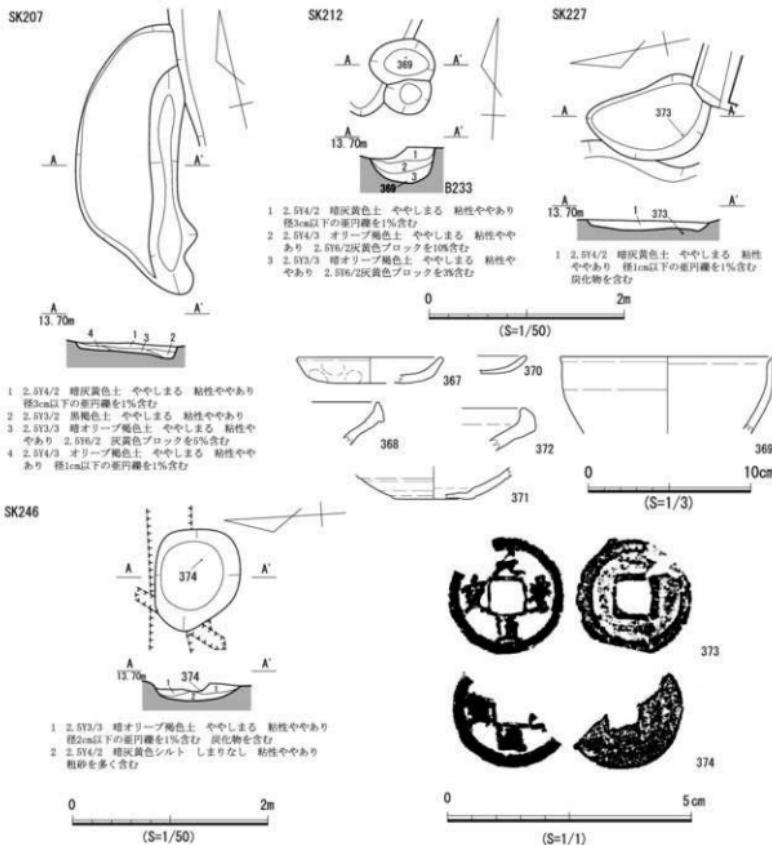


図77 SK207・212・227・246遺構図、出土遺物実測図

状である。

埋土 単層で堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器24点、山茶碗類5点、瀬戸美濃産陶器1点、銭貨1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1類（370）がある。山茶碗はいずれも小片で、分類可能なものには東濃型の脇之島3号窯式（371）がある。372は古瀬戸後IV期新段階の攝鉢である。373は元豊通寶で一部が欠損する。

時期 出土遺物から15世紀後半以降と考えられる。

SK246（図77）

検出状況 BH 3 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土は炭化物を含み、基盤層のIII a 層と明確に異なるが、輪郭は漸移的であった。

規模・形状 長軸長1.06m、短軸長0.86m、深さ0.2mである。平面形は不整円形で、断面形は浅い皿状である。

埋土 北側は攪乱坑により削平されているが、2層に分層した。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器13点、山茶碗類5点、銭貨1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1類がある。山茶碗もいずれも小片で、分類可能のものに東濃型の大洞東1号窯式がある。銭貨（374）は腐食が激しく、種類は判別不能である。

時期 出土遺物から15世紀前半以降と考えられる。

SK252（図78）

検出状況 BH 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土は基盤層のIII a 層と類似し、輪郭が漸移的であった。他遺構との重複関係は、SP52より新しく、SB3より古い。

規模・形状 長軸長1.1m、短軸長0.87m、深さ0.2mである。平面形は不整梢円形で、底面は北側がやや深くなる。

埋土 3層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。3層には炭化物が混じる。

遺物出土状況 土師器20点、山茶碗類4点、瀬戸美濃産陶器1点、銭貨1点が埋土中から散在して出土した。なお、銭貨は北側底面から出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。山茶碗はいずれも小片で、分類可能のものには東濃型の大洞東1号窯式（375）がある。瀬戸美濃産陶器は器種不明の小片である。銭貨（376）は腐食が激しく分類不能で、今回の調査で出土した他の銭貨より一回り小さく、模鋳錢の可能性がある。

時期 出土遺物から15世紀前半以降と考えられる。

SK279（図78）

検出状況 BH 3 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と似ており、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SB 2・SK280より古い。

規模・形状 長軸長1.16m、短軸長0.68m以上、深さ0.51mである。他の遺構との重複により全形は不明であるが、壁面は立ち上がり、底面は比較的平坦である。

埋土 5層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。1層底面付近で、長さ35～

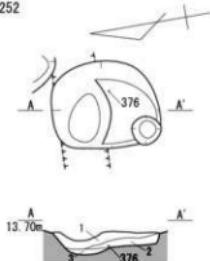
41cmの礫が3点、東西方向に並んで出土した。礫は東西両端のものが花崗岩、中央のものが砂岩で、中央と東側のものは表面が被熱する。礫の性格は不明である。

遺物出土状況 土師器3点、山茶碗類3点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗は全て小片で、分類不能である。

時期 出土遺物に分類可能なものがなく、重複する遺構からの出土遺物で分類可能なものは、SK280出土の明和1号窯式の山茶碗類の小皿があり、13世紀前半以前と思われる。

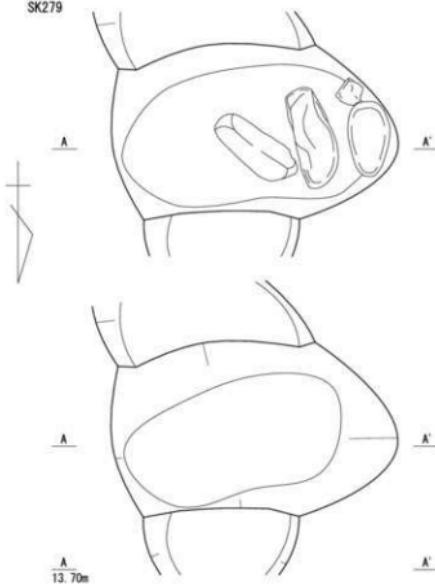
SK252



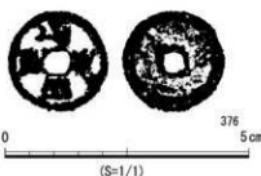
- 1 2.SY4/3 オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 程1cm以下の粗円礫を1%含む
- 2 2.SY1/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 2.SYH/2SK黄色ブロックを10%含む
- 3 2.SY1/2 増灰褐色シルト しまりなし
粘性ややあり 塗化物をわずかに含む

0 2m
(S=1/50)

SK279



0 10cm
(S=1/3)



- 1 2.SY4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 程2cm以下の粗円礫を1%含む
- 2 2.SY1/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり
- 3 2.SY4/2 増灰褐色土 ややしまる 粘性ややあり 2.SY6/2 深黄色ブロックを10%含む
- 4 2.SY3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 程10cm以下の粗円礫と粗砂ブロック状に至る40%含む
- 5 SY3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 粗砂をブロック状に5%含む

0 1m
(S=1/20)

図78 SK252・279遺構図、出土遺物実測図

SK285 (図79)

検出状況 BI 4 グリッド、I 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK284・SP57より新しい。

規模・形状 長軸長1.64m、短軸長1.6m、深さ0.41mである。平面形は不整円形で、壁面は比較的立ち上がり、底面はやや丸味がある。

埋土 2基の遺構が重複したような堆積で10層に分層したが、平面的には確認することができないためひとつの遺構と判断した。1～4層は5層まで堆積した後あらためて掘削されたものと思われ、埋土には長軸5～30cmの礫が密集して含まれる。礫の性格は不明である。5～10層は水平堆積だが、層界の起伏が顕著である。また、ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器11点、山茶碗類2点、瀬戸美濃産陶器4点、石製品2点が出土した。土器類はいずれも散在して出土した。石製品のうち、砥石(380)は1層から、石臼(381)は3・4層の層界付近から、

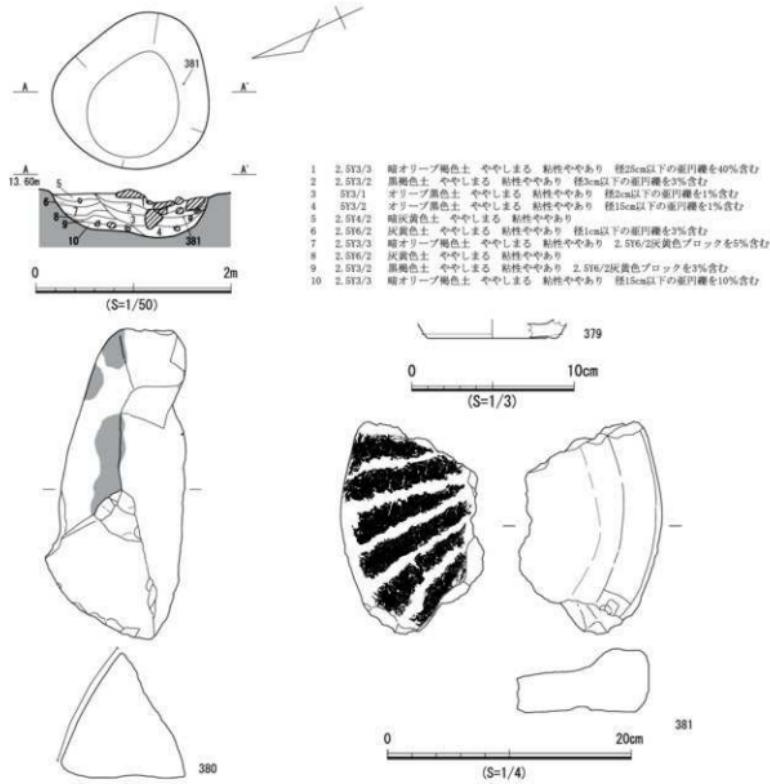


図79 SK285遺構図・出土遺物実測図

他の礫に混ざって出土した。

遺物 土師器はいずれも皿の小片で、美濃中世後期土師器皿のC I類がある。山茶碗は尾張型第7型式(379)と東濃型の脇之島3号窯式である。瀬戸美濃産陶器は大窯の播鉢と、小片のため分類不能の天目茶碗である。380は砂岩製の砥石で、381は花崗岩製の石臼である。いずれも大きく欠損し、380は割れてから被熱している。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀末以降と考えられる。

SK318(図80)

検出状況 BE・BF10グリッド、I a層基底面で検出した。SD21の南肩部で炭化物が広がる箇所を精査した結果、本遺構を確認した。他遺構との重複関係はSD21より古く、本遺構完掘後の底面でSK319を検出した。

規模・形状 長軸長3.18m以上、短軸長1.83m以上、深さ0.57mである。遺構の大部分がSD21と重複する。

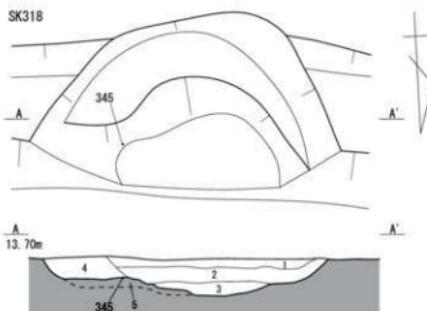
底面にはIII b層の砂礫が露出する。

埋土 4層に分層したが、1~3層は掘り直し後の堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器12点、灰釉陶器2点、山茶碗類6点、常滑産陶器1点、土製品1点が埋土中から散在して出土した。

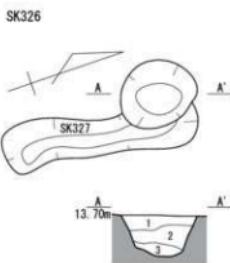
遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。山茶碗は山茶碗5点と小皿1点で、分類可能なものには東濃型の大洞東1号窯式(382)がある。常滑産陶器は甌の胴部小片が出土した。383は完形の土鉢である。

SK318



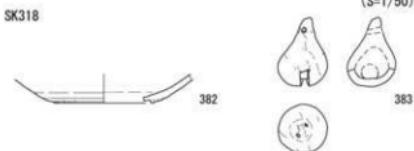
1. 2.SV5/3 黄褐色土 ややしまる 粘性あり 程3cm以下の面凹穂を5%含む
2. 2.SV4/1 黄褐色土 しまりなし 粘性あり 程3cm以下の中凹穂を7%含む 炭化物が混じる
3. 2.SV3/1 黄褐色土 しまりなし 粘性あり 程4cm以下の中凹穂を2%含む
4. 2.SV3/2 黑褐色土 ややしまる 粘性ややあり 程3cm以下の中凹穂を5%含む
5. 2.SV3/3 暗オーブン褐色砂礫土 しまりなし 粘性なし 稲3cm以下の面凹穂を7%含む(Ⅲ b層)

SK326



1. 2.SV6/2 晴灰黄色土 ややしまる 粘性あり 程5cm以下の面凹穂を10%含む
2. 3S5/1 灰色土 ややしまる 粘性あり 程3cm以下の面凹穂を5%含む 粒砂が混じる
3. 3S3/2 黒褐色粘質シルト しまりなし 粘性強い 程1cm以下の面凹穂を1%含む

SK318



SK326

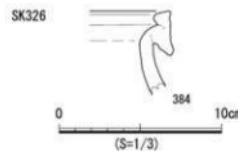


図80 SK318・326遺構図・出土遺物実測図

時期 出土遺物から14世紀末以降と考えられる。

SK326 (図80)

検出状況 BF 8 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIIIa層と類似していたため、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK336より新しく、SK327より古い。SD21の南側に隣接するが、関連は不明である。

規模・形状 長軸長0.78m、短軸長0.47m、深さ0.42mで、SD21付近の他の遺構よりも深い。平面形はほぼ円形で、断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。各層に礫が混じる水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器6点、山茶碗類6点、常滑産陶器4点が埋土中から散在して出土したが、大半が小片である。

遺物 土師器皿と山茶碗は、小片のため分類不能である。384は常滑窯第2段階7型式の甕である。

時期 重複するSK336から大洞東1号窯式と大洞東1号窯式又は脇之島3号窯式の山茶碗が出土することから、15世紀末以降と考えられる。

SK373 (図81)

検出状況 BG10 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.59m、短軸長0.45m、深さ0.26mである。平面形は円形で、断面形は半円形、底面は平坦である。柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。

埋土 2層に分層した。1層に礫を含むが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器1点、木製品1点が埋土中から出土した。木製品は1・2層の層界付近で、扁平な面を下にして出土した。

遺物 土師器は皿の小片で、分類不能である。木製品は長さ29cm、幅9cm、厚さ6cmの板状だが、大きく欠損しており、当初の形状や加工痕は不明である。

時期 遺物が出土していないが、中世の屋敷地内で検出したことから中世の可能性があると思われる。

SK405 (図81)

検出状況 BH 8 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。平面形は不明瞭で、検出時にSK403と同一遺構として認識していたが、土層断面観察時に重複関係を確認し、再度精査し別遺構と判断した。重複するSK403より古い。

規模・形状 長軸長0.71m、短軸長0.46m以上、深さ0.23mである。平面形は梢円形、断面形は逆台形で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。各層に礫を含むが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器7点、山茶碗類3点、石製品1点、銭貨1点が出土した。土器類は埋土中から散在して出土した。銭貨(386)は1層中から表を上にしてほぼ正位で、石製品(385)は遺構底面から、平坦面を上にして出土した。

遺物 土師器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。386は永楽通寶である。385は研磨された箇所があり何らかの製品と考えられるが、性格は不明である。

時期 永楽通寶が出土しており15世紀後半以降であろうか。

SK432 (図81)

検出状況 B地点BH9グリッド、大型搅乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.42m、短軸長0.39m、深さ0.22mである。平面形は円形で、断面形は逆台形、底面は平坦である。底面で長軸12cmの扁平な亜円礫が、平坦面を上にした状態で出土した。礫盤石の可能性があるが、埋土に柱痕跡は確認できず、この亜円礫上面にも柱当たりは確認できなかった。

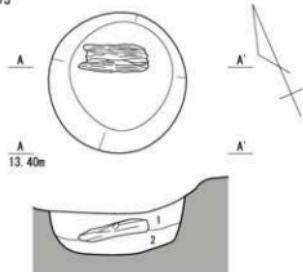
埋土 2層に分層した。各層に礫を含むが堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器3点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器皿はいずれも小片で、分類不能である。

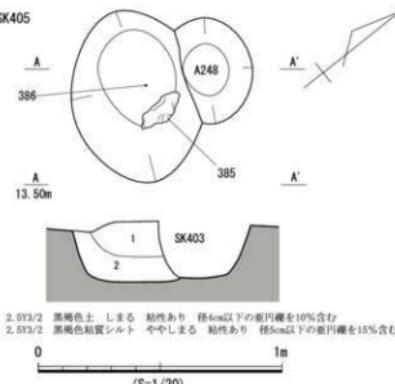
時期 遺物が出土していないが、中世の屋敷地内で検出したことから中世の可能性があると思われる。

SK373



- 1 2.BY3/1 黒褐色粘土質土 ややしまる 粘性強い 径3cm以下の
亜円礫を7%含む 本面を含む
2 BY3/2 オリーブ黒色砂礫土 しまりなし 粘性あり

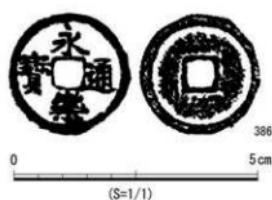
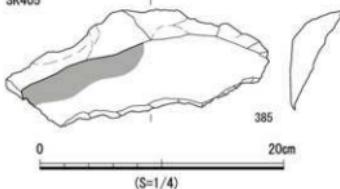
SK405



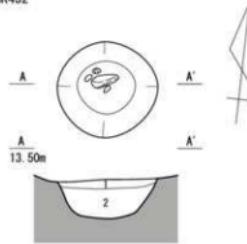
- 1 2.BY3/2 黒褐色土 しまる 粘性あり 径4cm以下の亜円礫を10%含む
2 2.BY3/2 黒褐色粘土質シルト ややしまる 粘性あり 径5cm以下の亜円礫を15%含む

0 1m
(S=1/20)

SK405



SK432



- 1 2.5Y4/2 硝灰黄色土 ややしまる 粘性あり 径4cm以下の亜円礫を
10%含む 炭化物が混じる
2 2.BY3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性あり 径3.5cm以下の亜円礫を
7%含む 粗砂と炭化物が混じる

0 1m
(S=1/20)

図81 SK373・405・432遺構図、SK405出土遺物実測図

SK435(図82)

検出状況 BH9グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.44m、深さ0.33mである。平面形は円形で、断面形は逆台形、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器7点、山茶碗類4点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器はいずれも皿の小片で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のC 1類がある。387は東濃型山茶碗で、大畠大洞4号窯式古段階である。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前半以降と考えられる。

SK440(図82)

検出状況 BH9グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK508より新しく、SK441より古い。

規模・形状 長軸長0.66m、短軸長0.67m、深さ0.33mで、平面形は円形、断面形は半円形である。

埋土 単層でブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。深さ約0.1mの位置で、長さ24cmの扁平な亜円礫が横位で出土した。

遺物出土状況 土師器2点、灰釉陶器1点、山茶碗類1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器皿、灰釉陶器の碗、山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。

時期 本遺構より新しいSK441から、美濃中世後期土師器皿のC 1類と大洞東1号窯式の山茶碗が出土しており、15世紀前半以前と考えられる。

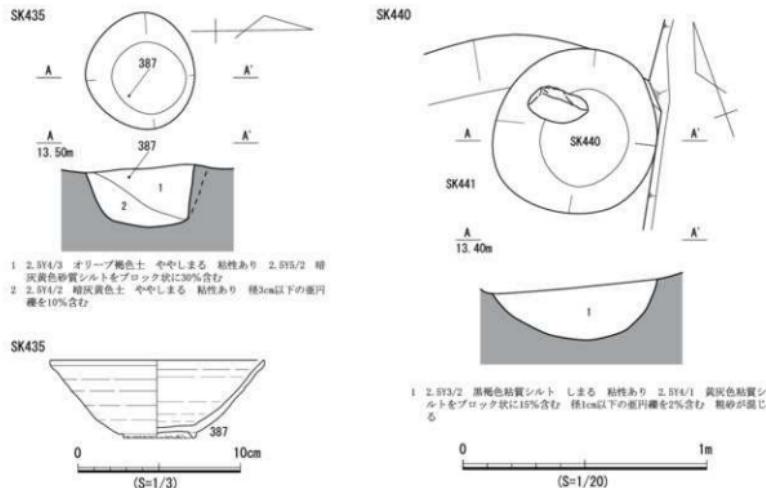


図82 SK435・440遺構図、SK435出土遺物実測図

SK451（図83）

検出状況 BI 7・BJ 7グリッドの大型搅乱坑底面で検出した。埋土がSE 5と似るため、当初、SE 5との重複関係に気付かず、上層部分をSE 5の埋土として掘削し、検出面から約0.3m掘り下げる時点では重複を確認した。SE 5との重複関係は、本遺構が古い。埋土上面では遺構中央に砂礫が円形に堆積し、その周囲をオリーブ黒色土が囲み、同心円状を呈する。

規模・形状 SE 5と重複するため、遺構の東半が残存しておらず、長軸長1.82m以上、短軸長1.07m以上、深さ0.75mで、機能時の平面形は梢円形と考えられる。断面形は半円形で、底部は平坦である。

埋土 6層に分層した。堆積過程は不明だが、6層が1～5層を囲むように遺構壁面に沿って堆積する。

1～5層は礫を含む土で人為的に埋めたと考えられるが、5層下部から自然木と思われる枝や植物片が大量に出土していることから、洪水などによる自然堆積があった可能性も考えられる。

遺物出土状況 土器師皿10点、山茶碗類4点、常滑産陶器1点、石器1点、木製品18点、種子1点が出土した。土器類は散在して出土しており、特徴的な出土状況は確認できなかった。392はSE 5の外周部分の側板と類似する板材で、上端部が3層と6層の境界付近で地上に露出し、下端部が5層と6層の境界付近で遺構底面に接した状態で出土した。

遺物 土器師皿は6層から出土し、M4類（388・389）とC1類（390）がある。山茶碗は東濃型と尾張型の小片が2点ずつ出土した。常滑産陶器は壺の小片が1点出土した。石器（391）は流紋岩製で加工の痕跡が残るが、用途は不明である。392は上端に向けて薄くなる扁平な板材で、コウヤマキの板目材が用いられ

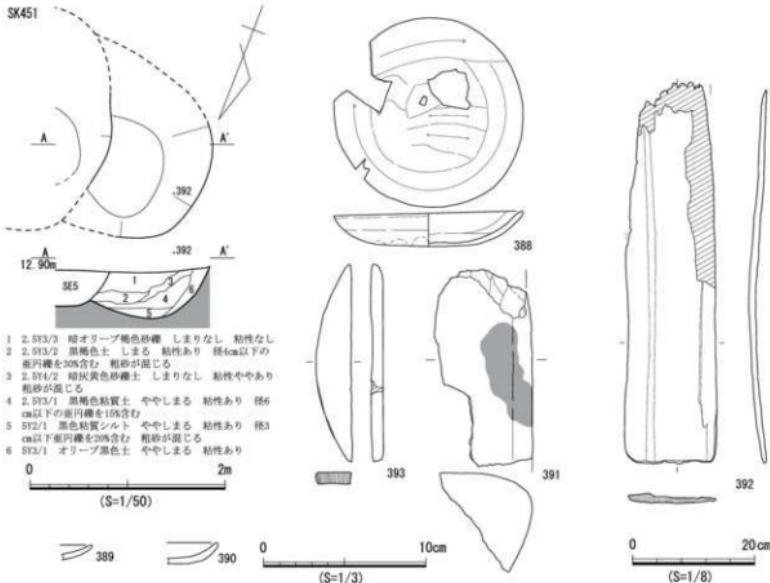


図83 SK451遺構図、出土遺物実測図

る。木製品では、392以外にも板材の破片16点が出土した。長さ62.4cm、幅16.2cm、厚さ1.1cmで、上端部は欠損しており、下端部はほぼ垂直に切断されている。表面に工具による加工痕は確認できず、断面は年輪に沿った湾曲が見られるため、木目に沿って割ったと考えられる。393は半円形の板材で、ヒノキの柾目材を用いている。木目に沿って割れているが、曲物の底板と考えられる。

時期 SE 5との重複関係から、14世紀後半以前と考えられる。

SK480 (図84)

検出状況 BH10グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他の遺構との重複関係は、SK479より新しい。

規模・形状 長軸長0.56m、短軸長0.47m、深さ0.26mである。平面形は楕円形、断面形は逆台形で、底面は平坦である。

埋土 単層でブロック土を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土器器皿2点、山茶碗類1点、瀬戸美濃産陶器1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土器器皿と山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。394は古瀬戸後IV期古段階の縁軸小皿である。

時期 出土遺物から15世紀後半以降と考えられる。

SK490 (図84)

検出状況 BI 9グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.32m、深さ0.16mである。平面形は円形、断面形は逆台形で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。1層にブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 瀬戸美濃産陶器1点が埋土中から出土した。

遺物 395は古瀬戸後III期の縁軸小皿である。

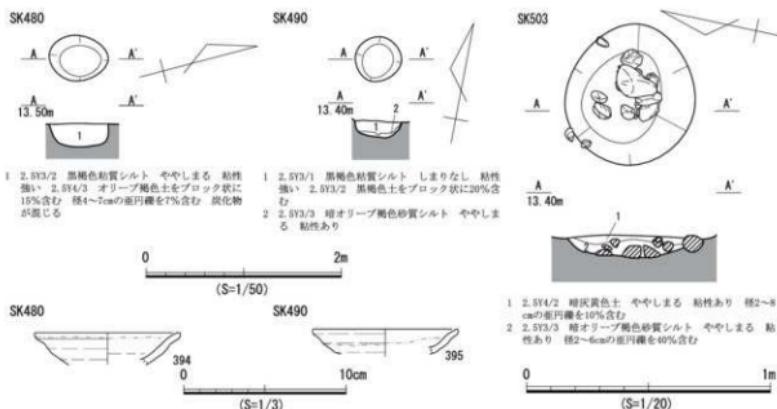


図84 SK480・490・503遺構図、SK480・490出土遺物実測図

時期 出土遺物から15世紀前半以降と考えられる。

SK503 (図84)

検出状況 BH 9 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK507より新しい。

規模・形状 長軸長0.59m、短軸長0.38m、深さ0.07mである。平面形は円形、断面形は浅い皿状で、底面は平坦である。

埋土 2層に分層した。埋土中に多くの礫を含むが、堆積状況は不明である。底面では長さ17cmの扁平な亜円礫が出土した。礫盤石の可能性を考えたが、平坦面が下を向き、柱痕跡や柱当たりも確認できなかつた。

遺物出土状況 石製品2点が、1・2層の層界付近から、礫と混じって出土した。

遺物 石製品はそれぞれ、砂岩製の砥石と加工の痕跡が残る花崗閃緑岩製の未製品である。

時期 重複する遺構から時期判別できる遺物が出土していないが、中世の屋敷地内で検出したことから中世の可能性があると思われる。

SK520 (図85)

検出状況 BH 9 グリッド、大型攪乱坑の底面で検出した。埋土が基盤層のIII b 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.32m、短軸長0.24m、深さ0.16mである。平面形は梢円形、西側の壁面はほぼ垂直である。

埋土 2層に分層したがほぼ水平堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器1点、山茶碗類3点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は美濃中世後期土師器皿のC I 類である。山茶碗類は碗と小皿の小片で、分類可能なものには大畠大洞4号窯式新段階の小皿(396)がある。

時期 出土遺物のから15世紀前半頃と考えられる。

SK521 (図85)

検出状況 BG 3 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なるが、輪郭が漸移的で、平面形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK157より新しい。

規模・形状 長軸長1.16m、短軸長0.63m、深さ0.61mである。平面形は梢円形で、北側の壁面に段がある。底面で柱当たりを確認した。本遺構はSB 1 - P 1 の東側の柱穴が想定される位置にあるが、他の柱穴と比べて掘方の径が大きく、SB 1 を構成する柱穴ではないと判断した。

埋土 10層に分層したが、ブロック状の堆積が認められることから、人為堆積の可能性が考えられる。

遺物出土状況 濱戸美濃産陶器4点が埋土中から散在して出土した。

遺物 濱戸美濃産陶器は、時期不明の碗類と鉢皿の小片と、大窯第2段階の擂鉢(397)である。

時期 出土遺物から16世紀中葉以降と考えられる。

SK522 (図85)

検出状況 BF 4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土が基盤層のIII a 層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SK116より古い。

規模・形状 柱痕跡が残存する柱穴である。長軸長0.8m、短軸長0.64m、深さ0.49mである。平面形は不

整円形、壁面は立ち上がり、底面中央が一段深く掘り込まれる。

埋土 4層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器51点、山茶碗類5点、瀬戸美濃産陶器2点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類可能なものは美濃中世後期土師器皿のC I類(398)がある。山茶碗類は全て碗の小片で、分類可能なものは尾張型の第5型式がある。

時期 出土遺物から15世紀前半頃と考えられる。

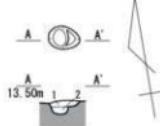
SK523(図85)

検出状況 BF4グリッド、Ia層基底面で検出した。埋土が基盤層のIIIa層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。他構造との重複関係は、SK094より新しい。

規模・形状 長軸長0.44m、短軸長0.38m以上、深さ0.43mである。平面形は不整円形、断面形は逆台形で壁面は立ちあがる。

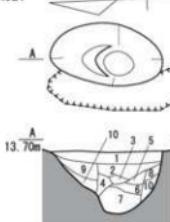
埋土 4層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積の可能性が考えられる。

SK520



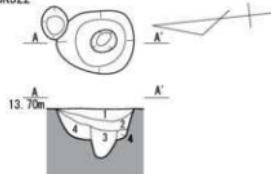
1. 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性あり 2. 2.5t/4/3 オリーブ褐色砂質シルトをブロック状に30%含む 硫化物が混じる
2. 2.5t/4/3 オリーブ褐色砂質シルト ややしまる 粘性あり

SK521



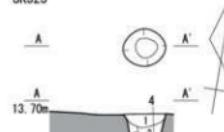
1. 2.5t/4/3 オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を1%含む
2. 2.5t/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややあり 硫化物をわずかに含む
3. 2.5t/4/3 オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫と粗礫を5%含む
4. 2.5t/3 暗オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を5%含む
5. 2.5t/3 暗褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を1%含む
6. 2.5t/4/2 オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を1%含む
7. 2.5t/4/2 暗オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 2cm以下の中円礫を3%含む
8. 2.5t/3/2 暗オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 2cm以下の中円礫を1%含む
9. 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 2cm以下の中円礫を1%含む
10. 2.5t/4/3 オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり やや砂質 1cm以下の中円礫を3%含む

SK522



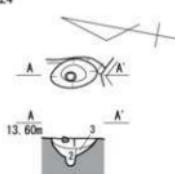
1. 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 3cm以下の中円礫を5%含む
2. 2.5t/3/2 暗オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を5%含む
3. 2.5t/3/2 黒褐色土、ややしまる 粘性ややあり 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 4. 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を5%含む 粗砂を多く含む

SK523



1. 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 3cm以下の中円礫を5%含む
2. 2.5t/3/2 暗オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を5%含む
3. 2.5t/3/2 黑褐色土、ややしまる 粘性ややあり 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 4. 2.5t/4/2 オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 2.5t/4/2 黄色ブロックを5%含む

SK524



1. 2.5t/3 暗オリーブ褐色土、ややしまる 粘性ややあり 硫化物を含む
2. 2.5t/3 黑褐色土、ややしまる 粘性ややあり 1cm以下の中円礫を3%含む
3. 2.5t/4/2 暗灰黄色土、ややしまる 粘性ややあり 2.5t/4/2 黄色ブロックを5%含む

SK520

SK521

SK522

SK522

SK523

SK523

SK523

SK524

SK524

図85 SK520～524遺構図、SK520・SK522～524出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器9点、山茶碗類1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。山茶碗類は、尾張型第6型式の碗（399）である。

時期 出土遺物から13世紀前半と考えられる。

SK524（図85）

検出状況 BH3グリッド、SK227の底面で検出した。埋土が基盤層のIIIa層と明確に異なり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.29m、深さ0.29mである。平面形は長楕円形、壁面の傾斜は緩やかである。

埋土 3層に分層したが、ブロック土を含むことから人為堆積の可能性が考えられる。

遺物出土状況 土師器8点、山茶碗類1点が散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類可能なものには美濃中世後期土師器皿のB I類（400）がある。山茶碗類は東濃型の碗の小片で、分類不能である。

時期 出土遺物から、15世紀前半頃と考えられる。

第5節 近世以降の遺構

1 溝状遺構

SD24（図86）

検出状況 BG 3～BJ 2 グリッド、I 層基底面で検出した。遺構埋土と基盤層のIII a 層は明確に異なり、平面形は明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD25・SD26・SD27・SD30・SK227・SK125などより新しく、SK275・SK274・SK135より古い。

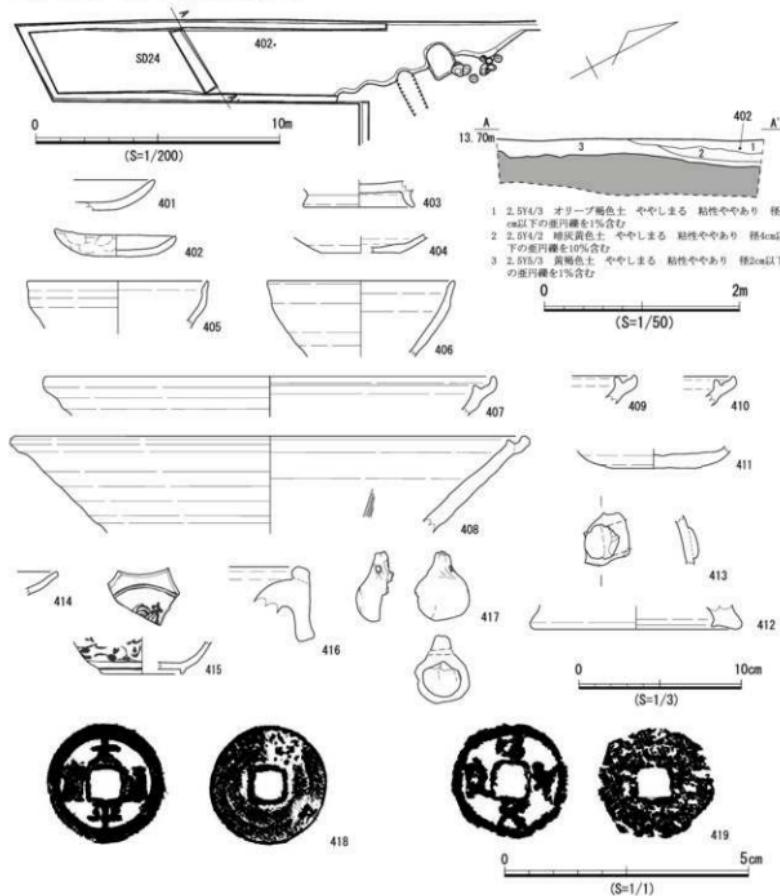


図86 SD24遺構図、出土遺物実測図

規模・形状 ほぼ南北に延びる溝で、遺構の大半は発掘区外となる。深さは0.26mで、底面はほぼ平坦である。

埋土 3層に分層したが堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器262点、須恵器3点、灰釉陶器2点、山茶碗類71点、瀬戸美濃産陶器51点、常滑産陶器17点、土製品4点、錢貨2点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器のうち260点が皿で、他に羽釜がある。分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のB1類、B2-b類(401)、C1類、C2類(402)、M4類がある。須恵器は甕の小片、灰釉陶器は明和27号窯式の碗(403)である。山茶碗類は東濃型が主体で、大畠大洞4号窯式から生田2号窯式(404)が存在し、尾張型は第5型式・第6型式が出土した。瀬戸美濃産陶器は古瀬戸後I期から近世まで存在し、主体は後IV期である。405・406は天目茶碗、407は卸口付大皿、408・409・410は擂鉢で、いずれも古瀬戸後IV期新段階である。411は古瀬戸後III期の縁軸小皿、412は後IV期の四耳壺、413は後期の祖母懐茶壺、414は大窯第3段階の丸皿である。415は近世の染付皿で、漆による補修の痕跡が残る。常滑産陶器は全て甕で、416は第2段階第8型式である。土製品は土鉢(417)である。錢貨は太平通寶(418)と熙寧元寶(419)である。

時期 近代以降の遺物は出土していないが、底面で明治時代の用水と考えられる溝を検出したことから、近代以後と考えられる。

SD25(図87)

検出状況 BH2～BJ1グリッド、SD24の底面で検出した。遺構埋土と基盤層のIIIa層が類似し、平面

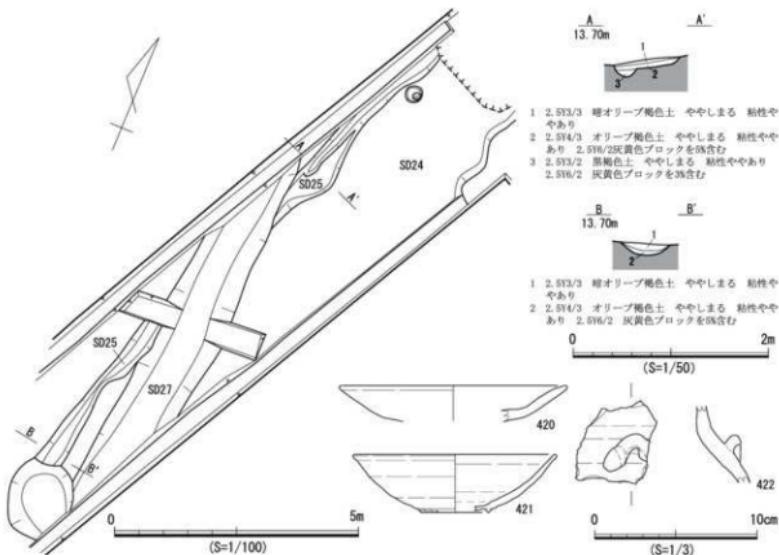


図87 SD25遺構図、出土遺物実測図

形は不明瞭であった。他遺構との重複関係は、SD26より新しく、SD24・SD27・SK214より古い。

規模・形状 南北方向の溝で、北部は発掘区外となり、南部はSK278によって不明である。幅0.66m、深さ0.18m、主軸方位はN-19°-Eである。底面は北から南に向かって緩やかに浅くなる。

埋土 2~3層に分層した。ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器48点、山茶碗類11点、瀬戸美濃産陶器3点、常滑産陶器1点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器のうち49点が皿で、他に羽釜である。分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のB1類(420)とC1類がある。山茶碗類は全て東濃型で、分類可能なものは大畠大洞4号窯式古段階、大洞東1号窯式(421)がある。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸後III期又はIV期の壺(422)、古瀬戸後IV期新段階又は大窯第1段階の擂鉢、近世の碗がある。常滑産陶器は甕の小片である。

時期 出土遺物の最新型式から、近世以降と思われる。

SD26(図88)

検出状況 BH2~BI2グリッド、SD24の底面で検出した。他遺構との重複関係は、SD25より古い。

規模・形状 遺構の南部と北部が発掘区外となる。幅1.8m、深さ0.31m、主軸方位はN-4°-Wで、屋敷地の西辺を規定する南北方向の区画溝と考えられる。南部底面が土坑状に窪む。

埋土 2層に分層した。ブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器66点、山茶碗類25点、瀬戸美濃産陶器4点、常滑産陶器3点、産地不明陶器2点、木製品1点が埋土中から散在して出土した。なお、南部の土坑状の窪みから、墨書のある山茶碗(427)が出土した。また、427の近くで、遺構底面に垂直に刺さった状態の棒材が出土した。杭の可能性があるが、明瞭な加工痕は確認できなかった。

遺物 土師器は全て皿で、分類可能なものには、美濃中世後期土師器皿のB1類(423)とC1類(424)がある。山茶碗類は東濃型が主体で、分類可能なものには、大畠大洞4号窯式の小皿(425)、大洞東1号窯式の碗(426・427)と小皿、尾張型第7型式の碗がある。427は外面底部に丸と曲線を組み合わせた墨書があり、花押若しくは略押と考えられる。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸中期の壺又は瓶(428)、後III又はIV期の広口有耳壺(429)、後IV期新段階の卸目付大皿(430)、器種・産地不明の近世陶器(431)が出土した。常滑産陶器は、分類不能の甕の胴部破片である。

時期 出土した遺物から近世のものと思われる。

SD27(図89)

検出状況 BJ1~BI2グリッド、SD24の底面で検出した。遺構埋土と基盤層のIIIa層は明確に異なり、平面形は明瞭であった。他の遺構との重複関係は、SK278・SD25・SD30より新しい。

規模・形状 南北方向の溝で、幅0.56m、深さ0.4m、主軸方位はN-3°-Eである。断面形状は逆台形で、底面は平坦で傾斜は確認できない。

埋土 ブロック土や礫が混じり、粗砂が主体の層もあり、埋土の様相が周辺の溝状遺構のものと異なる。

遺物出土状況 土師器67点、灰釉陶器5点、山茶碗類18点、瀬戸美濃産陶器19点、常滑産陶器9点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器のうち63点が皿で、他に羽釜(432)がある。分類可能なものには、美濃中世後期土師器

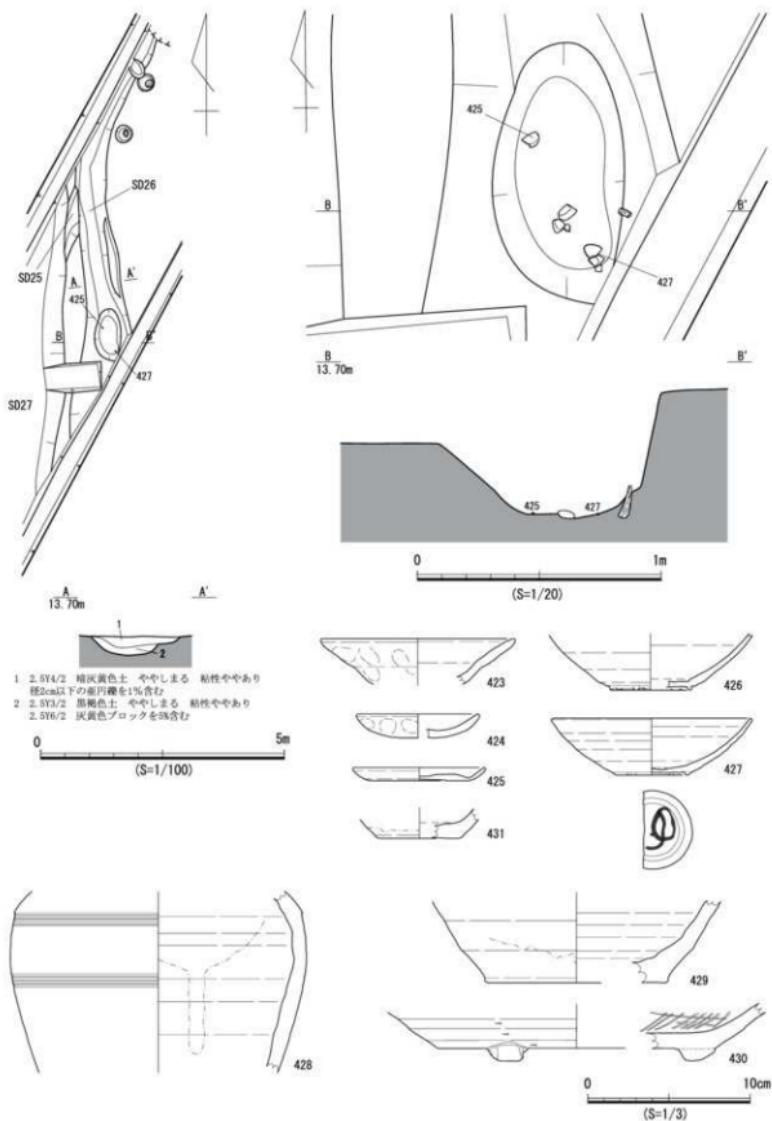


図88 SD26遺構図、出土遺物実測図

皿のC 1類(433)、C 2類(434)、M 4類がある。灰釉陶器は美濃須衛窯Ⅷ期の壺(435)がある。山茶碗類の分類可能なものには、東濃型では大洞東1号窯式、尾張型では第5型式(436)がある。瀬戸美濃産陶器は、437は古瀬戸中II期の折縁深皿、438は後III期又はIV期の口広有耳壺、439は後IV期の釜、440は後IV期古段階の直線大皿、441は後IV期古段階の盤類、442は後IV期新段階の天目茶碗、443は大窯第2段階の丸皿、444は大窯第3段階の天目茶碗を転用した加工円盤である。常滑産陶器は壺と擂鉢があるが、胴部のみのため分類不能である。

時期 近代以降の遺物は出土していないが、明治時代の地積図に描かれている用水に該当すると考えられる。1946(昭和21)年米軍撮影の航空写真では確認できないため、明治時代から昭和初期にかけ

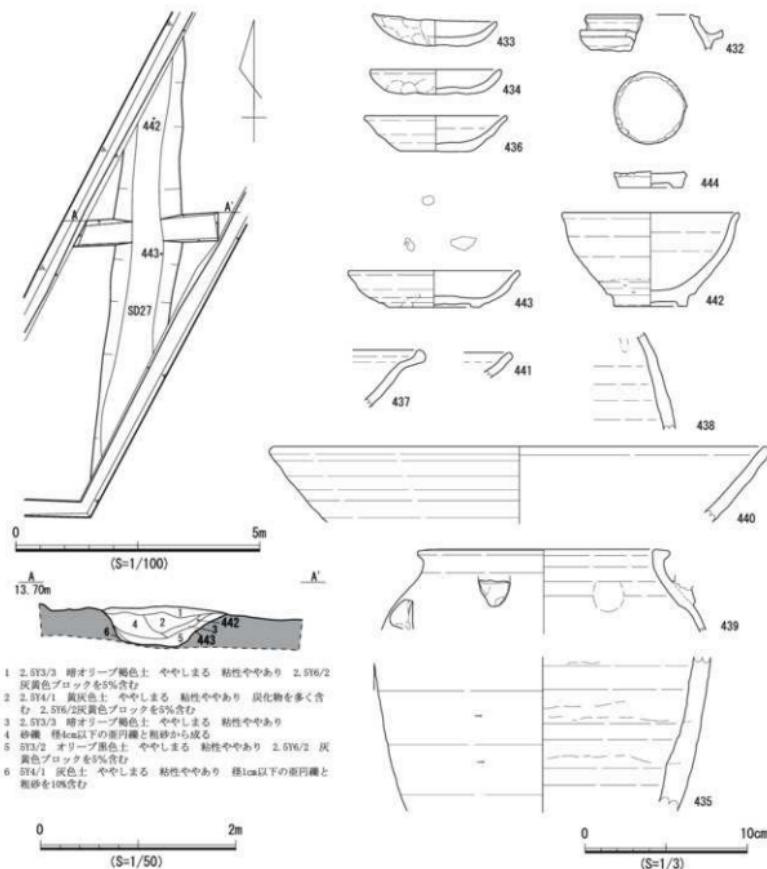


図89 SD27遺構図、出土遺物実測図

て埋没したと考えられる。

2 土坑

SK258（図90）

検出状況 BH4 グリッド、I a 層基底面で検出した。埋土は基盤層のIII a 層と類似しており、輪郭が不明瞭であったが、炭化物や遺物が確認できた。このため、炭化物と遺物を含む範囲を遺構とした。他遺構との重複関係は、SK256・SK257・SK259などより新しく、SK261より古い。

規模・形状 長軸長2.52m、短軸長1.5m、深さ0.18mである。平面形は不整楕円形、断面形は浅い皿状で、底面は東部が1段深くなる。

埋土 3層に分層したが、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器9点、灰釉陶器1点、山茶碗類6点、瀬戸美濃産陶器4点が埋土中から散在して出土した。

遺物 土師器は全て皿の小片で、分類不能である。須恵器は壊身、灰釉陶器は百代寺窯式併行の小碗である。山茶碗はいずれも小片で、分類不能である。瀬戸美濃産陶器は、古瀬戸後IV期の甕と大窯第1段階の小壺（377）、登窯第1段階第4小期の端反碗（378）である。

時期 出土遺物から17世紀末以降と考えられる。

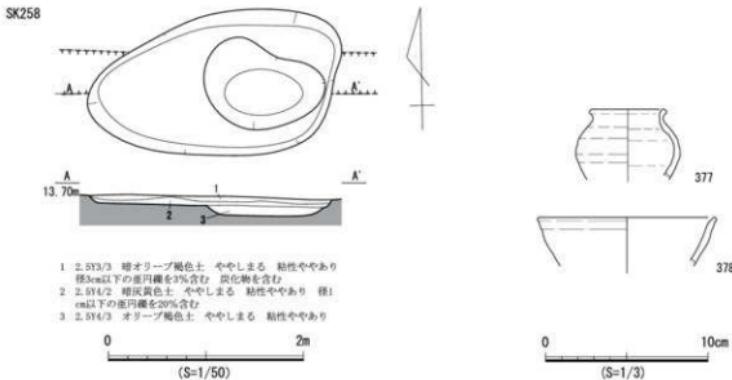


図90 SK258遺構図、出土遺物実測図

第6節 その他の遺構出土遺物

中世の土坑から出土した特徴的な遺物を図示した(図91・92)。

446はSK49から出土した泥岩製の砥石である。447はSK75から出土した第9型式の尾張型山茶碗、448は古瀬戸後I期又はII期の瓶子皿類で、内外面ともに釉が施される。449はSK81から出土した美濃中世後期土師器皿のB1類で、口縁部が外反し、外面体部に指頭圧痕が残る。450はSK87から出土した伊勢型鍋の第1段階で、煤の付着は確認できない。451はSK97から出土した土錐である。452はSK104から出土した美濃中世後期土師器皿のC2類で、外面に指頭圧根が残るが、内面は摩滅し調整痕が残存しない。453はSK121から出土した明和1号窯式又は大畑大洞4号窯式古段階の東濃型山茶碗である。454はSK171から出土した古瀬戸後III期又は後IV期の御皿で、内面のみ灰釉が確認できる。455はSK180から出土した大洞東1号窯式、456はSK210から出土した大畑大洞4号窯式新段階の東濃型山茶碗である。457はSK240から出土した第6型式の尾張型山茶碗である。458はSK242から出土した美濃中世後期土師器皿のB2-a類で、内外面ともにナデ調整が施される。459はSK251から出土した砂岩製の砥石である。460はSK271から出土した羽釜のA4類で、外面体部にハケ目調整が施される。461はSK272から出土した大畑大洞4号窯式新段階の東濃型山茶碗、462は古瀬戸後IV期の花瓶1類の頸部で、内外面に灰釉が施される。463はSK278から出土した内耳錐の口縁部、464は美濃中世後期土師器皿のCII類、465は大畑大洞4号窯式新段階の東濃型山茶碗である。463と464は外面の口縁部に煤が付着する。466はSK280から出土した明和1号窯式の東濃型山茶碗である。445はSK281から出土した古瀬戸後IV期又は大窯第1段階の擂鉢で、内面底部が全体的に摩耗する。467はSK279から出土した砂岩製の砥石である。468はSK305から出土した美濃中世後期土師器皿のC2類、469はSK316から出土した美濃中世後期土師器皿のCI類で、468は内面にナデ調整が施され、469は外面に指頭圧痕が残る。470はSK331から出土した大洞東1号窯式の東濃型山茶碗である。471と472はSK336から出土した大洞東1号窯式、473は大洞東1号窯式又は脇之島3号窯式の東濃型山茶碗、474と602は土錐である。475はSK351から出土した大畑大洞4号窯式新段階の東濃型山茶碗である。476はSK362から出土した美濃中世後期土師器皿のB1類である。477はSK383から出土した脇之島3号窯式の東濃型山茶碗である。478はSK407から出土した古瀬戸後III期の折縁深皿で、内外面ともに摩滅が激しく、施釉は痕跡が残る程度である。479はSK455から出土した脇之島3号窯式の東濃型山茶碗である。480はSK474から出土した凝灰岩製の砥石である。

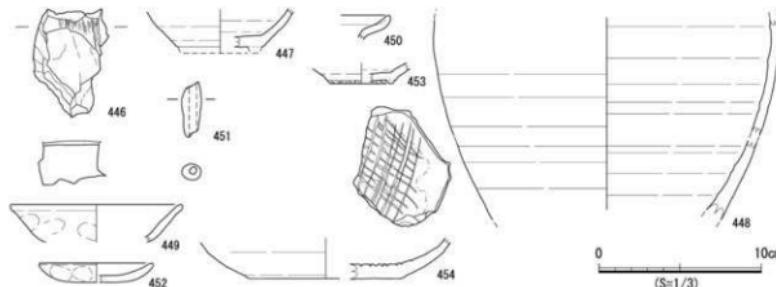


図91 その他の遺構出土遺物実測図(1)

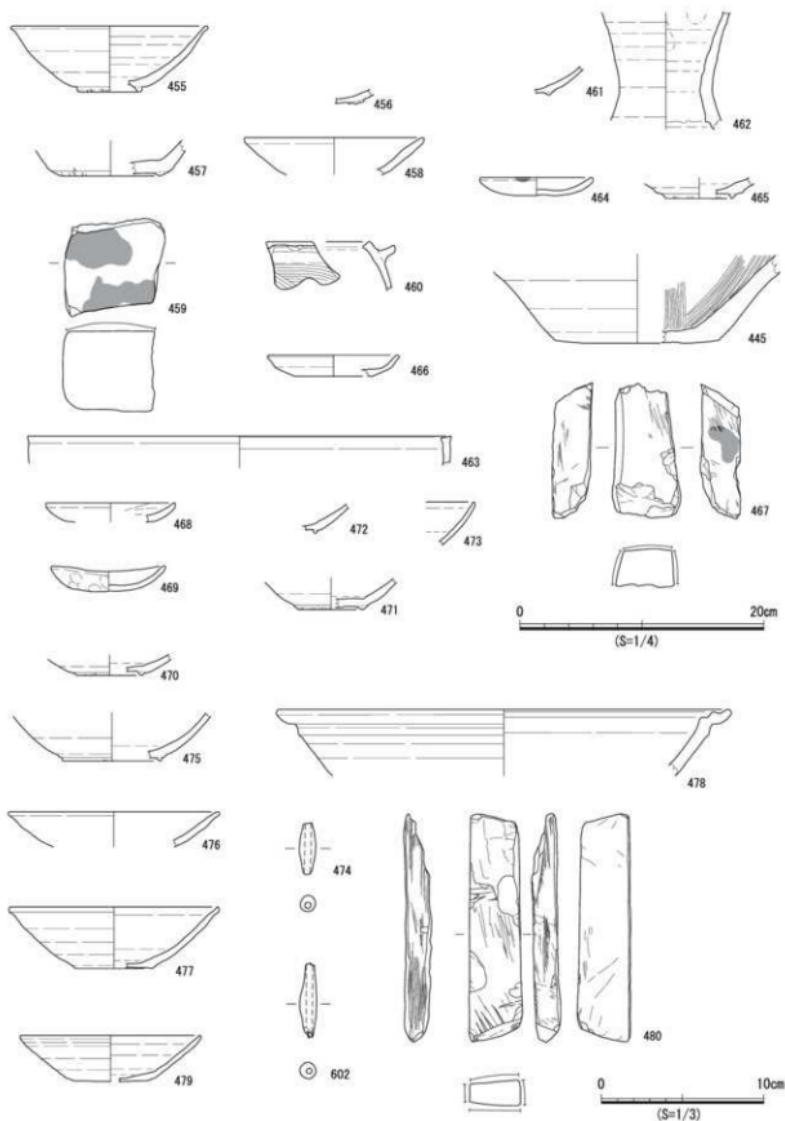


図92 その他の遺構出土遺物実測図（2）

第7節 搅乱坑・遺物包含層出土遺物

比較的残存状態が良く、時期が判明した遺物など133点を図示した（図93～97）。

481～511は土師器である。481はロクロ成形の皿、482～498は美濃中世後期土師器皿である。482・483はB 1類で口縁部が外反する。484はB 2-b類、485はB類である。486～495はC 1類で、いずれも外面に指頭圧痕が顕著に残り、494は外面底部中央がヘソ状に凹む。496はC 2類で、内面底部に煤が少量付着する。497はM 3類、498はM 4類である。499は清型鍋、500・501は内耳鍋のA類、502～505は伊勢型鍋の第1段階で、504は外面口縁部に煤が付着する。506～511は羽釜のA類で、507は口縁部に径0.4cmの円孔が貫通する。

512・513は須恵器で、512是有蓋坏蓋、513は甌である。514～518は灰釉陶器である。514～517は碗で、514・515は丸石2号窯式、516・517は西坂1号窯式、518は長頸瓶で10世紀のものである。519～553は山茶碗類である。尾張型の碗では、519は第3型式、520は第4型式、521～526は第5型式、527・528は第6型式、529は第8型式、530は第8又は9型式、531は第10型式である。528は底部中央に穿孔を有する。碗以外では、532・533は第6型式の小皿、534～537は片口鉢で、534は第6型式、535は第8型式、536は第9又は10型式、537は第10型式である。東濃型の碗では、538は明和1号窯式、539は明和1号窯式又は大畑大洞4号窯式、540～543は大畑大洞4号窯式古段階、544は大畑大洞4号窯式新段階、545は大畑大洞4号窯式、546～548は大洞東1号窯式、549は大洞東1号窯式又は脇之島3号窯式、550は生田2号窯式である。碗以外では、551～553は大畑大洞4号窯式の小皿で、551は内外面口縁部に煤が付着し、灯明皿として用いられたと考えられる。

554～591は瀬戸美濃産陶器である。554～560は天目茶碗で、いずれも内外面に鉄釉を施す。554は古瀬戸後II期、555・556は後IV期新段階、557は後IV期、558・559は大窯第1段階、560は大窯第3段階である。561～563は平碗で、561・562は古瀬戸後III期、563は後IV期新段階である。564は古瀬戸後III期の縁釉小皿である。565は大窯第2段階の丸皿、566は大窯第1又は2段階の端反皿又は丸皿で、いずれも内面底部に印花文を施す。567・568は卸目付大皿で、567は古瀬戸後IV期古段階、568は後IV期新段階、569～571は折縁深皿で、569は古瀬戸中期、570は後I期、571は後II期である。572は後I期又はII期の盤類で、ハケ塗り後に付け掛けで灰釉を施している。573～582は擂鉢で、573～577は古瀬戸後IV期新段階、578は後IV期、579は大窯第1段階、580～582は大窯第2段階である。583は古瀬戸中期の四耳壺で、耳部の上側を3本の平行な線が回る。584は古瀬戸後I期の燭台の受け皿で、灰釉を施す。585は古瀬戸後I期又はII期の仏供、586・587は仏龕具で、586は古瀬戸後IV期古段階、587は古瀬戸後期である。588は古瀬戸後期の内耳鍋、589は古瀬戸後IV期の土瓶又は釜の蓋である。590～593は近世陶器で、590は登窯第8小期の擂鉢、591は登窯第1又は2段階の小碗、592・593は器種不明で、593は底部に穿孔を有する。594～597は常滑産陶器の甌で、594は中野編年9型式、595は10型式、596・597は分類不能である。598～601は中国産磁器である。598・599は白磁皿で、598はE群で口縁部が外反し、599はA群で内面底部に線刻を施す。600・601は龍泉窯系の青磁碗で、600はC類で外面口縁部付近に片切彫の凹線4本を施す。601はD 1類で、外面底部から高台疊付にかけて釉が削り取られている。

602・604は土製品で、603は土錘、604は土玉である。

605～608はいずれも砥石で、605は流紋岩製、606～608は砂岩製である。

609～613は金属製品で、609は鉛玉、610は熙寧元寶、611は銭種不明の錢貨である。612は釘か鍵、613は火打ち鉄の可能性があるが、損傷しており用途は不明である。

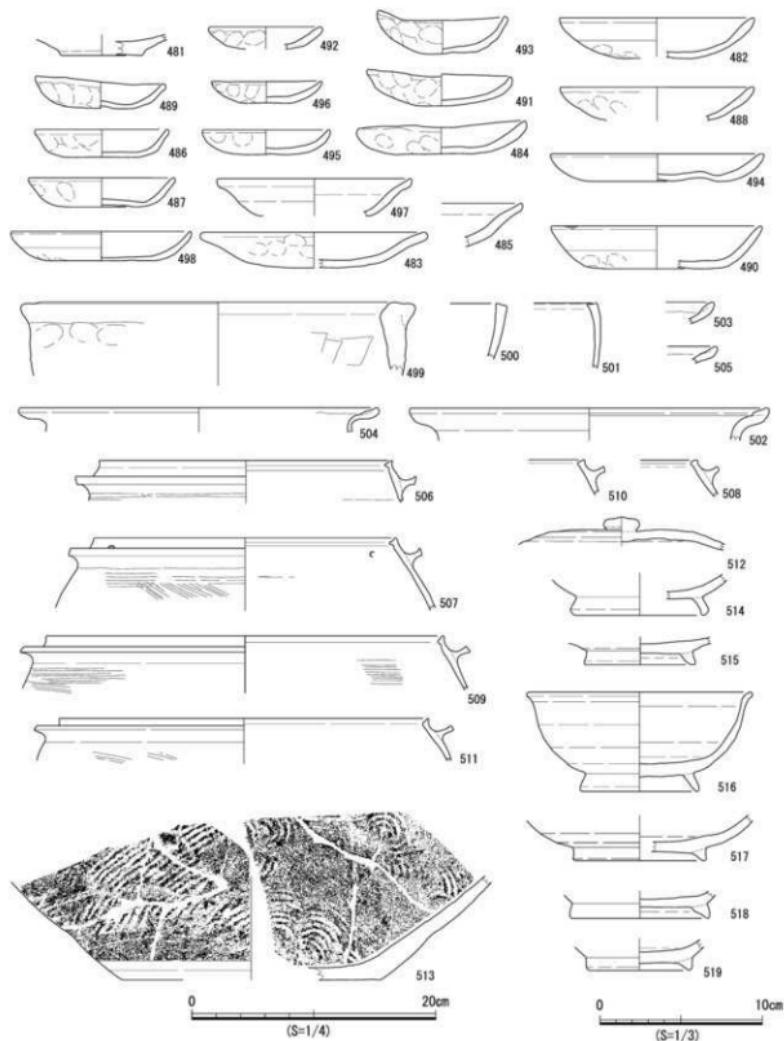


図93 摂乱坑・遺物包含層出土遺物実測図（1）

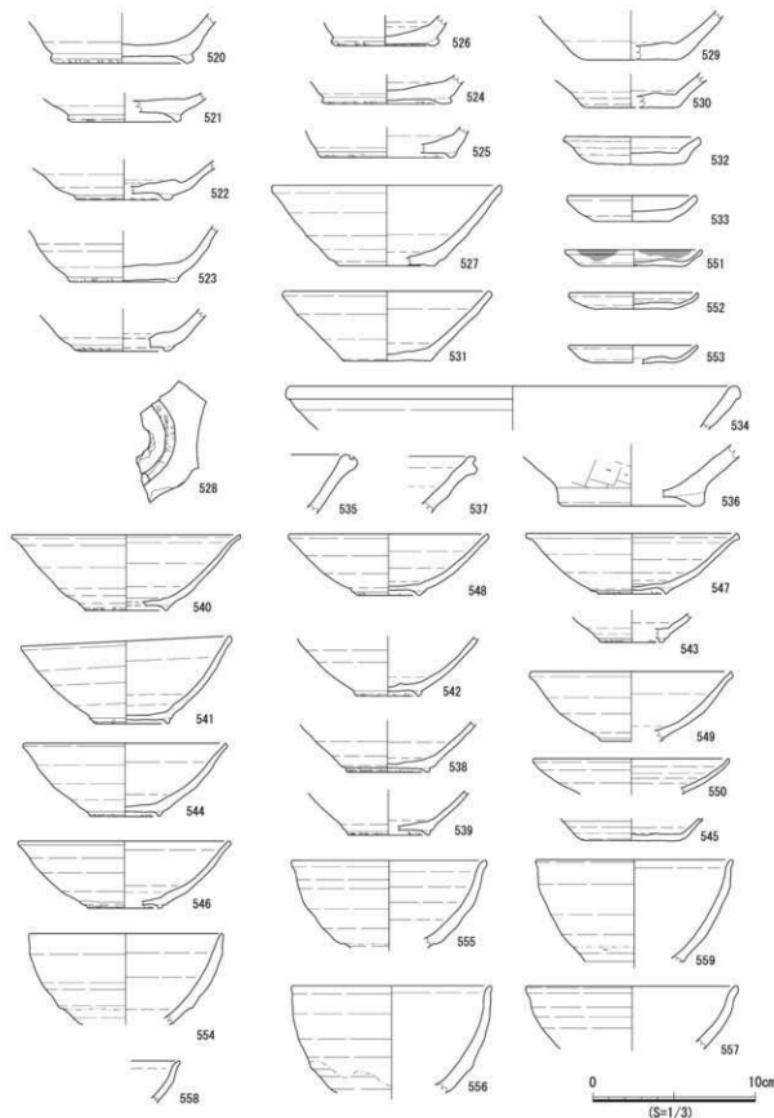


図94 搾乱坑・遺物包含層出土遺物実測図（2）

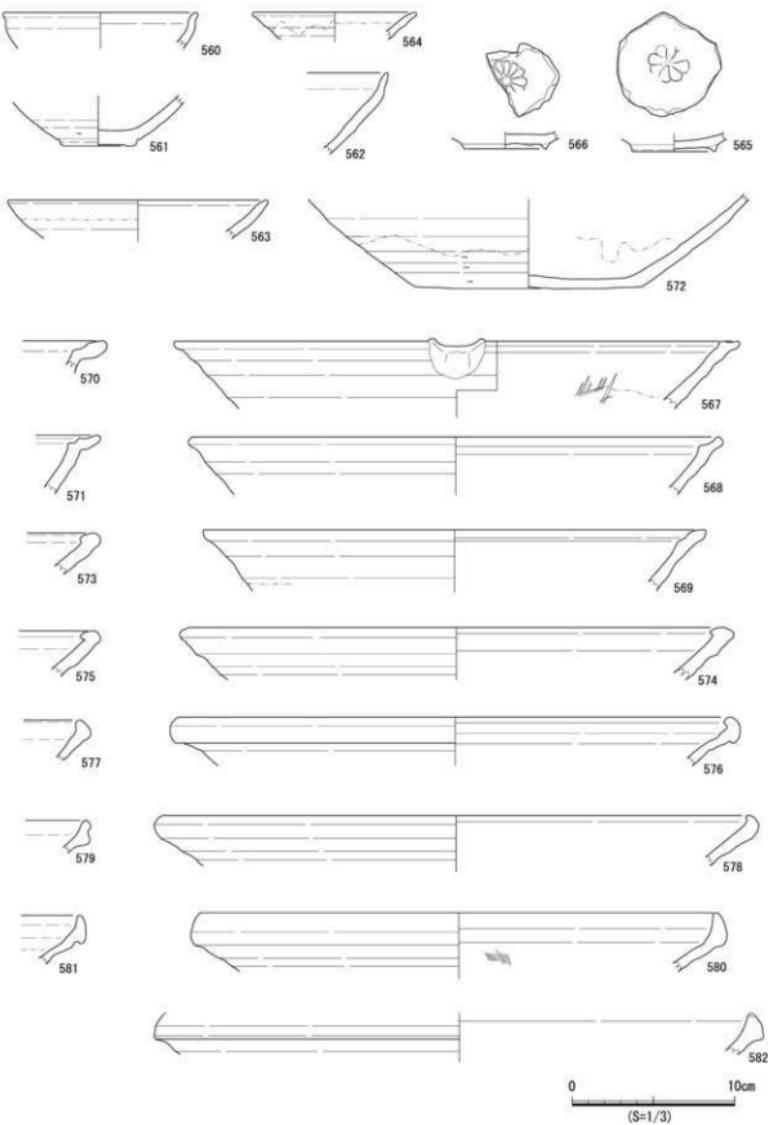


圖95 摳亂坑・遺物包含層出土遺物實測圖（3）

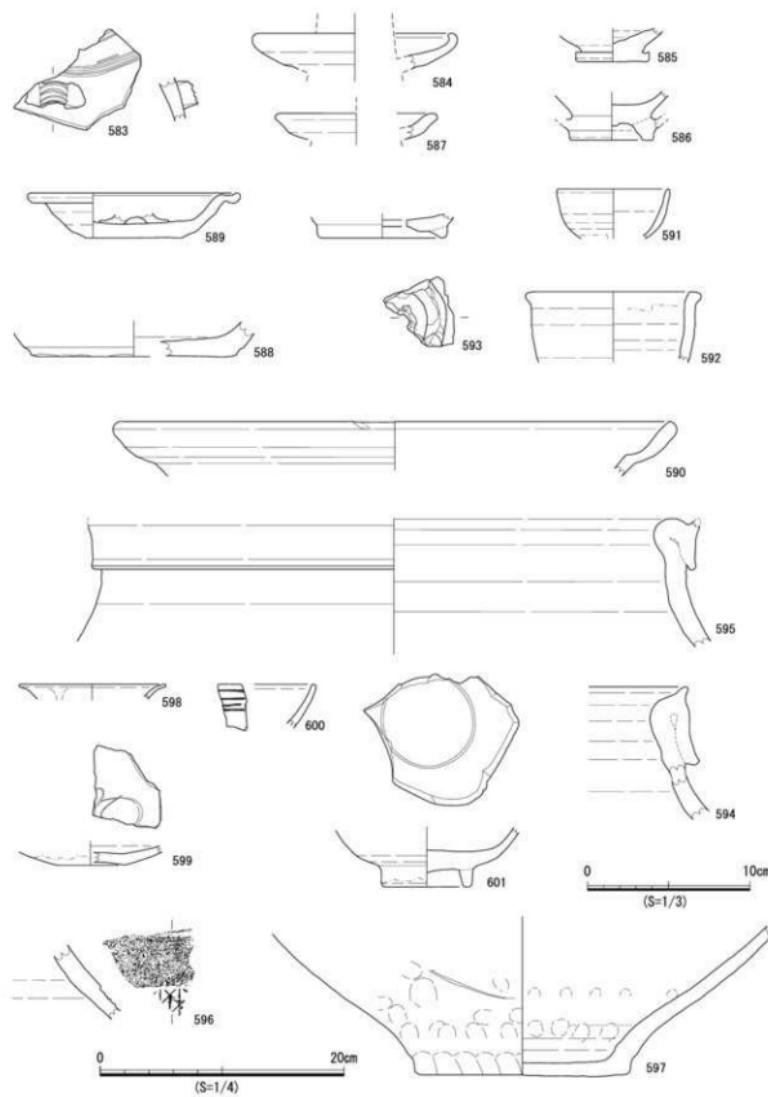


図96 撹乱坑・遺物包含層出土遺物実測図（4）

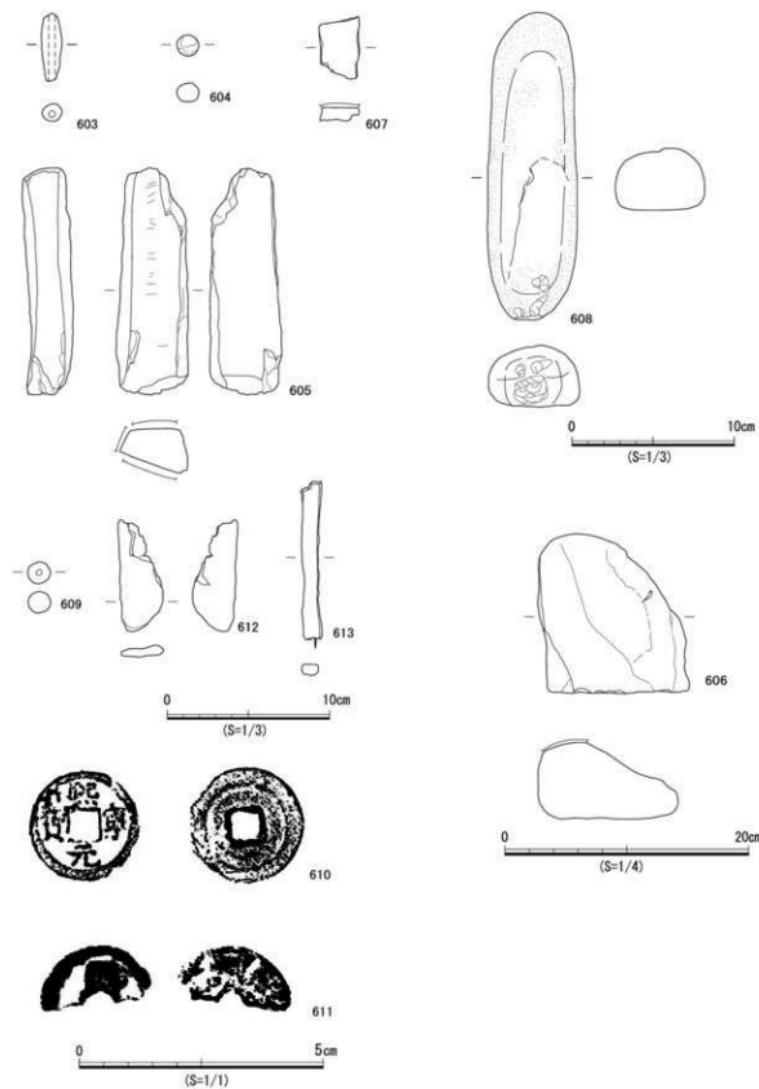


図97 掘乱坑・遺物包含層出土遺物実測図（5）

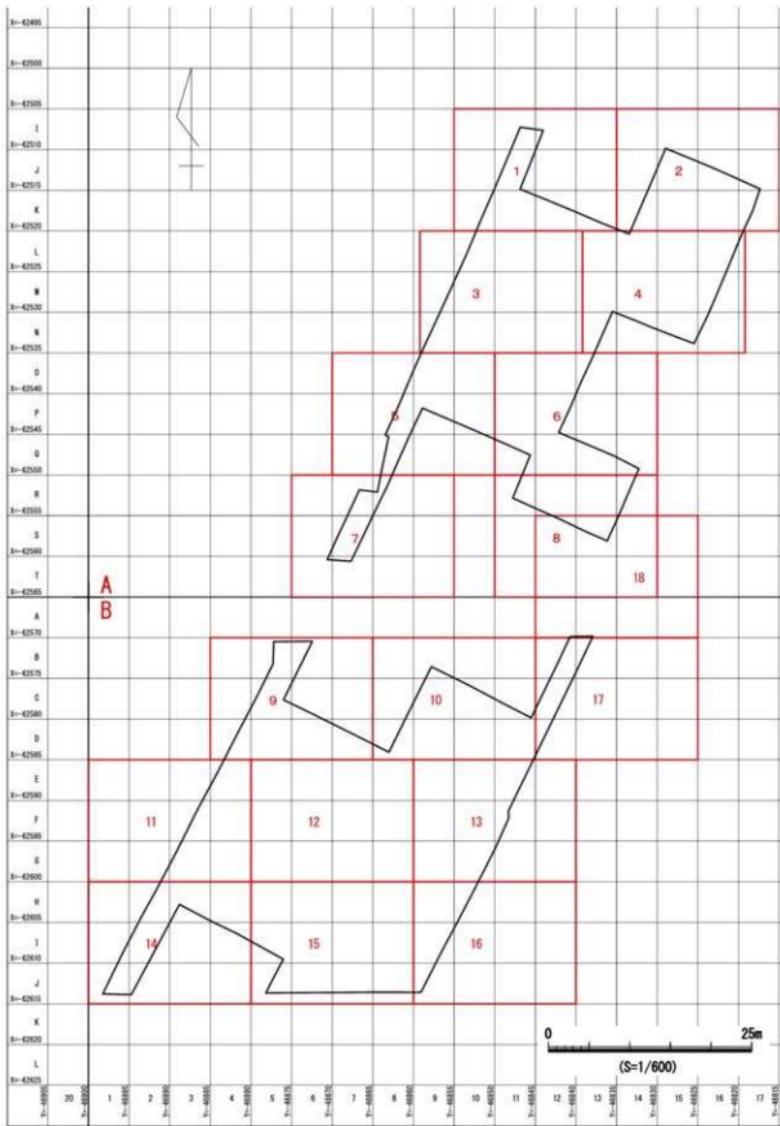


図 98 発掘区全域図 割付図

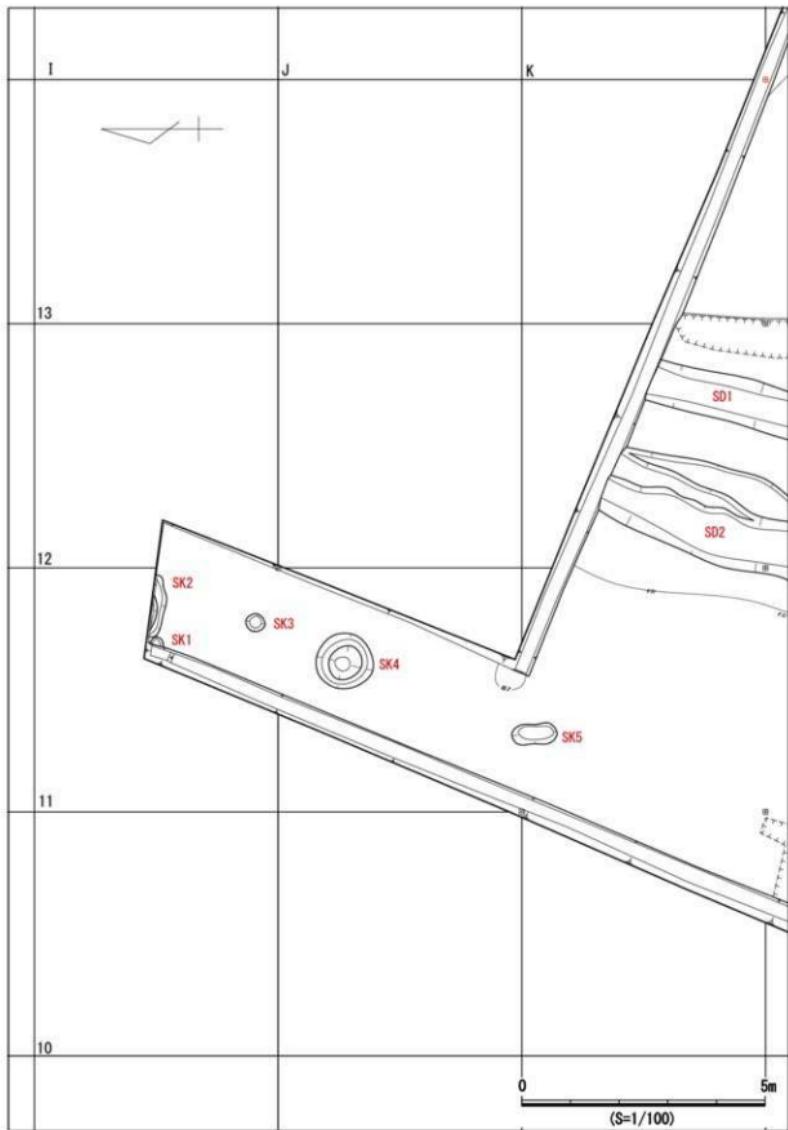


図99 発掘区全図 分割図（1）



図100 発掘区全域図 分割図(2)

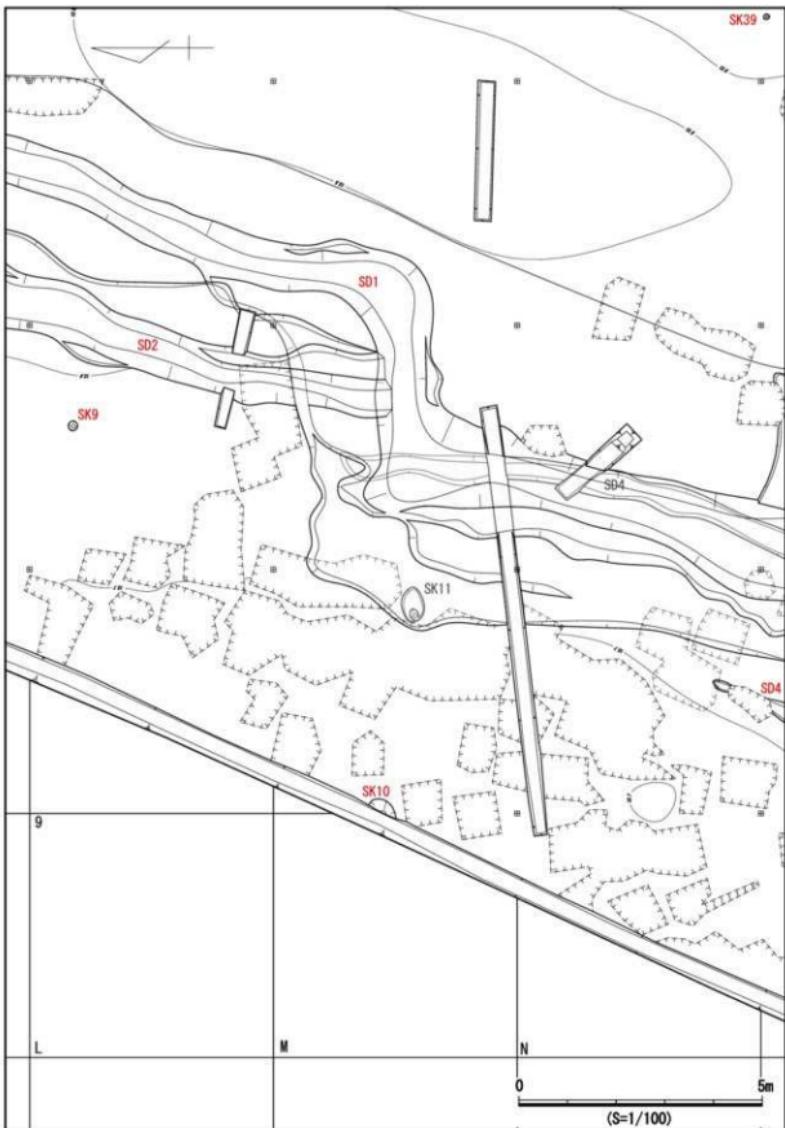


図101 発掘区全図 分割図（3）

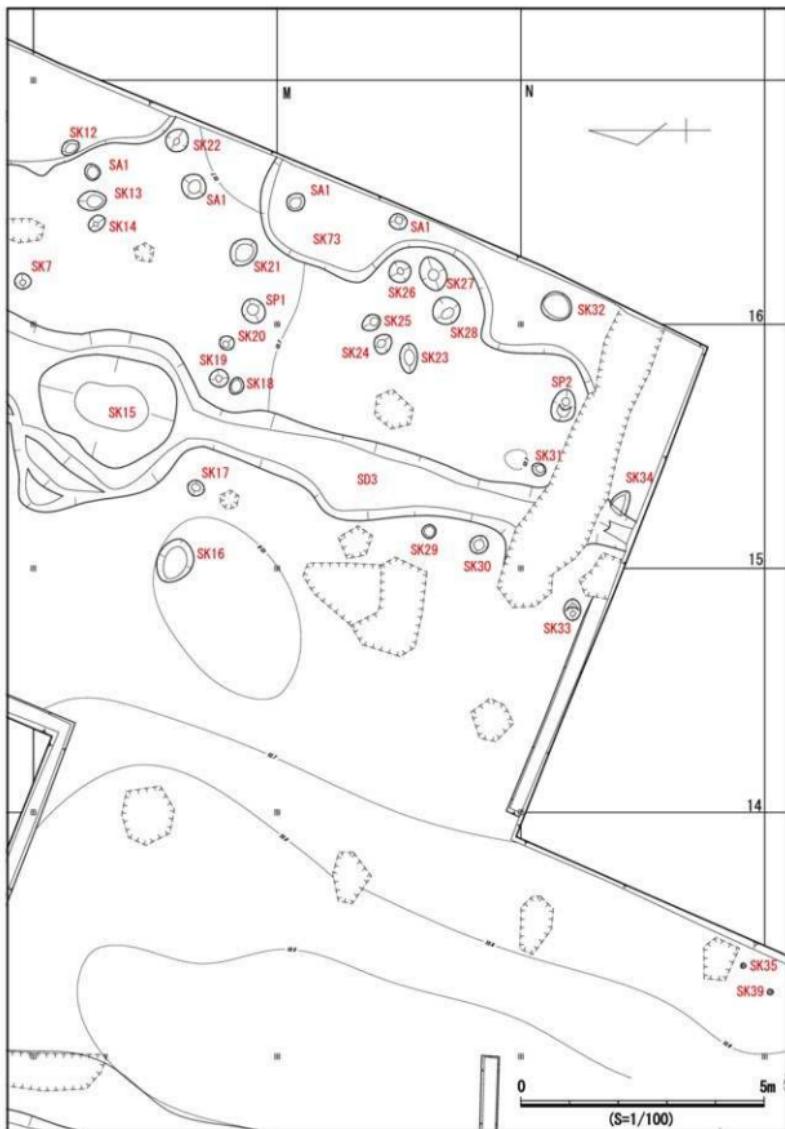


図102 発掘区全域図 分割図(4)

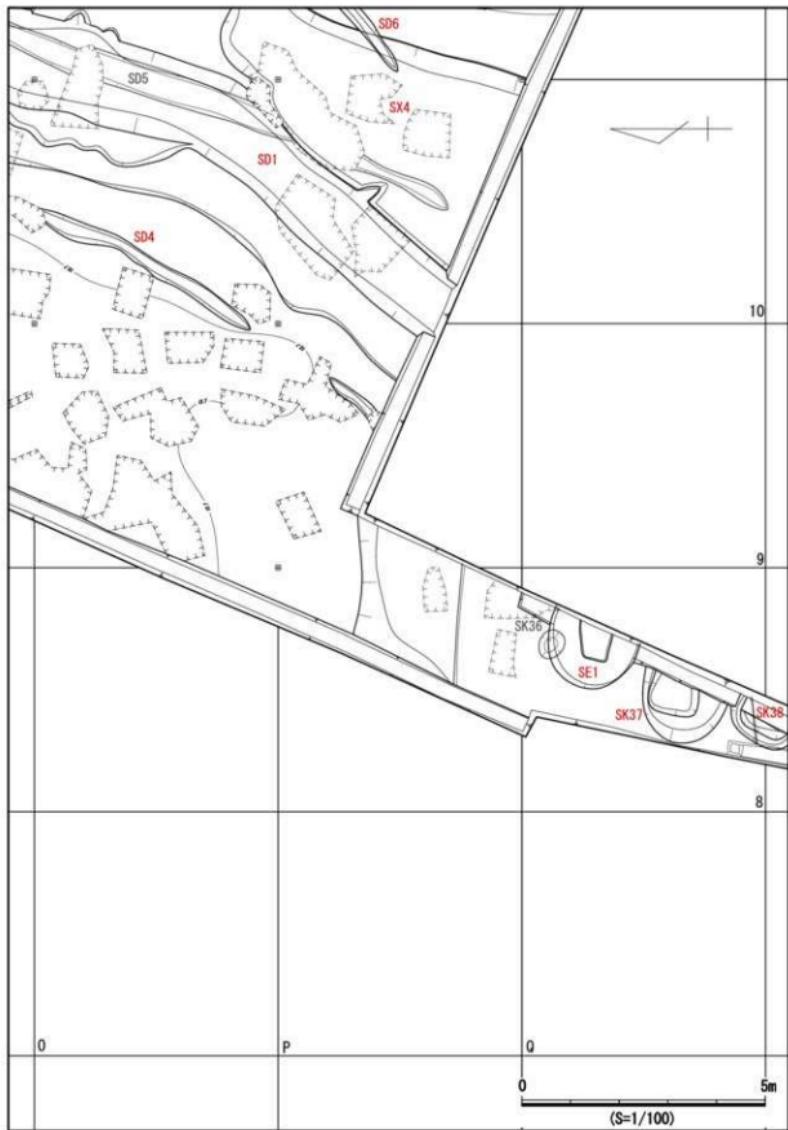


図103 発掘区全図 分割図（5）

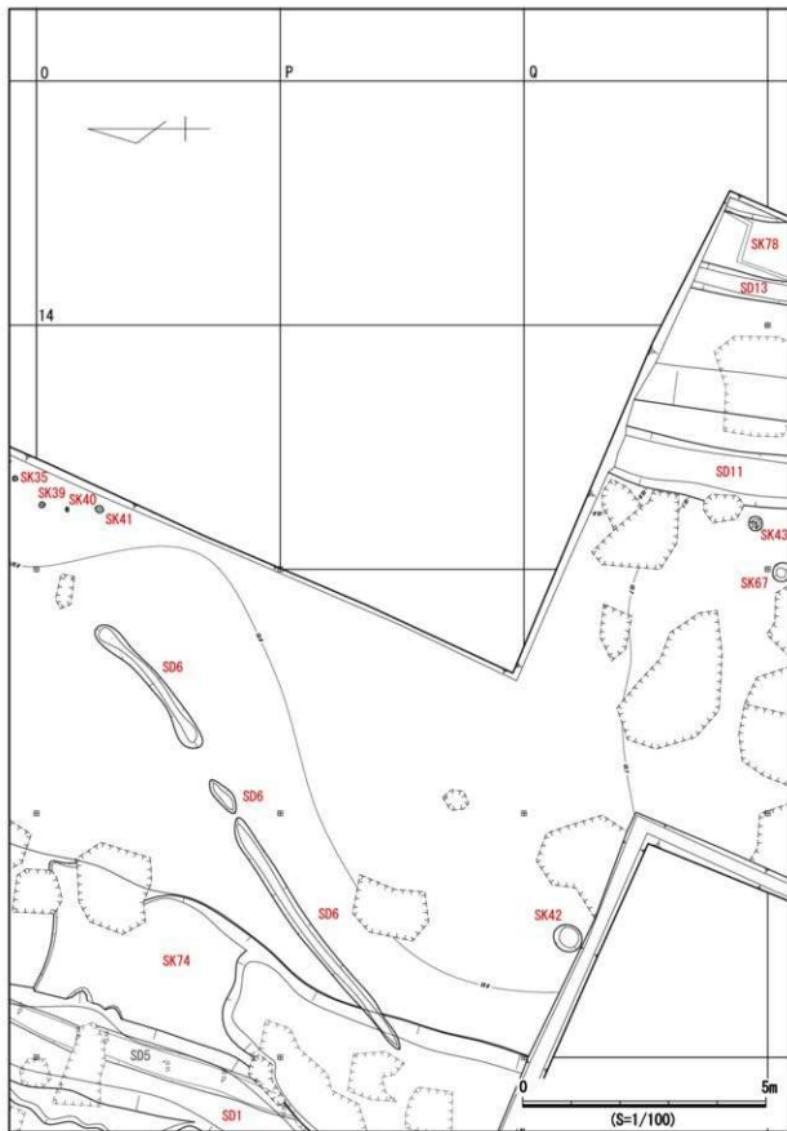


図104 発掘区全域図 分割図（6）

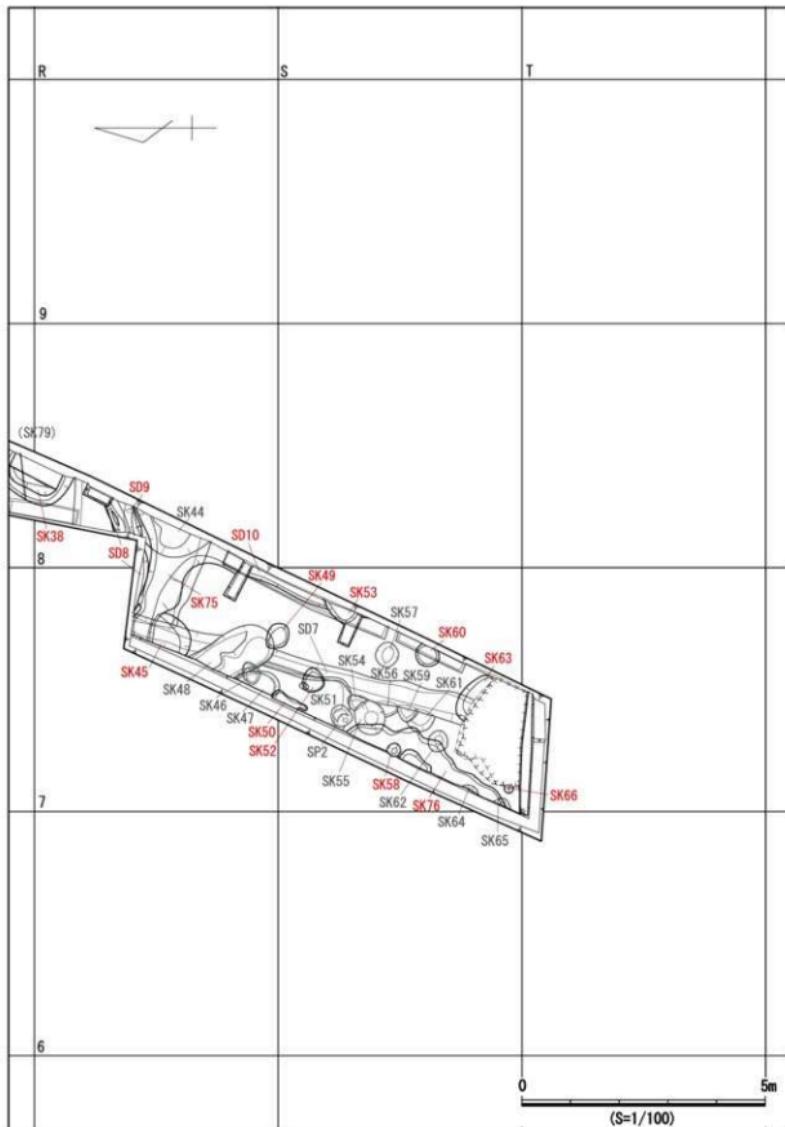


図105 発掘区全図 分割図（7）

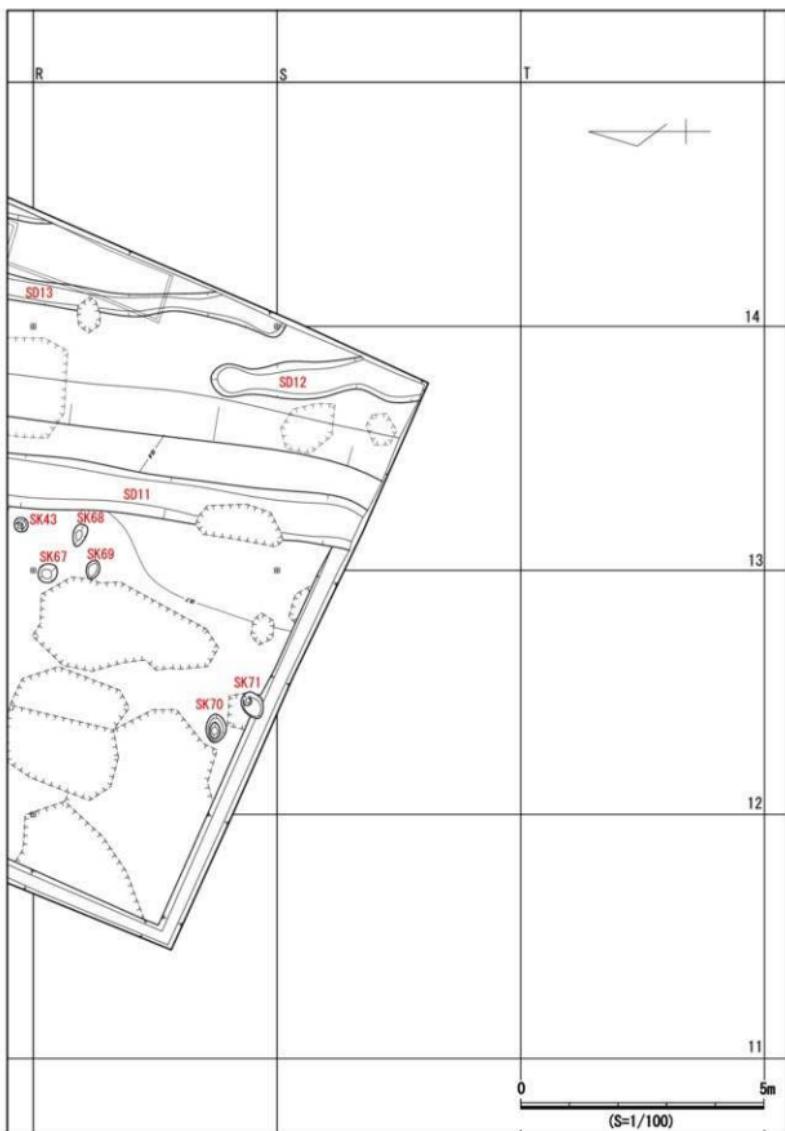


図106 免振区全域図 分割図(8)

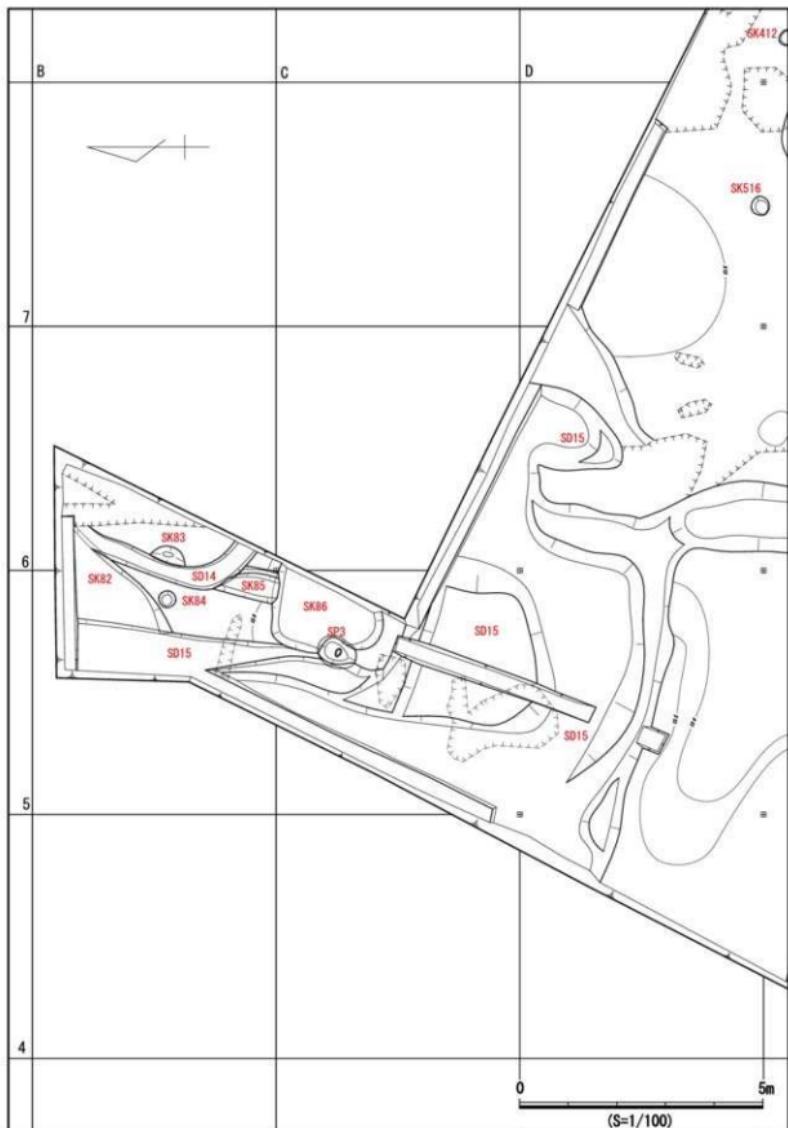


図107 発掘区全域図 分割図（9）



図108 発掘区全域図 分割図(10)

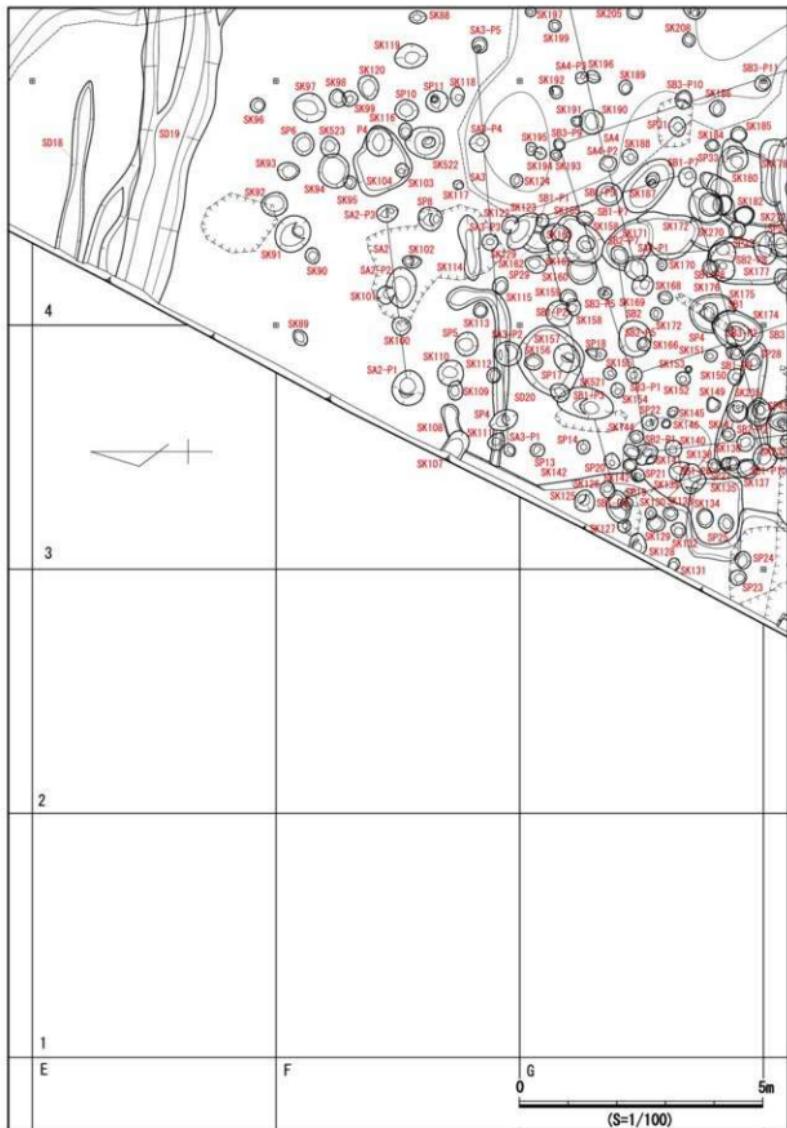


図 109 発掘区全域図 分割図 (11)

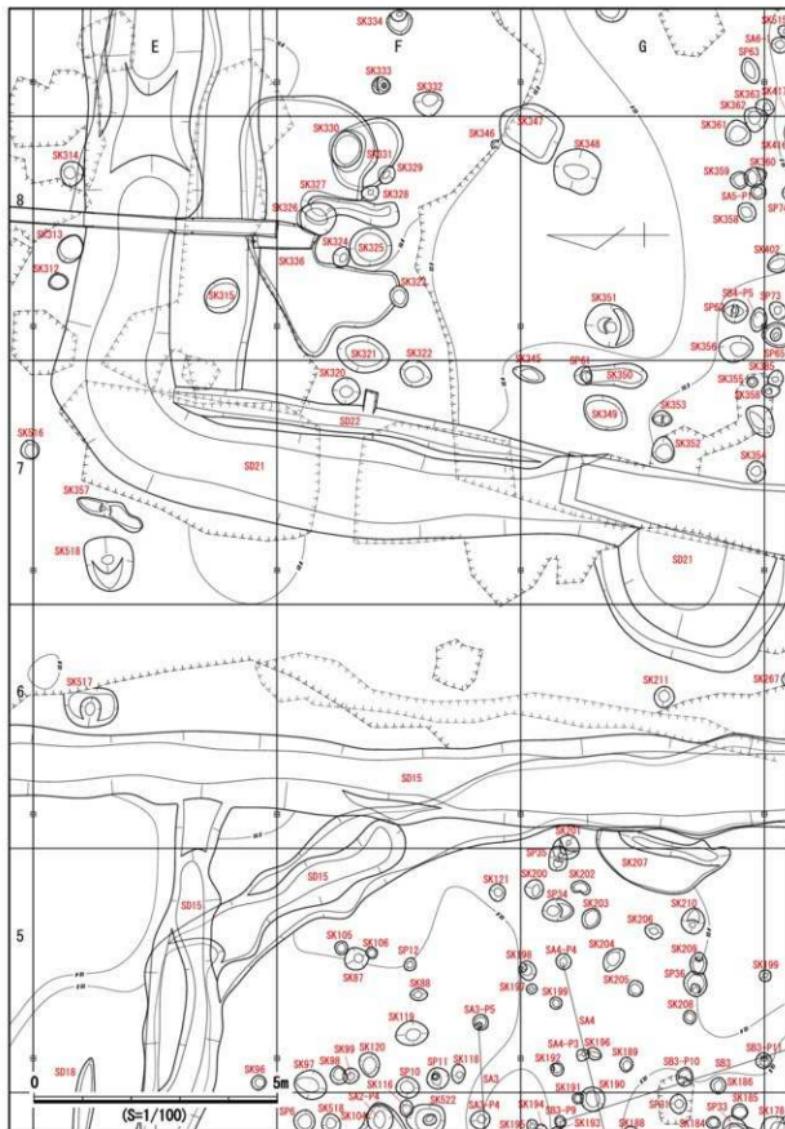


図 110 発掘区全域図 分割図 (12)

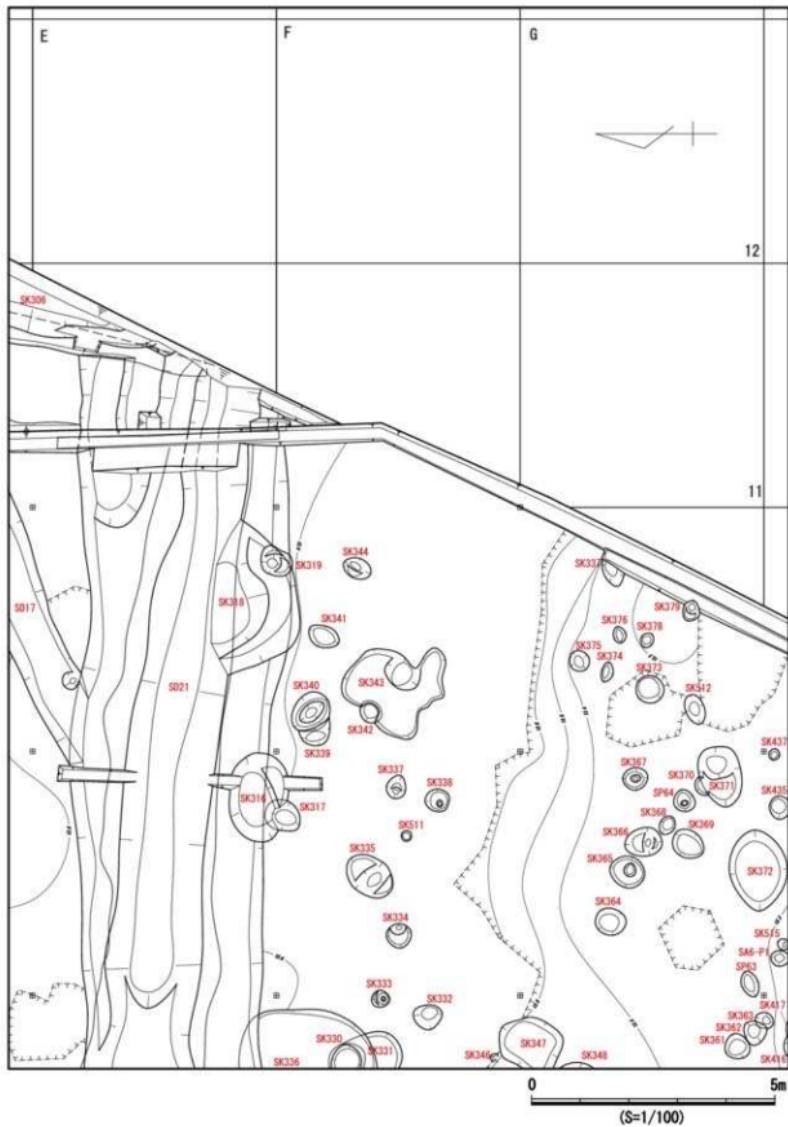


図111 発掘区全図 分割図 (13)

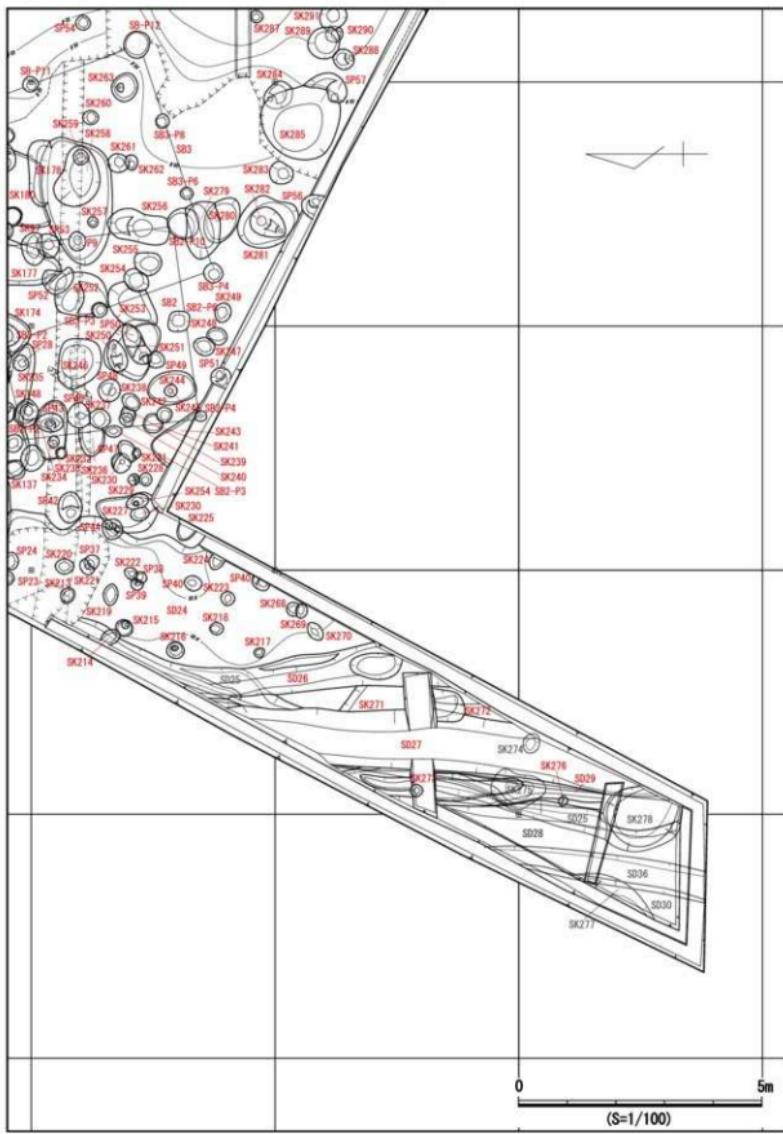


図 112 発掘区全図 分割図 (14)

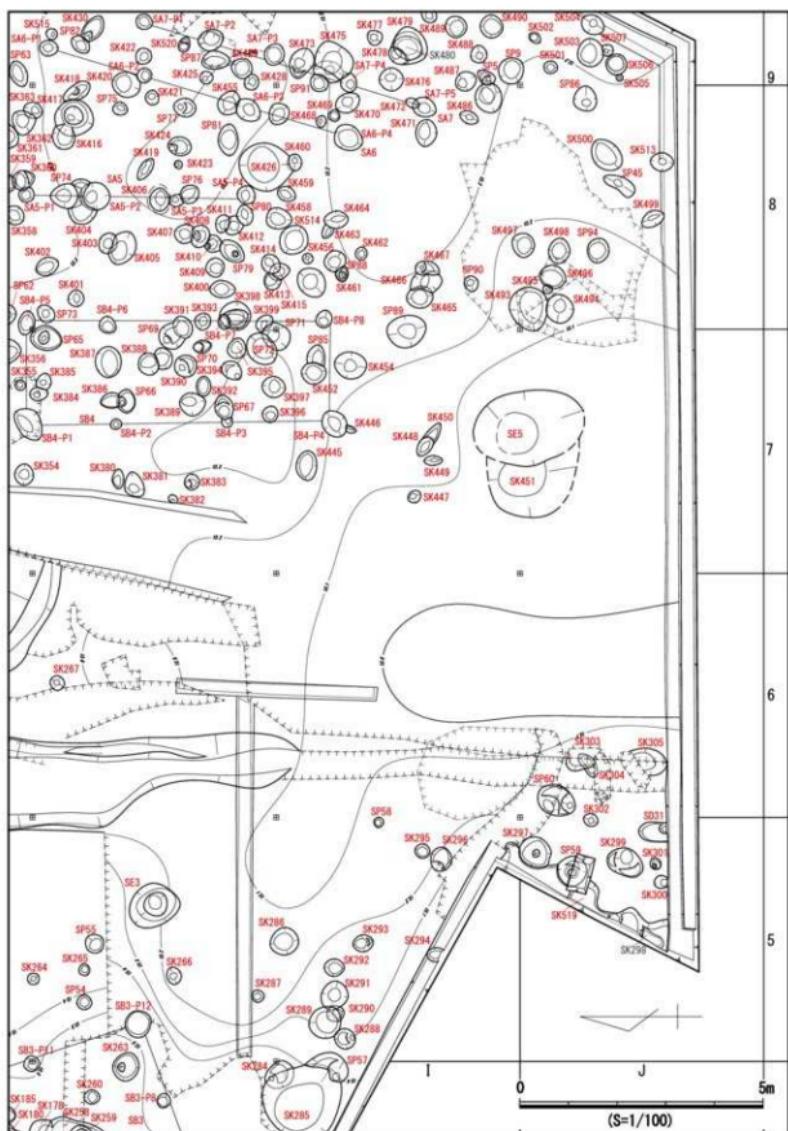


図113 発掘区全域図 分割図 (15)

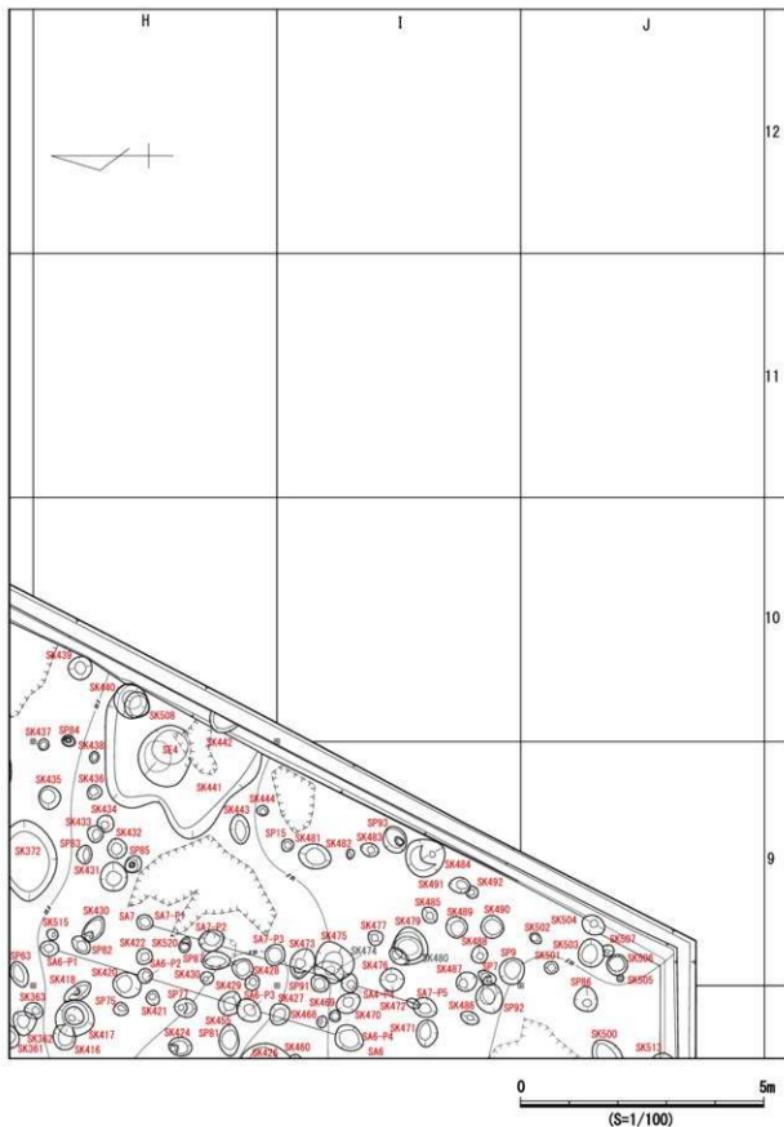


図114 発掘区全域図 分割図(16)

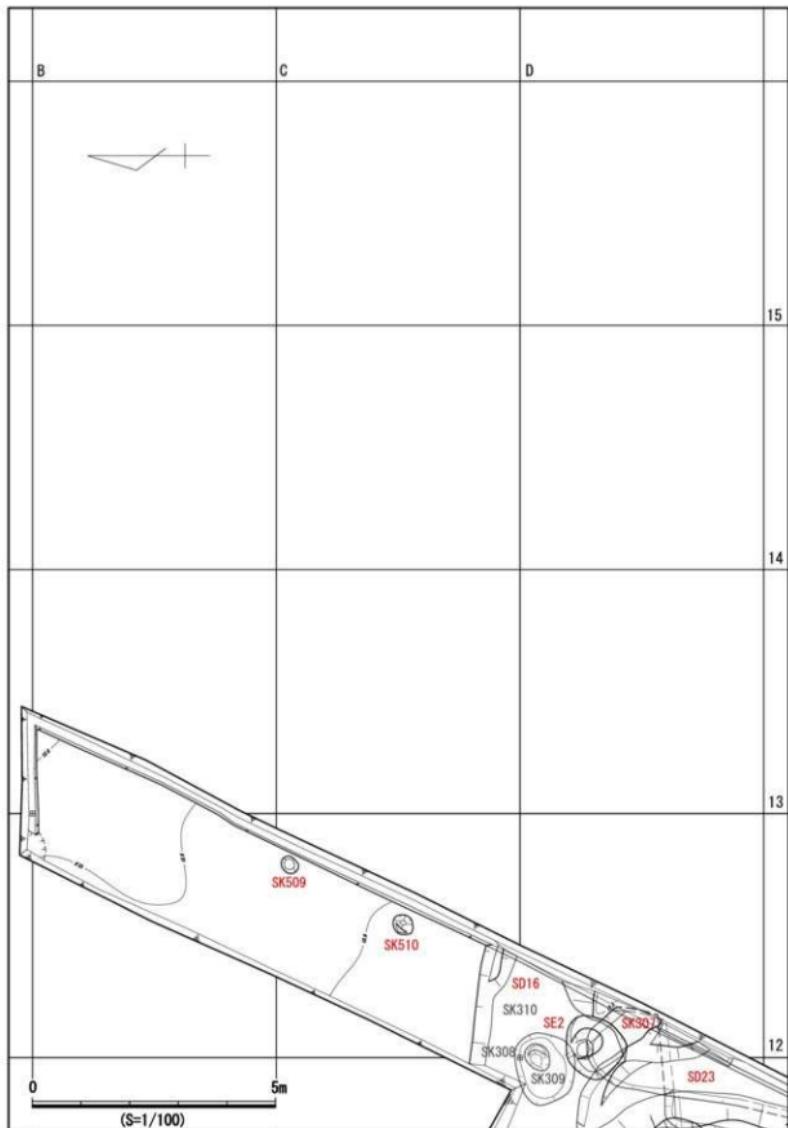


図115 発掘区全図 分割図 (17)

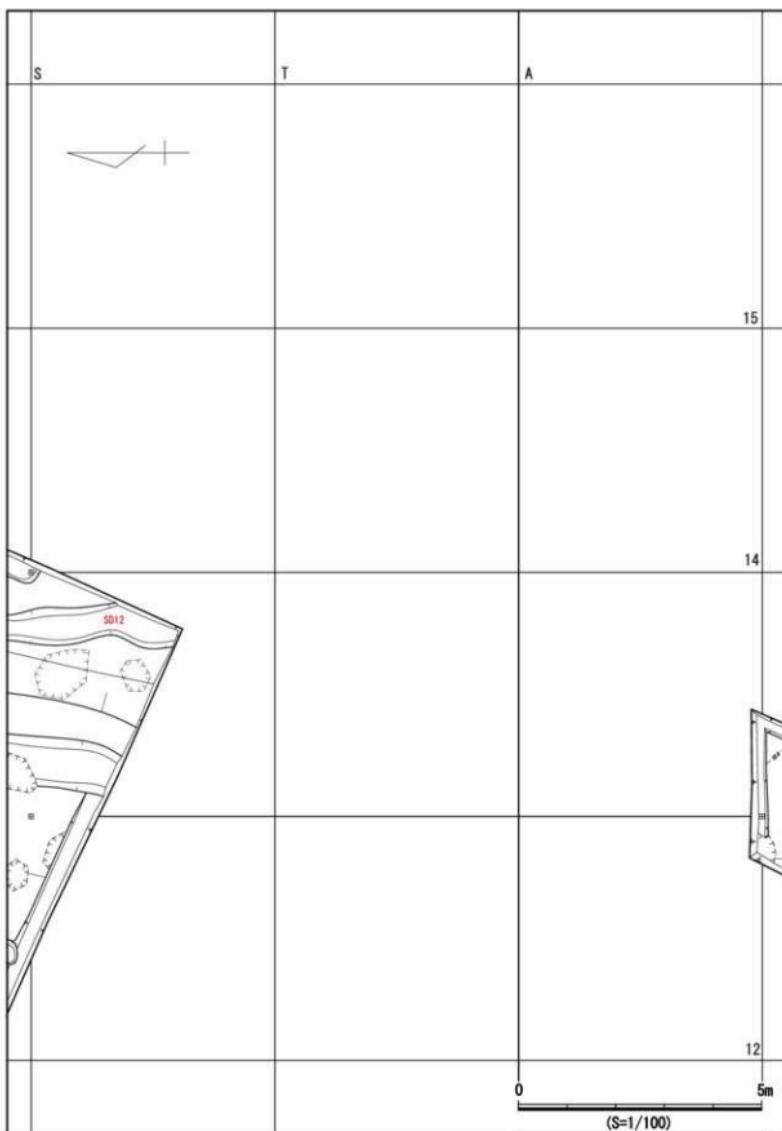


図116 発掘区全域図 分割図(18)

表6 挖立柱建物一覧表

地 点 名 番 号	調 査 区 域 番 号	調 査 区 域 番 号	横出面	柱間	規模			主軸 方位	重複関係		辨認	図版
					幅 行	梁 行	新		旧			
B	SB1	0374	BG3-4	I a.基	3間×2間	5.80	3.10	N18° W	SP19, SK94, SK126, S K135, SK158, SK159, SK163, SK177	SK123, SK127, SK139, SK162, SK174, SK234, SK232 %	13, 14	
B	SB2	0376	BG3-BH4	I a.基	3間×2間	5.80	4.00	NE, 5° W	SK142, SK143, SK171, SK177, SK235, SK243, SK258, SB1-P6	SK141, SK166, SK256, SK277	13, 14	
B	SB3	0375	BG3-BH5	I a.基	3間×3間	6.60	4.90	N18° W	SK174	SK165, SK252	13, 14	
B	SB4	0375	BG7-BH5	I a.基	3間×1間	6.10	2.10	N1° E	SP97, SK98	SP78, SK446	13, 14	

表7 挖立柱建物付属遺構一覧表

地 点 名 番 号	調 査 区 域 番 号	調 査 区 域 番 号	横出面	平面 形状	断面 形状	埋土	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		辨認	図版	
												新	旧			
B-SB1-P1	B149	BG3	I a.基	A	F	7層	0.68	(0.46)	0.52	0.33	0.49	SB24, SK126, SP19	SK127	13, 14	B	
B-SB1-P2	B007	BG3	I a.基	B	D	3層	0.56	0.51	0.25	0.24	0.17	SK135	SK139	13, 14		
B-SB1-P3	S0245	BG3	I a.基	B	E	4層	0.53	0.48	0.32	0.26	0.25		SK234	13, 14		
B-SB1-P4	S0221	BG3	I a.基	B	F	C	3層	0.34	0.32	0.13	0.16	0.26		SK174	13, 14	
B-SB1-P5	B192	BG4	I a.基	A	D	F	4層	(0.47)	0.50	0.34	0.31	0.32	SK158, SK159		13, 14	
B-SB1-P6	B056	BG4	I a.基	A	D	3層	0.36	0.32	0.21	0.22	0.35	SK177	SB2-P8	13, 14	B	
B-SB1-P7	S044	BG4	I a.基	A	B	C	3層	0.26	0.26	0.12	0.08	0.45	SK163	SK123, SK162	13, 14	
B-SB1-P8	S062	BG4	I a.基	A	C	C	3層	0.54	0.46	0.36	0.32	0.52			13, 14	
B-SB1-P9	S074	BG4	I a.基	A	D	F	3層	0.40	0.36	0.15	0.16	0.27			13, 14	
B-SB2-P1	P012	BG3	I a.基	B	F	F	4層	(0.50)	0.49	0.25	0.12	0.47	SK142, SK143	SK141	15, 16	B
B-SB2-P2	B137	BG3	I a.基	A	B	F	4層	0.38	0.35	0.23	0.18	0.38	SK235		15, 16	
B-SB2-P3	P095	BG3	I a.基	B	D	F	4層	0.34	0.23	0.20	0.12	0.27			15, 16	
B-SB2-P4	S101	BG3	I a.基	A	C	2層	0.23	0.21	0.07	0.07	0.23	SK243		15, 16		
B-SB2-P5	S037	BG3	I a.基	A	D	2層	0.74	0.66	0.49	0.43	0.11		SK166	15, 16		
B-SB2-P6	S362	BG3-4	I a.基	C	D	2層	0.43	0.41	0.25	0.23	0.24			15, 16		
B-SB2-P7	B179	BG4	I a.基	A	D	E	3層	0.41	0.32	0.29	0.21	0.28	SK171		15, 16	
B-SB2-P8	S231	BG4	I a.基	B	F	D	3層	0.81	0.54	0.23	0.16	0.37	SK177, SB1-P6		15, 16	
B-SB2-P9	S024	BG4	I a.基	A	C	F	3層	0.38	0.34	0.18	0.16	0.36	SK258		15, 16	
B-SB2-P10	P117	BG4	I a.基	A	D	D	3層	0.64	0.64	0.54	0.46	0.35		SK256, SK279	15, 16	
B-SB3-P1	B036	BG3	I a.基	A	B	3層	0.33	0.31	0.12	0.16	0.31			18, 19		
B-SB3-P2	B143	BG3	I a.基	B	C	2層	0.53	0.49	0.37	0.25	0.39	SK174		18, 19		
B-SB3-P3	B115	BG4	I a.基	A	B	4層	0.32	0.30	0.16	0.18	0.49		SK252	18, 19	B	
B-SB3-P4	B123	BG4	I a.基	A	C	C	3層	0.40	0.38	0.20	0.22	0.40			18, 19	
B-SB3-P5	B071	BG4	I a.基	A	F	F	3層	0.28	0.25	0.08	0.08	0.18			18, 19	
B-SB3-P6	B126	BG4	I a.基	A	D	C	2層	0.26	0.24	0.17	0.16	0.25			18, 19	
B-SB3-P7	S045	BG4	I a.基	A	D	D	3層	0.34	0.30	0.27	0.16	0.18		SK165	18, 19	
B-SB3-P8	B129	BG4	I a.基	A	B	C	2層	0.30	0.30	0.20	0.18	0.30			18, 19	
B-SB3-P9	S032	BG4	I a.基	A	B	A	1層	0.24	0.22	0.17	0.15	0.17			18, 19	
B-SB3-P10	P034	BG4	I a.基	B	F	C	2層	0.39	0.34	0.30	0.25	0.17			18, 19	
B-SB3-P11	S071	BG4-BH5	I a.基	A	D	D	3層	0.32	0.32	0.29	0.18	0.24			18, 19	
B-SB3-P12	S029	BG5	I a.基	A	B	B	2層	0.56	0.55	0.46	0.46	0.19			18, 19	B
B-SB4-P1	A155	BG7	I a.基	B	D	A	1層	0.74	0.60	0.43	0.21	0.15			20	
B-SB4-P2	A093	BG7	I a.基	A	D	F	2層	0.24	0.22	0.13	0.10	0.11			20	
B-SB4-P3	A151	BH7	I a.基	A	A	A	1層	0.20	(0.18)	0.13	0.10	0.07	SP97		20	
B-SB4-P4	A323	BH7	I a.基	A	D	B	2層	0.49	0.48	0.34	0.23	0.24		SK446	20	
B-SB4-P5	B127	BH7-BH8	I a.基	B	A	A	1層	0.48	0.35	0.32	0.25	0.13			20	
B-SB4-P6	A140	BH8	I a.基	B	B	A	1層	0.35	0.34	0.21	0.23	0.17			20	
B-SB4-P7	A162	BH8	I a.基	A	B	B	2層	0.32	0.25	0.22	0.17	0.17	SK398	SP78	20	
B-SB4-P8	A252	B18	I a.基	A	B	A	1層	0.37	0.34	0.18	0.21	0.14			20	

表8 棚一覧表

地 点 名 番 号	調 査 区 域 番 号	調 査 区 域 番 号	横出面	柱間	規模			主軸 方位	重複関係		辨認	図版
					長 軸	短 軸	新		旧			
A-SA1	S210	AM16	I b.基	4	6.30	-	N18° W					21
B-SA2	S378	BF3-BF4	I a.基	3	5	-	-	N82.5 E	SK104	SK101		22
B-SA3	S081	BF3	I a.基	4	8.2	-	-	N2.5° W	SP920			23
B-SA4	S379	BF4-5	I a.基	3	8.2	-	-	N76° E	SK169, SK196	SK171		24
B-SA5	A341	BG8-BH8	I a.基	3	4.4	-	-	N17° E	SP76	SK404, SK406		24
B-SA6	A340	BH9-BH8	I a.基	3	6.2	-	-	N17° E	SK420	SK455		25
B-SA7	A336	BH9-BH8	I a.基	4	5.9	-	-	N16° E	SK472			25

表9 棚付属遺構一覧表 (1)

地 点 名 番 号	調 査 区 域 番 号	調 査 区 域 番 号	横出面	平面 形状	断面 形状	埋土	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		辨認	図版	
												新	旧			
B-SA1-P1	S178	AL16	I a.基	A	B	A	1層	0.34	0.32	0.25	0.24	0.31				21
B-SA1-P2	S176	AL16	I a.基	A	D	B	3層	0.53	0.50	0.26	0.29	0.32				21
B-SA1-P3	S192	AM16	I a.基	A	B	E	2層	0.39	0.36	0.24	0.20	0.25				21
B-SA1-P4	S195	AM16	I a.基	A	D	E	2層	0.35	0.33	0.15	0.15	0.41				21

表10 棚付属構造一覧表(2)

地 点 名 と 査 観 測 番 号 と 査 観 測 番 号	調 査 区 画	横 出 面	平 面 形 状	断 面 形 状	埋 土	上 端 長 軸	上 端 短 軸	下 端 長 軸	下 端 短 軸	深 さ	重複関係		辨認	図版	
											新	旧			
B	S42-P1	B202	BF3	I-a基	A	F	C 3層	0.72	0.64	0.31	0.32	0.53		22	
B	S42-P2	B251	BF4	I-a基	B	D	E 4層	0.84	0.61	0.52	0.34	0.40		22	
B	S42-P3	B207	BF4	I-a基	B	F	F 3層	0.46	0.30	0.11	0.10	0.28		22	
B	S42-P4	B250	BF4	I-a基	A	D	F 5層	0.58	0.53	0.36	0.24	0.39	SK104	22	
B	S43-P1	B193	BF3	I-a基	A	A	D 3層	0.29	0.23	0.17	0.12	0.33		23	
B	S43-P2	B261	BF3	I-a基	A	F	F 4層	0.55	0.56	0.40	0.35	0.53	SD20	23	
B	S43-P3	B235	BF4	I-a基	A	D	D 4層	0.35	0.33	0.16	0.13	0.33		23	
B	S43-P4	B317	BF4	I-a基	A	D	C 2層	0.40	0.37	0.17	0.16	0.19		23	
B	S43-P5	B303	BF5	I-a基	A	F	D 3層	0.33	0.32	0.22	0.21	0.20		23	
B	S44-P1	B049	BF4	I-a基	B	B	D 3層	(0.51)	0.46	(0.48)	0.24	0.27	SK169	SK171	24
B	S44-P2	B143	BF4	I-a基	A	B	F 3層	0.35	0.32	0.20	0.20	0.22		24	
B	S44-P3	B325	BF4-5	I-a基	B	A	C 2層	(0.25)	0.22	0.08	0.08	0.19	SK196	24	
B	S44-P4	B305	BF5	I-a基	A	A	C 3層	0.32	0.32	0.20	0.15	0.29		24	
B	S44-P5	A125	BF8	I-a基	A	A	A 1層	0.33	0.31	0.20	0.19	0.13		24	
B	S45-P2	B246	BF8	I-a基	B	A	A 1層	0.56	(0.49)	0.25	(0.23)	0.21	SK404	24	
B	S45-P3	A111	BF8	I-a基	B	D	A 1層	(0.27)	0.25	(0.13)	0.10	0.12	SP76	SK406	24
B	S45-P4	B258	BF8	I-a基	A	D	B 2層	0.28	0.27	0.17	0.23	0.17		24	
B	S46-P1	A225	BF9	I-a基	B	A	E 2層	0.38	0.32	0.20	0.17	0.14		25	
B	S46-P2	A234	BF9	I-a基	A	A	E 2層	0.32	0.30	0.16	0.19	0.15	SK420	25	
B	S46-P3	A235	BF9	I-a基	B	D	E 2層	0.56	0.44	0.27	0.21	0.26	SK455	25	
B	S46-P4	A265	BF18	I-a基	B	B	A 1層	0.60	0.53	0.42	0.36	0.29		25	
B	S47-P1	A227	BF9	I-a基	A	A	E 2層	0.35	0.32	0.24	0.18	0.13		25	
B	S47-P2	A318	BF9	I-a基	B	B	B 2層	0.53	0.42	0.32	0.29	0.29		25	
B	S47-P3	A270	BF9-B19	I-a基	A	B	A 1層	0.43	0.43	0.31	0.29	0.32		25	
B	S47-P4	A309	BF18-B19	I-a基	B	A	A 1層	0.40	0.33	0.18	0.17	0.16		25	
B	S47-P5	A262	BF18	I-a基	B	A	A 1層	0.50	0.40	0.23	0.22	0.22	SK472	25	

表11 柱穴一覧表(1)

地 点 名 と 査 観 測 番 号 と 査 観 測 番 号	調 査 区 画	横 出 面	平 面 形 状	断 面 形 状	埋 土	上 端 長 軸	上 端 短 軸	下 端 長 軸	下 端 短 軸	深 さ	重複関係		辨認	図版
											新	旧		
A	SP01	S175	AL16	I-b基	A	A	F 3層	0.50	0.45	0.20	0.23	0.31		
A	SP02	S017	AS7	I-b上	B	F	F 2層	0.46	0.34	0.07	0.09	0.33	SK51	
B	SP03	B293	BF5	I-a基	B	F	F 5層	0.82	0.64	0.50	0.33	0.31	SD15, SK495	
B	SP04	B194	BF3	I-a基	B	F	F 5層	0.60	0.40	0.28	0.23	0.39	SD20	
B	SP05	B201	BF3	I-a基	A	B	F 4層	0.50	0.48	0.25	0.31	0.29		
B	SP06	B222	BF4	I-a基	A	A	F 4層	0.47	0.43	0.30	0.28	0.34		26
B	SP07	A207	BF19	I-a基	B	F	F 3層	0.55	0.45	0.14	0.09	0.23		5
B	SP08	B237	BF4	I-a基	A	F	F 6層	0.48	0.48	0.16	0.13	0.48		27
B	SP09	A177	B19-B19	I-a基	A	D	A 1層	0.54	0.51	0.37	0.31	0.23		
B	SP10	B214	BF4	I-a基	B	D	F 4層	0.48	0.43	0.28	0.25	0.36		
B	SP11	B211	BF4	I-a基	A	D	F 4層	0.46	0.43	0.19	0.28	0.40		
B	SP12	B302	BF5	I-a基	B	B	F 3層	0.26	0.24	0.13	0.12	0.23		
B	SP13	B032	BF3	I-a基	B	B	F 3層	0.30	0.28	0.12	0.18	0.24		
B	SP14	B031	BF3	I-a基	A	B	F 3層	0.28	0.26	0.12	0.12	0.31		
B	SP15	B294	BF8	I-a基	B	B	E 2層	0.51	0.44	0.35	0.33	0.27		
B	SP16	B248	BF3	I-a基	A	D	F 3層	0.41	0.35	0.23	0.16	0.30	SK157	
B	SP17	B247	BF3	I-a基	A	F	F 4層	0.54	0.54	0.20	0.12	0.43	SK157	
B	SP18	B033	BF3	I-a基	B	F	F 3層	0.44	0.24	0.06	0.11	0.19		
B	SP19	B143	BF3	I-a基	A	D	F 3層	0.26	0.25	0.12	0.13	0.28	SD24	SB1-P1
B	SP20	B030	BF3	I-a基	B	A	F 4層	0.32	0.30	0.11	0.10	0.36		
B	SP21	B009	BF3	I-a基	B	A	C 2層	0.28	0.28	0.10	0.08	0.48	SD24, SK142	
B	SP22	B028	BF3	I-a基	A	F	C 3層	0.34	0.33	0.12	0.09	0.54		
B	SP23	B184	BF2	I-a基	A	D	F 4層	0.34	0.31	0.20	0.18	0.35		
B	SP24	B185	BF2	I-a基	A	B	F 4層	0.35	0.32	0.26	0.18	0.29		
B	SP25	B103	BF3	I-a基	A	F	C 3層	0.36	0.31	0.22	0.16	0.41	SK135	
B	SP26	B167	BF3	I-a基	B	B	F 5層	0.24	(0.18)	0.20	(0.14)	0.28	SK235	28
B	SP27	B138	BF3	I-a基	A	D	F 3層	0.44	0.41	0.34	0.32	0.25	SK235	28
B	SP28	B139	BF3	I-a基	A	D	F 5層	0.32	0.32	0.15	0.14	0.44	SK235	28
B	SP29	B373	BF4-BG4	I-a基	B	D	F 3層	0.44	0.35	0.24	0.20	0.19		
B	SP30	B141	BF4	I-a基	A	F	F 4層	0.31	0.26	0.21	0.17	0.35	SK187	
B	SP31	B105	BF4	I-a基	A	D	F 3層	0.40	0.34	0.18	0.17	0.21		
B	SP32	B063	BF4	I-a基	A	D	F 4層	0.36	0.33	0.23	0.18	0.32	SK173, SK177, SK182	28
B	SP33	B191	BF4	I-a基	B	F	F 4層	0.68	0.50	0.26	0.24	0.49	SK160, SK185	
B	SP34	B307	BF5	I-a基	B	F	F 4層	0.66	0.45	0.26	0.20	0.33		
B	SP35	B309	BF5	I-a基	B	F	F 3層	0.50	0.37	0.32	0.18	0.31	SK201	
B	SP36	B329	BF5	I-a基	A	D	F 5層	(0.48)	0.47	0.40	0.35	0.44	SK209	
B	SP37	B180	BF4	I-a基	A	A	F 4層	0.32	0.28	0.12	0.15	0.27	SK221	
B	SP38	B174	BF2	I-a基	A	D	F 3層	0.27	0.23	0.12	0.14	0.36	SD24	SK222, SP39
B	SP39	B176	BF2	I-a基	B	F	F 3層	(0.20)	0.26	0.10	0.09	0.37	SD24, SP38, SK222	
B	SP40	B169	BF2	I-a基	A	B	F 4層	0.38	0.31	0.18	0.12	0.39	SD24	
B	SP41	B166	BF2	I-a基	A	F	F 4層	0.40	(0.19)	0.17	(0.10)	0.46	SD24	
B	SP42	B108	BF3	I-a基	A	F	F 4層	0.62	0.50	0.40	0.34	0.45		
B	SP43	B367	BF3	I-a基	A	F	D 4層	0.56	0.39	0.38	0.22	0.46	SK234	
B	SP44	B286	BF3	I-a基	B	F	F 5層	0.44	0.42	0.31	0.27	0.35	SK227	
B	SP45	A190	BF8	I-a基	E	D	F 2層	0.70	0.27	0.20	0.12	0.33		
B	SP46	B110	BF3	I-a基	B	F	F 5層	0.52	0.46	0.13	0.18	0.47	SK236	

表12 柱穴一覧表(2)

地點名	周囲番号	調査区画	検出面	平面形状	断面形状	埋土	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	重複關係		博観	図版		
												新	旧				
B SP47	B370	BH3	I a基	E	O	F	4層	0.48	(0.32)	0.38	0.26	0.19	SK230, SK231		29	5	
B SP48	B095	BH3	I a基	A	F	F	5層	0.48	0.45	0.25	0.11	0.35					
B SP49	B083	BH3	I a基	A	A	F	3層	0.37	0.15	0.34	0.19	0.26		SK251			
B SP50	B364	BH3	I a基	B	F	F	6層	0.93	0.38	0.82	0.31	0.32	SK251		29	5	
B SP51	B102	BH3	I a基	B	F	F	5層	(0.43)	0.39	0.31	0.22	0.43			29	5	
B SP52	B232	BH4	I a基	B	D	F	4層	0.67	0.56	0.40	0.38	0.44	SK177, SK252				
B SP53	B111	BH4	I a基	A	D	F	5層	0.50	0.46	0.21	0.20	0.44		SK177, SK212			
B SP54	B332	BH5	I a基	A	B	F	5層	0.30	0.30	0.20	0.18	0.34					
B SP55	B334	BH5	I a基	A	D	F	6層	0.40	0.38	0.22	0.26	0.28					
B SP56	B372	B14	I a基	A	F	F	3層	(0.34)	0.50	(0.23)	0.32	0.37					
B SP57	B660	B14	I a基	F	F	F	5層	0.82	(0.46)	0.14	0.16	0.60	SK285		30	8	
B SP58	B351	B15	I a基	A	D	C	2層	0.21	0.20	0.13	0.11	0.14					
B SP59	A006	B15	I a基	A	F	F	7層	0.65	0.61	0.47	0.44	0.62		SK519		30	8
B SP60	A054	B16	I a基	B	B	F	3層	0.57	0.26	0.41	0.15	0.08					
B SP61	A159	B67	I a基	A	D	B	2層	0.47	0.35	0.26	0.22	0.25		SK350			
B SP62	A136	B68	I a基	A	F	F	2層	0.50	0.47	0.08	0.29	0.13					
B SP63	A983	B69	I a基	B	D	F	2層	0.55	0.24	0.38	0.19	0.14					
B SP64	A674	B69	I a基	A	F	F	3層	0.46	0.43	0.34	0.09	0.32					
B SP65	A090	B67-B68	I a基	B	B	F	2層	0.65	0.50	0.09	0.12	0.18					
B SP66	A092	B67	I a基	B	F	F	2層	0.48	0.38	0.10	0.09	0.21		SK386			
B SP67	A096	B67	I a基	B	F	F	2層	0.50	0.38	0.23	0.23	0.24		SB4-P3		30	
B SP68	A154	B67	I a基	A	A	F	3層	0.46	0.32	0.26	0.26	0.14	SK388				
B SP69	A161	B67	I a基	A	F	F	2層	0.52	(0.44)	0.32	0.11	0.21	SK391			31	
B SP70	A142	B67	I a基	B	F	F	2層	0.47	0.27	0.18	0.10	0.15					
B SP71	A143	B67-B18	I a基	B	C	B	2層	(0.58)	0.50	(0.24)	0.26	0.16	SK399				
B SP72	A149	B67-B17	I a基	A	A	F	3層	0.70	(0.55)	0.45	(0.39)	0.25	SK399				
B SP73	A089	B68	I a基	B	A	F	2層	0.39	0.32	0.16	0.14	0.17					
B SP74	A088	B68	I a基	B	D	F	2層	0.63	0.50	0.31	0.36	0.26		SK404			
B SP75	A224	B68	I a基	A	F	F	2層	0.30	0.27	0.27	0.11	0.12					
B SP76	A110	B68	I a基	A	A	A	1層	0.42	0.36	0.31	0.19	0.11		SA5-P3			
B SP77	A111	B68	I a基	A	D	2層	0.46	0.38	0.16	0.22	0.22						
B SP78	A317	B68	I a基	B	B	E	2層	(0.39)	0.37	(0.34)	0.23	0.23	SK398, SB4-P7		31	16	
B SP79	A101	B68	I a基	B	F	F	2層	0.55	0.38	0.40	0.26	0.25		SK410			
B SP80	A259	B68	I a基	B	D	F	4層	0.43	0.34	0.21	0.14	0.35		SK412			
B SP81	A113	B68	I a基	B	A	F	4層	0.65	0.42	0.49	0.33	0.17					
B SP82	A224	B69	I a基	B	D	F	2層	0.44	0.32	0.24	0.18	0.20		SK430			
B SP83	A242	B69	I a基	B	B	E	2層	0.39	0.32	0.28	0.14	0.27				31	16
B SP84	A216	B69-H10	I a基	B	F	F	2層	0.28	0.22	0.07	0.09	0.20					
B SP85	A312	B69	I a基	B	F	F	4層	0.39	0.34	0.07	0.07	0.37					
B SP86	A292	B18	I a基	B	G	F	4層	0.52	0.45	0.17	0.19	0.31					
B SP87	A316	B69	I a基	B	D	F	4層	0.50	0.39	0.42	0.20	0.24		SK461			
B SP88	A256	B18	I a基	A	F	F	3層	0.43	0.42	0.24	0.24	0.32					
B SP89	A307	B17-B18	I a基	B	D	F	3層	0.80	0.66	0.37	0.33	0.41			32	6	
B SP90	A279	B18	I a基	B	D	A	1層	0.33	0.28	0.13	0.16	0.24					
B SP91	A266	B18-B19	I a基	B	A	F	3層	0.39	0.35	0.24	0.23	0.28		SK474			
B SP92	A300	B18-B19	I a基	B	A	F	4層	0.62	0.55	0.34	0.29	0.28	SP93		32	6	
B SP93	A184	B19	I a基	B	F	F	3層	0.38	0.28	0.09	0.10	0.37	SP92		33		
B SP94	A211	B19	I a基	A	F	2層	0.27	0.25	0.14	0.15	0.10				33		

表13 清状遺構一覧表(1)

地點名	周囲番号	調査区画	検出面	平面形状	断面形状	埋土	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	重複關係		博観	図版		
												新	旧				
A SD1	S091	AK9-AF12	I b基	D	D	11層	(30.10)	0.94	0.46	SK79	SD2	34	7				
A SD2	S142	AK11-AK12	I b基	-	F	B	層	(16.80)	1.91	(10.80)	0.32	0.33	SD1	34	7		
A SD3	S154	AJ16-AM15	I b基	-	D	B	3層	(21.75)	1.70	(21.75)	1.35	0.63	SK15, S209	SK12	35	7	
A SD4	S080	AM10-AP9	I b基	-	D	A	1層	(4.58)	0.21	(4.50)	0.12	0.06	SK16, S077, S098				
A SD5	S082	AM10-AP11	I b基	-	A	A	1層	(17.90)	0.60	(17.75)	0.45	0.12	SD6		36		
A SD6	S206	AP11-AP12	I b基	-	A	B	2層	(16.66)	0.43	(10.48)	0.22	0.20	SK79				
A SD7	S016	AK7-AS7	皿上	-	A	A	1層	(7.10)	0.61	-	0.34	0.19	SK56	SK61, SK54, SK75	36		
A SD8	S144	AK7-AB8	皿上	-	D	E	3層	(2.30)	0.54	(2.36)	0.28	0.13	SK75, SK76, S28	SD10, SK44, S29	37		
A SD9	S193	AK7-8	皿上	-	A	B	4層	(0.77)	(0.65)	(0.77)	(0.12)	0.32	SD8, SK76	SD10, SK44	37	8	
A SD10	S146	AK7-8	皿上	-	D	B	3層	(6.46)	0.86	(6.46)	0.47	0.30	SK45		37	8	
A SD11	S107	AK13-AS13	I b基	-	D	A	1層	(9.89)	1.09	(9.89)	0.75	0.41					
A SD12	S104	AK13-AS13	皿上	-	D	E	2層	(3.97)	0.75	(3.89)	0.51	0.14	SK77		38	8	
A SD13	S105	AK14-AS14	皿上	-	D	A	1層	(3.20)	0.29	(3.20)	0.11	0.12	SK77		38	8	
B SD14	S258	BB5-6	I a基	-	D	B	2層	(3.61)	0.51	(3.61)	0.38	0.13	SK82, SK85		39	8	
B SD15	R266, R277, R280, S349	BB5-B16	I a基	-	F	B	16層	22.32	1.92	22.16	1.20	0.50		SK82, SK207	39, 40	8	
B SD16	A018, C007	BB8-B12	I a基	-	A	B	6層	(16.60)	2.90	(16.60)	0.97	0.47	SD23, SK309, SK307, SK308	SD2, SK310	43		
B SD17	A331, C005	BB9-B11	I a基	-	G	B	3層	(6.24)	1.32	(6.24)	0.78	0.35	SD16, SD23		43	9	

表14 溝状造模一覧表(2)

地 点 名	造模番 号	調査 区画	検出面 形状	断面 形状	埋土	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		紳	図版		
											新	旧				
B	SD18	BD27	BD4-BD6	Ia基	-	D	A 1層	(3.58)	0.49	(3.46)	0.36	0.13		39	9	
B	SD19	BD28	BD4-BD6	Ia基	-	D	C 3層	(19.80)	1.85	(19.80)	1.52	0.26	SD15, SK207	45	8, 9	
B	SD20	BD29	BD3	Ia基	-	A	A 1層	(4.40)	0.31	(4.30)	0.20	0.05	SP4, SK112, SK115	SA3, SK111	49	
B	SD21	BD27	BD7-BD11	Ia基	-	G	D 10層	(29.20)	4.07	(29.20)	0.62	0.59	SD23, SK306	SK316, SK318, SK315, SK318, SD17	50	9, 10
B	SD22	BD34	BD7-BG7	Ia基	-	D	C 2層	(7.80)	0.58	(7.80)	0.26	0.28	SD20		50	
B	SD23	CO11	BD11-BE11	Ia基	-	D	B 4層	(6.28)	1.87	(5.28)	0.71	0.61	SK306, SK307	SD21, SD16, SD17, S E2	53	9
B	SD24	BD18	BG3-BJ2	Ia基	-	G	D 3層	(20.20)	(0.51)	(19.80)	(0.51)	0.26	SK275, SK274, SK13 S	SP19, SP25, SP38~ 41, SD26, SD27, SD09, SK113, SK131, SK163, SK172, SK17 5, SK178, SK215~ 219, SK223, SK224, SK227, SK269, SK271, SK278	86	
B	SD25	BD18	BD2-BJ1	Ia基	-	F	C 3層	(11.83)	0.66	(11.83)	0.50	0.11	SD24, SD27, SK214	SD26	87	
B	SD26	BD19	BD2-BJ2	Ia基	-	F	D 2層	(1.80)	(1.80)	0.30	0.10	0.31	SD24, SD25	SD30	88	10
B	SD27	BD14	BJ1-BJ2	Ia基	-	D	E 6層	(0.26)	0.56	(0.26)	0.23	0.40	SD24	SK278, SD25, SD30	89	
B	SD28	BD24	BJ1	Ia基	-	D	C 2層	(2.26)	(0.57)	(2.26)	(0.42)	0.20	SD276		54	10
B	SD29	BD24	BJ2	Ia基	-	F	A 1層	(2.03)	(0.29)	(2.03)	(0.29)	0.08	SD276	SD273	55	
B	SD30	BD16	BD2-BJ2	Ia基	-	G	A 1層	(2.05)	(0.92)	(2.05)	(0.92)	0.05	SD24, SD27, SD30		55	
B	SD31	BD12	BD5	Ia基	-	D	A 1層	(0.58)	0.40	(0.52)	0.35	0.10				

表15 井戸一覧表

地 点 名	造模番 号	調査 区画	検出面 形状	平面 形状	断面 形状	理土	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		紳	図版	
												新	旧			
A	SE1	S093	AQ9	IIIa上	B	G	G 2層	2.21	1.50	0.84	0.82	0.72	SK76, SK36	SK37	7	11
B	SE2	CO12	BD11-12	Ia基	B	G	G 7層	1.23	1.03	0.69	0.67	0.59	SD16, SD23		60	12
B	SE3	S047	BD6	Ia基	B	F	C 3層	0.99	0.86	0.26	0.30	0.40			61	12
B	SE4	A274	BD9-10	Ia基	B	F	G 5層	1.30	1.19	0.54	0.60	0.48	SK441		62	3
B	SE5	A170	B17-BJ7	Ia基	B	G	G 10層	(1.87)	(1.21)	0.56	(0.61)	1.22		SK451	64, 6 5, 4, 15	13, 1 5, 4, 15

表16 土坑一覧表(1)

地 点 名	造模番 号	調査 区画	検出面 形状	平面 形状	断面 形状	理土	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		紳	図版	
												切る	切られる			
A	SK1	S001	A111	IIIa上	B	D	A 1層	0.30	(0.17)	0.19	0.12	0.09			SK72	
A	SK2	S053	A111	IIIa上	E	E	A 1層	(1.28)	(0.37)	(0.60)	(0.04)	0.15				
A	SK3	S002	A111	IIIa上	A	B	A 1層	0.40	0.38	0.25	0.23	0.32				
A	SK4	S004	A111	IIIa上	A	F	B 2層	1.28	1.16	0.30	0.29	0.23				
A	SK5	S007	A111	IIIa上	B	A	A 1層	0.95	0.39	0.69	0.27	0.14				
A	SK6	S188	AK16	Ib基	A	D	A 1層	0.84	0.80	0.60	0.59	0.17				
A	SK7	S189	AK16	Ib基	A	A	A 1層	0.33	0.31	0.12	0.11	0.13				
A	SK8	S202	AK16	Ib基	A	A	A 1層	0.30	0.27	0.19	0.20	0.07				
A	SK9	S008	AL11	IIIa上	B	F	A 1層	0.20	0.19	0.07	0.07	0.21				
A	SK10	S208	AM9	IIIa上	B	G	B 2層	(0.64)	(0.25)	(0.15)	(0.06)	0.14				
A	SK11	S144	AM16	IIIa上	B	F	A 1層	0.69	0.46	0.08	0.07	0.07	SD1			
A	SK12	S201	AL16	Ib基	B	D	A 1層	0.40	0.29	0.26	0.17	0.15				
A	SK13	S179	AL16	Ib基	B	A	E 2層	0.58	0.40	0.32	0.25	0.30				
A	SK14	S180	AL16	Ib基	B	A	D 2層	0.39	0.29	0.10	0.11	0.18				
A	SK15	S173	AL15	Ib基	B	A	G 8層	3.70	3.51	0.92	1.54	0.91			SD3	71
A	SK16	S172	AL15	Ib基	B	D	D 2層	0.92	0.73	0.69	0.46	0.20				
A	SK17	S171	AL15	Ib基	B	D	E 2層	0.35	0.32	0.20	0.14	0.41				
A	SK18	S170	AL15	Ib基	B	B	A 1層	0.35	0.27	0.26	0.20	0.20				
A	SK19	S198	AL15	Ib基	A	A	A 1層	0.39	0.36	0.13	0.14	0.23				
A	SK20	S196	AL15	Ib基	A	D	A 1層	0.31	0.29	0.14	0.15	0.22				
A	SK21	S169	AL16	Ib基	B	D	E 2層	0.63	0.52	0.42	0.34	0.19				
A	SK22	S177	AL16	Ib基	A	E	E 2層	0.49	0.45	0.16	0.11	0.19				
A	SK23	S187	AM15	Ib基	B	D	B 2層	0.61	0.56	0.33	0.21	0.29				
A	SK24	S183	AM15	Ib基	A	D	A 1層	0.40	0.37	0.20	0.16	0.47				
A	SK25	S182	AM16	Ib基	B	F	A 1層	0.41	0.31	0.18	0.15	0.16				
A	SK26	S166	AM16	Ib基	A	A	A 1層	0.46	0.44	0.12	0.16	0.34				
A	SK27	S165	AM16	Ib基	B	C	E 4層	0.72	0.54	0.22	0.23	0.44				
A	SK28	S164	AM16	Ib基	A	E	A 2層	0.57	0.56	0.29	0.19	0.26				
A	SK29	S158	AM15	Ib基	A	D	A 1層	0.29	0.29	0.21	0.20	0.10				
A	SK30	S159	AM15	Ib基	A	E	E 2層	0.39	0.37	0.22	0.21	0.16				
A	SK31	S204	AN15	Ib基	B	D	B 2層	0.30	0.25	0.17	0.16	0.18				
A	SK32	S199	AN16	Ib基	D	A	A 1層	0.64	0.58	0.52	0.46	0.11				
A	SK33	S160	AM15	Ib基	B	F	A 1層	0.44	0.34	0.10	0.12	0.27				
A	SK34	S200	AN15	Ib基	B	D	A 1層	(0.49)	0.37	(0.37)	0.22	0.13	SD3			
A	SK35	S086	AN13	Ib基	A	A	A 1層	0.11	0.10	0.04	0.04	0.10				
A	SK36	S092	AQ9	IIIa上	B	A	A 1層	0.62	0.51	0.32	0.25	0.10			SE1	

表17 土坑一覧表(2)

地 点 名	通 構 番 号	調 査 年 月	調 査 区 間	検出面 形狀	断面 形状	埋 土	上端 長軸	下端 短軸	下端 長軸	深さ	重複關係		神 戸	岡 山			
											新						
											新	旧					
A SK37 S134 AQS	■■上	B	G	B 4層	1.84	(1.19)	0.67	(0.53)	0.24	SK76, SE1, S203			72				
A SK38 S094 AQS~AES	■■上	D	D	B 5層	1.46	(0.76)	1.07	(0.56)	0.60	SK76			72				
A SK39 S087 A013	I b基	A	D	A 1層	0.13	0.10	0.05	0.05	0.12								
A SK40 S085 A013	I b基	B	B	A 1層	0.10	0.06	0.03	0.03	0.09								
A SK41 S089 A013	I b基	A	A	A 1層	0.18	0.15	0.08	0.05	0.14								
A SK42 S132 A011	I a基	A	D	D 2層	0.58	0.56	0.42	0.40	0.98								
A SK43 S129 A013	I b基	A	F	A 1層	0.30	0.29	0.09	0.06	0.15								
A SK44 S194 ARB	■■上	B	D	B 4層	(1.68)	0.63	(0.86)	0.45	0.23	SK76, S28, SD9	SD10						
A SK45 S168 ART	■■上	B	D	E 2層	(0.90)	(0.68)	(0.74)	(0.49)	0.14	SK75, SK76, SD10							
A SK46 S070 AR7	■■上	B	F	B 2層	0.47	0.34	0.25	0.22	0.44	SK47, SK51, SK48							
A SK47 S020 AR7~AST	■■上	B	A	G 2層	(0.98)	(0.42)	(0.78)	(0.34)	0.14								
A SK48 S030 ART	■■上	E	D	G 2層	(1.28)	0.91	(1.13)	0.48	0.19	SK47			72				
A SK49 S072 AR7~AST	■■上	B	D	B 2層	0.57	0.44	0.42	0.30	0.09	SK48							
A SK50 S121 AR7~AST	■■上	E	E	A 1層	0.77	0.20	0.69	0.15	0.09	SK76							
A SK51 S029 AR7~AST	■■上	E	D	B 2層	0.24	0.77	1.93	0.72	0.20	SP2, SK54, SK51	SD7, SK76, SK49,	SK46	72				
A SK52 S149 AS7	■■上	B	D	A 1層	0.50	0.45	0.37	0.37	0.10	SK76							
A SK53 S174 AST	■■上	B	D	B 2層	(0.77)	(0.31)	(0.55)	(0.23)	0.17	SK76	SD10						
A SK54 S023 AST	■■上	B	A	A 1層	(0.34)	(0.34)	(0.18)	(0.19)	0.11	SK75							
A SK55 S014 AST	■■上	B	A	A 1層	0.72	0.63	0.29	0.27	0.13		SK54						
A SK56 S012 AST	■■上	B	A	A 1層	(0.37)	(0.29)	(0.32)	(0.29)	0.04								
A SK57 S016 AST	■■上	A	D	B 3層	0.51	0.47	0.33	0.24	0.18								
A SK58 S150 AST	■■上	B	A	E 2層	(0.27)	(0.27)	(0.14)	(0.10)	0.23	SK76	SK80						
A SK59 S011 AST	■■上	B	D	A 1層	0.44	(0.33)	0.26	(0.24)	0.09	SK299	SK61						
A SK60 S147 AST	■■上	B	D	A 1層	0.52	0.40	0.41	0.35	0.09	SK76							
A SK61 S013 AST	■■上	B	A	A 1層	(0.46)	(0.41)	(0.32)	(0.34)	0.06	SD7, SK59							
A SK62 S019 AST	■■上	A	A	A 1層	0.45	0.40	0.17	0.17	0.12								
A SK63 S153 AST	■■上	B	D	A 1層	(1.08)	0.38	(0.87)	0.25	0.18	SK76							
A SK64 S015 AST	■■上	B	D	A 1層	(0.37)	0.11	(0.19)	0.04	0.11								
A SK65 S018 AST	■■上	B	A	A 1層	(0.36)	(0.20)	(0.15)	(0.07)	0.08								
A SK66 S154 AST	■■上	A	B	B 2層	0.19	0.18	0.07	0.04	0.08	SK76							
A SK67 S118 AR13	I b基	A	A	B 3層	0.41	0.37	0.20	0.21	0.37								
A SK68 S110 AR13	I b基	B	F	A 1層	0.46	0.27	0.21	0.12	0.24								
A SK69 S109 AR13	I b基	B	E	B 2層	0.40	0.28	0.28	0.17	0.19								
A SK70 S113 AR12	I b基	B	F	A 1層	0.58	0.40	0.15	0.12	0.28								
A SK71 S126 AR12	I b基	B	F	A 1層	0.58	0.43	0.10	0.09	0.41								
A SK72 S197 AL7	I b基	E	G	A 1層	(7.96)	3.12	(7.34)	3.05	0.19	SK7							
A SK73 S162 AN16	I b基	E	D	A 1層	(7.72)	(1.93)	(7.60)	(1.78)	0.15								
A SK74 S203 AQS	■■上	-	A	A 1層	(0.64)	-	(0.48)	-	(0.31)								
A SK75 S021 AR7	■■上	E	D	A 1層	3.10	(2.10)	2.70	(2.03)	0.11	SD7	SK76, SD10, SK45						
A SK76 S024 AP7~AS9	■■上	-	-	A 1層	(20.42)	(2.50)	(20.00)	-	0.31	SD7, SP2, SK47,	SE1, SD8~,	10, SK37, SK38,	SK48, SK49, SK50,	SD1, SK57, SK58, SK59, SK61,	SK62, SK64, SK65, SK66, SK76, SK77	73	
A SK77 S073 AS14	■■上	-	-	A 1層	(9.52)	(4.60)	-	(3.72)	0.32								
A SK78 S106 AR14	■■上	-	-	D 2層	(1.28)	0.3	(1.13)	(0.20)	0.08	SK77							
A SK79 S131 AP11	I b基	E	D	B 2層	(6.00)	4.25	(5.85)	3.75	0.21	SD6	SD1	74					
A SK80 S152 AR7~AST	■■上	E	F	A 1層	(3.61)	(0.59)	(3.44)	(0.16)	0.11	SK76							
A SK81 S163 AN15	I b基	B	F	D 4層	0.69	0.49	0.16	0.17	0.55								
A SK82 S267 BE5~6	I b基	F	D	A 1層	(1.43)	-	(1.34)	-	0.06	SB15	SD14						
A SK83 S269 BE6	I b基	A	D	A 1層	0.66	(0.35)	0.22	0.10	0.07	SD14	SK495						
A SK84 S264 BE5	I b基	A	D	C 2層	0.36	0.34	0.21	0.24	0.11								
A SK85 S271 BE5	I b基	F	F	A 1層	(1.15)	0.66	(1.15)	0.35	0.19	SD14, SK495						75	
A SK86 S296 BE5~6	I b基	D	D	B 2層	2.30	(1.38)	1.96	(1.24)	0.16	SP3	SK85						
A SK87 S303 BE5	I b基	B	A	C 2層	(0.68)	0.46	0.18	0.19	0.26	SK106, SK105							
A SK88 S292 BE5~6	I b基	B	D	C 2層	0.36	0.25	0.17	0.15	0.13								
A SK89 S203 BE3	I b基	A	D	B 3層	0.38	0.26	0.23	0.16	0.28								
A SK90 S215 BE4	I b基	A	B	C 3層	0.34	0.28	0.18	0.17	0.44								
A SK91 S210 BE4	I b基	A	F	D 4層	0.78	0.70	0.43	0.42	0.37								
A SK92 S264 BE4~4	I b基	A	D	B 3層	0.53	0.48	0.38	0.31	0.25								
A SK93 S221 BE4~4	I b基	B	B	C 2層	0.45	0.36	0.30	0.25	0.24								
A SK94 S220 BE4	I b基	A	D	C 2層	(0.70)	0.63	0.57	0.48	0.29	SK523, SK596							
A SK95 S219 BE4	I b基	A	B	B 3層	0.27	0.26	0.16	0.12	0.34	SK94							
A SK96 S224 BE4	I b基	A	D	B 3層	0.30	0.30	0.18	0.16	0.32								
A SK97 S223 BE4	I b基	B	D	A 1層	0.68	0.58	0.49	0.28	0.08								
A SK98 S217 BE4	I b基	A	D	B 3層	0.37	(0.32)	0.24	0.23	0.21	SK99							
A SK99 S216 BE4	I b基	A	D	B 2層	0.36	0.31	0.14	0.15	0.20	SK98							
A SK100 S240 BE4~4	I b基	A	B	D 3層	0.37	0.36	0.24	0.21	0.35								
A SK101 S252 BE4	I b基	A	D	B 3層	(0.36)	0.36	(0.24)	0.19	0.43	SA2~P2							
A SK102 S238 BE4	I b基	B	F	D 3層	0.40	0.25	0.28	0.17	0.21								
A SK103 S249 BE4	I b基	A	D	C 2層	2.29	0.27	0.27	0.10	0.13	0.25	SK104						
A SK104 S209 BE4	I b基	E	D	A 1層	1.36	1.14	1.21	0.90	0.10	SK103, SA2~P4							
A SK105 S300 BE5	I b基	A	C	B 3層	0.28	0.26	0.18	0.17	0.26	SK87							
A SK106 S299 BE5	I b基	A	B	D 2層	0.24	0.22	0.15	0.16	0.13	SK87							

表18 土坑一覧表(3)

地點 番号	調査 区画 番号	調査 面	横出面	平面 形状	断面 形状	埋上	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		地図	図版	
												新	旧			
B SK107 8197 8F3	1-a基	B	A	D	4層	(0.52)	0.44	(0.36)	0.30	0.35				SK108	75	
B SK109 8198 8F3	1-a基	B	B	A	1層	(0.48)	0.35	(0.44)	0.25	0.05	SK107					
B SK110 8200 8F3	1-a基	A	B	D	3層	(0.38)	0.30	0.23	0.18	0.24	SK110					
B SK111 8201 8F3	1-a基	A	D	D	4層	0.53	0.53	0.29	0.24	0.50	SK109					
B SK112 8202 8F3	1-a基	B	A	C	2層	0.38	0.31	0.17	0.16	0.30	SD20					
B SK113 8203 8F4	1-a基	A	B	C	3層	0.31	0.28	0.23	0.18	0.31	SD20					
B SK114 8205 8F4	1-a基	-	D	D	2層	1.34	0.42	0.92	0.14	0.19						
B SK115 8206 8F4	1-a基	A	D	A	4層	0.37	0.31	0.26	0.18	0.22	SD20					
B SK116 8212 8F4	1-a基	A	B	D	3層	0.34	0.26	0.18	0.18	0.35	SK522		75			
B SK117 8208 8F4	1-a基	A	D	D	2層	0.21	0.19	0.13	0.12	0.21						
B SK118 8254 8F4	1-a基	B	C	D	2層	0.40	0.26	0.12	0.12	0.28						
B SK119 8290 8F5	1-a基	B	D	D	2層	0.70	0.50	0.30	0.23	0.36						
B SK120 8262 8F4	1-a基	B	A	A	3層	0.50	0.40	0.32	0.27	0.40						
B SK121 8206 8F5	1-a基	A	D	C	3層	0.35	0.33	0.18	0.17	0.29						
B SK122 8228 8F4	1-a基	A	B	A	1層	0.40	0.32	0.24	0.18	0.14	SK123					
B SK123 8229 8F4-BG4	1-a基	B	D	A	1層	0.89	(0.42)	0.51	(0.30)	0.19	SB1-P7, SK122					
B SK124 8342 8F4-BG4	1-a基	A	D	C	2層	0.26	0.25	0.16	0.10	0.18						
B SK125 8146 8G3	1-a基	B	D	D	3層	0.43	0.42	0.23	0.21	0.34	SD24					
B SK126 8174 8G3	1-a基	A	D	D	3層	0.35	0.36	0.14	0.18	0.50	SD24	SB1-P1				
B SK127 8150 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.26	(0.25)	0.19	0.13	0.32	SD24, SB1-P1					
B SK128 8153 8G3	1-a基	F	B	E	4層	(0.35)	0.35	(0.16)	0.16	0.25	SD24		75			
B SK129 8152 8G3	1-a基	B	B	B	2層	0.38	0.33	0.26	0.25	0.25	SD24, SK130					
B SK130 8151 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.28	0.23	0.12	0.10	0.42	SD24	SK129				
B SK131 8196 8G3	1-a基	A	B	D	2層	(0.23)	0.22	0.16	0.16	0.24	SD24					
B SK132 8155 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.30	0.29	0.16	0.16	0.51	SD24					
B SK133 8154 8G3	1-a基	A	A	D	3層	0.30	0.28	0.20	0.20	0.16	SD24					
B SK134 8194 8G3	1-a基	A	D	A	1層	0.40	0.33	0.29	0.28	0.11	SK135					
B SK135 8006 8G3	1-a基	C	D	A	1層	1.64	1.16	1.45	0.97	0.67		SB1-P2, SK235, SD24, SP25, SK134, B134				
B SK136 8106 8G3	1-a基	A	B	C	4層	0.27	0.26	0.19	0.14	0.36	SK235	SK137				
B SK137 8115 8G3	1-a基	A	D	D	2層	0.42	0.38	0.34	0.27	0.13	SK235, SK136					
B SK138 8019 8G3	1-a基	A	B	B	3層	0.28	0.25	0.15	0.12	0.34						
B SK139 8008 8G3	1-a基	A	A	A	1層	0.40	(0.34)	0.14	0.24	0.13	SB1-P2					
B SK140 8027 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.32	0.32	0.15	0.14	0.37						
B SK141 8142 8G3	1-a基	F	D	D	3層	(0.28)	(0.14)	(0.14)	(0.11)	0.50	SB2-P1					
B SK142 8010 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.28	0.27	0.18	0.22	0.41	SP21	SB2-P1				
B SK143 8011 8G3	1-a基	A	D	C	3層	0.40	0.27	0.25	0.16	0.31	SB2-P1					
B SK144 8029 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.28	0.26	0.18	0.14	0.22						
B SK145 8025 8G3	1-a基	B	D	B	2層	0.24	0.18	0.10	0.09	0.17						
B SK146 8026 8G3	1-a基	A	B	C	2層	0.19	0.18	0.16	0.11	0.22						
B SK147 8136 8G3	1-a基	A	D	D	3層	0.26	0.26	0.16	0.12	0.26	SK235					
B SK148 8145 8G3-BG3	1-a基	A	F	D	4層	0.58	(0.48)	0.62	0.32	0.34	SK235	SK224				
B SK149 8020 8G3	1-a基	B	B	A	1層	0.29	0.28	0.23	0.11	0.04						
B SK150 8016 8G3	1-a基	B	B	C	4層	0.33	0.31	0.16	0.18	0.21	SK235					
B SK151 8022 8G3	1-a基	A	B	D	2層	0.26	0.24	0.12	0.12	0.18						
B SK152 8023 8G3	1-a基	A	A	C	3層	0.30	0.27	0.13	0.13	0.27						
B SK153 8024 8G3	1-a基	A	A	B	2層	0.13	0.13	0.10	0.08	0.09						
B SK154 8035 8G3	1-a基	A	B	D	3層	0.31	0.28	0.11	0.14	0.24						
B SK155 8034 8G3	1-a基	A	B	C	2層	0.27	0.26	0.12	0.10	0.13						
B SK156 8239 8F4	1-a基	A	B	D	2層	0.38	0.32	0.28	0.20	0.20						
B SK157 8015 8G3	1-a基	B	B	C	2層	1.35	1.29	1.04	1.05	0.13	SK521	SP17, SP16				
B SK158 8069 8G4	1-a基	A	D	B	2層	0.35	0.30	0.16	0.17	0.29		SK159, SB1-P5				
B SK159 8070 8G4	1-a基	A	B	D	2層	0.35	(0.27)	0.24	(0.20)	0.14	SK158	SB1-P5				
B SK160 8047 8G4	1-a基	A	D	A	1層	0.58	(0.44)	0.47	(0.36)	0.13	SK165					
B SK161 8042 8G4	1-a基	A	D	C	2層	0.41	(0.34)	0.26	0.21	0.31	SK163, SK166					
B SK162 8230 8G4	1-a基	B	F	A	1層	(0.42)	(0.42)	0.43	0.30	0.68	SB1-P7, SK123					
B SK163 8043 8G4	1-a基	A	F	C	2層	0.62	(0.31)	0.25	0.25	0.25	SK161	SB1-P7, SK165				
B SK164 8186 8G4	1-a基	A	D	C	3層	0.36	0.34	0.21	0.15	0.28	SK165					
B SK165 8046 8G4	1-a基	A	B	A	1層	1.12	(0.68)	0.93	(0.58)	0.09	SK161, SK163, SB3-P7, SK171	SK160, SK164				
B SK166 8140 8G3	1-a基	A	D	C	2層	0.28	0.26	0.18	0.16	0.22	SB2-P5					
B SK167 8072 8G4	1-a基	A	D	C	2層	0.27	0.26	0.15	0.10	0.16						
B SK168 8073 8G4	1-a基	A	A	B	2層	0.30	0.27	0.23	0.11	0.25						
B SK169 8048 8G4	1-a基	A	D	B	2層	0.44	0.40	0.19	0.18	0.31	SA4-P1	76				
B SK170 8051 8G4	1-a基	A	A	C	2層	0.24	0.20	0.10	0.09	0.30	SK172					
B SK171 8050 8G4	1-a基	A	B	B	2層	1.19	0.83	1.02	0.70	0.14	P7					
B SK172 8052 8G4	1-a基	B	D	A	1層	0.96	(0.88)	0.75	(0.80)	0.06	SK171, SK170	SK173				
B SK173 8061 8G4	1-a基	B	D	A	1層	(0.80)	0.70	(0.80)	0.58	0.07	SK172, SP32, SK177,	SK182				
B SK174 8039 8G4	1-a基	B	B	B	2層	(1.04)	0.87	0.78	0.64	0.08	SB1-P4	SK178, SB3-P2				
B SK175 8040 8G4	1-a基	A	B	A	1層	0.86	(0.57)	0.66	(0.61)	0.07	SK174	SK176				
B SK176 8189 8G4	1-a基	B	B	D	3層	(0.34)	0.35	0.23	0.21	0.30	SK175		76	16		
B SK177 8055 8G4	1-a基	B	B	B	2層	1.76	0.94	1.64	0.71	0.12	SP32, SP53		76			

表19 土坑一覧表(4)

地點名 番号	測量番号	調査区画	横出面	平面形状	断面形状	埋土	上端長軸	下端短軸	下端短軸	深さ	重複関係		説明	図版
											新	旧		
B SK178	8190	W14	I-a系	B	D	C	2層	1.35	(0.42)	1.16	(0.31)	0.14	SK180, SK258	
B SK179	8057	W64	I-a系	A	D	A	1層	0.42	0.42	0.33	0.31	0.10	SK180, SK183	
B SK180	8058	W64	I-a系	D	D	A	1層	(1.18)	1.38	(1.11)	1.28	0.06	SK179, SK178, SP33	
B SK181	8059	W64	I-a系	B	D	C	2層	0.74	0.42	0.49	0.34	0.17	SK180	76
B SK182	8064	W64	I-a系	A	D	A	1層	0.41	(0.37)	0.34	(0.32)	0.06	SP32	SK180
B SK183	8066	W64	I-a系	A	F	B	2層	0.77	0.68	0.38	0.35	0.32	SK179, SK181	SK173
B SK184	8075	W64	I-a系	A	D	D	2層	0.28	0.24	0.18	0.18	0.14		
B SK185	8076	W64	I-a系	A	B	B	2層	0.33	0.32	0.16	0.18	0.20	SP33	
B SK186	8061	W64	I-a系	B	B	C	3層	0.34	0.31	0.24	0.17	0.45		
B SK187	8063	W64	I-a系	A	A	A	1層	1.30	0.71	1.03	0.51	0.12	SP30	
B SK188	8065	W64	I-a系	A	A	D	2層	0.31	0.31	0.14	0.13	0.22		
B SK189	8326	W64	I-a系	A	B	B	3層	0.30	0.26	0.18	0.17	0.29		
B SK190	8066	W64	I-a系	A	D	B	2層	0.50	0.49	0.34	0.26	0.31	SK191	
B SK191	8322	W64	I-a系	A	D	A	1層	(0.21)	0.21	0.13	0.15	0.09	SK190	
B SK192	8323	W64	I-a系	A	F	D	2層	0.27	0.26	0.26	0.17	0.16		76
B SK193	8320	W64	I-a系	A	D	A	1層	0.22	0.21	0.11	0.12	0.09		
B SK194	8318	W64	I-a系	C	C	C	3層	0.25	0.24	0.06	0.04	0.15	SK195	
B SK195	8319	W64	I-a系	A	D	A	1層	0.26	(0.20)	0.12	0.11	0.05	SK194	
B SK196	8324	W64-5	I-a系	B	C	2層	0.30	0.24	0.24	0.19	0.25	SA4-P3		
B SK197	8316	W65	I-a系	A	D	A	1層	0.22	0.20	0.10	0.08	0.15		
B SK198	8315	W65	I-a系	F	C	3層	0.36	0.35	0.23	0.21	0.37			
B SK199	8304	W65	I-a系	A	A	A	1層	0.25	0.24	0.16	0.13	0.04		
B SK200	8312	W65	I-a系	B	D	C	3層	0.40	0.36	0.25	0.15	0.25		
B SK201	8308	W65	I-a系	B	F	D	3層	0.54	0.46	0.10	0.08	0.31	SP35	
B SK202	8310	W65	I-a系	E	B	D	2層	0.49	0.24	0.30	0.16	0.13		
B SK203	8311	W65	I-a系	A	D	A	1層	0.44	0.37	0.34	0.26	0.14		
B SK204	8341	W65	I-a系	B	A	D	2層	0.55	0.36	0.29	0.29	0.25		
B SK205	8313	W65	I-a系	A	B	C	2層	0.33	0.32	0.23	0.19	0.19		
B SK206	8314	W65	I-a系	A	D	C	3層	0.38	0.30	0.18	0.13	0.40		
B SK207	8348	W65	I-a系	E	E	D	4層	2.76	1.06	2.42	0.94	0.21	SB15	77
B SK208	8327	W65	I-a系	A	B	A	1層	0.29	0.26	0.18	0.16	0.12		
B SK209	8328	W65	I-a系	A	F	C	2層	0.48	0.33	0.32	0.22	0.17	SP36	
B SK210	8330	W65	I-a系	A	F	D	3層	0.54	0.48	0.39	0.25	0.33		
B SK211	8284	W66	I-a系	A	D	G	2層	0.44	0.42	0.23	0.23	0.28		
B SK212	8234	W66-BU1	I-a系	B	A	D	3層	0.67	(0.41)	0.46	0.27	0.37	SK177, SP53	77
B SK213	8182	W62	I-a系	A	B	B	2層	0.32	0.28	0.25	0.18	0.23		
B SK214	8172	W62	I-a系	B	A	D	3層	(0.38)	0.29	(0.36)	0.16	0.24	SD24, SK215	SD25
B SK215	8171	W62	I-a系	A	F	D	2層	0.36	0.35	0.27	0.30	0.17	SD24	SK214
B SK216	8170	W62	I-a系	A	F	G	2層	0.35	0.35	0.26	0.25	0.24	SD24	
B SK217	8164	W62	I-a系	B	D	C	3層	0.22	0.20	0.13	0.11	0.32	SD24	
B SK218	8165	W62	I-a系	B	D	A	1層	0.28	0.24	0.16	0.13	0.08	SD24	
B SK219	8173	W62	I-a系	A	D	B	3層	0.44	0.30	0.32	0.20	0.16	SD24	
B SK220	8183	W62	I-a系	A	D	C	2層	0.38	0.31	0.23	0.17	0.29		
B SK221	8181	W63	I-a系	S	S	B	2層	0.34	(0.22)	0.10	0.09	0.33	SP37	
B SK222	8175	W63	I-a系	B	D	C	3層	(0.28)	0.22	(0.18)	0.10	0.36	SD24, SP38	SP39
B SK223	8167	W63	I-a系	A	C	C	3層	0.30	0.29	0.13	0.16	0.33	SD24	
B SK224	8166	W63	I-a系	A	C	B	3層	(0.22)	0.30	(0.14)	0.16	0.30	SD24	
B SK225	8093	W63	I-a系	B	B	A	1層	(0.37)	0.38	(0.25)	0.31	0.05		
B SK226	8298	W63	I-a系	B	B	D	2層	0.39	(0.26)	0.24	(0.22)	0.19	SK227	
B SK227	8093	W63	I-a系	B	D	A	1層	1.23	0.76	1.06	0.60	0.08	SD24	SP44, SK224, SK226
B SK228	8090	W63	I-a系	A	B	D	3層	0.27	0.24	0.14	0.12	0.22	SK229	
B SK229	8091	W63	I-a系	A	F	D	2層	0.24	0.23	0.17	0.10	0.24	SK228	
B SK230	8094	W63	I-a系	A	C	C	2層	0.40	0.40	0.10	0.10	0.44	SP47	
B SK231	8096	W63	I-a系	A	B	C	2層	0.21	0.18	0.08	0.12	0.28	SP47	
B SK232	8109	W63	I-a系	A	B	B	3層	0.25	0.22	0.18	0.15	0.35		
B SK233	8368	W63	I-a系	A	A	D	2層	0.24	0.22	0.08	0.08	0.17	SK234	
B SK234	8082	W63	I-a系	B	B	B	3層	1.21	0.66	1.16	0.52	0.24	SK148, SB1-P3	SP43, SK233
B SK235	B017	BG3	I-a系	E	D	A	1層	2.80	0.97	1.63	0.86	0.09	SK135, SK150	SK136, SP26, SK137, SK147, SB2-P2, SP27, SP28, SK148
B SK236	8253	W63	I-a系	B	B	A	1層	(0.67)	0.52	(0.60)	0.42	0.08	SK237, SP46	
B SK237	8080	W63	I-a系	A	D	A	1層	(0.42)	0.40	0.25	0.30	0.23	SK236	
B SK238	8087	W63	I-a系	A	D	D	2層	0.41	0.30	0.27	0.22	0.18	SK239	
B SK239	8088	W63	I-a系	A	A	A	1層	0.32	(0.25)	0.24	(0.18)	0.06	SK238	SK240
B SK240	8089	W63	I-a系	B	B	D	3層	0.28	0.28	0.14	0.14	0.37	SK239	
B SK241	8086	W63	I-a系	A	B	A	1層	(0.34)	(0.30)	0.40	0.31	0.11	SK242	
B SK242	8085	W63	I-a系	A	D	D	2層	0.33	0.32	0.29	0.19	0.19	SK241	
B SK243	8097	W63	I-a系	E	B	A	1層	(1.17)	(0.54)	(1.06)	(0.52)	0.06	SB-P4	
B SK244	8099	W63	I-a系	B	D	C	2層	1.01	0.66	0.97	0.57	0.09	SK245	
B SK245	8363	W63	I-a系	A	C	C	2層	0.27	0.24	0.11	0.10	0.12	SK244	
B SK246	8091	W63	I-a系	B	A	D	2層	1.06	0.86	0.79	0.63	0.20		77
B SK247	8100	W63	I-a系	A	B	A	1層	0.44	0.36	0.39	0.21	0.09	SK248	
B SK248	8133	W63	I-a系	A	D	A	1層	0.42	0.35	0.32	0.20	0.09	SK247	
B SK249	8122	W64	I-a系	A	D	D	3層	0.41	0.33	0.24	0.19	0.19		
B SK250	8363	W64	I-a系	B	F	D	3層	0.67	0.38	0.50	0.22	0.48	SK251	

表20 土坑一覧表(5)

地點 番号	調査 区画 番号	調査面	横出面	平面 形状	断面 形状	理上	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		押闇	開闇
												新	旧		
B SK251	0084	003	I-a基	B	D	C 2層	1.22	0.98	1.10	0.78	0.11	SP49	SK250, SP50		
B SK252	0116	004	I-a基	B	F	D 3層	1.10	0.87	0.87	0.47	0.20	SB3-P3	SP2	78	
B SK253	0114	004	I-a基	B	A	C 4層	1.20	0.82	0.79	0.46	0.22	SK255			
B SK254	0113	004	I-a基	B	A	D 3層	0.54	0.42	0.30	0.30	0.30	SK255			
B SK255	0112	004	I-a基	B	D	B 2層	0.55	0.47	0.38	0.28	0.21		SK254, SK253		
B SK256	0118	004	I-a基	B	F	C 5層	1.28	0.58	0.36	0.35	0.46	SB2-P10, SK258			
B SK257	0187	004	I-a基	A	D	C 2層	0.22	0.22	0.12	0.10	0.15	SK258			
B SK258	0121	004	I-a基	B	F	B 3層	2.52	1.50	2.31	1.23	0.18	SK261	SK256, SK257, SK259, SK178	90	
B SK259	0188	004	I-a基	A	D	D 3層	0.31	0.31	0.24	0.18	0.33	SK258			
B SK260	0128	004	I-a基	A	D	C 2層	0.32	0.30	0.17	0.21	0.16				
B SK261	0119	004	I-a基	A	D	C 2層	0.43	0.38	0.18	0.20	0.24		SK262, SK258		
B SK262	0120	004	I-a基	A	A	C 3層	0.31	0.24	0.13	0.14	0.32	SK261			
B SK263	0204-BB5	005	I-a基	A	F	B 2層	0.60	0.53	0.40	0.42	0.13				
B SK264	0331-BB5-BB5	005	I-a基	A	D	C 3層	0.23	0.23	0.10	0.10	0.26				
B SK265	0333	005	I-a基	A	B	C 3層	0.25	0.22	0.14	0.14	0.28				
B SK266	0346	005	I-a基	A	B	A 1層	0.36	0.30	0.13	0.11	0.14				
B SK267	0257-BB6	006	I-a基	A	B	C 3層	0.30	0.28	0.11	0.10	0.35				
B SK268	0163	012	I-a基	B	B	D 3層	(0.20)	0.28	0.15	0.14	0.14	SD24, SK269			
B SK269	0162	012	I-a基	B	B	D 3層	0.30	0.24	0.19	0.11	0.33	SD24	SK268		
B SK270	0161	012	I-a基	A	A	C 2層	0.41	0.28	0.18	0.10	0.18	SD24			
B SK271	0244	012	I-a基	F	G	A 1層	(1.00)	(0.19)	(0.90)	(0.19)	0.11	SD24, SD27, SD30			
B SK272	0281	012	I-a基	D	B	C 3層	(0.65)	0.66	(0.36)	0.39	0.23				
B SK273	0083	012	I-a基	A	C	E 1層	(0.33)	0.25	0.12	0.12	0.20	SD29			
B SK274	0004	012	I-a基	B	A	E 1層	0.42	0.33	0.24	0.16	0.04				
B SK275	0003	012	I-a基	E	D	C 2層	1.12	0.70	0.59	0.39	0.19				
B SK276	0241	012	I-a基	A	C	A 1層	0.24	0.18	0.05	0.04	0.18	SD28, SD29			
B SK277	0246	011	I-a基	F	G	D 2層	(1.94)	(0.34)	(1.62)	(0.10)	(0.15)				
B SK278	0157	012	I-a基	B	D	E 4層	1.56	(1.31)	0.94	(0.02)	0.23	SD24, SD27			
B SK279	0369	004	I-a基	B	D	D 5層	1.16	(0.68)	0.88	(0.45)	0.51	SD2-P10, SK280	78	16	
B SK280	0124	004	I-a基	A	B	C 2層	1.00	0.67	0.78	0.56	0.08	SK279			
B SK281	0125	004-B14	I-a基	B	B	C 2層	1.32	1.05	1.10	0.80	0.15	SK282			
B SK282	0366	004	I-a基	B	A	E 1層	0.78	0.59	0.58	0.20	0.10	SK281			
B SK283	0127	004	I-a基	B	A	B 1層	0.50	0.41	0.23	0.21	0.09				
B SK284	0359	014	I-a基	B	F	C 3層	0.63	0.50	0.40	0.35	0.23	SK285			
B SK285	0358	014	I-a基	B	F	E 10層	1.64	1.60	1.13	0.92	0.41	SK284, SP57	79	16	
B SK286	0350-BB5-BB5	015	I-a基	B	D	B 2層	0.57	0.54	0.36	0.36	0.13				
B SK287	0345	005	I-a基	B	B	A 1層	0.25	0.25	0.16	0.13	0.11				
B SK288	0357	015	I-a基	A	F	A 1層	0.44	0.42	0.34	0.24	0.11				
B SK289	0356	015	I-a基	A	D	C 3層	0.68	0.63	0.44	0.44	0.32	SK290			
B SK290	0355	015	I-a基	A	D	C 2層	0.36	0.32	0.19	0.18	0.19	SK289			
B SK291	0335	015	I-a基	A	B	C 2層	0.60	0.55	0.27	0.25	0.16				
B SK292	0336	015	I-a基	A	B	A 1層	0.41	0.36	0.26	0.22	0.12				
B SK293	0337	015	I-a基	A	F	A 1層	0.42	0.34	0.24	0.18	0.15				
B SK294	0258	B 1.5	I-a基	A	D	C 3層	(0.26)	0.29	(0.22)	0.16	0.21				
B SK295	0338	015	I-a基	A	B	A 1層	0.31	0.30	0.22	0.19	0.09				
B SK296	0339	015	I-a基	A	F	D 3層	0.50	0.43	0.36	0.31	0.16				
B SK297	0004	015-B16	I-a基	A	F	B 3層	0.66	0.64	0.65	0.04	0.20				
B SK298	0007	035	I-a基	E	A	D 2層	0.55	(0.19)	0.45	(0.15)	0.07	SK519			
B SK299	0010	035	I-a基	F	A	E 1層	0.17	0.05	0.29	0.25	0.30				
B SK300	0014	035	I-a基	A	D	A 1層	(0.28)	0.27	(0.19)	0.14	0.11				
B SK301	0013	035	I-a基	B	A	B 2層	0.26	0.21	0.19	0.15	0.14				
B SK302	0011	035-B16	I-a基	A	C	D 2層	0.31	0.26	0.13	0.12	0.15				
B SK303	0058	036	I-a基	D	C	B 2層	(0.69)	0.46	(0.68)	0.36	SK304				
B SK304	0067	036	I-a基	B	D	A 1層	0.57	0.26	0.41	0.15	0.68	SK303			
B SK305	0056	B16	I-a基	B	A	A 1層	0.58	0.51	0.47	0.27	0.30	0.22			
B SK306	0001-BE-P11	1-a基	D	A	E	2層	(6.37)	(1.97)	(6.02)	(1.79)	0.33	SK307	SD21, SK306		
B SK307	CD09	BB11-BE12	I-a基	E	D	A 1層	(7.64)	(1.63)	—	(1.56)	0.22		SK306, SD16, SD23		
B SK308	CD10	BB11-12	I-a基	R	B	B 2層	0.51	0.24	0.49	0.21	0.18	SK309	SD16		
B SK309	CD03	BC11-BD12	I-a基	B	A	A 1層	1.46	1.25	1.18	0.92	0.19	SD16, SK308			
B SK310	A330	BD10	I-a基	B	B	B 2層	0.59	0.51	0.43	0.34	0.31	SK311			
B SK311	A329	BD10	I-a基	E	D	B 2層	1.56	1.21	0.67	0.80	0.34	SD16	SK310		
B SK312	A060	ER	I-a基	B	B	E 2層	0.41	0.34	0.33	0.28	0.10	SD21			
B SK313	A061	ER	I-a基	A	G	A 1層	0.59	0.51	0.46	0.45	0.10	SD21			
B SK314	A023	ER	I-a基	A	B	C 3層	0.51	0.47	0.25	0.24	0.27				
B SK315	A328	ER	I-a基	B	D	A 1層	0.77	0.67	0.69	0.46	0.07	SD21			
B SK316	A326	ER	I-a基	B	F	B 4層	1.79	1.23	1.10	0.69	0.45	SD21, SK317			
B SK317	A045	ER-B9	I-a基	B	D	B 3層	0.77	0.60	0.43	0.29	0.45	SK316			
B SK318	A327	ER-B10-B10	I-a基	B	F	B 5層	3.18	1.83	1.46	0.78	0.57	SD21	SK319	80	
B SK319	A332	ER-B10-B10	I-a基	B	F	B 3層	0.65	0.57	0.21	0.19	0.52	SK318, SD21			
B SK320	A039	BR	I-a基	A	B	A 1層	0.57	0.55	4.00	0.23	0.07				
B SK321	A040	BR	I-a基	B	D	E 2層	1.09	0.76	0.78	0.52	0.12				
B SK322	A041	BR	I-a基	B	C	A 1層	0.65	0.55	0.40	0.33	0.07				
B SK323	A042	BR	I-a基	A	D	A 1層	0.74	0.37	0.29	0.26	0.10				
B SK324	A046	BR	I-a基	B	B	D 1層	0.44	0.34	0.19	0.14	0.13				
B SK325	A043	BR	I-a基	A	D	A 1層	0.88	0.77	0.58	0.54	0.13				

表21 土坑一覧表(6)

地點名 番号	遺構番号 番号	調査 区域	横出面	平面 形状	断面 形状	埋土 上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		説明	図版	
											新	旧			
B SK326	A063	BF9	I-a	矩	A	D	8	3層	0.78	0.69	0.47	0.33	0.42	SK327	
B SK327	A047	BF8	I-a	矩	E	D	A	1層	2.01	0.39	1.61	0.14	0.19		80
B SK328	A049	BF8	I-a	矩	B	A	A	1層	0.37	0.22	0.13	0.10	0.13		SK326
B SK329	A050	BF8	I-a	矩	B	A	A	1層	0.41	0.34	0.21	0.11	0.15		SK331
B SK330	A051	BF8	I-a	矩	A	D	A	1層	0.86	0.74	0.60	0.50	0.11		SK331, SK336
B SK331	A052	BF8	I-a	矩	B	D	A	1層	1.63	(1.33)	1.44	(1.25)	0.07	SK330	SK342, SK329
B SK332	A044	BF9	I-a	矩	B	G	A	1層	0.50	0.49	0.33	0.24	0.06		
B SK333	A038	BF8-BF9	I-a	矩	A	G	A	1層	0.38	0.34	0.04	0.04	0.14		
B SK334	A033	BF9	I-a	矩	A	F	F	2層	0.51	0.50	0.12	0.09	0.22		
B SK335	A034	BF9	I-a	矩	B	F	B	2層	1.06	0.79	0.35	0.22	0.21		
B SK336	A053	BF7-BF8	I-a	矩	E	G	A	1層	5.34	2.85	5.19	2.66	0.14	SK330, SK331	
B SK337	A036	BF9	I-a	矩	B	F	B	2層	0.48	0.39	0.14	0.09	0.12		
B SK338	A032	BF9	I-a	矩	A	F	B	2層	0.48	0.48	0.36	0.35	0.12		
B SK339	A031	BF10	I-a	矩	B	B	E	2層	0.59	(0.37)	0.38	(0.20)	0.26	SK340	
B SK340	A037	BF10	I-a	矩	B	G	B	3層	0.90	0.74	0.25	0.18	0.54		SK339
B SK341	A028	BF10	I-a	矩	B	D	A	1層	0.48	0.44	0.31	0.28	0.10		
B SK342	A029	BF10	I-a	矩	A	A	A	1層	0.48	0.44	0.31	0.28	0.10	SK343	
B SK343	A030	BF10	I-a	矩	E	F	C	2層	1.78	0.47	0.39	0.38	0.26	SK342	
B SK344	A027	BF10	I-a	矩	F	F	A	1層	0.59	0.42	0.26	0.13	0.27		
B SK345	A139	BF7-BF7	I-a	矩	A	F	A	1層	0.67	0.33	0.42	0.22	0.13		
B SK346	A215	BF9-BF9	I-a	矩	B	A	A	1層	(0.22)	(0.12)	(0.14)	(0.06)	0.08		
B SK347	A129	BF9-BF8	I-a	矩	D	D	A	1層	1.31	1.06	0.97	0.78	0.25		
B SK348	A130	BF8	I-a	矩	D	A	A	1層	0.93	0.86	0.51	0.29	0.16		
B SK349	A131	BF7	I-a	矩	D	A	A	1層	0.96	0.72	0.76	0.54	0.19		
B SK350	A136	BF7	I-a	矩	B	D	A	2層	(1.14)	0.52	(1.63)	0.38	0.21	SP61	
B SK351	A131	BF7-BF8	I-a	矩	A	C	E	2層	0.99	0.87	0.23	0.21	0.43		
B SK352	A156	BF7	I-a	矩	A	D	A	1層	0.54	0.47	0.35	0.31	0.20		
B SK353	A160	BF7	I-a	矩	B	F	A	1層	0.41	0.32	0.13	0.17	0.13		
B SK354	A133	BF7-BF7	I-a	矩	A	F	A	1層	0.43	0.39	0.21	0.19	0.12		
B SK355	A153	BF7	I-a	矩	A	D	A	1層	0.23	0.21	0.12	0.13	0.10		
B SK356	A137	BF7	I-a	矩	B	A	G	3層	0.70	0.54	0.39	0.24	0.14		
B SK357	A386	BF7	I-a	矩	E	D	A	1層	1.45	0.39	1.36	0.27	0.17		
B SK358	A126	BF8	I-a	矩	A	A	A	1層	0.41	0.36	0.26	0.20	0.10		
B SK359	A216	GB8	I-a	矩	D	D	A	1層	0.37	0.35	0.25	0.25	0.07	SK360	
B SK360	A217	GB8	I-a	矩	B	D	B	2層	0.46	0.40	0.20	0.30	0.15	SA5-P1, SK359	
B SK361	A124	GB8	I-a	矩	A	A	A	1層	0.54	0.50	0.31	0.37	0.09		
B SK362	A249	GB8	I-a	矩	B	D	A	1層	0.50	(0.45)	0.26	(0.26)	0.08	SK363	
B SK363	A094	BB-BB	I-a	矩	B	A	A	1層	0.38	0.32	0.16	0.15	0.16	SK362	
B SK364	A080	BF9	I-a	矩	A	A	E	2層	0.63	0.57	0.41	0.37	0.15		
B SK365	A078	BF9-BF10	I-a	矩	B	F	D	2層	0.73	0.65	0.14	0.21	0.28		
B SK366	A079	BF9	I-a	矩	B	F	B	3層	0.77	0.58	0.19	0.15	0.20		
B SK367	A073	BF9	I-a	矩	B	F	F	4層	0.52	0.47	0.20	0.15	0.24		
B SK368	A077	BF9	I-a	矩	S	D	A	1層	0.40	0.32	0.25	0.20	0.09		
B SK369	A076	BF9	I-a	矩	D	E	D	2層	0.70	0.57	0.56	0.38	0.10		
B SK370	A122	BF9	I-a	矩	B	S	A	1層	(0.41)	(0.25)	(0.39)	(0.18)	0.13	SK371	
B SK371	A081	BF9-BG10	I-a	矩	B	D	A	1層	1.26	0.84	0.36	0.41	0.26	SK370	
B SK372	A085	BF9-BF9	I-a	矩	S	S	A	1層	1.67	1.19	1.24	0.91	0.19		81
B SK373	A169	BF10	I-a	矩	A	A	B	2層	0.59	0.45	0.56	0.42	0.26		
B SK374	A069	BF10	I-a	矩	S	B	D	1層	0.43	0.24	0.27	0.12	0.14		
B SK375	A068	BF10	I-a	矩	A	D	B	2層	0.44	0.41	0.25	0.18	0.25		
B SK376	A067	BF10	I-a	矩	B	B	B	2層	0.35	0.26	0.26	0.13	0.18		
B SK377	A066	BF10	I-a	矩	B	D	D	2層	0.45	(0.36)	0.20	(0.21)	0.16		
B SK378	A070	BF10	I-a	矩	S	D	A	1層	0.32	0.26	0.18	0.17	0.11		
B SK379	A123	BF10	I-a	矩	B	D	B	2層	0.45	0.30	0.15	0.14	0.20		
B SK380	A165	BF7	I-a	矩	S	B	D	1層	0.42	0.25	0.23	0.15	0.11		
B SK381	A166	BF7	I-a	矩	B	D	A	1層	0.50	0.18	0.42	0.20	0.15		
B SK382	A168	BF7	I-a	矩	A	A	A	1層	0.20	0.17	0.05	0.08	0.11		
B SK383	A167	BF7	I-a	矩	A	B	D	2層	0.34	0.31	0.13	0.12	0.33		
B SK384	A154	BF7	I-a	矩	B	F	G	2層	0.37	0.29	0.14	0.12	0.15	SK385	
B SK385	A164	BF7	I-a	矩	B	D	A	1層	(0.34)	0.30	(0.11)	0.13	0.18	SK384	
B SK386	A152	BF7	I-a	矩	A	D	A	1層	(0.38)	0.32	(0.35)	0.22	0.06	SP66	
B SK387	A135	BF7	I-a	矩	B	G	A	1層	0.64	0.52	0.53	0.34	0.17		
B SK388	A098	BF7	I-a	矩	A	D	A	1層	0.46	0.42	0.23	0.31	0.23	SP68	
B SK389	A095	BF7	I-a	矩	A	A	A	1層	0.53	0.52	0.36	0.18	0.13		
B SK390	A157	BF7	I-a	矩	A	A	E	2層	0.47	0.46	0.14	0.10	0.12		
B SK391	A099	BF7-BF8	I-a	矩	B	A	A	1層	0.47	0.38	0.31	0.26	0.09	SP69	
B SK392	A097	BF7	I-a	矩	B	D	A	1層	0.42	0.30	0.33	0.20	0.06		
B SK393	A141	BF7-BF7	I-a	矩	A	D	E	2層	0.36	0.33	0.19	0.18	0.18		
B SK394	A146	BF7	I-a	矩	B	D	A	1層	0.45	0.36	0.11	0.10	0.16		
B SK395	A145	BF7	I-a	矩	A	A	A	1層	0.43	0.39	0.24	0.23	0.08		
B SK396	A105	BF7-BF7	I-a	矩	A	D	A	1層	0.34	0.33	0.19	0.17	0.19		
B SK397	A106	BF7-BF7	I-a	矩	A	D	D	3層	0.46	0.44	0.28	0.23	0.26		
B SK398	A144	BF7-BF8	I-a	矩	A	D	A	1層	0.58	0.54	0.27	0.33	0.14	SB4-P7, SP78	
B SK399	A147	BF7-BF8	I-a	矩	B	C	B	2層	0.38	0.30	0.11	0.10	0.15	SP71, SP72	
B SK400	A290	BF9	I-a	矩	B	A	D	2層	0.53	0.36	0.29	0.25	0.22		

表22 土坑一覧表(7)

地點 名 番号	調査 区画 番号	横出面	平面 形状	断面 形状	理上	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	重複関係		押因	閑版	
											新	旧			
B SK401 A220 008	I-a基	A	B	A 1層	0.35	0.33	0.19	0.14	0.19						
B SK402 A127 008	I-a基	B	D	A 1層	0.49	0.36	0.36	0.20	0.07						
B SK403 A248 008	I-a基	B	D	B 2層	0.44	0.39	0.21	0.19	0.24				SK405		
B SK404 A247 008	I-a基	B	D	A 1層	0.93	0.60	0.80	0.42	0.08	SP74, SA5-P2					
B SK405 A091 008	I-a基	B	D	B 2層	0.71	(0.46)	0.60	(0.31)	0.23	SK403			81	16	
B SK407 A112 008	I-a基	A	E	A 1層	0.47	0.41	0.36	0.20	0.33	SA5-P3					
B SK407 A107 008	I-a基	A	A	B 3層	0.42	0.40	0.21	0.19	0.24				SK408		
B SK407 A108 008	I-a基	A	A	A 1層	0.47	(0.35)	0.24	(0.10)	0.18	SK407			SK410		
B SK409 A100 008	I-a基	A	A	B 2層	0.39	0.39	0.24	0.23	0.10						
B SK410 A109 008	I-a基	A	D	D 2層	0.36	(0.30)	0.22	(0.18)	0.48	SP79, SK408					
B SK411 A261 008	I-a基	B	G	A 1層	0.48	(0.26)	0.18	(0.16)	0.23	SK412					
B SK412 A260 008	I-a基	A	A	E 2層	0.36	(0.35)	0.19	0.19	0.28	SP80			SK411		
B SK413 A150 008-B18	I-a基	A	D	A 1層	0.35	(0.29)	0.22	(0.21)	0.11	SK415, SK414					
B SK414 A103 008-B18	I-a基	B	B	A 1層	0.44	0.38	0.21	0.15	0.25	SK415			SK413		
B SK414 A102 008-B18	I-a基	B	B	A 1層	0.44	0.34	0.23	0.17	0.12				SK414, SK413		
B SK414 A244 008	I-a基	A	D	A 1層	(0.50)	0.49	(0.40)	0.31	0.12	SK417					
B SK417 A087 008	I-a基	A	F	D 3層	0.80	0.77	0.16	0.12	0.33				SK416, SK418		
B SK418 A245 008	I-a基	B	F	A 1層	0.64	0.33	0.09	0.06	0.17	SK417					
B SK419 A239 008	I-a基	B	D	E 2層	0.52	0.24	0.32	0.08	0.14						
B SK420 A233 008-B19	I-a基	B	D	A 1層	0.59	0.50	0.32	0.34	0.30				SM6-P2		
B SK421 A231 008	I-a基	A	A	A 1層	0.30	0.27	0.13	0.15	0.15						
B SK422 A228 009	I-a基	A	E	2層	0.94	0.32	0.19	0.16	0.25						
B SK423 A234 009	I-a基	A	B	A 1層	0.18	0.16	0.08	0.08	0.24						
B SK424 A237 009	I-a基	B	B	A 1層	0.47	0.39	0.12	0.12	0.28						
B SK425 A239 009	I-a基	A	C	A 1層	0.27	0.26	0.09	0.09	0.19						
B SK426 A311 008-B19	I-a基	A	D	E 2層	1.04	0.99	0.64	0.74	0.36	SK460					
B SK427 A269 009-B19	I-a基	B	B	A 1層	0.46	0.42	0.30	0.22	0.27						
B SK428 A321 009-B19	I-a基	A	E	2層	0.31	0.31	0.17	0.14	0.22	SK429					
B SK429 A316 009	I-a基	A	B	D 2層	0.44	0.42	0.28	0.30	0.19				SP82		
B SK430 A226 009	I-a基	A	F	E 2層	0.59	0.38	0.09	0.12	0.17						
B SK431 A320 009	I-a基	A	D	E 2層	0.60	0.56	0.29	0.32	0.37						
B SK432 A115 009	I-a基	A	A	B 2層	0.42	0.39	0.23	0.21	0.22				81		
B SK433 A116 009	I-a基	A	A	A 1層	0.35	0.35	0.18	0.21	0.07	SK434					
B SK434 A289 009	I-a基	A	A	E 2層	0.37	0.35	0.17	0.15	0.17	SK432					
B SK434 A120 009	I-a基	A	D	D 2層	0.48	0.44	0.29	0.30	0.33				82		
B SK435 A118 009	I-a基	A	D	A 1層	0.30	0.29	0.17	0.16	0.19						
B SK437 A241 009-B110	I-a基	A	A	A 1層	0.24	0.23	0.15	0.14	0.24						
B SK438 A119 009	I-a基	A	A	B 2層	0.24	0.20	0.14	0.11	0.13						
B SK439 A121 B110	I-a基	A	D	E 2層	(0.69)	0.48	0.26	0.24	0.22						
B SK440 A272 B110	I-a基	A	A	A 1層	0.68	0.67	0.41	0.36	0.33	SK441			SK508	82	
B SK441 A117 B109-B110	I-a基	E	A	A 1層	3.38	(2.31)	2.93	(2.11)	0.22				SK440, SK442, SE4, SK508		
B SK442 A273 B110	I-a基	B	B	E 2層	0.62	(0.34)	0.49	(0.24)	0.17	SK441					
B SK443 A213 009	I-a基	B	A	A 1層	0.62	0.40	0.43	0.21	0.16						
B SK444 A212 009	I-a基	A	D	A 1層	0.24	0.22	0.13	0.13	0.11						
B SK445 A322 017	I-a基	B	B	A 1層	0.51	0.43	0.47	0.26	0.11						
B SK446 A324 017	I-a基	B	B	A 1層	(0.23)	0.15	(0.19)	0.04	0.10	SB4-P4					
B SK447 A306 017	I-a基	B	F	A 1層	0.28	0.25	0.15	0.10	0.17						
B SK448 A304 B17	I-a基	B	A	A 1層	0.45	0.27	0.27	0.13	0.12				SK450		
B SK449 A303 B17	I-a基	A	A	A 1層	0.39	0.20	0.17	0.07	0.08						
B SK450 A305 B17	I-a基	B	D	A 1層	(0.38)	0.26	(0.25)	0.17	0.09	SK305					
B SK451 A333 B17-B17	I-a基	A	G	D 6層	1.82	(1.07)	0.97	(0.62)	0.75	SE5			83		
B SK452 A276 B17	I-a基	B	D	E 2層	0.52	0.48	0.33	0.30	0.22				SK453		
B SK453 A313 B17	I-a基	B	B	A 1層	(0.39)	0.36	(0.27)	0.22	0.08	SK452					
B SK454 A277 B17	I-a基	B	C	A 1層	0.67	0.56	0.25	0.26	0.31						
B SK455 A236 B18	I-a基	B	B	D 2層	0.53	0.41	0.29	0.25	0.26	SM6-P3					
B SK456 A280 B18	I-a基	A	D	E 2層	0.21	0.21	0.07	0.07	0.19						
B SK457 A255 B18	I-a基	B	B	E 3層	0.66	0.54	0.30	0.33	0.19						
B SK458 A104 008-B18	I-a基	B	B	A 1層	0.54	0.42	0.30	0.24	0.15						
B SK459 A310 B18	I-a基	B	D	A 1層	0.39	0.30	0.25	0.15	0.08						
B SK460 A314 B18	I-a基	B	C	B 2層	0.35	0.30	0.13	0.09	0.18				SK426		
B SK461 A257 B18	I-a基	A	F	D 3層	(0.29)	0.26	(0.07)	0.05	0.27	SP88					
B SK462 A191 B18	I-a基	A	D	B 2層	0.27	0.25	0.14	0.14	0.14						
B SK463 A282 B18	I-a基	B	B	A 1層	(0.26)	0.23	(0.20)	0.09	0.08	SK464					
B SK464 A281 B18	I-a基	B	D	A 1層	0.50	0.36	0.29	0.14	0.25				SK463		
B SK465 A278 B18	I-a基	B	B	A 1層	0.54	0.44	0.33	0.31	0.22				SK466		
B SK466 A301 B18	I-a基	B	A	A 1層	0.57	(0.40)	0.16	(0.28)	0.15	SK465			SK467		
B SK467 A302 B18	I-a基	B	F	A 1層	0.49	(0.29)	0.06	0.08	0.07	SK466					
B SK468 A315 B18	I-a基	A	D	B 2層	0.24	0.21	0.09	0.07	0.24						
B SK469 A294 B18	I-a基	A	B	A 1層	0.23	0.23	0.16	0.15	0.05						
B SK470 A285 B18	I-a基	B	F	A 1層	0.53	0.40	0.24	0.20	0.10						
B SK471 A197 B18	I-a基	B	E	D 2層	0.55	0.43	0.34	0.24	0.17						
B SK472 A291 B18	I-a基	B	A	A 1層	(0.30)	0.19	(0.08)	0.08	0.23	SAT-P5					
B SK473 A325 B18	I-a基	B	F	E 2層	0.64	0.49	0.19	0.20	0.28						
B SK474 A267 B19	I-a基	B	C	B 2層	0.61	0.43	0.18	0.18	0.20	SP91					
B SK475 A268 B19	I-a基	B	A	E 2層	0.82	(0.58)	0.40	(0.44)	0.18				SAT-P4		

表23 溝状造構一覧表(8)

地點名	遺構番号	調査面番号	横出面番号	平面形状	断面形状	埋土	上端	上端鉢輪	下端	下端鉢輪	深さ	重複関係		説明	図版
												切る	切られる		
B	SK476	A264	B18-B19	I-a基	A	A	A	1層	0.49	0.48	0.21	0.17	0.15		
B	SK477	A206	B19	I-a基	A	A	A	1層	0.31	0.29	0.15	0.15	0.08		
B	SK478	A288	B19	I-a基	B	B	B	2層	0.73	(0.54)	0.50	(0.46)	0.23	SK479	
B	SK479	A205	B19	I-a基	A	G	A	1層	0.45	(0.28)	0.20	0.20	0.30	SK480	SK479
B	SK480	A204	B19	I-a基	B	B	A	1層	0.56	0.47	0.42	0.31	0.26	SK479	84
B	SK481	A271	B19	I-a基	B	A	E	2層	0.57	0.42	0.49	0.34	0.16		
B	SK482	A209	B19	I-a基	B	F	A	1層	0.20	0.16	0.13	0.07	0.10		
B	SK483	A208	B19	I-a基	B	F	A	1層	0.38	0.24	0.15	0.15	0.10		
B	SK484	A308	B19	I-a基	B	D	A	1層	0.86	0.77	0.10	0.14	0.19		
B	SK485	A287	B19	I-a基	B	D	B	2層	0.46	0.30	0.17	0.14	0.16		
B	SK486	A198	B18	I-a基	B	A	B	2層	0.40	0.15	0.25	0.12	0.12		
B	SK487	A174	B18-B19	I-a基	B	F	A	1層	0.44	0.36	0.17	0.19	0.15		
B	SK488	A178	B19	I-a基	A	D	B	1層	0.36	0.35	0.14	0.14	0.16		
B	SK489	A201	B19	I-a基	D	D	D	2層	0.44	0.38	0.30	0.28	0.15		
B	SK490	A175	B19	I-a基	A	D	B	2層	0.48	0.32	0.47	0.35	0.16		
B	SK491	A202	B19	I-a基	B	G	A	1層	0.44	0.32	0.23	0.16	0.13	SK492	
B	SK492	A203	B19	I-a基	A	A	A	1層	0.25	0.23	0.15	0.10	0.17	SK491	
B	SK493	A298	B18-B19	I-a基	B	D	E	2層	0.92	0.81	0.66	0.48	0.25	SK495, SK494	
B	SK494	A296	B18	I-a基	B	D	B	1層	0.26	0.50	0.23	0.27	0.24	SK493	
B	SK495	A295	B18-B19	I-a基	A	D	A	1層	0.19	0.18	0.08	0.07	0.12	SK493, SK496	
B	SK496	A299	B19	I-a基	B	F	A	1層	0.55	(0.47)	0.45	(0.33)	0.14	SK495	
B	SK497	A293	B18-B19	I-a基	A	B	E	2層	0.49	0.48	0.39	0.44	0.19		
B	SK498	A297	B18	I-a基	B	D	E	2層	0.54	0.44	0.34	0.29	0.11		
B	SK499	A187	B19	I-a基	B	D	A	1層	0.50	0.25	0.32	0.08	0.16		
B	SK500	A189	B18	I-a基	B	D	G	4層	0.74	0.55	0.52	0.33	0.34		
B	SK501	A176	B19	I-a基	B	A	A	1層	0.28	0.20	0.14	0.14	0.07		
B	SK502	A176	B19	I-a基	A	A	A	1層	0.28	0.26	0.14	0.15	0.06		
B	SK503	A173	B19	I-a基	A	A	E	2層	0.59	0.38	0.53	0.31	0.07	SK507	84 16
B	SK504	A171	B19	I-a基	B	A	A	1層	0.49	0.15	0.40	0.15	0.17		
B	SK505	A172	B19	I-a基	A	A	A	1層	0.15	0.05	0.14	0.06	0.12	SK506	
B	SK506	A181	B19	I-a基	A	B	B	2層	0.45	0.44	0.30	0.34	0.26	SK505	
B	SK507	A182	B19	I-a基	A	A	E	2層	0.18	(0.15)	0.06	(0.06)	0.06	SK503	
B	SK508	A275	BH10	I-a基	A	G	A	1層	0.59	0.54	0.40	0.40	0.19	SK441, SK440	
B	SK509	C008	BC12	I-a基	B	A	A	1層	0.36	0.34	0.21	0.21	0.08		
B	SK510	C004	BC12	I-a基	B	C	B	2層	0.41	0.40	0.40	0.40	0.08	0.41	
B	SK511	A033	BF9	I-a基	A	D	A	1層	0.22	0.21	0.15	0.14	0.08		
B	SK512	A075	BG10	I-a基	B	A	B	2層	0.63	0.38	0.28	0.20	0.23		
B	SK513	A193	B18	I-a基	B	A	F	3層	0.48	0.37	0.15	0.14	0.13		
B	SK514	A254	B18	I-a基	B	D	G	3層	0.63	0.58	0.43	0.38	0.25		
B	SK515	A225	B18	I-a基	A	D	A	1層	0.24	0.23	0.07	0.11	0.17		
B	SK516	B292	BF7-BE7	I-a基	A	D	A	1層	0.40	0.38	0.36	0.25	0.08		
B	SK517	B296	BE6-7	I-a基	B	F	C	3層	1.09	(0.79)	0.91	0.26	0.40		
B	SK518	B297	BE6-7	I-a基	D	F	C	4層	1.12	0.98	0.67	0.25	0.19		
B	SK519	A008	B15	I-a基	E	D	A	1層	(4.03)	(0.52)	(3.76)	(0.35)	0.47	SK297, SF59, SK298	
B	SK520	A229	BF9	I-a基	B	F	B	2層	0.32	0.24	0.13	0.17	0.16		
B	SK521	B014	BF11	I-a基	A	F	F	10層	1.16	0.69	0.31	0.24	0.61	SK157	85
B	SK522	B215	BF4	I-a基	B	F	F	4層	0.80	0.64	0.59	0.48	0.49	SK116	85
B	SK523	B216	BF4	I-a基	A	D	F	4層	0.44	0.38	0.22	0.20	0.43	SK94	86
B	SK524	B287	BF3	I-a基	B	B	F	3層	0.48	0.30	0.25	0.17	0.29	SK227	85

表24 土器類別表(1)

開拓番号	地点	遺物名	層位	座標・材質	器種	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	特徴	回収
1	B	SB1	3	土師器	皿	C1類	(7.0)	—	(1.1)	内外面摩滅により調整不明	12	
2	B	SB1	c	土師器	皿	C1類	(7.0)	—	(1.1)	内外面摩滅により調整不明、体部外面～底部外周に指痕压痕	12	17
7	B	SB2	a	土師器	皿	B2-a類	(13.0)	(5.8)	(2.1)	内面ともと摩滅して調整不明	17	17
8	B	SB2	b	土師器	皿	B2-a類	(13.0)	—	—	内面一方丸ナデ、外面無調整	17	17
11	B	SA2	3	土師器	皿	C1類	—	—	—	内面摩滅により調整不明、外面上に指痕压痕	22	
12	B	SA2	1	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大4号式	—	—	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外周に指痕压痕	22	17
13	B	SA2	a	廻転山茶碗在陶器	折縁皿	大根第3段階	(16.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	22	
14	B	SA3	b	土師器	皿	C1類	(10.1)	—	—	口縁部内部ヨコナデ、体部内面一方丸ナデ、体部外周に指痕压痕	23	
15	B	SA3	2	廻転山茶碗在陶器	擦跡	古窯戸後IV期新段階	—	—	—	内外面回転ナデのち擦痕	23	17
16	B	SA4	3	廻転山茶碗在陶器	端反か丸直	大根第1か2段階	—	(6.0)	—	内外面回転ナデのち灰釉、ヘラケツリ、底部外周に重ね焼成の痕跡あり、見込み部に印灰文	23	17
17	B	SA6	1	土師器	皿	C類	—	—	—	内面摩滅により調整不明、外面上に指痕压痕	25	
18	B	SP6	4	土師器	皿	C1類	7.8	—	1.7	内面摩滅により調整不明、外面上に指痕压痕、裏面に穿孔有り	26	17
26	B	SP8	4	土師器	皿	C1類	(8.0)	(3.5)	1.5	内面二方向ナデ、体部外周～底部外周に指痕压痕	27	17
27	B	SP26	3	土師器	皿	C1類	(7.0)	—	(1.2)	内面一方丸ナデ、体部外周に指痕压痕	28	
28	B	SP28	II	土師器	皿	C1類	8.0	(4.1)	1.5	内面摩滅により調整不明、外面上に指痕压痕	28	17
29	B	SP32	e	廻転山茶碗在陶器	天日茶碗	大根第1段階	—	—	—	内外面回転ナデのち鉄釉	28	17
30	B	SP50	5	土師器	皿	C1類	(8.0)	(4.1)	(2.1)	底部内面一方丸ナデ、口縁部内面と外面上に指痕压痕	29	
31	B	SP60	3	土師器	皿	C1類	(9.0)	(5.1)	—	内面摩滅により調整不明、外面上に指痕压痕	29	
34	B	SP67	a	廻転山茶碗在陶器	折縁深皿	古窯戸後II期	(28.0)	—	—	内外面回転ナデ、外面上に指痕压痕	30	17
38	B	SP91	I	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大4号式新段階	—	(4.6)	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外周に回転角切り痕と指痕压痕	32	17
41	A	SD1	b	灰釉陶器	広口瓶	7～9世紀	—	—	—	内外面回転ナデ、外面上に指痕压痕	34	17
42	A	SD1	e	土師器	皿	C2類	(7.5)	—	(1.8)	体部内面ヨコナデのち灰釉、体部外面上に指痕压痕	34	
43	A	SD1	c	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大4号式新段階	—	(4.4)	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外周に指痕压痕	34	17
44	A	SD1	c	廻転山茶碗在陶器	天日茶碗	古窯戸後1かII期	—	—	—	内外面回転ナデのち鉄釉	34	17
45	A	SD1	b	廻転山茶碗在陶器	縁革小皿	古窯戸後I期～IV期	—	(6.0)	—	内外面回転ナデ、底部外周に回転角切り痕	34	
46	A	SD3	a	灰釉器	便	7～9世紀	—	—	—	内外面回転ナデ	35	
47	A	SD6	a	尾張型山茶碗	山茶碗	第6型式	—	(4.6)	—	内外面回転ナデ、貼付高台	36	
48	A	SD7	1	東濃型山茶碗	山茶碗	鍋之島3号式	—	(3.8)	—	内外面回転ナデ	36	17
49	A	SD10	f	土師器	皿	C1類	(8.0)	—	(1.0)	体部外面上にヨコナデのち灰釉、体部外面上に指痕压痕	37	
50	A	SD10	3	尾張型山茶碗	山茶碗	第9か9型式	—	(4.0)	—	内外面回転ナデ	37	
51	A	SD10	f	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大4号式新段階	—	(4.2)	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外周に指痕压痕	37	
53	B	SD14	a	東濃型山茶碗	小皿	大根大4号式	(7.8)	(4.5)	(0.9)	内外面回転ナデ、底部内面に止捺ナデ、貼付高台、底部外周に回転角切り痕と指痕压痕	39	
54	B	SD14	1	廻転山茶碗在陶器	皿	古窯戸後Ⅳ期	—	(12.0)	—	内外面回転ナデのち灰釉、底部外周に指痕压痕	39	17
55	B	SD14	a	土製品	土糞	—	—	最大径 2.9 0.9	—	外面上ナデ、孔径0.3cm、外面上に僅付着	39	
56	B	SD15	a	土師器	皿	B1類	—	—	—	体部内面一方丸ナデ、外面上に指痕压痕	40	
57	B	SD15	a～b	土師器	皿	B1類	(13.0)	—	—	内面へ口縁部外周ヨコナデ、体部外面上に指痕压痕	40	
58	B	SD15	a	土師器	皿	B2-a類	(16.0)	—	2.6	内面一方丸ナデ、外面上無調整、外面上に保付着	40	17
59	B	SD15	e	土師器	皿	B2-b類	(10.6)	(4.4)	2.5	内面摩滅により調整不明、外面上無調整	40	
60	B	SD15	a	土師器	皿	B2-b類	(10.0)	—	—	内面へ口縁部外周ヨコナデ、体部外面上に指痕压痕	40	17
61	B	SD15	a	土師器	皿	B2-b類	—	—	—	内面ヨコナデ、外面上無調整	40	17
62	B	SD15	a	土師器	皿	C1類	11.6	(5.0)	2.8	内面摩滅により調整不明、体部外面上に指痕压痕	40	18
63	B	SD15	a	土師器	皿	C2類	7.4	(3.8)	1.8	内面摩滅により調整不明、体部外面上に指痕压痕、口縁部外周に保付着	40	
64	B	SD15	3	土師器	皿	C2類	(7.0)	—	(1.6)	内面一方丸ナデ、体部外面上に指痕压痕、口縁部外周に保付着	40	17
65	B	SD15	a	土師器	皿	C2類	(8.0)	—	(1.8)	内面一方丸ナデ、体部外面上に指痕压痕	40	
66	B	SD15	a～b	土師器	皿	C2類	(8.0)	—	(1.4)	内面ヨコナデ、体部外面上に指痕压痕	40	
67	B	SD15	a	土師器	皿	C2類	(7.8)	—	(1.4)	内面摩滅により調整不明、体部外面上に指痕压痕	40	
68	B	SD15	a	土師器	皿	C類	(8.0)	(2.6)	1.7	内面摩滅により調整不明、体部外面上に指痕压痕、底部外周に孔の状況、口縁部外周に保付着	40	
69	B	SD15	a	土師器	皿	C類	12.0	—	2.2	内面摩滅により調整不明、口縁部外周へ体部外周ヨコナデ、体部外面上に指痕压痕	40	
70	B	SD15	b～c	土師器	皿	C類	(11.0)	4.9	—	内面摩滅により調整不明、体部外面上に指痕压痕	40	18
71	B	SD15	a	土師器	皿	不明	(12.0)	—	2.1	内面不定方向ナデ、口縁部外面上ヨコナデ、体部外面上に指痕压痕	40	

表25 土器類觀察表（2）

閲覧 番号	地点 名	層位	地質・材質	器種	分類・時期等	口径	底様	基高	備考	神奈	岡版
72 B	SD15	a	土師器	皿	不明	(12.0)	-	(L,7)	内面不定方向ナデ、体部外面に指頭圧痕	40	
73 B	SD15	c~d	土師器	羽釜	A2類	-	-	-	内面~口縁部外面ヨコナデ、縫部貼付ナデ、体部外 面ヨコハグの外縫部貼付に保付着	40	17
74 B	SD15	d	土師器	羽釜	A類	-	-	-	体部内面ナデ、縫部貼付ナデ、体部外面ヨコハグ、 外縫部上より下に保付着	40	17
75 B	SD15	a~b	土師器	羽釜	A類	-	-	-	内面~口縁部外面ヨコナデ、縫部貼付ナデ、体部外 面ヨコハグ	40	17
76 B	SD15	a~b	土師器	羽釜	A4類	(28.8)	-	-	体部内面ナデケズリ、口縁部外面ヨコナデ、縫 部貼付ナデ、体部外面ヨコハグ、外縫部より下に 保付着	40	17
77 B	SD15	a~b	乳母器	甕		7~9世紀	(17.4)	-	内面~口縁部外面摩滅により調整不明、体部外面 転ヒダ	41	
78 B	SD15	a~b	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式新段	(13.0)	(5.2)	(4.7)	内面回転ヒダ、底部内面静止带ナデ、貼付高台、 底縁外縁に凹削痕、粗段板	41	18
79 B	SD15	a~b	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式新段	-	(4.0)	-	内面回転ヒダ、貼付高台、底部外縁に回転余切り 痕ナデ調査	41	
80 B	SD15	2	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式新段	(13.2)	(4.4)	4.3	内面回転ヒダ、底部内面静止带ナデ、貼付高台、 底部外縁ナデ調査	41	
81 B	SD15	d	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式新段	(13.0)	(4.6)	(4.0)	内面回転ヒダ、底部内面静止带ナデ、貼付高台、 底部外縁に回転余切り痕と粗段板	41	18
82 B	SD15	a~b	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀東1号窯式	(11.6)	(2.8)	(3.5)	内面回転ヒダ、底部内面静止带ナデ、貼付高台、 底部外縁に回転余切り痕と粗段板	41	18
83 B	SD15	e	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀東1号窯式	-	-	-	内面回転ヒダ、貼付高台、底部外縁に粗段板	40	
84 B	SD15	d	東濃型山茶碗	山茶碗	豊島3号窯式	-	(4.6)	-	内面回転ヒダ、底部外縁に回転余切り痕	41	18
85 B	SD15	a~b	尾張型山茶碗	山茶碗	第5型式	-	(8.0)	-	内面回転ヒダ、底部内面摩滅、貼付高台、底部外 面ナデ調査	41	
86 B	SD15	4	尾張型山茶碗	山茶碗	第5型式	-	7.6	-	内面回転ヒダ、貼付高台、底部外縁に回転余切り 痕と粗段板、底部内面に保付着	41	
87 B	SD15	a~e	尾張型山茶碗	小皿	第5型式	-	(5.0)	-	内面回転ヒダ、内面に自然輪、底部外ナデ調査	41	
88 B	SD15	a~b	尾張型山茶碗	山茶碗	第5型式	-	-	-	内面回転ヒダ、貼付高台、底部外縁に回転余切り 痕	40	
89 B	SD15	a	尾張型山茶碗	小皿	第6型式	(9.0)	(5.0)	(1.7)	内面回転ヒダ、底部外面摩滅	40	18
90 B	SD15	a~b	尾張型山茶碗	山茶碗	第7~8型式	-	-	-	内面回転ヒダ	40	
91 B	SD15	a	瓢ノ尖濃底陶器	四耳皿	古窯戸後IV段階	-	9.7	-	内面回転ヒダ、体部外面回転ヘラケズリのち灰斑、 脚部貼付、底部外縁に切欠痕	41	18
92 B	SD15	a~c	瓢ノ尖濃底陶器	四耳皿	古窯戸後IV段階	-	(12.0)	-	内面回転ヒダのち灰斑、外縁外輪ヘラケズリのも灰 斑、脚部貼付、底部外縁にヘラケズリ	41	
93 B	SD15	a~b	瓢ノ尖濃底陶器	天日茶碗	古窯戸後II期	(13.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	41	18
94 B	SD15	b~c	瓢ノ尖濃底陶器	天日茶碗	古窯戸後IV段階	(12.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪、外縁下半回転ヘラケズリ	41	18
95 B	SD15	c	瓢ノ尖濃底陶器	天日茶碗	古窯戸後IV段階	(11.4)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪、外縁下半回転ヘラケズリ のち鉄輪	41	18
96 B	SD15	a	瓢ノ尖濃底陶器	天日茶碗	大堀第1段階	-	(5.0)	-	内面回転ヒダのち鉄輪、底部下半~底部回転ヘ ラケズリのち鉄輪、削出し高台	41	18
97 B	SD15	a~d	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	古窯戸後1期	(14.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪、底部内面に削り凹	41	
98 B	SD15	a~b	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	古窯戸後IV段階	14.2	6.0	3.1	底部内面に削り、体部外面回転ヒダ、口縁部内面~ 口縁部外縁に灰斑、底縁外縁に回転余切り痕	41	18
99 B	SD15	c~e	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	日付村古窯戸後IV段階	-	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	41	18
100 B	SD15	a	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第1段階	(11.2)	(6.4)	(2.6)	内面回転ヒダのち鉄輪、貼付高台、底部外面回転 ヘラケズリ、重ねた灰斑、見込み墨に印花文	41	18
101 B	SD15	a~b	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第1段階	(12.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	41	18
102 B	SD15	a~d	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第2段階	(11.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	41	18
103 B	SD15	c~e	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第1~2段階	-	(6.8)	-	内面回転ヒダのち鉄輪、貼付高台、底部外縁に ヘラケズリ、底部外縁に重ねた灰斑の痕跡あり	41	18
104 B	SD15	b~c	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	古窯戸後IV段階	(32.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	41	18
105 B	SD15	c	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	古窯戸後IV段階	(31.6)	-	-	内面回転ヒダ、横幅: 5cm/10本	41	19
106 B	SD15	c~d	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	古窯戸後IV段階	(36.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	41	19
107 B	SD15	a	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	古窯戸後IV段階	(38.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪、横幅: 1cm/6本	42	19
108 B	SD15	a	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第1段階	-	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	42	
109 B	SD15	a~b	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第1段階	-	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	42	19
110 B	SD15	d	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第1段階	(34.6)	-	-	内面鉄輪、回転ヒダのち鉄輪に貼付ナデ、回転余切り 痕、焼付痕	42	18
111 B	SD15	a	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第2段階	(32.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪、横幅: 1cm/5本	42	18
112 B	SD15	c~d	瓢ノ尖濃底陶器	脚鉢	大堀第2段階	(38.0)	-	-	内面回転ヒダのち鉄輪	42	19
113 B	SD15	d	瓢ノ尖濃底陶器	内耳鉢	古窯戸後IV段階	(20.6)	-	-	内面回転ヒダ、外部に保付着	42	19
114 B	SD15	a~b	常滑窑陶器	広口壺	第5型式	(20.0)	-	-	内面回転ヒダ、体部内面に指頭圧痕	42	
115 B	SD15	d	中国白磁	皿	E群	(9.0)	(4.8)	(2.1)	貼付高台、全面に施釉	42	19
116 B	SD16	g	土師器	皿	C3類	-	-	0.8	内面~口縁部外面ヨコナデ、体部外面無調査	44	
119 B	SD16	i	土師器	皿	C2類	(8.8)	-	1.6	内面ナデ、体部外面に指頭圧痕	44	

表26 土器類観察表(3)

閲観番号	地点	遺構名	層位	南北・材質	器種	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	特徴	図版
120	B	SD16	b	灰釉陶器	甌	明和27号窯式	(7.0)	(7.0)	—	内外面回転ナデ、底部内面静止ナデ、内面に施釉。貼付高台	44	
121	B	SD16	1	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(7.8)	—	内外面回転ナデ、貼付高台	44	
122	B	SD16	a	廻転美濃陶器	水注	古廻戸前Ⅳ期	—	—	—	内面ナデ、外外面回転ナデのち灰釉	44	19
123	B	SD16	a	廻転美濃陶器	瓶	子	古廻戸後Ⅳ期古段階	(12.0)	—	内外面回転ナデのち鉢脚	44	19
124	B	SD16	a	廻転美濃陶器	縁付小皿	古廻戸後Ⅳ期古段階	(10.0)	—	(1.7)	外外面回転ナデ、口縁部に次輪	44	19
125	B	SD16	a	廻転美濃陶器	鉢皿	古廻戸後Ⅳ期	—	6.0	—	内外面回転ナデ、底部内面に跡目。底部外縁に回転あ切り痕	44	
126	B	SD16	a	廻転美濃陶器	接脚	古廻戸後Ⅳ期古段階	(27.2)	—	—	内外面回転ナデのち鉢脚。接目3本/1cm	44	
127	B	SD16	g	廻転美濃陶器	接脚	古廻戸後Ⅳ期古段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	44	19
128	B	SD16	g	廻転美濃陶器	接脚	古廻戸後Ⅳ期古段階	—	—	—	内外面回転ナデのち鉢脚	44	
129	B	SD16	i	廻転美濃陶器	接脚	古廻戸後Ⅳ期古段階	—	—	—	内外面回転ナデのち鉢脚	44	
130	B	SD16	a	廻転美濃陶器	接脚	古廻戸後Ⅳ期	—	(10.0)	—	体部外縁に回転ナデのち縫隙。底部外縁に回転あ切り痕。縫目3cm/3本	44	19
131	B	SD16	d	廻転美濃陶器	瓶	大室第1段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	44	19
132	B	SD16	g	廻転美濃陶器	接脚	大室第3.5~4段階	—	—	—	外表面接目2本のうち鉢脚。縫目1cm/7本	44	19
133	B	SD16	a	中国白磁	皿	D群	—	(4.4)	—	内面回転ナデのち鉢脚。内面に重ね墨書きの鉢脚あり。削り出し高台。底部外縁回転ヘタケズラ	44	19
134	B	SD19	c	土師器	皿	B1類	(12.0)	(4.4)	2.2	体部内面へ口縁部ヨコナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	
135	B	SD19	a~b	土師器	皿	B1類	(14.0)	(6.0)	(3.1)	体部内面へ口縁部へ外縁ヨコナデ。内面底部摩滅により調整不明。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
136	B	SD19	c~d	土師器	皿	B1類	(12.0)	—	—	内外面摩滅により調整不明	46	
137	B	SD19	h	土師器	皿	B1類	—	—	—	内面へ口縁部外縁へ方向ナデ。体部外縁へ指輪圧痕	46	
138	B	SD19	a~b	土師器	皿	B1類	—	—	—	内面摩滅により調整不明。体部外縁へ指輪圧痕	46	
139	B	SD19	a~b	土師器	皿	B2~a類	(13.8)	(4.7)	(2.5)	内面摩滅により調整不明。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	
140	B	SD19	a~b	土師器	皿	B2~a類	—	—	—	内外面摩滅により調整不明	46	
141	B	SD19	a~b	土師器	皿	B2~a類	—	—	—	内面ナデ	46	
142	B	SD19	a~b	土師器	皿	B2~a類	(12.0)	—	—	内外面摩滅により調整不明	46	19
143	B	SD19	a~e	土師器	皿	C1類	(8.0)	(4.0)	(1.6)	内面摩滅により調整不明。体部外縁へ指輪圧痕。底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	
144	B	SD19	d	土師器	皿	C1類	(7.4)	(3.6)	1.4	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
145	B	SD19	d	土師器	皿	C1類	(8.0)	(4.0)	1.4	内面摩滅により調整不明。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	
146	B	SD19	a~b	土師器	皿	C1類	7.4	2.1	1.6	内面摩滅により調整不明。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
147	B	SD19	c	土師器	皿	C1類	7.9	3.1	1.8	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
148	B	SD19	c	土師器	皿	C1類	7.2	2.8	1.6	底盤内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕。口縁部内側に保付袋	46	19
149	B	SD19	c	土師器	皿	C1類	(9.0)	(5.3)	1.8	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
150	B	SD19	c	土師器	皿	C1類	8.4	3.5	2.3	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
151	B	SD19	c	土師器	皿	C1類	7.4	2.5	2.2	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕	46	19
152	B	SD19	b	土師器	皿	C2類	7.1	2.9	1.5	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕。底盤内側に保付袋	46	19
153	B	SD19	b	土師器	皿	C類	11.3	5.8	2.4	底部内面不平行方向ナデ。体部外縁へ底部外縁に指輪圧痕。内面摩滅により調整不明。口縁部外縁ヨコナデ。外縁無調整	46	19
154	B	SD19	a~b	土師器	羽茎	A4類	—	—	—	体部内面へ口縁部内面へ口縁部外縁ヨコナデ。體部貼付ナデ。体部外縁ヨコハタ	46	19
155	B	SD19	a~b	土師器	内瓦罐	不明	—	—	—	耳縁貼付ナデ。外縁に蝶付着	46	19
156	B	SD19	a	東濃型山茶瓶	小皿	駿之島3号窯式	—	(4.0)	—	内外面回転ナデ。底部内面静止ナデ。底部外縁に鉢脚切付痕	46	
157	B	SD19	2	東濃型山茶瓶	山茶瓶	大瀬大窯4号窯式古段階	—	(4.2)	—	内外面回転ナデ。底部内面静止ナデ。貼付高台。底部外縁へ回転あ切り痕。貼ナデと鉢脚	46	
158	B	SD19	a~e	東濃型山茶瓶	山茶瓶	大瀬大窯4号窯式新段階	—	(4.0)	—	内外面回転ナデ。底部内面静止ナデ。貼付高台。底部外縁へ回転あ切り痕と底盤	46	
159	B	SD19	a~b	東濃型山茶瓶	山茶瓶	生田2号窯式	(12.4)	(6.0)	(2.9)	内外面回転ナデ。底部外縁へ回転あ切り痕	46	19
160	B	SD19	d	東濃型山茶瓶	山茶瓶	生田2号窯式	—	(4.6)	—	内外面回転ナデ。底部外縁へ回転あ切り痕	46	
161	B	SD19	b	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(7.0)	—	内外面回転ナデ。貼付高台。底部外縁摩滅	46	
162	B	SD19	a~b	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(6.0)	—	内面摩滅により調整不明。外外面回転ナデ。底部外縁へ回転あ切り痕	46	
163	B	SD19	—	廻転美濃陶器	桃	古廻戸後Ⅳ期新段階	(14.4)	(8.0)	—	内外面回転ナデ。唐草文。体部下部に蘆蘆文。渦巻文	46	20
164	B	SD19	d	廻転美濃陶器	鉢皿	古廻戸後Ⅳ期古段階	(15.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	46	

表27 土器類觀察表 (4)

発掘 番号	地点 グリッド	層位	地質・材質	器種	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	伴送 遺物	回収 状況
165 B	SD19	-	廻ノ内美濃產陶器	鉢皿	古瀬戸中窯か後期	-	7.1	-	内部に脚目あり、体部外表面回転ナダ、底部外面に回転系切り痕	46	
166 B	SD19	-	廻ノ内美濃產陶器	盤類	古瀬戸後窯かIV期	-	(16.0)	-	内部回転ナダのち鉢輪（「ヶ巻り」、つけがけ）、外部回転ナダケズりのち鉢輪、脚部貼付ナダ	47	20
167 B	SD19	b	廻ノ内美濃產陶器	口広有耳鉢	大窯か	(12.0)	-	-	内外表面回転ナダのち鉢輪	47	20
168 B	SD19	c	廻ノ内美濃產陶器	壺反皿	大窯第1段階	(10.8)	6.0	2.5	内部に脚目あり、体部外表面回転ヘラケズり、全面に灰釉、見込み部に印花文	46	20
169 B	SD19	a~b	廻ノ内美濃產陶器	壺反皿	大窯第1段階	(8.9)	5.0	2.2	内部回転ナダ、貼付高台、底部外表面回転ヘラケズり、全面に灰釉、見込み部に印花文	46	20
170 B	SD19	a~b	廻ノ内美濃產陶器	壺鉢	古瀬戸後窯新段階	(37.0)	-	-	内外表面回転ナダのち鉢輪	47	
171 B	SD19	b	廻ノ内美濃產陶器	壺鉢	古瀬戸後窯IV期	-	(10.0)	-	内外表面回転ナダのち鉢輪、底部外面に回転系切り痕、縁目1cm/4本	47	
172 B	SD19	b	廻ノ内美濃產陶器	壺鉢	大窯第1段階	-	-	-	内外表面回転ナダのち鉢輪	47	
173 B	SD19	b	廻ノ内美濃產陶器	壺鉢	大窯第2段階	(34.0)	-	-	内外表面回転ナダのち鉢輪、縁目1cm/6本	47	
174 B	SD19	-	廻ノ内美濃產陶器	壺鉢	大窯第4段階後半	(38.0)	-	-	内外表面回転ナダのち鉢輪、縁目1cm/6本	47	20
175 B	SD19	-	廻ノ内美濃產陶器	壺鉢	大窯	-	(11.0)	-	体部外表面回転ナダ、底部外面に回転系切り痕、外面に鉢輪、縁目1cm/6本	47	
176 B	SD19	a	廻ノ内美濃產陶器	筒形香炉	登窯第9小期	(10.4)	(5.0)	3.8	内外表面回転ナダ、底部外表面回転系切り痕、口縁部内部～体部外表面鉢輪	47	20
177 B	SD19	c~d	中国陶磁器	染付皿	-	-	-	-	内外表面鉢輪	47	20
178 B	SD19	c~d	中国青磁	碗	粗足窯系碗D2類	-	(6.0)	-	内外表面回転ナダのち施釉、貼付高台、底部外表面回転ヘラケズり（底部外面の釉を割り取り）、見込み部に印花文、沈刻	47	20
187 B	SD21	1	土師器	甌	B1類	(14.0)	-	2.3	内部底面に脚目あり調整不明、外面無調整	51	
188 B	SD21	6	土師器	甌	B1類	-	-	-	内部～口縁部外表面コナダ、体部外面に指標压痕	51	
189 B	SD21	f	土師器	甌	B1類	(13.0)	-	-	外表面コナダ	51	
190 B	SD21	4	土師器	甌	C1類	(8.0)	3.0	1.4	底面内部に方向ナダ、体部内部～外面に指標压痕	51	20
191 B	SD21	a	土師器	甌	C1類	7.7	4.2	1.5	内部不定向ナダ、外面に指標压痕、底部外面中央部ヘラケズりにややむき、内部に焼付着	51	20
192 B	SD21	j	土師器	甌	C2類	(8.0)	(4.0)	1.8	口縁部内部ヨココダ、底面内部ナダ（方向不正明）体部外面～底部外表面調整、外面に焼付着	51	20
193 B	SD21	f	土師器	甌	C2類	(7.0)	-	(1.3)	内部底部施釉により調整不明、体部外面～底部外表面に指標压痕	51	
194 B	SD21	k	土師器	甌	C2類	(7.0)	-	1.5	内部不定向ナダ、体部外面～底面外面に指標压痕	51	
195 B	SD21	h	土師器	甌	C2類	(9.0)	-	(1.7)	内部二方向ナダ、体部外面～底面外面に指標压痕	51	
196 B	SD21	l	土師器	甌	C2類	(8.0)	-	(1.3)	内部不定向ナダ、外面無調整、口縁部に焼付着	51	
197 B	SD21	e	土師器	甌	C2類	(9.0)	-	(1.6)	内部ナダ、外面無調整	51	
198 B	SD21	l	土師器	甌	C2類	(9.0)	-	(1.7)	内部二方向ナダ、体部外面～底部外表面に指標压痕	51	
199 B	SD21	2	土師器	甌	C2類	(7.0)	-	(1.4)	内部底部施釉により調整不明、外面無調整	51	
200 B	SD21	3	土師器	甌	C2類	(6.0)	-	1.5	内部不定向ナダ、体部外面～底部外表面に指標压痕	51	
201 B	SD21	e	土師器	甌	C2類	(8.0)	-	(1.3)	内部二方向ナダ、体部外面～底部外表面に指標压痕、口縁部内部に焼付着	51	20
202 B	SD21	3	土師器	甌	M4類	(7.0)	-	2.1	内部不定向ナダ、体部外面～底部外表面に指標压痕、口縁部内部に焼付着	51	20
203 B	SD21	3	土師器	甌	M類	(8.0)	-	1.1	内部～口縁部外表面コナダ、体部外面～底面外面に指標压痕	51	
204 B	SD21	d~e	土師器	羽釜	A類	-	-	-	脚部貼付ナダ、脚部下に焼付着	51	
205 B	SD21	1	須恵器	盞	8世紀	(14.0)	-	-	内外表面鉢輪	51	
206 B	SD21	b	灰陶器	橈	黑波90号式	-	(7.7)	-	内部底部施釉により調整不明、体部内部回転ナダ、底部外回転ヘラケズり、貼付高台	51	
207 B	SD21	1	尾張型山茶碗	山茶碗	西坂1号窯式か	-	-	-	内外表面回転ナダ、貼付高台、底部外面に回転系切り痕	51	
208 B	SD21	6	尾張型山茶碗	山茶碗	第5型式	-	(6.0)	-	内部に脚目あり、鉢輪、底部外面に回転系切り痕と模様	51	
209 B	SD21	b	尾張型山茶碗	山茶碗	第5型式	-	(8.0)	-	内外表面回転ナダ、底部外面に回転系切り痕と模様	51	
210 B	SD21	c	尾張型山茶碗	山茶碗	第8か9号型式	-	(4.0)	-	内外表面回転ナダ、底部外面に回転系切り痕	51	20
211 B	SD21	b	尾張型山茶碗	山茶碗	第8か9号型式	-	(6.0)	-	内外表面回転ナダ、底部外面に回転系切り痕	51	
212 B	SD21	1	尾張型山茶碗	山茶碗	第9型式	-	(6.0)	-	内外表面回転ナダ、底部内部静止指ナダ、底部外面に回転系切り痕	51	20
213 B	SD21	c	尾張型山茶碗	山茶碗	大塚大洞4号窯式古段	-	(3.7)	-	内外表面回転ナダ、底面内部静止指ナダ、貼付高台、底部外面に回転系切り痕と模様	51	
214 B	SD21	b	尾張型山茶碗	山茶碗	大塚窯1号窯式	-	(4.0)	-	内外表面回転ナダ、底面内部静止指ナダ、貼付高台、底部外面に回転系切り痕と模様	51	
215 B	SD21	c	尾張型山茶碗	山茶碗	大塚窯1号窯式か 島之3号窯式	(12.0)	-	-	内外表面回転ナダ	51	
216 B	SD21	c	尾張型山茶碗	山茶碗	大塚大洞4号窯式新段階	-	-	-	内外表面回転ナダ、底部内部静止指ナダ、底部外面に回転系切り痕、底部外面～体部外面に墨痕	51	
217 B	SD21	1	廻ノ内美濃產陶器	折唇小皿	古瀬戸中窯	(10.0)	-	-	内外表面回転ナダのち鉢輪	51	21

表28 土器類観察表（5）

開拓番号	地点	遺構名	層位	地質・材質	断面	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	押送	回収
218	B	SD21	h	廻戸美濃陶器	折縁小皿	古廻戸後Ⅲ期	(11.2)	-	-	内外面回転ナデ。内面～口縁部外面に灰釉	51	21
219	B	SD21	a	廻戸美濃陶器	折縁深皿	古廻戸Ⅰ中期	-	-	-	内外面回転ナデのち灰釉	51	21
220	B	SD21	b	廻戸美濃陶器	折縁深皿	古廻戸Ⅱ後期	(29.0)	-	-	内外面回転ナデ	51	21
221	B	SD21	-	廻戸美濃陶器	縁付小皿	古廻戸後ⅡかⅢ期	-	(5.6)	-	内外面回転ナデ、底部内面静止指ナデ、底部内面に自然施釉ヲ、底面部に回転系切り底	51	
222	A	SD21	l	廻戸美濃陶器	縁付小皿	古廻戸Ⅱ後期新設階	(10.8)	-	-	内外面回転ナデ、口縁部外面に灰釉	51	21
223	B	SD21	b	廻戸美濃陶器	脚皿	古廻戸後Ⅱ中期	(14.0)	-	-	内外面回転ナデのち灰釉	51	21
224	B	SD21	-	廻戸美濃陶器	脚付大皿	古廻戸後Ⅳ期	(28.0)	-	-	内外面回転ナデのち灰釉	51	21
225	B	SD21	a	廻戸美濃陶器	平盤	古廻戸後Ⅰ期	-	-	-	内外面回転ナデのち灰釉	51	
226	B	SD21	d	廻戸美濃陶器	盤	古廻戸ⅠかⅡ期	-	-	-	内面回転ナデのち施釉、外表面回転ヘラケズリ	51	21
227	B	SD21	c	廻戸美濃陶器	脚子小陶瓶	古廻戸中期	-	(9.0)	-	内面回転ナデ、外表面回転ヘラケズリのち灰釉	51	
228	B	SD21	f	廻戸美濃陶器	浅台	古廻戸後ⅢかⅣ期	-	-	-	内外面回転ナデのち款軸	51	21
229	B	SD21	g	廻戸美濃陶器	筒形容器	古廻戸後ⅢかⅣ期新設階	-	-	-	内面回転ナデ、外表面回転ヘラケズリ、下半を除き外面上に灰釉	51	
230	B	SD21	c	廻戸美濃陶器	天目系楕	古廻戸Ⅱ後期新設階	(12.0)	-	-	内外面回転ナデのち款軸、外面上半回転ヘラケズリのち縫隙	51	20
231	B	SD21	b	廻戸美濃陶器	皿	大廻第2段階	-	(5.0)	-	内面回転ナデのち縫隙、体部外表面回転ヘラケズリのち縫隙、裏出し直高台	51	21
232	B	SD21	h	廻戸美濃陶器	器形不明	古廻戸古廻戸後期	-	-	-	内外面回転ナデのち貼付ナデ、内面に回転系切り底、外面上半款軸、内面に縫合巻	51	21
233	B	SD21	a	廻戸美濃陶器	盤	古廻戸Ⅱ後期新設階	-	-	-	内外面回転ナデのち縫隙	51	
234	B	SD21	4	廻戸美濃陶器	盤	古廻戸Ⅱ後期新設階	-	-	-	内外面回転ナデのち縫隙	51	
235	B	SD21	e	廻戸美濃陶器	盤	古廻戸Ⅱ後期新設階	-	-	-	内外面回転ナデのち縫隙、横目1cm/6本	52	
236	B	SD21	k	廻戸美濃陶器	盤	大廻第3か4段階	-	-	-	内外面回転ナデのち縫隙、底面内面系切り、外面上半横目底にち回転ナデ、横目2cm/12本、内面に縫合巻	52	21
237	B	SD21	f	廻戸美濃陶器	盤	大皿	-	10.8	-	-	52	
238	B	SD21	k	常滑陶器	便	第10型式	-	-	-	内外面回転ナデ	52	
239	B	SD21	1	中国青磁	碗	龍泉窯系碗D2型	-	4.5	-	割り出し直台、外表面施釉、底部外面は施釉後に輪に割り取ってある、見込み間に草花の印刷文あり	51	21
244	B	SD23	b	灰陶器	12世紀	(12.4)	-	-	-	内外面回転ナデ、口縁部内面～外面上に灰釉	53	
245	B	SD23	a	東齊山茶碗	甕	第10型式	(18.2)	-	-	内外面回転ナデ	53	
246	B	SD28	h	東齊山茶碗	山茶碗	大廻第1号窓式	-	(3.6)	-	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外面上に横目底	54	
247	B	SD28	g	東齊山茶碗	山茶碗	大廻第2段階	-	-	-	内外面回転ナデのち縫隙	54	22
248	B	SD29	1	土師器	皿	C1型	-	-	-	内面壓溝により圓筒形不明、外面上に指印刻文压溝	55	
249	B	SD29	1	土師器	皿	M3型	(11.0)	-	2.3	内面壓溝により圓筒形不明、外面上無調査	55	
250	B	SD30	c	東齊山茶碗	山茶碗	大廻第1号窓式	-	-	(3.2)	内面回転ナデ、貼付高台、底部外面上に横目底	55	
251	B	SD30	e	廻戸美濃陶器	天目系楕	古廻戸後中期	(12.0)	-	-	内外面回転ナデのち縫隙	55	
252	B	SD30	e	廻戸美濃陶器	加工楕	古廻戸後中期	-	4.4	-	内面施釉、外表面回転ヘラケズリのち縫隙、側面を敲打、日々表面を軽刷	56	22
253	B	SD30	e	廻戸美濃陶器	四口壺	古廻戸Ⅱ後期	-	(13.0)	-	内面回転ナデ、貼付高台、底部外面上に回転系切り底、底部内面を除く全面に灰釉	55	
254	B	SD30	c	廻戸美濃陶器	丸皿	大廻第2段階	-	-	-	内外面回転ナデのち灰釉	55	
255	B	SD30	c	廻戸美濃陶器	盤	大廻第3か4段階	-	(12.0)	-	内面回転ナデのち縫隙、横目1cm/5本	55	22
256	A	SE1	a	土師器	皿	M3型	(10.8)	-	2.5	体部内面～口縁部ヨコナデ	58	
257	A	SE1	g	土師器	皿	C1型	7.8	-	1.5	体部内面～口縁部ヨコナデ、体部外側～底部に横目压溝	58	22
258	A	SE1	e	土師器	羽釜	A4型	(22.6)	-	-	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ、体部外側ハケ、跨筋貼付ナデ	58	22
259	A	SE1	e	東齊山茶碗	小皿	大廻大洞4号窓式	(8.2)	(4.6)	(1.3)	内外面回転ナデ	58	
260	A	SE1	f	東齊山茶碗	山茶碗	大廻第1号窓式	13	3.6	4.1	内外面回転ナデ、底部内面に横目底、貼付高台、底部外側ハケ横目底	58	22
261	A	SE1	p	東齊山茶碗	山茶碗	大廻大洞4号窓式新設階	-	(4.0)	-	内外面回転ナデ、底部内面に压溝、貼付高台、底部外側に横目底	58	
277	B	SE2	-	東齊山茶碗	山茶碗	大廻大洞4号窓式新設階	(13.8)	(4.8)	4.2	内外面回転ナデ、底部内面静止指ナデ、貼付高台、底部外側に回転系切り底と横目底	60	22
279	B	SE4	j	須恵器	杯身	7～9世紀	(11.0)	5.6	3.2	内外面回転ナデ、底部内面静止指ナデ、口縁部内外に施釉あり、底部外側ハーフリム压溝	62	22
280	B	SE4	1	東齊山茶碗	小皿	大廻大洞4号窓式	-	-	-	内外面回転ナデ、底部外側に回転系切り底、生焼け、底部に横目底ハーフ記号	62	
281	B	SE4	1	廻戸美濃陶器	折縁小皿	古廻戸Ⅱ後中期	(8.6)	(4.8)	2.3	内外面回転ナデ、底部外側に回転系切り底、生焼け、底部に横目底ハーフ記号	62	22
286	B	SE5	7	土師器	皿	M3型	-	-	-	口縁部内面ナデ	66	
287	B	SE5	1	土師器	皿	M3型	(11.0)	-	(2.0)	体部内面～口縁部外側ヨコナデ、体部外側無調査	66	
288	B	SE5	2	土師器	皿	M3型	(12.0)	-	(2.0)	口縁部内面ヨコナデ	66	
289	B	SE5	c	土師器	皿	B1型	(11.0)	-	-	口縁部内面ヨコナデ	66	

表29 土器類觀察表 (6)

開 番 号	地 点	遺 物 名 格 ラ フ ド	層 位	地 質	器 種	分 類・時 期	口 徑	底 径	器 高	備 考	神 社 回 数	
290	B	SE5	b	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式古段階	—	(4.0)	—	内外面回転ナゲ。底部内面静止指ナゲ。貼付高台、底面部外面に板目板張	66	
291	B	SE5	c	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式新段階	—	—	—	内外面回転ナゲ。貼付高台、底面部外面に板目板張	66	
292	B	SE5	d	尾張型山茶碗	山茶碗	第7型式	—	6.2	—	内外面摩減により調整不明。貼付高台、底面部外面に板目板張	66	
293	B	SE5	e	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式古段階	—	(4.2)	—	内外面回転ナゲ。底部内面静止指ナゲ。貼付高台、底面部外面に板目板張	66	
294	B	SE5	f	東濃型山茶碗	小皿	大堀大洞4号窯式	—	(5.0)	—	内外面回転ナゲ。底部内面に回転糸切り痕	66	
295	B	SE5	g	東濃型山茶碗	山茶碗	島之3号窯式	(11.4)	(4.4)	(2.5)	内外面回転ナゲ。底部内面静止指ナゲ。底面部外面に回転糸切り痕、底部外側に板目板張	66	
296	B	SE5	h	東濃型山茶碗	山茶碗	島之3号窯式	(12.6)	(6.4)	3.3	内外面回転ナゲ。底面部外面に回転糸切り痕	66 22	
297	B	SE5	i	東濃型山茶碗	山茶碗	古窯戸後掘IV期	(5.0)	—	—	内外面回転ナゲ。内外面摩減	66 22	
336	A	SK15	j	尾張型陶器	口鉢	第10型式	(32.0)	—	—	内外面回転ナゲ。外面部外面に回転糸切り痕	71 23	
337	A	SK15	k	中国青磁	瓶	龍泉窑系窯D1型	—	(6.3)	—	内外面回転ナゲのち施輪、外面部回転糸切り。見込み部に草花文様	71 23	
339	A	SK37	l	廻ノ井濃差陶器	折沿皿	古窯戸中3土-V期	—	(15.4)	—	外面部回転糸切り。底部外面を除き全面に施釉	72	
340	A	SK38	m	尾張型山茶碗	山茶碗	第8型式	(13.8)	(6.0)	4.4	内外面回転ナゲ	72	
341	A	SK38	n	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式	—	—	—	内外面回転ナゲ。貼付高台	72	
343	A	SK48	o	土師器	盤	C1型	(8.0)	—	(2.4)	体部外側に指壓痕、内面摩減	72	
344	A	SK48	p	尾張型山茶碗	山茶碗	第8か9型式	(14.6)	—	—	内外面回転ナゲ	72	
345	A	SK51	q	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞1号窯式か島之3号窯式	(6.0)	—	—	内外面回転ナゲ。口縁部内面付近に擦痕あり	72	
346	A	SK76	r	土師器	盤	C1型	(9.0)	—	(1.5)	—	内外面回転ナゲ。体部内面に口縁部ヨコナガ、体部外側に指壓痕	73
347	A	SK76	s	土師器	盤	C1型	(12.0)	—	—	体部内面に口縁部一方向ナガ、体部外側に指壓痕	73	
348	A	SK76	t	尾張型山茶碗	山茶碗	第8か9型式	(12.6)	—	—	内外面回転ナゲ	73	
349	A	SK76	u	廻ノ井濃差陶器	日目赤瓶	古窯戸後IV期古段階	—	—	—	内外面回転ナゲのち施輪	73	
350	A	SK77	v	中国青磁	瓶	龍泉窑系B型	—	—	—	内外面回転ナゲのち施輪、外面部に蓮瓣文	73 24	
361	A	SK79	w	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式古段階	—	(4.0)	—	内外面回転ナゲ。貼付高台、底面部外面に板目板張	74	
363	B	SK83	x	中国青磁	瓶	龍泉窑系A型	—	(5.0)	—	—	底部内面一方向ナガ、体部内面に口縁部ヨコナガ、体部外側に指壓痕	75 23
365	B	SK111	y	東濃型山茶碗	山茶碗	島之3号窯式	(11.8)	(4.0)	(2.9)	—	—	—
367	B	SK116	z	廻ノ井濃差陶器	坤形香炉	古窯戸後IV期新段階	(10.0)	—	—	内外面回転ナゲのち鉄輪	75	
358	B	SK128	a-c	廻ノ井濃差陶器	灰釉天日系瓶	古窯戸後IV期新段階	(12.0)	—	—	内外面回転ナゲのち灰釉	75 23	
359	B	SK169	d	土師器	盤	C1型	(8.0)	(4.6)	(1.4)	内面摩減により調整不明、体部外側～底部外面に指壓痕、底面部に施輪	76 23	
360	B	SK169	e	土師器	盤	C1型	(8.0)	(3.9)	1.4	内面摩減により調整不明、外面部に指壓痕	76	
361	B	SK176	f	土師器	盤	C1型	(9.0)	—	1.6	内面不方向ナガ、体部外側～底面部に指壓痕	76	
362	B	SK176	g	廻ノ井濃差陶器	平瓶	古窯戸後IV期新段階	—	5.0	—	内面糸切り、体部外側回転ナゲ、外面部下回転ヘラケヌリ、削り出し高台	76 23	
363	B	SK177	h	廻ノ井濃差陶器	擂钵	大甕	—	—	—	内外面回転ナゲのち鍵輪	76	
366	B	SK181	i	土師器	盤	C1型	7.8	(3.4)	1.5	底部内面不定方向ナゲ、体部外側～底部外面に指壓痕、口縁部ヨコナガ、体部～底面部外面に指壓痕	76 23	
367	B	SK207	j	土師器	盤	C1型	(9.0)	—	(1.6)	口縁部ヨコナガ、体部～底面部外面に指壓痕	77	
368	B	SK207	k	廻ノ井濃差陶器	擂钵	—	—	—	内外面回転ナゲのち鍵輪	77		
369	B	SK212	l	廻ノ井濃差陶器	日目赤系瓶	大堀第1段階	(13.2)	—	—	内外面回転ナゲのち鉄輪	77 23	
370	B	SK227	m-n	土師器	盤	C1型	—	—	—	内面摩減により調整不明、外面部に指壓痕	77	
371	B	SK227	o-p	東濃型山茶碗	山茶碗	島之3号窯式	—	(6.0)	—	内外面回転ナゲ。底部内面静止指ナゲ。底部外側に回転糸切り痕	77	
372	B	SK227	q-s	廻ノ井濃差陶器	擂钵	古窯戸後IV期新段階	—	—	—	内外面回転ナゲのち鍵輪	77	
375	B	SK252	t	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀第1号窯式	—	—	—	内外面回転ナゲ。貼付高台、底面部外面に板目板張	78	
377	B	SK254	u	廻ノ井濃差陶器	小皿	大堀第1段階	(4.6)	—	—	内外面回転ナゲのち灰釉	79 23	
378	B	SK256	v	廻ノ井濃差陶器	旋反碗	斐斐第4小期	(11.0)	—	—	内外面回転ナゲのち鉄輪	79	
379	B	SK285	w	尾張型山茶碗	山茶碗	第7型式	—	(8.2)	—	内外面回転ナゲ。貼付高台	79	
382	B	SK318	x	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀東1号窯式	—	—	—	内外面回転ナゲ。底部内面静止指ナゲ、貼付高台、底面部外面に板目板張	80	
383	B	SK318	y	土製品	土器	—	—	—	—	—	80 23	
384	B	SK326	z	常滑陶器	甕	第7型式	—	—	—	内外面回転ナゲ	80	
387	B	SK435	aa-b	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大洞4号窯式古段階	(13.2)	4.5	4.8	内外面回転ナゲ。底面部内面静止指ナゲ、貼付高台、底面部外面に回転糸切り痕と板目板張	82 23	

表30 土器類観察表(7)

高番号	地点	遺構名	層位	産地・材質	器種	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	標題	図版
388	B	SK451	n	土師器	且	M4型	11.6	—	2.2	内外面ヨコナダ、底部内面一方向ナデのち口縁部「の」字状ナデ上げ、体部外面～底部外に回転止痕	83	23
389	B	SK451	n	土師器	且	M4型	—	—	(1.3)	体部内面～口縁部外面ヨコナダ、体部外面無調整	83	
390	B	SK451	n	土師器	且	C1型	—	—	(1.3)	内面摩滅により調整不明、口縁部外面ヨコナダ、体部外面～底部外に回転止痕	83	
394	B	SK480	a	廻戸美濃產陶器	繩維小皿	古瀬戸後IV期古新段	(9.0)	—	—	内外面回転ナダ、口縁部内外面施釉	84	
395	B	SK490	a	廻戸美濃產陶器	繩維小皿	古瀬戸後Ⅴ期	(8.0)	—	—	内外面回転ナダ、口縁部内外面施釉	84	
396	B	SK520	1	東濃型山茶碗	小皿	大瀬戸4号窯式新段	(8.0)	—	(0.9)	内外面回転ナダ、底部内面に回転糸切り痕	85	17
397	B	SK521	b	廻戸美濃產陶器	繩維	大瀬戸第2段階	(30.0)	—	—	内外面回転ナダ	85	17
398	B	SK522	e	土師器	且	C1型	(8.0)	(2.6)	(1.9)	内面摩滅により調整不明、外面に指頭止痕	85	17
399	B	SK523	3	尾張型山茶碗	山茶碗	第6型式	—	(7.0)	—	内外面回転ナダ、貼付高台	85	
400	B	SK524	1	土師器	且	B1型	—	—	—	体部内面一方角ナダ、口縁部内面～外面ヨコナダ	85	
401	B	SD24	c	土師器	且	B2・B4型	—	—	—	内面ヨコナダ、外面無調整	86	
402	B	SD24	3	土師器	且	C2型	7.5	3.2	1.7	底部内面摩滅激しい、外面に粗頗直痕	86	21
403	B	SD24	1～3	灰陶器	瓶	明和2号窯式	6.7	6.7	—	内外面回転ナダ、内面に施釉、貼付高台、底部外面糸切り痕	86	
404	B	SD24	3	東濃型山茶碗	山茶碗	生田2号窯式	—	(5.0)	—	内外面回転ナダ、底部内面に回転糸切り痕	86	
405	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	天日茶碗	古瀬戸後IV期新段階	(11.6)	—	—	内外面回転ナダのち鉄輪	86	21
406	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	天日茶碗	古瀬戸後IV期新段階	(11.2)	—	—	内外面回転ナダのち鉄輪	86	21
407	B	SD24	c	廻戸美濃產陶器	御付大皿	古瀬戸後IV期新段階	(27.0)	—	—	内外面回転ナダのち灰釉	86	21
408	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	繩維	古瀬戸後IV期新段階	(32.0)	—	—	内外面回転ナダ	86	21
409	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	繩維	古瀬戸後IV期新段階	—	—	—	内外面回転ナダ	86	
410	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	繩維	古瀬戸後IV期新段階	—	—	—	内外面回転ナダ	86	
411	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	繩維小皿	古瀬戸後Ⅴ期	—	(6.0)	—	内外面回転ナダ、底部外に回転糸切り痕	86	
412	B	SD24	3	廻戸美濃產陶器	四耳壺	古瀬戸後IV期	—	(13.0)	—	内外面回転ナダのち施釉	86	
413	B	SD24	1～3	廻戸美濃產陶器	粗引付青瓷	古瀬戸後期	—	—	—	内外面回転ナダ、粗引付付ナダ。全面に施釉。	86	21
414	B	SD24	c	廻戸美濃產陶器	丸皿	大瀬戸第3段階	—	—	—	内外面回転ナダのち鉄輪	86	21
415	B	SD24	1～3	底面不明	染付風	近世	—	(5.2)	—	内面調整による補修痕	86	
416	B	SD24	3	滑背產陶器	甕	第8型式	—	—	—	内外面回転ナダ	86	
417	B	SD24	3	土製品	土鉢	—	最大径 4.8	—	—	外面ナダ。内面に絞り痕	86	21
420	B	SD25	a	土師器	且	B1型	(14.0)	—	(2.2)	内外面摩滅により調整不明	87	
421	B	SD25	3	東濃型山茶碗	山茶碗	大瀬戸1号窯式	(12.2)	(4.2)	(3.6)	内外面回転ナダ、貼付高台、底部外に回転糸切り痕、ナダ調整と粗鉄輪	87	
422	B	SD25	c	廻戸美濃產陶器	壺	古瀬戸後Ⅳ期	—	—	—	体部内面回転ナダ、把手貼付、口縁部内面～外面鉄輪	87	21
423	B	SD26	a	土師器	且	B1型	(12.0)	—	—	内面摩滅により調整不明。体部外に指頭止痕のち横ナダ	88	
424	B	SD26	b	土師器	且	C1型	(7.6)	(2.7)	(1.5)	内面摩滅により調整不明。体部外～底部外に指頭止痕。	88	
425	B	SD26	2	東濃型山茶碗	小皿	大瀬戸4号窯式	(8.2)	(6.0)	0.8	内外面回転ナダ、底部内面静止指付ナダ、底部外に糸切り痕、ナダ調整	88	21
426	B	SD26	b	東濃型山茶碗	山茶碗	大瀬戸1号窯式	—	(5.0)	—	内外面回転ナダ、貼付高台、底部外に回転糸切り痕、板鉄輪	88	
427	B	SD26	2	東濃型山茶碗	山茶碗	大瀬戸1号窯式	(12.0)	4.4	3.5	内外面回転ナダ、底部内面静止指付ナダ、貼付高台、底部外にツール工具による成形、底部外に指頭止痕、底部に形成状の墨書き	88	21
428	B	SD26	b	廻戸美濃產陶器	豆かづ	古瀬戸中期	—	—	—	内面回転ナダ。外面回転ヘラケズリのち反転、外面上に化粧	88	21
429	B	SD26	b	廻戸美濃產陶器	口広有耳壺	古瀬戸後Ⅴ期	—	(12.0)	—	内面回転ナダ。外面回転止痕	88	21
430	B	SD26	b	廻戸美濃產陶器	御付大皿	古瀬戸後IV期新段階	—	—	—	内面回転ナダ、底部外にツール工具による成形、底部外に指頭止痕	88	
431	B	SD26	a	不明	不明	近世	—	(5.0)	—	内面回転ナダ。底部外にヘラケズリのち施釉、底部外に回転	88	
432	B	SD27	a	土師器	鉢	A2型	—	—	—	内面～口縁部外面ヨコナダ。鉢脚貼付ナダ	89	
433	B	SD27	e	土師器	且	C1型	7.8	(3.6)	1.9	内面摩滅により調整不明。外面に指頭止痕	89	22
434	B	SD27	c	土師器	且	C2型	(8.0)	(3.9)	1.5	内面摩滅により調整不明、体部外～底部外に指頭止痕。	89	
435	B	SD27	b	灰陶器	壺	—	—	—	内面回転ナダ。外面回転ヘラケズリ	89		
436	B	SD27	b	尾張型山茶碗	小皿	第5型式	(8.6)	4.4	2.2	内外面回転ナダ、底部内面静止指付ナダ、口縁部外～自然縫、底部外に回転糸切り痕	89	22
437	B	SD27	c	廻戸美濃產陶器	折沿深皿	古瀬戸中Ⅱ期	—	—	—	内外面回転ナダのち施釉	89	22
438	B	SD27	b	廻戸美濃產陶器	口広有耳壺	古瀬戸後Ⅴ期	—	—	—	内外面回転ナダ。外面に鉄輪	89	

表31 土器類觀察表（8）

開 示 番 号	地 点	遺 構 名 グリッド	層位	産 地・材質	器 種	分 類・時 期等	口 径	底 径	器 高	備 考	神 社	回 数
439	B	S227	a~g	瀬戸美濃產陶器	盃	古瀬戸後IV期	(15.4)	—	—	内外面回転ナデ、把手貼付、把手内面ナデ、外面に保付痕	89	22
440	B	S227	a	瀬戸美濃產陶器	直線大皿	古瀬戸後IV期古段階	(30.8)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	89	22
441	B	S227	b	瀬戸美濃產陶器	盤類	古瀬戸後IV期古段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	89	22
442	B	S227	a	瀬戸美濃產陶器	天日茶碗	古瀬戸後IV期新段階	(10.9)	4.5	5.8	内部外側回転ナデのち灰釉。外面下部回転ヘラケツメ、削り出し高台、外地下平～近部繊維	89	22
443	B	S227	d	瀬戸美濃產陶器	丸皿	大瀬戸第2段階	10.6	5.6	2.3	内部外側回転ナデのち灰釉	89	22
444	B	S227	c	瀬戸美濃產陶器	加工円盤	大瀬戸第3段階	—	3.8	—	内部鉛板。外部ヘラケツメのち諸鉛。側面に円錐状に加工。天日系模を軽用	89	22
445	B	SK281	2	瀬戸美濃產陶器	楕林	古瀬戸後IV期新段階南小瀬戸第1段階	—	(10.2)	—	体部外側回転ナデ、底部外側に回転糸切り痕、内外面に保付、縁厚3cm/12本	90	22
447	A	SK75	d	尾張型山茶碗	山茶碗	第9型式	—	(5.2)	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外側に鉛板痕。高台部に大部分繊維	91	22
448	A	SK75	a	瀬戸美濃產陶器	瓶子田皿	古瀬戸後1かII期	—	—	—	内部回転ナデのち灰釉。外面回転ヘラケツメのち施釉。破片を削上まで成形	91	22
449	B	SK81	a	土師器	皿	B1型	(10.6)	(5.0)	—	口縁部内面ヨコナデ。体部外側に捺付圧痕とヨコナデ	91	22
450	B	SK87	1	土師器	伊勢型楕	不明	—	—	—	口縁部内外面ヨコナデ	91	22
451	B	SK97	a~b	土製品	土鍋	—	最大長 3.4	最大幅 1.2	—	外面ナデ。孔径0.4cm	91	22
452	B	SK104	1	土師器	皿	C2型	(7.0)	(3.0)	(1.2)	内部摩擦により調整不規、外面に捺付圧痕	91	22
453	B	SK121	1	東濃型山茶碗	山茶碗	明和1号茎式大根大 4号茎式古段階	—	(3.8)	—	内外面回転ナデ、底部内面停止指ナデ。贴付高台、底外側に回転糸切り痕・ナデ調整と板根痕	91	22
454	B	SK171	d	瀬戸美濃產陶器	御皿	古瀬戸後II期～IV期古段階	—	(6.4)	—	体部内面回転ナデ、体部内面灰釉。底部内面に凹目。底部外側回転糸切り痕	91	22
455	B	SK180	1	東濃型山茶碗	山茶碗	大瀬戸1号茎式	(12.1)	(3.8)	4.0	内外面回転ナデ、底部内面停止指ナデ、贴付高台、底外側に板根痕	92	22
456	B	SK210	3	東濃型山茶碗	山茶碗	—	—	—	内外面回転ナデ、贴付高台、底部外側に回転糸切り痕	92	22	
457	B	SK246	1	尾張型山茶碗	山茶碗	第6型式	—	(6.0)	—	内外面回転ナデ、贴付高台、底部外側に鉛板痕	92	22
458	B	SK242	a~b	土師器	皿	B2-a型	(11.0)	—	—	内外ナデ	92	22
460	B	SK271	1	土師器	羽釜	A4型	—	—	—	内部に口縁部内外面ヨコナデ。脚部貼付ナデ。体部内面ヨコナデ	92	22
461	B	SK272	1	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸4号茎式新段階	—	—	—	内外面回転ナデ、贴付高台、底部外側に鉛板痕	92	22
462	B	SK272	2	瀬戸美濃產陶器	花瓶	古瀬戸後IV期	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	92	22
463	B	SK278	d	土師器	内豆籠	不明	(26.0)	—	—	口縁部内面ヨコナデ。外面に保付痕	92	22
464	B	SK278	c	土師器	皿	C2型	(7.0)	(1.1)	—	口縁部内面ヨコナデ、外面部無調整。口縁部外側に保付痕	92	22
465	B	SK278	c	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸4号茎式新段階	—	(4.0)	—	内外面回転ナデ、底部内面停止指ナデ、贴付高台、底部外側に鉛板痕	92	22
466	B	SK280	1	東濃型山茶碗	小皿	明和1号茎式	(8.0)	(4.8)	1.3	内外面回転ナデ	92	22
468	B	SK305	a	土師器	皿	C2型	(9.0)	—	(1.1)	内部二方向ナデ。底部内面不定方向ナデ。底部外側～底部外側に捺付圧痕	92	22
469	B	SK316	3	土師器	皿	C1型	7.0	—	1.5	体部内面二方向ナデ。底部内面不定方向ナデ。底部外側～底部外側に捺付圧痕	92	22
470	B	SK331	1	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸1号茎式	—	(4.2)	—	内外面回転ナデ、贴付高台、底部外側に鉛板痕	92	22
471	B	SK336	1	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸1号茎式	—	(4.1)	—	内外面回転ナデ、贴付高台、底部外側に鉛板痕	92	22
472	B	SK336	a	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸1号茎式	—	—	—	内外面回転ナデ、贴付高台	92	22
473	B	SK336	a	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸1号茎式か島之島3号茎式	—	—	—	内外面回転ナデ、外面部に墨痕あり	92	22
474	B	SK336	1	土製品	土鍋	—	最大長 3.2	最大幅 1.0	—	孔径0.4cm	92	22
475	B	SK354	a	東濃型山茶碗	山茶碗	大根大瀬戸4号茎式新段階	—	(6.0)	—	内外面回転ナデ、贴付高台、底部外側に鉛板痕	92	22
476	B	SK362	1	土師器	皿	B1型	(13.0)	—	—	口縁部内面ヨコナデ。体部外側無調整	92	22
477	B	SK383	2	東濃型山茶碗	山茶碗	鷺之島3号茎式	(13.0)	4.8	3.8	内外面回転ナデ、底部内面停止指ナデ、底部外側に回転糸切り痕	92	22
478	B	SK407	c	瀬戸美濃產陶器	折線盆皿	古瀬戸後II期	(28.0)	—	—	内外面回転ナデ。口縁部内面施釉（一部焼付、施釉あるが施釉のため痕跡のみ）	92	22
479	B	SK455	1	東濃型山茶碗	山茶碗	鷺之島3号茎式	(11.1)	(4.8)	2.8	内外面回転ナデ、底部内面停止指ナデ、底部外側に回転糸切り痕	92	22
481	A	AP9	H	土師器（ロク口）	皿	不明	—	(5.0)	—	底部外側に回転糸切り痕、体部内面回転摩擦により調整不良。底部外側回転糸切り痕	93	22
482	B	撒乱	—	土師器	皿	B1型	(12.0)	(5.0)	2.5	体部内面～口縁部外側にかけてヨコナデ。底部内面ヨコナデ（方向不明）。体部～底部外側に捺付圧痕	93	22
483	B	撒乱	—	土師器	皿	B1型	(14.0)	—	(2.2)	底部内面回転摩擦により調整不良。底部内面ヨコナデ。外面に捺付圧痕	93	22
484	B	撒土	I	土師器	皿	B2-b型	10.3	5.5	2.0	内部摩擦により調整不良。体部外側～底部外側に捺付圧痕	93	23
485	B	撒乱	—	土師器	皿	B類	—	—	—	体部内面～口縁部外側ヨコナデ。体部外側に捺付圧痕	93	23

表32 土器類観察表(9)

図版 番号	地点 ダッシュ	遺構名	層位	産地・材質	器種	分類・時期等	口径	底径	高さ	備考	伴出 図版
486 A	AQB	II	土師器	皿	C 1 類	(8.2)	—	1.7	底部内面一方舟ナデ。体部外面に指頭圧痕	93	
487 A	A88	II	土師器	皿	C 1 類	(9.0)	—	1.8	底部内面へ口縁部ヨコナデ。体部外面に調整不明、体底へ底	93	
488 A	A57	II	土師器	皿	C 1 類	(12.0)	—	—	体部内面へ指頭圧痕により調整不明、体底へ底	93	
489 B	擾乱	—	土師器	皿	C 1 類	8.0	4.0	2.0	底部内面へ体部内面二方向舟ナデ。体部外面へ底部	93	23
490 B	擾乱	—	土師器	皿	C 1 類	(13.0)	(7.0)	(2.6)	体部内面へ口縁部ヨコナデ。体部外面へ底部外側へ指頭圧痕。口縁端部外面に縫付着	93	
491 B	擾乱	—	土師器	皿	C 1 類	9.0	(4.0)	2.2	底部内面へ舟ナデ。底部外側へ指頭圧痕。体部外面へ底部外側へ指頭圧痕	93	
492 B	擾乱	—	土師器	皿	C 1 類	(7.0)	(3.2)	(1.4)	内部壓痕により調整不明。体部外面へ底部外側へ指頭圧痕	93	
493 B	擾乱	—	土師器	皿	C 1 類	(8.0)	(3.4)	2.6	内部壓痕により調整不明。体部外面へ底部外側へ指頭圧痕	93	
494 B	擾乱	—	土師器	皿	C 1 類	(13.0)	(8.1)	1.7	内部壓痕により調整不明。体部外面へ底部外側へ指頭圧痕。ハサミ皿	93	
495 B	表土	I	土師器	皿	C 1 類	(8.0)	4.0	1.8	底部内面へ不定舟ナデ。外面に指頭圧痕	93	
496 B	擾乱	—	土師器	皿	C 2 類	(6.8)	(3.0)	1.4	内部内面へ不定舟ナデ。体部外面へ底部内面に縫付着	93	
497 B	擾乱	—	土師器	皿	M 3 類	(12.0)	—	—	口縁部内面ヨコナデ。底部内面摩滅。底部外側未調査。(指頭圧痕のちナデ酒)	93	
498 B	擾乱	—	土師器	皿	M 4 類	(11.0)	(6.7)	1.8	口縁部内面ヨコナデ。底部外側未調査。底部外側へ指頭圧痕	93	
499 B	表土	II	土師器	薄型盤	半平安後期	(24.2)	—	—	体部内面へ舟ナデ。口縁部内面ナデ。口縁部外側貼付ナデ。口縁部外面に指頭圧痕	93	
500 B	表土	I	土師器	内耳鉢	不明	—	—	—	内部内面へ舟ナデ。外面に縫付着	93	
501 B	表土	I	土師器	内耳鉢	不明	—	—	—	内部内面へ舟	93	
502 B	擾乱	—	土師器	伊勢型鏡	不明	(22.0)	—	—	口縁部外側ヨコナデ	93	
503 B	表土	I	土師器	伊勢型鏡	不明	—	—	—	口縁部外側ヨコナデ	93	
504 B	表土	I	土師器	伊勢型鏡	不明	(22.0)	—	—	口縁部外側ヨコナデ。口縁部外面に縫付着	93	
505 B	表土	I	土師器	伊勢型鏡	不明	—	—	—	口縁部外側ヨコナデ。外面に縫付着	93	
506 A	AQB	II	土師器	羽釜	A 4 類	(18.0)	—	—	口縁部ヨコナデ。体部外側ハケ。脚部貼付ナデ。脚以下に縫付着	93	
507 A	AQB	II	土師器	羽釜	A 4 類	(18.4)	—	—	体部内面へ口縁部ヨコナデ。脚部貼付ナデ。体部外側ヨハケのちナナメハケ。口縁部に直径4mmの円孔あり	93	24
508 B	表土	I	土師器	羽釜	A 類	—	—	—	内部内面口縁部外側ヨコナデ。脚部貼付ナデ	93	
509 B	表土	I	土師器	羽釜	A 4 類	(24.4)	—	—	体部内面ヨカハマ。口縁部内面ヨコナデ。脚部貼付ナデ。体部外側ヨコハマ	93	
510 B	表土	I	土師器	羽釜	A 類	—	—	—	内部内面ヨコナデ。脚部貼付ナデ	93	
511 B	表土	I	土師器	羽釜	A 4 類	(22.7)	—	—	内部内面ヨコナデ。脚部貼付ナデ。体部外側ヨカハマ	93	
512 A	擾乱	—	直唇器	有蓋杯	8世紀後葉	—	—	—	外部内面回転ナデ、外表面回転ヘラケズリ、縫み部貼付	93	
513 A	擾乱	—	直唇器	甕	7～9世紀	—	(16.0)	—	内部内面回転ナデ。外表面回転ヘラケズリ	93	
514 B	擾乱	—	灰釉陶器	甕	丸石2号窯式	—	(8.0)	—	外部内面回転ナデ、貼付高台。底部内面回転ヘラケズリ、全周に灰釉、見出し部に印文全体が摩滅	93	
515 B	擾乱	—	灰釉陶器	甕	西坂1号窯式	—	6.6	—	外部内面回転ナデ、底部内面静止指ナデ。貼付高台、底部外側切妻	93	
516 B	擾乱	—	灰釉陶器	甕	丸石2号窯式	(13.8)	(7.0)	6.1	外部内面回転ナデ、貼付高台。底部内面回転ヘラケズリ	93	
517 B	表土	I	灰釉陶器	甕	西坂1号窯式	—	(8.0)	—	外部内面回転ナデ、底部内面中央摩滅。貼付高台。底部外側に回転切り振	93	
518 B	擾乱	—	灰釉陶器	長頸瓶	10世紀	(8.4)	(8.4)	—	外部内面回転ナデ、底部内面へ袖袋あり。貼付高台、底部外側切妻	93	
519 B	表土	I	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第3型式	—	(6.0)	—	外部内面回転ナデ、底部内面へ袖袋あり。貼付高台、底部外側切妻	93	
520 B	表土	I	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第4型式	—	(8.8)	—	外部内面回転ナデ、底部内面静止指ナデ。貼付高台、底部外側切妻	94	
521 B	擾乱	—	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(7.0)	—	外部内面回転ナデ、底部内面静止指ナデ。貼付高台、底部外側切妻	94	
522 B	擾乱	—	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(5.5)	—	外部内面回転ナデ、底部内面静止指ナデ。貼付高台	94	
523 B	擾乱	—	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	6.6	—	外部内面回転ナデ。底部内面静止指ナデ。貼付高台、底部外側切妻	94	
524 B	擾乱	—	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第1型式	—	(8.0)	—	外部内面回転ナデ。底部内面摩滅。貼付高台。底部外側切妻	94	
525 B	表土	I	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(8.0)	—	外部内面回転ナデ。底部内面静止指ナデ。貼付高台、底部外側切妻	94	
526 B	表土	I	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第5型式	—	(6.0)	—	外部内面回転ナデ。底部内面静止指ナデ。底部外側切妻	94	
527 B	擾乱	—	尾張型山茶瓶	山茶瓶	第6型式	(14.1)	(5.6)	4.9	外部内面回転ナデ。底部内面静止指ナデ。底部外側切妻	94	

表33 土器類觀察表 (10)

閲覧番号	地点	遺物名	層位	地質・材質	器種	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	邦語	英語
529	B	土器	I	尾張型山茶碗	山茶碗	第6型式	—	(5.6)	—	内外面回転ナデ。貼付高台、底部外面にナデ調整と 縦設版、底部に穿孔あり	94	24
529	A	擾丸	—	尾張型山茶碗	山茶碗	第8型式	—	(3.0)	—	体部内面回転ナデ。内面と底部外正彌誠	94	
530	A	AQ8	II	尾張型山茶碗	山茶碗	第8か9型式	—	(5.6)	—	内外面回転ナデ	94	
531	B	土器	I	尾張型山茶碗	山茶碗	第10型式	(12.8)	5.4	4.3	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、底部外面に 回転糸切り板	94	
532	A	AS16	II	尾張型山茶碗	小皿	第6型式	8.4	5.4	1.7	内外面回転ナデ、口縁部内外面に自然輪付着 内移動の跡ナデ。底部内面静止指ナデ、内面に自然 輪、底面外沿ナデ調整	94	23
533	B	土器	I	尾張型山茶碗	小皿	第6型式	(7.7)	(4.4)	(1.6)	—	94	
534	A	擾丸	—	尾張産陶器	片口鉢	6型式	(28.0)	—	—	内外面回転ナデ	94	
535	B	擾丸	—	尾張産陶器	片口鉢	第8型式	—	—	—	内外面回転ナデ	94	
536	B	土器	I	尾張産陶器	片口鉢	9・10型式	—	—	—	内外面回転ナデ。無輪系陶器の体	94	
537	B	土器	I	尾張産陶器	片口鉢	第10型式	—	(9.0)	—	内面使用による擦痕、外周へラケツリ、貼付高台、 底部内面に縦設版、無輪系陶器の体	94	
538	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	明和1号窯式	—	(5.2)	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部外面に回転糸切り 板と横設版	94	
539	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	明和1号窯式か大堀大 4号窯式	—	(5.0)	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底部内面に横設版压痕	94	
540	A	AR10	II	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大4号窯式古段	(14.0)	(5.2)	(4.6)	内外面回転ナデ。貼付高台、底部内面に横設版压痕	94	
541	B	土器	I	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大4号窯式古段	12.9	4.5	5.5	内外面回転ナデ、底部内面静止指ナデ。貼付高台、 底部内面回転糸切り後ナデ、底部外周に横設版	94	
542	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大4号窯式古段	—	(3.9)	—	内外面回転ナデ。貼付高台、底部内面静止指ナデ、 底部外周に板状压痕、ナテと横設版	94	
543	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大4号窯式古段	—	(4.0)	—	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、貼付高台、 底部外周に横設版	94	
544	B	土器	I	東濃型山茶碗	山茶碗	大堀大4号窯式新段	(12.6)	(4.2)	4.5	内外面回転ナデ。貼付高台、底部外面に板状压痕 と横設版	94	
545	A	AQ8	II	東濃型山茶碗	小皿	大堀大4号窯式	—	(5.8)	—	内外面回転ナデ	94	
546	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	大洞東1号窯式	(13.0)	(4.4)	4.2	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、底部外面回 転糸切り板と横設版	94	
547	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	大洞東1号窯式	13.2	4.2	3.7	内外面回転ナデ。貼付高台、底部外面に回転糸切り 板と横設版	94	23
548	B	土器	I	東濃型山茶碗	山茶碗	大洞東1号窯式	(12.4)	(4.0)	(3.8)	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、貼付高台、 底部外周に初切痕、底部外周に横設版	94	
549	B	土器	I	東濃型山茶碗	山茶碗	大洞東1号窯式か鶴之 島3号窯式	(12.4)	(4.0)	(4.3)	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、貼付高台	94	
550	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	山茶碗	生田2号窯式	(12.0)	—	—	内外面回転ナデ	94	
551	B	擾丸	—	東濃型山茶碗	小皿	大堀大4号窯式	8.4	6.2	1.0	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、底部外面に 回転糸切り板、口縁部外周に曲筋痕、口縁部外周 に横設版	94	23
552	B	土器	I	東濃型山茶碗	小皿	大堀大4号窯式	(7.8)	(4.8)	1.0	内外面回転ナデ。底部内面に板状压痕、底部外面に 回転糸切り板	94	
553	B	土器	I	東濃型山茶碗	小皿	大堀大4号窯式	(8.0)	(5.0)	(2.1)	内外面回転ナデ。底部内面静止指ナデ、底部外面に 回転糸切り板	94	
554	B	擾丸	—	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	古窯戸後IV期	12.0	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪、外周下半回転ヘラケツリ	94	24
555	B	擾丸	—	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	古窯戸後IV期新段階	(12.0)	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪、外周下半回転ヘラケツリ	94	
556	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	古窯戸後IV期新段階	(12.2)	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪、外周下半回転ヘラケツリ	94	
557	B	擾丸	—	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	古窯戸後IV期	(13.0)	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪	94	
558	B	擾丸	—	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	大堀第1段階	—	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪	94	
559	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	大堀第1段階	(12.0)	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪、外周下半回転ヘラケツリ のち鉄輪	94	24
560	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	大堀第3段階	(12.0)	—	—	内外面回転ナデのち鉄輪	94	
561	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	天日茶碗	古窯戸後III期	—	(4.8)	—	内面へ体部外周回転ナデ、外周下半回転ヘラケツリ、 リ、用り出し高台、内面に灰釉、内面に重ね焼きの 痕跡	94	
562	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	平鉢	古窯戸後III期	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉、外周下半回転ヘラケツリ、 体部内面に重ね焼きの痕跡	94	
563	B	擾丸	—	瀬戸美濃産陶器	平鉢	古窯戸後III期	—	—	—	内面へ口縁部外周回転ナデのち灰釉、体部外周回 転ナデ	94	24
564	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	練物小皿	古窯戸後III期	(10.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	94	
565	B	擾丸	—	瀬戸美濃産陶器	丸皿	大堀第2段階	—	5.2	—	内面へ鉄輪、高台付、底部外周回転ヘラケツリ、見 込み部に印文字、燒成不良で釉が白く濁って発色	94	24
566	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	丸皿	大堀第1か2段階	—	(5.0)	—	内面へ体部外周に灰釉、貼付高台、底部外周回転ヘ ラケツリ、底部外周に重ね焼きの痕跡あり。見込み 部に印文字	94	
567	B	土器	I	瀬戸美濃産陶器	平鉢	古窯戸後IV期古段階	(35.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉、底部内面に印字1cm/4本	94	24

表34 土器類観察表 (11)

開拓番号	地点	遺物名	層位	产地・材質	留種	分類・時期等	口径	底径	器高	備考	標目	既報
568	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	即日付大皿	古窯戸後Ⅳ期新段階	(33.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	24
569	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	折縫深皿	古窯戸中期	(31.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
570	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	折縫深皿	古窯戸後Ⅰ期	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
571	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	折縫深皿	古窯戸後Ⅰ期	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
572	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後ⅠかII期	—	14.0	—	底面内面回転ナデのち灰釉(ヘケ型)、体部内外面回転ナデのち灰釉(つけがけ)、外周下平～底面回転ヘタケズリ、底面外周輪舟切り版、施釉はヘケ型のかけ掛げ	95	
573	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後Ⅱ期新段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
574	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後Ⅱ期新段階	(34.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
575	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後Ⅱ期新段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
576	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後Ⅱ期新段階	(34.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
577	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後Ⅱ期新段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
578	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	盤鉢	古窯戸後Ⅱ期新段階	(36.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
579	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	盤鉢	大室第1段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
580	B	擾乱	—	櫛口美濃南陶器	盤鉢	大室第2段階	(32.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉、幅目1cm/6本	95	
581	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	盤鉢	大室第2段階	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
582	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	盤鉢	大室第2段階	(36.2)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	24
583	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	内凹盤	古窯戸中期	—	—	—	内ナデ、外張回転ナデのち灰釉、外面上マミ部貼付、外面上直縁文	95	24
584	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	楕台	古窯戸後Ⅰ期	(12.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	24
585	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	仏龜	古窯戸後Ⅰ・Ⅱ期	—	4.5	—	内～体部外周回転ナデ、底部外周輪舟切り版	95	24
586	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	仏龜	古窯戸後Ⅱ期新段階	—	5.0	—	内～体部外周回転ナデのち灰釉、貼付高台、底部外周輪舟ヘタケズリ	95	
587	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	仏龜	古窯戸後期	(12.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
588	A	AKR18	II	櫛口美濃南陶器	内凹盤	古窯戸後期	—	(12.4)	—	内外面回転ナデ	95	24
589	B	表土	I	櫛口美濃南陶器	蓋(窓か蓋)	古窯戸後期	(12.6)	6.0	2.8	内外面回転ナデのち灰釉、底部内面にマミ部貼付、底部外周に回転舟切り板	95	
590	B	表土	I	櫛口南陶器	擂钵	登堂第8.9期	(34.0)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	
591	B	表土	I	不明	小皿	不明	(7.0)	—	—	内～体部外周回転ナデのち灰釉、外面上半側へタケズリ	95	
592	B	表土	I	不明	不明	不明	(10.8)	—	—	内外面回転ナデのち灰釉	95	24
593	A	AKR14	II	不明	不明	近世	(8.0)	—	—	内外面回転ナデ、貼付高台、底面に穿孔	95	
594	B	表土	I	常滑南陶器	便	第9型式	—	—	—	内外面回転ナデ	95	24
595	B	表土	I	常滑南陶器	便	第10型式	(37.6)	—	—	内外面回転ナデ、口縁部外周貼付ナデ	95	24
596	B	擾乱	—	常滑南陶器	便	不明	—	—	—	内外面回転ナデ、外面上斜格子の押文	95	
597	B	表土	I	常滑南陶器	便	不明	(17.6)	—	—	内面指押えのちナデ、外面上ナデ、外面上直縁文	95	
598	B	擾乱	—	中国白磁	皿	E群	(9.0)	—	—	口縁部回転ナデのち灰釉	95	24
599	B	擾乱	—	中国白磁	皿	A群	(4.2)	—	—	体部外周回転ヘタケズリ、内外面施釉、削り出し高台、見込み部に縦刻文あり	95	24
600	B	表土	I	中国青磁	碗	雅泉窯系碗C類	—	—	—	内外面回転ナデのち灰釉、外面上縦刻の直縁文	95	24
601	B	表土	I	中国青磁	碗	雅泉窯系碗D1類	—	5.6	—	内外面回転ナデのち灰釉、貼付高台、底部外周にかけて釉を削り取り	95	
602	B	SK336	I	土製品	土鏡	—	最大直径 4.6	最大幅 1.0	—	孔径0.35cm	92	
603	B	表土	I	土製品	土鏡	—	最大直径 4.2	最大幅 1.3	—	孔径0.4cm	97	24
604	B	表土	I	土製品	土玉	—	最大幅 1.4	—	—	—	97	24

表35 石製品觀察表

編號番号	地點	遺構名	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	被熱	博國	國版
3	B	S81	7	砾石	安山岩	22.8	21.8	9.0	無	12	
4	B	S81	4	砾石	砂岩	17.1	8.0	7.2	無	12	
10	B	S83	1	砾石	砂岩	16.0	9.0	5.7	無	19	
116	B	SD15	a~b	砾石	凝灰岩	13.3	5.5	2.1	無	41	25
117	B	SD15	a~b	砾石	凝灰岩	6.2	3.3	1.0	無	42	25
181	B	SD19	b	石臼	花崗岩	32.7	15.0	5.8	無	48	25
182	B	SD19	a~b	砾石	砂岩	8.1	5.9	5.0	無	48	
240	B	SD21	d	砾石	砂岩	5.6	4.0	2.1	無	52	
241	B	SK300	a	砾石	凝灰岩	5.4	3.6	1.1	無	52	
242	B	SD21	#	用途不明石製品	花崗岩	24.5	22.5	9.6	無	52	
262	A	SE1	r	砾石	凝灰岩	10.6	6.2	2.0	有	58	25
263	A	SE1	g	砾石	砂岩	13.4	8.8	4.5	有	58	
278	B	SE3	2	砾石	砂岩	15.3	8.5	6.5	無	61	
338	A	SK17	d	砾石	凝灰岩	6.5	2.8	0.9	無	71	
352	A	SK79	a	砾石	凝灰岩	10.0	5.8	3.5	無	74	25
354	B	SK107	4	砾石	砂岩	20.0	9.3	3.5	有	75	25
356	B	SK100	b	砾石	砂岩	(8.0)	(10.5)	5.0	有	75	
364	B	SK177	b	砾石	砂岩	10.2	9.0	4.8	無	76	
380	B	SK267	b	砾石	砂岩	25.5	10.2	9.9	有	79	
381	B	SK267	3	石臼	花崗岩	17.0	10.8	5.1	無	79	25
385	B	SK605	2	用途不明石製品	花崗岩	20.9	8.1	2.6	有	81	
391	B	SK451	k	用途不明石製品	泥狀岩	(12.0)	(5.8)	(5.7)	有	82	25
446	A	SK049	a	砾石	凝灰岩	6.5	4.2	2.6	無	91	
459	B	SK251	a	砾石	砂岩	5.0	5.5	5.0	有	92	25
467	B	SK237	a	砾石	砂岩	11.0	5.5	3.1	有	92	
480	B	SK474	1	砾石	凝灰岩	14.0	3.2	1.6	無	92	25
605	A	擾乱	-	砾石	砂岩	18.8	5.5	3.8	無	97	
606	A	擾乱	-	砾石	砂岩	4.0	2.4	0.8	無	97	25
607	A	擾乱	-	砾石	凝灰岩	11.0	13.0	6.0	有	97	
608	B	擾乱	-	砾石	砂岩	13.9	4.2	2.7	無	97	

表36 金属製品觀察表

編號番号	地點	遺構名	層位	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	博國	國版
5	B	SB2	b	鐵質	鋼	2.4	2.3	0.1	細型元寶(行書)	17	26
9	B	S83	2	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	元祐通寶(篆書)	19	26
19	B	SP8	c	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	元豐通寶(行書)	27	26
20	B	SP8	c	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	嘉祐元寶(篆書)	27	26
21	B	SP8	c	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	政和通寶(分摺)	27	26
22	B	SP8	c	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	天禧通寶	27	26
23	B	SP8	c	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	嘉祐により鐵種不明	27	26
24	B	SP8	3	鐵質	鋼	2.5	2.5	0.1	祥符通寶	27	26
25	B	SP8	3	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	嘉祐により鐵種不明	27	26
36	B	SP83	e	小柄	鋼	8.3	1.4	0.3	袋飾のない翻刻小柄。小刀を固定するための小穴有	31	26
179	B	SD19	1	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	開元通寶	48	26
180	B	SD19	1	鐵質	鋼	2.4	2.3	0.1	開食により鐵種不明	48	26
184	B	SD20	1	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	咸平元寶	49	26
185	B	SD20	1	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	紹聖元寶(篆書)	49	26
186	B	SD20	1	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	熙寧元寶(真書)	49	26
282	B	SE4	1	釘	鐵	7.2	0.6	0.5	角釘	62	26
365	B	SK177	a	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	鐵種不明	76	26
373	B	SK227	b	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	元豐通寶(行書)	77	26
374	B	SK246	1	鐵質	鋼	2.4	1.4	0.1	鐵種不明。半分欠損	77	26
376	B	SK252	2	鐵質	鋼	2.0	2	0.1	開食により鐵種不明(小柄)	78	26
386	B	SK405	a	鐵質	鋼	2.5	2.5	0.1	永樂通宝	81	26
418	B	SD24	3	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	太平通寶	86	26
419	B	SD24	3	鐵質	鋼	2.4	2.4	0.1	熙寧元寶(真書)	86	26
609	B	表土	I	鉗	鉗	1.3	1.4	1.3	鍛造を保つ	97	26
610	B	擾乱	-	鐵質	鋼	2.3	2.3	0.1	熙寧元寶(真書)	97	26
611	B	表土	I	鐵質	鋼	2.3	1.2	0.1	鐵種不明。半分欠損	97	26
612	B	表土	I	不明鉄製品	鉄	10.3	1	0.6	釘や鍼の可能性あり	97	26
613	B	表土	I	不明鉄製品	鉄	6.8	2.7	0.7	火打も鉄か	97	26

表37 木製品観察表(1)

開級番号	地点	被遺名	層位	用途	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形態・特徴	木取り	樹種	神因	因版
6 B	S82-P1	3	不明	棒材	(28.9)	7.0	3.4	先端にU字状の切欠きがある。	半削	サワラ	17	27	
32 B	SP67	2	建築部材	柱桿	(22.8) (16.7)	(8.4)	19.9	18.3	表面が渋く、加工痕は確認できない。	芯持丸木	クリ	36	27
33 B	SP69	1	建築部材	柱桿	(56.8)	19.9	18.3	丸太を4分の1にみかん割りし、角面を取りて円柱状に形成する。底部も丸が落とされ、丸みを帯びる。	みかん割り	サワラ	36	27	
35 B	SP69	1	建築部材	柱桿	(18.8)	(8.7)	(7.1)	表面が渋く、加工痕は確認できない。	芯持丸木	サワラ	31	27	
37 B	SP89	1	建築部材	柱桿	(48.1)	28.9	23.0	表面が渋く、芯部は空穴である。加工痕は確認できない。	芯持丸木	クリ	32	27	
39 B	SP92	1	建築部材	柱桿	(35.2) (11.3)	(10.6)	表面の裏面が渋く、加工痕は確認できない。	芯持丸木	クリ	32	27		
46 B	SP96	1	建築部材	柱桿	(19.0) (9.2)	(8.6)	表面の裏面が渋く、加工痕は確認できない。	芯持丸木	クリ	33	27		
52 A	SD10	b	不明	棒材	7.9	4.6	3.4	1つの面上に方孔の穴が開けられる。	角材	サワラ	37	27	
183 B	SD19	1	不明	板材	(10.7) (5.4)	0.4	半円の板で、曲面の底面が削れると考えられる。	板目	サワラ	48	27		
243 B	SD21	j	食事具	箸	(11.5)	0.6	0.4	1本のみ出土した。木材を細く削り出している。	角材	コウヤマキ	52	27	
264 A	SE1	g	戸戸枠部材	隅柱	87.0	12.5	9.0	丸木芯を4分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が方形の角柱に切り出す。表面の成形は不明である。隣接する2面に横模様を削るためのホゾ穴が1箇所ずつ開けられる。ホゾ穴は丸溝である。	角材	コウヤマキ	59	28	
265 A	SE1	n	戸戸枠部材	横桿	57.6	4.6	3.2	一面の表面の長軸方向にスリットが施される。両端部は細く加工される。	角材	コウヤマキ	59	27	
266 A	SE1	n	戸戸枠部材	横桿	48.6	5.2	3.0	一面の表面の長軸方向にスリットが施される。両端部は細く加工される。	角材	コウヤマキ	59	27	
267 A	SE1	o	戸戸枠部材	横桿	60.0	3.3	2.7	一面の表面の長軸方向にスリットが施される。両端部は細く加工される。	角材	コウヤマキ	59	27	
268 A	SE1	g	戸戸枠部材	側板	50.6	12.5	0.8	方形の最も平な板材で、明瞭な加工の痕跡はない。	板目	コウヤマキ	59	—	
269 A	SE1	g	戸戸枠部材	側板	32.0	13.5	1.6	方形の最も平な板材で、明瞭な加工の痕跡はない。	板目	コウヤマキ	59	—	
270 A	SE1	g	戸戸枠部材	板材	39.8	9.2	1.8	直線性4cmの穴が2箇所に貫通する。	追板目	コウヤマキ	59	28	
271 A	SE1	g	戸戸枠部材	板材	34.9	4.6	1.0	直線性4cmの穴が2箇所に貫通する。	板目	サワラ	59	28	
272 A	SE1	g	戸戸枠部材	板材	37.9	11.8	2.2	直線性4cmの5箇所の穴のうち、2箇所は貫通し、3箇所は貫通で背面間に隙間的に並ぶ。	追板目	コウヤマキ	59	28	
273 A	SE1	p	容器	曲物	123.5	16.8	0.5	内面に昇り縫引きを引き、丸めて重なった箇所を5点の横縫で締める。また、外周に板材が巻かれる。	板目	ヒノキ	58	28	
274 A	SE1	g	戸戸枠部材	板材	(43.2)	4.4	1.0	直線性4~4.0cmの穴が2箇所に貫通する。	板目	サワラ	59	28	
275 A	SE1	l	戸戸枠部材	板材	38.8	4.5	1.4	直線性4cmの穴が1箇所に貫通する。	板目	コウヤマキ	59	28	
276 A	SE1	l	戸戸枠部材	板材	(12.6) (2.3)	0.6	木目に沿って削られている。曲物の板材と考えられる。	板目	ヒノキ	59	27		
283 B	SE4	l	容器	曲物	24.0	8.5	0.6	内面に昇り縫引きが引かれ。複数の小径の穴が貫通する。接合部は複数の斜め2枚を2列に並べ、板を縫い付けるようにして締める。	板目	サワラ	63	28	
284 B	SE4	l	容器	曲物	29.3	6.6	0.6	内面に昇り縫引きが引かれ。複数の小径の穴が貫通する。接合部は複数度で2箇所を留めるが、現存状況がよく詳説は不明である。	板目	ヒノキ	63	28	
285 B	SE4	l	容器	曲物	10.9	26.7	0.6	内面に昇り縫引きが引かれ。接合部は3点の極度で3箇所を留める。	板目	サワラ	63	28	
296 B	SE5	-	戸戸枠部材	隅柱	(78.5)	12.3	100.0	丸木芯を8分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が方形の角柱に切り出す。表面の成形は不明である。隣接する2面に横模様を削るためのホゾ穴が1箇所ずつ開けられる。東西方向のみ貫通する。	みかん割り	コウヤマキ	67	30	
299 B	SE5	-	戸戸枠部材	隅柱	70.7	14.1	7.3	丸木芯を8分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が方形の角柱に切り出す。表面の成形は不明である。隣接する2面に横模様を削るためのホゾ穴が1箇所ずつ開けられる。東西方向のみ貫通する。	角材	コウヤマキ	67	30	
300 B	SE5	-	戸戸枠部材	隅柱	74.0	10.3	12.4	丸木芯を8分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が方形の角柱に切り出す。表面の成形は不明である。隣接する2面に横模様を削るためのホゾ穴が1箇所ずつ開けられる。ホゾ穴は丸溝である。	みかん割り	コウヤマキ	67	30	
301 B	SE5	-	戸戸枠部材	隅柱	71.8	13.0	6.2	丸木芯を8分割にみかん割りし、芯部に近い部分を切除し、断面が方形の角柱に切り出す。表面の成形は不明である。隣接する2面に横模様を削るためのホゾ穴が1箇所ずつ開けられる。一方の先端部が欠損する。	みかん割り	コウヤマキ	67	30	
302 B	SE5	-	戸戸枠部材	横桿	53.6	6.0	3.0	断面がほぼ方形で、両端部が先端に向かって細く加工されている。	角材	ヒノキ	67	29	
303 B	SE5	-	戸戸枠部材	横桿	53.6	3.4	2.7	断面がほぼ方形で、両端部が先端に向かって細く加工されている。	角材	ヒノキ	67	29	
304 B	SE5	-	戸戸枠部材	横桿	54.1	3.8	2.9	断面がほぼ方形で、両端部が先端に向かって細く加工されている。	板目	コウヤマキ	68	29	
305 B	SE5	-	戸戸枠部材	横桿	(46.3)	4.8	2.3	断面がほぼ方形で、両端部が先端に向かって細く加工されている。一方の先端部が欠損する。	角材	サワラ	68	29	
306 B	SE5	-	戸戸枠部材	側板	(52.4)	8.5	1.7	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った凸凹が見られるところから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高さがあり、そこから上部に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に方孔のホゾ穴が貫通する。板の曲面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、刃物の食い込みが確認できる。	板目	ヒノキ	68	29	

表38 木製品觀察表（2）

面積番号	地點	遺構名	層位	用途	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	形態・特徴	木取り	樹種	神話	因版
307	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(60.9)	10.3	2.5	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	ヒノキ	68	29
308	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(61.9)	10.3	2.9	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	68	29
309	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(64.8)	11.8	2.8	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	ヒノキ	68	29
310	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(56.6)	11.5	2.6	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	68	29
311	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(59.9)	10.8	2.7	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	ヒノキ	68	29
312	B	SES	-	井戸枠部材	側板	54.7	140.0	2.5	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
313	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(60.3)	9.8	2.7	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	ヒノキ	69	29
314	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(59.7)	9.5	2.5	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
315	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(54.2)	10.3	2.1	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
316	B	SES	-	井戸枠部材	側板	(56.3)	10.2	3.1	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
317	B	SES	-	井戸枠部材	側板	63.2	12.1	3.3	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
318	B	SES	-	井戸枠部材	側板	58.7	13.5	3.3	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った湾曲が見られることから、木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少しづつ薄くなる。下部に下方のホゾ穴が貫通する。板の裏面から穿孔している。ホゾ穴の断面には加工痕が残り、万物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29

表39 木製品観察表(3)

同級番号	地点	選択名	部位	用途	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形態・特徴	木取り	樹種	押因	因版
319	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(54.1)	11.3	3.3	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った溝曲が見られることがある。木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少し下がりくなる。下部に方形のボーリング穴がある。板の両面から穿孔している。ボーリ穴の断面には加工痕が残り、刃物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
320	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(62.8)	11.3	3.5	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った溝曲が見られることがある。木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少し下がりくなる。下部に方形のボーリング穴がある。板の両面から穿孔している。ボーリ穴の断面には加工痕が残り、刃物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
321	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(60.2)	12.2	2.6	表面に明瞭な加工痕はなく、断面は年輪に沿った溝曲が見られることがある。木目に沿って削って成形したと思われる。中央付近に微小な高まりがあり、そこから上端に向かって板が少し下がりくなる。下部に方形のボーリング穴がある。板の両面から穿孔している。ボーリ穴の断面には加工痕が残り、刃物の食い込みが確認できる。	板目	サワラ	69	29
322	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	77.8	14.8	1.9	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	
323	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(45.9)	(8.8)	1.1	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	29
324	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(50.5)	8.3	1.7	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	
325	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	56.8	13.3	1.7	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	29
326	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	48.7	17.4	1.3	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	
327	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(44.6)	(11.7)	1.0	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	29
328	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(53.1)	11.1	1.4	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	
329	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	48.8	10.8	1.0	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	
330	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	(53.9)	6.9	1.6	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	70	
331	B	SE5	-	井戸枠部材	側板	35.9	10.4	2.0	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。炭化部がある。	板目	コウヤマキ	70	29
332	B	SE5	-	織紋製品	織物	13.0	9.0	-	333と同一個体であるが、取上げ時に剝離した。ヒゴを英語で縫みする。	割り剥き	ヒノキ	70	30
333	B	SE5	1	織紋製品	織物	8.0	10.0	-	332と同一個体であるが、取上げ時に剝離した。ヒゴを英語で縫みする。	割り剥き	ヒノキ	66	30
334	B	SE5	-	井戸枠部材	板材	58.3	29.8	2.1	66.9cmの穴が隅に貫通する。両面に刻まれた繩状の加工痕で、方向に一定の規則性をもつ。	板目	サワラ	70	30
335	B	SE5	-	井戸枠部材	板材	(3.3)	(6.4)	0.6	半円形の板状木製品で、元は円形と考えられる。中心に径約1.5cmの穴が貫通する。	板目	ヒノキ	70	27
342	A	SK38	h	容器	漆器柄	3.2	1.7	0.3	小片だが、萬葉が見られることから柄と考えられる。外側に凹凸が施されている。	不明	不明	72	27
392	B	SK451	-	建簾部材	板材	62.4	16.2	1.1	上端に向けて薄くなる扁平な板材で、上端は欠損している。下端はほぼ垂直に切断されている。明瞭な加工痕はない。	板目	コウヤマキ	83	
393	B	SK451	6	井戸枠部材	板材	(12.1)	(2.2)	0.7	木目に沿って削っている。曲物の底板と考えられる。	板目	ヒノキ	83	27

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果

1 花粉分析

分析の経緯 当遺跡が位置する本巣市では、これまで低地での発掘調査がほとんど実施されておらず、自然科学分析を用いた過去の環境復元が進んでいない。今回の調査で検出した中世後期の遺構埋土の花粉分析を行うことで、周辺植生の解明や当該時期の環境復元、本巣市以外の地域との比較ができる可能性があるため、分析を実施した。

結果の概要と所見 遺跡周辺の開けた場所には、ニヨウマツ類やコナラ、クリなどが分布していたと考えられる。特にクリの花粉比率が高く、試料採取地点は屋敷地であるため、屋敷地周辺にある程度の個体数のクリの木が生育していたなどの状況が推測される。他にも、遺跡周辺にはスギやハンノキ、クワが生育していた状況が推測される。草本花粉ではイネ科が多く産出しており、水田雜草の存在と併せて、遺跡周辺における水田稲作の存在、さらに、栽培植物のソバ属花粉も産出しており、ソバ栽培が行われていたことが判明した。

2 木製品の樹種同定

分析の経緯 当遺跡では、中世後期の遺構から状態の良好な木製品が多数出土した。今回対象とした遺物の樹種を明らかにすることで、木材利用のあり方を検討するため、樹種同定を実施した。また、当地域においては木製品の樹種同定が限られるため、中世における基本資料に位置づけられる。

結果の概要と所見 井戸枠の部材として、コウヤマキ、サワラ、ヒノキが使われ、曲物にはヒノキとサワラ、編物にはヒノキが使われていた。いずれも、耐水性が強い樹種を意図的に選択して用いていたと考えられる。コウヤマキの井戸枠への使用は一般的ではないが、遺跡近郊にコウヤマキの生育地があり、コウヤマキの入手が容易であった可能性が考えられる。その他では、漆器梱にはブナ、柱根にはクリとヒノキが用いられていた。

3 塗膜分析

分析の経緯 当遺跡では、中世後期の遺構から漆と考えられる付着物を伴う遺物を3点出土した。これらについて、漆の塗膜構造を知るため、塗膜分析を実施した。

結果の概要と所見 3点とも、下地は柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地で、下地の上に透明漆が1層と、その上に加飾による赤色漆1層の塗り重ねが認められる1点以外は、漆層は1層であった。また、赤色漆にはすべて顔料として朱が用いられていたことが判明した。

第2節 花粉分析

1 はじめに

屋敷地の北側に掘られたSD10、屋敷地を区画する溝SD21、屋敷地内の井戸SE3の3箇所の埋土を用いて、遺跡周辺の古植生を検討するために花粉分析を行った。分析は森将志（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と方法

分析試料は、中世後期の溝や井戸の覆土から採取した計3点である（表40）。これらの試料を用いて、次の手順で花粉分析を行った。

試料（湿重量約3～4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。作製したプレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。ただし、SE3の試料については数枚のプレパラートを観察しても十分な量の樹木花粉が得られないと判断し、プレパラート1枚の観察に留めた。また、保存状態の良好な花粉化石を選んで単体標本（PLC.1772～1779）を作製した（写真2）。

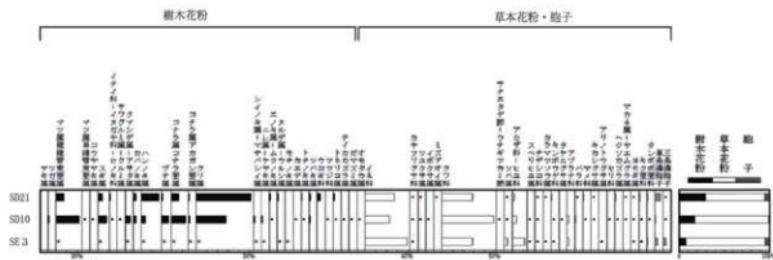
3 結果

3試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉28、草本花粉26、形態分類のシダ植物胞子2の総計56である。これらの花粉・胞子の一覧を表41・42に、花粉分布図を図117に示した。花粉分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン（-）で結んだ分類群はそれらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

SE3では十分な量の樹木花粉が得られなかつたが、草本花粉は多く産出しており、イネ科が40%、便宜的に草本花粉に含めたクワ科が29%、アカザ科-ヒユ科が11%の産出率を示す。栽培植物のソバ属の産出も見られ、3%の産出率である。SD21やSD10では十分な量の樹木花粉が得られており、マツ属複維管束亞属やスギ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、クリ属の産出が目立つ。それぞれの産出率はマツ属複維管束亞属がSD21で7%、SD10で22%、スギ属がSD21で4%、SD10で8%、ハンノキ属がSD21で16%、SD10で4%、コナラ属コナラ亜属がSD21で7%、SD10で13%、クリ属がSD21で50%、SD10で28%である。草本花粉ではSE3と同じくイネ科や便宜的に草本花粉にしたクワ科、アカザ科-ヒユ科の産出が目立ち、栽培植物のソバ属の産出も見られた。また、SD10とSD21では、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属やイボクサ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などがわずかに産出している。

表40 分析試料一覧表

地点	遺構	時期	土相
A 地点	SD10		7.5Y4/1灰褐色粘質シルト
B 地点	SD21 SE 3	中世後期	2.5Y3/1黒褐色粘質シルト 5Y3/2オリーブ黒色土



樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・孢子は産出花粉孢子総数を基数として百分率で算出した。

*は樹木花粉 100 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

図 117 花粉分布図

表 41 産出花粉孢子一覧表（1）

学名	和名	SD21	SD10	SE 3
樹木				
<i>Podocarpus</i>	マキ属	1	-	-
<i>Tsuga</i>	ツガ属	-	2	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複維管束亞属	15	45	13
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyylon</i>	マツ属單維管束亞属	-	1	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	-	1	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	8	17	3
Taxaceae—Cephalotaxaceae—Cupressaceae	イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科	1	1	-
<i>Pterocarya</i> — <i>Juglans</i>	サワグルミ属—クルミ属	-	1	-
<i>Carpinus</i> — <i>Ostrya</i>	クマシデ属—アサダ属	-	10	1
<i>Betula</i>	カバノキ属	5	5	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	33	8	2
<i>Fagus</i>	ブナ属	2	14	1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	14	27	3
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	2	3	1
<i>Castanea</i>	クリ属	103	58	7
<i>Castanopsis</i> — <i>Pasania</i>	シイノキ属—マテバシイ属	-	2	1
<i>Ulmus</i> — <i>Zelkova</i>	ニレ属—ケヤキ属	-	2	2
<i>Celtis</i> — <i>Aphananthe</i>	エノキ属—ムクノキ属	2	1	-
<i>Rhus</i> — <i>Toxicodendron</i>	ヌルデ属—ウルシ属	2	-	1
<i>Ilex</i>	モチノキ属	-	-	1
<i>Acer</i>	カエデ属	-	1	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	1	1	-
<i>Camellia</i>	ツバキ属	3	2	-
Araliaceae	ウコギ科	6	-	-
Ericaceae	ツツジ科	-	1	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	2	1	-
<i>Trachelospermum</i>	ティカカズラ属	-	1	-
<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	-	1	-

表42 産出花粉孢子一覧表(2)

学名	和名	SD21	SD10	SE 3
草本				
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	-	1	-
Gramineae	イネ科	190	275	188
Cyperaceae	カヤツリグサ科	3	2	1
<i>Commelinaceae</i>	ツユクサ属	1	6	-
<i>Aneilema</i>	イボクサ属	-	6	-
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	1	-	-
Moraceae	クワ科	198	587	136
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i> — <i>Echinocaulon</i>	サナエタデ節—ウナギツカミ節	-	5	-
<i>Fagopyrum</i>	ゾバ属	2	1	14
Chenopodiaceae—Amaranthaceae	アカザ科—ヒユ科	14	47	54
<i>Portulaca</i>	スペリヒユ属	-	1	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2	6	2
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	2	-	1
Ranunculaceae	キンポウゲ科	4	3	1
<i>Macleaya</i>	タケニグサ属	-	1	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	18	9
Rosaceae	バラ科	2	8	-
Leguminosae	マメ科	6	2	-
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	1	2	-
<i>Haloragis</i>	アリノトウグサ属	-	-	1
Apiaceae	セリ科	-	1	-
<i>Paederia</i>	ヘクソカズラ属	7	2	-
<i>Rubia</i> — <i>Gallium</i>	アカネ属—ヤエムグラ属	1	2	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	3	2	1
Tubuliflorae	キク亞科	6	4	1
<i>Liguliflorae</i>	タンポポ科	7	2	4
シダ植物				
monolete type spore	單条構孢子	36	9	11
trilete type spore	三条構孢子	2	2	13
Arboreal pollen	樹木花粉	200	206	36
Nonarboreal pollen	草木花粉	450	984	415
Spores	シダ植物胞子	38	11	24
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	688	1201	475
unknown	不明	6	7	-

4. 考察

溝である SD10 と SD21 の覆土の花粉組成では、マツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属、クリ属などの産出が目立つ。これらは二次林要素の植物を含む分類群であるため、遺跡周辺の開けた場所にはニヨウマツ類やコナラ、クリなどからなる二次林が分布していたと思われる。このうち、クリについては飛散状況が詳しく調べられており、表層花粉群におけるクリの樹木花粉比率は、クリ林内で 30~60%以上、樹冠縁から約 20m 離れた場所で 5%、約 200m 離れると 1%以下となる実証的なデータがある(吉川 2011)。SD21 と SD10 から産出したクリ属では、SD21 が 50%、SD10 が 28%の樹木花粉比率を示すため、遺構近くにクリが存在していた可能性がある。試料採取地点は屋敷地であるため、林を形成していたとは考えにくいが、試料採取地点の周辺にある程度の個体数のクリの木が生育していたなどの状況が推測される。さらに、SD21

の方がクリ属の比率が高率な点を考慮すると、クリの生育規模はSD21の周辺の方が大きかったか、生育地に近い場所であったと思われる。その他ではスギ属や湿地林要素のハンノキ属の産出も見られるため、遺跡周辺にスギ林が分布し、遺跡周辺の低地部や溝の土手などにはハンノキが生育していた状況が推測される。草本花粉ではイネ科が多く産出しており、アカザ科-ヒユ科を伴うため、屋敷地にはイネ科やアカザ科-ヒユ科などの草本類が生育していたと思われる。さらに、好湿性のオモダカ属やイボクサ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などがわずかに産出している点から、溝周辺の水分条件の良好な場所にはこうした水生植物が生育していた可能性がある。あるいは、これらの分類群は水田雑草を含む分類群としても知られており、イネ科花粉の産出と合わせて考えると、遺跡周辺における水田稲作の存在も推測できる。さらに、栽培植物のソバ属花粉も産出しており、ソバ栽培が行われていた可能性もある。

井戸であるSE3の覆土では、樹木花粉の産出が少なく、草本花粉の産出が多く見られた。これには堆積場の範囲が影響していると考えられる。すなわち、溝であれば開放的であるため、より広い範囲の花粉が飛来・流入する可能性があるが、井戸では開口部が限られるため、井戸周辺に生育する草本類からは花粉が供給されるが、遠方から飛来・流入する樹木花粉は堆積し難かった状況が推測される。便宜的に草本花粉としたクワ科であるが、SE3では樹木花粉があまり産出していない状況の中で高率に産出している点から、井戸周辺に生育していた草本類のクワ科であると考えられる。クワ科はSD21やSD10でも多産しているため、屋敷地周辺では草本類のクワ科が分布を広げていたと思われる。また、SE3ではSD21やSD10に比べると、ソバ属も産出率がやや高い。井戸の脇にソバが生育していた可能性があるが、屋敷地でソバ栽培が行われていたとは考え難く、例えば、花粉が付着したソバ殻が井戸内に入り込んだ可能性も考えられる。

引用文献

- 吉川昌伸 2011「クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況」『植生史研究』18、日本植生史学会 65~76頁

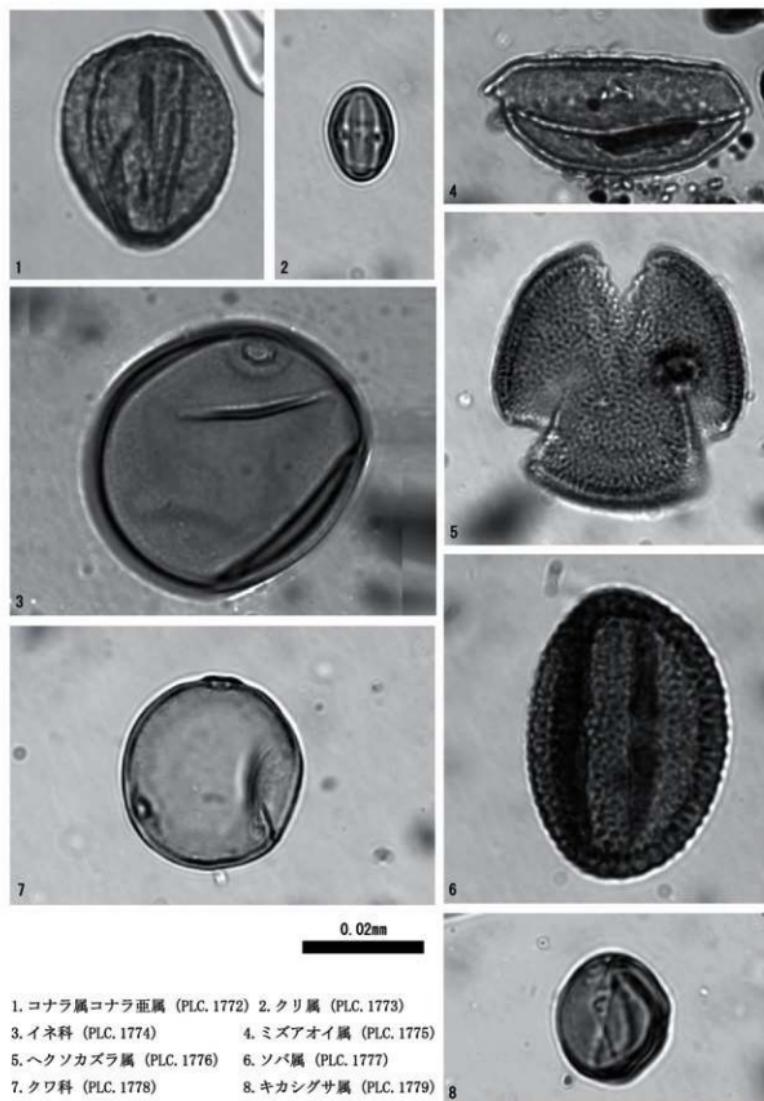


写真2 政田仙道上遺跡から出土した花粉化石

第3節 木製品の樹種同定

1 はじめに

今回の調査では、SE 1・5など中世後期の遺構から多数の木製品が出土した。木製品はその樹種同定を行うことにより、利用目的に応じた樹種の選択性を知る手がかりとなるため、全 68 点の分析を実施した。No. 1~66 の分析は須山貴史（株式会社イビソク）が、また、No. 67・68 は藤田秀臣（株式会社吉田生物研究所）が担当した。同定結果について、器種別の樹種構成と一覧をそれぞれ表 43・44 に示す。

表 43 出土木製品の器種別樹種構成

樹種/器種	箸	曲物				柱根	板材	棒材	幅物	漆器			不明	合計
		井戸枠	横棟	隅柱	側板					碗	不明	不明		
コウヤマキ	1		4	5	14		2						26	
ヒノキ	2	2			2		5		2			1	13	
サワラ	2	1			12	2	3	2					22	
クリ						4							4	
ブナ										1			1	
不明											1		1	
合計	1	4	7	5	28	6	10	2	2	1	1	1	68	

2 試料番号 1~66 の樹種同定について

(1) 試料と方法

試料は、SE 5 から 38 点、SE 1 から 13 点、SE 4 から 3 点、SK451 から 2 点、SB 2-P 1、SP57、SP59、SD21、SP69、SP89、SP92、SP93、SD10、SD19 から各 1 点の、計 66 点の出土木製品である。遺構の時期はいずれも中世後期である。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（杁目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。

(2) 結果

同定の結果、針葉樹ではコウヤマキとヒノキ、サワラの 3 分類群、広葉樹ではクリ 1 分類群の、計 4 分類群がみられた。コウヤマキが最も多く 26 点で、サワラが 22 点、ヒノキが 14 点、クリが 4 点みられた。次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

①コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc. コウヤマキ科 写真 3 1a-1c (No. 39)・2a-2c (No. 60)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ 1~5 列となる。分野壁孔は窓状となる。

コウヤマキは温帯から暖帯にかけて隔離分布をしている 1 科 1 属 1 種の常緑高木の針葉樹で、日本の固有種である。材はやや軽軟、切削などは容易で水湿に耐朽性がある。

②ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真 3 3a-3c (No. 10)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ 1~15 列となる。分野壁孔はトウヒ~ヒノキ型で、1 分野に 2 個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

③サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真 3 4a-4c (No. 27)・

表44 樹種同定結果一覧表

試料No.	出土遺構番号	掲載番号	器種	樹種	木取り
1	SP59	33	柱根	サワラ	志特丸木
2	SD21	243	茎	コウヤマキ	角材
3	SP69	35	柱根	サワラ	志特丸木
4	SE 5	298	井戸棒隅柱	コウヤマキ	みかん削り
5	SE 5	332	編物	ヒノキ	割り製き
6	SE 5	333	編物	ヒノキ	割り製き
7	SE 5	322	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
8	SE 5	323	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
9	SE 5	324	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
10	SE 5	306	井戸棒側板	ヒノキ	板目
11	SE 5	307	井戸棒側板	ヒノキ	板目
12	SE 5	308	井戸棒側板	サワラ	板目
13	SE 5	309	井戸棒側板	ヒノキ	板目
14	SE 5	301	井戸棒隅柱	コウヤマキ	みかん削り
15	SE 5	325	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
16	SE 5	335	不明	ヒノキ	板目
17	SE 5	331	板材	コウヤマキ	板目
18	SE 5	310	井戸棒側板	サワラ	板目
19	SE 5	311	井戸棒側板	ヒノキ	板目
20	SE 5	312	井戸棒側板	サワラ	板目
21	SE 5	326	井戸棒側板	コウヤマキ	道柵目
22	SE 5	327	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
23	SE 5	328	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
24	SE 5	300	井戸棒隅柱	コウヤマキ	みかん削り
25	SE 5	313	井戸棒側板	ヒノキ	板目
26	SE 5	329	井戸棒側板	コウヤマキ	道柵目
27	SE 5	314	井戸棒側板	サワラ	板目
28	SE 5	330	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
29	SE 5	315	井戸棒側板	サワラ	板目
30	SE 5	299	井戸棒隅柱	コウヤマキ	角材
31	SE 5	316	井戸棒側板	サワラ	板目
32	SE 5	334	板材	サワラ	板目
33	SE 5	317	井戸棒側板	サワラ	板目
34	SE 5	318	井戸棒側板	サワラ	板目
35	SE 5	319	井戸棒側板	サワラ	板目
36	SE 5	320	井戸棒側板	サワラ	板目
37	SE 5	321	井戸棒側板	サワラ	板目
38	SE 5	304	井戸棒横棟	ヒノキ	角材
39	SE 5	302	井戸棒横棟	コウヤマキ	板目
40	SE 5	303	井戸棒横棟	サワラ	角材
41	SE 5	305	井戸棒横棟	ヒノキ	角材
42	SP93	40	柱根	クリ	志特丸木
43	SE 4	283	曲物側板	サワラ	板目
44	SE 4	284	曲物側板	ヒノキ	板目
45	SE 4	285	曲物側板	サワラ	板目
46	SP92	39	柱根	クリ	志特丸木
47	SP89	37	柱根	クリ	志特丸木
48	SK451	393	板材	コウヤマキ	板目
49	SK451	392	板材	ヒノキ	板目
50	SB 2-P 1	6	木材	サワラ	半削
51	SD19	183	板材	サワラ	板目
52	SP57	32	柱根	クリ	志特丸木
53	SE 1	267	井戸棒横棟	コウヤマキ	角材
54	SE 1	274	井戸棒側板	サワラ	板目
55	SE 1	268	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
56	SE 1	270	井戸棒側板	コウヤマキ	道柵目
57	SE 1	271	井戸棒側板	サワラ	板目
58	SE 1	276	板材	ヒノキ	板目
59	SE 1	275	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
60	SE 1	266	井戸棒横棟	コウヤマキ	角材
61	SE 1	273	曲物側板	ヒノキ	板目
62	SE 1	264	井戸棒横柱	コウヤマキ	角材
63	SE 1	265	井戸棒横棟	コウヤマキ	角材
64	SE 1	269	井戸棒側板	コウヤマキ	板目
65	SE 1	272	井戸棒側板	コウヤマキ	道柵目
66	SD10	52	木材	サワラ	角材
67	SD21	-	漆器	不明(散孔材)	不明
68	SK38	342	漆器柄	ブナ	板目

5c (No. 12)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部はやや薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は同性で、1～6細胞高となる。分野壁孔はやや開いて斜めを向いたヒノキ型となり、1分野に2個みられる。

サワラは岩手県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は軽軟で加工しやすく、水湿によく耐える。

④クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 写真3 6a-6c (No. 46)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

(3) 考察

井戸枠では、試料数の多かった側板はコウヤマキが16点とサワラが13点、ヒノキが2点、横桟はコウヤマキが3点とヒノキが2点、サワラが1点、隅柱はコウヤマキ4点で、コウヤマキとサワラが多くみられた。これらの針葉樹は木理通直で真っ直ぐに生育する加工性の良い材で、コウヤマキとサワラは特に水湿に強いという材質を持つ（伊東ほか2011）。水湿に強くして真っ直ぐな材を井戸枠に選択的に利用していたと考えられる。岐阜県城では室町時代の井戸材の同定例は殆どないが、愛知県城の室町時代の井戸材ではヒノキやネズコといったヒノキ属の樹種が多くみられ、コウヤマキの利用は顯著ではない（伊東・山田2012）。井戸材でコウヤマキが多く利用された例としては、豊明市の薬師ヶ根遺跡の平安～鎌倉時代の井戸材があり、ヒノキとコウヤマキが多く利用されていた（小林2016）。

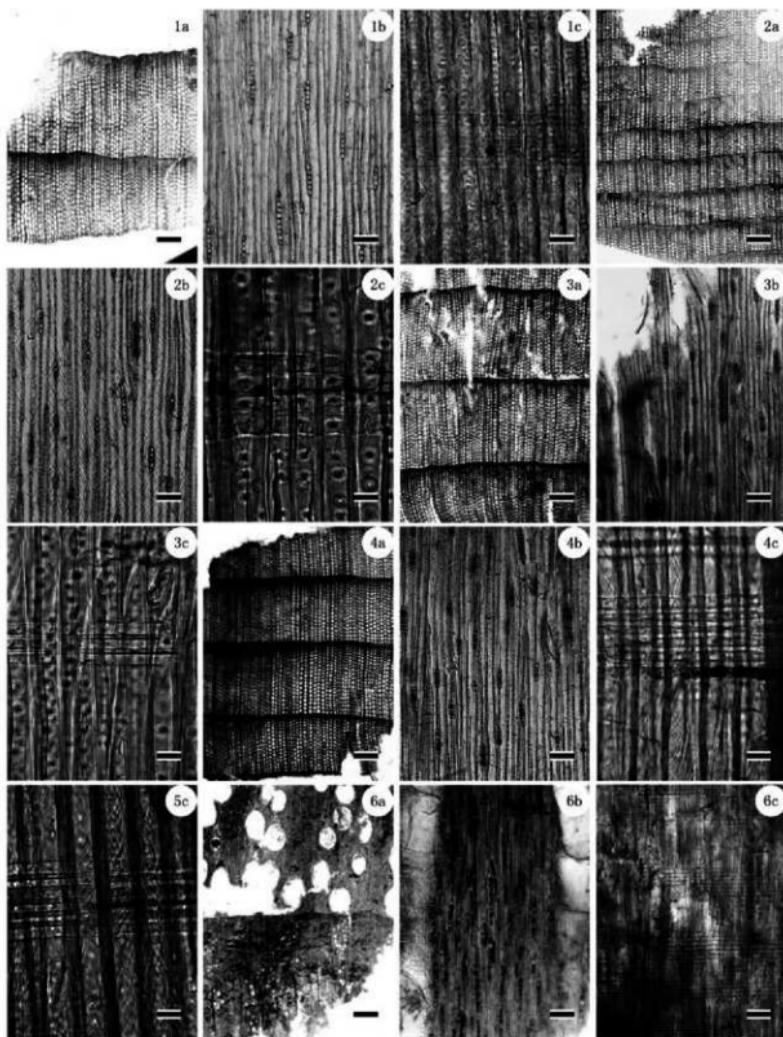
曲物側板は、ヒノキとサワラが各2点みられた。いずれも井戸内の水溜として利用されていたと考えられる。岐阜県の柿田遺跡では、平安～鎌倉時代及び鎌倉～江戸時代の曲物にヒノキ属が多くみられており、今回の試料も同様の傾向を示す。

編物2点はいずれもヒノキであった。木取りはいずれも割り裂きで、二次木部が板目にとってあり、厚さ0.5～1.0mm程度のテープ状であった。佐賀県の東名遺跡の編組製品部では、ムクロジやイヌビワは原本をみかん割りにして柾目状の板を切り出し、その柾目板を板目状に削いで作製されたと考えられる（能城ほか、2009）。今回の政田仙道遺跡の編物も、同様の手法をとっていた可能性がある。

柱根では、クリが4点とサワラが3点みられた。サワラは前述のとおり真っ直ぐに生育する材で、クリは堅硬で耐朽性が良いという材質を持つ（伊東ほか2011）。岐阜県の柿田遺跡では、平安～鎌倉時代及び鎌倉～江戸時代の柱にクリとヒノキが多く、堅硬な材と真っ直ぐな材を柱材に利用する傾向が確認されており、今回も同様の傾向がみられた。

板材ではコウヤマキとヒノキ、サワラがみられ、箸はコウヤマキ、棒材はコウヤマキとサワラであった。真っ直ぐで加工性の良い針葉樹が利用されていたと考えられる。

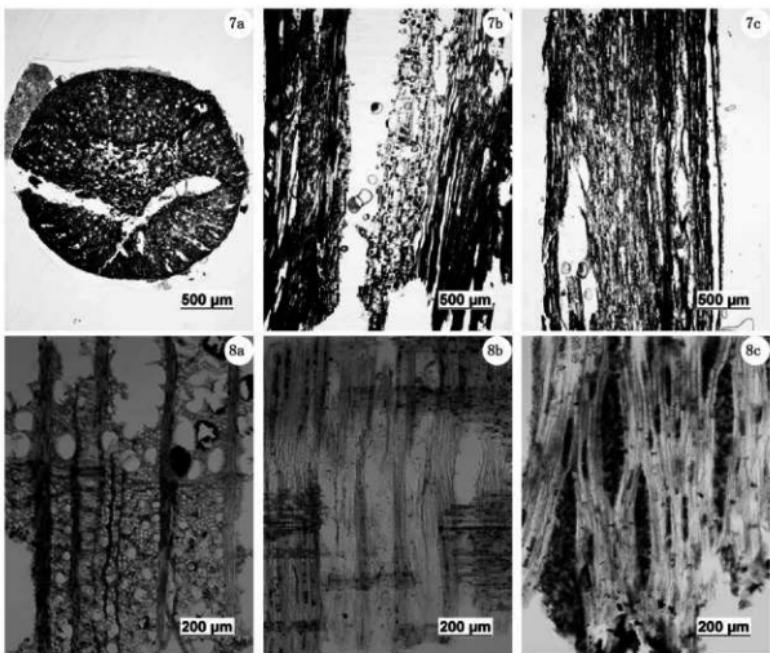
政田仙道上遺跡の樹種同定では、コウヤマキが多くみられた。コウヤマキは隔離分布をしている種であり（伊東ほか2011）、生育場所は限定されるためヒノキやサワラと比べると、材の入手は容易ではなかったと予想される。政田仙道上遺跡で井戸材にコウヤマキが多く利用されていた背景として、遺跡近郊にコウヤマキの生育地があり、コウヤマキの入手が容易であった可能性が考えられる。



1a-1c. コウヤマキ(No. 39)、2a-2c. コウヤマキ(No. 60)、3a-3c. ヒノキ(No. 10)、4a-4c. サワラ(No. 27)、
5c. サワラ(No. 12)、6a-6c. クリ(No. 46)

a:横断面(スケール=250μm)、b:接線断面(スケール=100μm)、c:放射断面(スケール=1-5:25μm・6:100μm)

写真3 接載遺物の顕微鏡写真(1)



7a-7c. 散孔材 (No. 67)、8a-8c. ブナ (No. 68) a:木口、b:柾目、c:板目

写真4 捨弃遺物の顕微鏡写真（2）

3 試料番号 67・68 の樹種同定について

(1) 試料と方法

No. 67 は SK38 出土の漆塗膜に付着した炭化材、No. 68 は SD21 出土の漆器である。No. 67 については、土表面の塗膜の下に別の塗膜が確認された。この塗膜と表面の塗膜は、向い合う側に下地が見られたので一対のものと考えられる。木胎は腐朽で喪失している可能性が高いと思われるが、漆器と共に検出された炭化材も木胎の可能性が考えられるので同定を行った。No. 67 は炭化材から採取した数 mm 四方の試料を木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片ができるようにエポキシ樹脂に包埋した。包埋した標本を研磨して薄片プレパラートを作製した。No. 68 は剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。これらのプレパラートを顕微鏡で観察して同定を試みた。

(2) 結果

樹種同定結果（広葉樹 2 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

① 散孔材 写真4 7a-7c (No. 67)

散孔材である。木口では極めて小さい道管 ($\sim 50 \mu\text{m}$) が単独ないし 2 ~ 4 個複合して平等に分布する。

一部、火炎状に収束している箇所もある。柾目では道管は単穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔を有する放射組織は平伏、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は中型。板目では放射組織は単列、高さ 1 mm からなる。

②ブナ (*Fagus* sp.) ブナ科ブナ属 写真4 8a-8c (No. 68)・2a-2c (No. 60)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 (～110 μm) がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2～3列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2～3列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも 1～3 mm の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道(南部)、本州、四国、九州に分布する。

引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和穂 2011 『日本有用樹木誌』、海青社 238 頁
- 伊東隆夫・山田昌久編 (2012) 『木の考古学—出土木製品用材データベース』、海青社 449 頁
- 愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 2015 『薬師ヶ根遺跡』、愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 75～81頁
- 能城修一・鈴木三男・佐々木由香・小林和貴・小川とみ 2009 『出土木材と植物性遺物の同定』『東名遺跡群II』第6 分冊、佐賀市教育委員会 213～236頁
- 林昭三 1991 『日本産木材顕微鏡写真集』、京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V』、京都大学木質科学研究所
- 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』、雄山閣出版
- 北村四郎・村田源 1979 『原色日本植物図鑑木本編 I・II』、保育社
- 奈良国立文化財研究所 1985 『奈良国立文化財研究所 史料第27 冊 木器集成図録 近畿古代篇』
- 奈良国立文化財研究所 1993 『奈良国立文化財研究所 史料第36 冊 木器集成図録 近畿原始篇』

第4節 塗膜分析

1はじめに

出土した漆塗膜が確認できる遺物3点について、塗膜構造調査を行った。

2 調査資料

調査した試料は、表1に示す中世の遺構から出土した漆器片3点である。No.1は漆塗膜に炭化材の細片が付着した状態で出土し、No.2は漆塗膜のみが出土した。No.3は漆器椀の破片と考えられる。

表45 調査資料

試料番号	遺物掲載番号	遺物取上番号	出土遺構	種別	写真番号	樹種	概要
No.1	—	832	SD21	漆塗膜	1	散孔材	内外両面とも赤色の塗膜である。
No.2	—	872	SD21	漆塗膜	4	—	赤色の塗膜である。
No.3	342	3423	SK38	漆器片	6,8	ブナ属	漆器椀の破片と考えられる。外面に赤色の加飾があるが、内面には確認できない。

3 調査方法

表45の資料本体の塗膜付着部分から数mm四方の破片を採取し、バーキンエルマー社製のFT-IR分析装置Spectrum Oneを用いて、膠着剤の材質を調査した。次に、破片試料をエポキシ樹脂に包埋し、作製した塗膜断面プレパラートの導電性を上げて観察精度を上げる為に金(Au)蒸着を行い、株式会社日立サイエンスシステムズ製走査型電子顕微鏡SEMEX3Type3、堀場製作所製エネルギー分散型X線分析装置EMAXEnergy400の装置を用いて、EPMA分析により塗膜混和物の元素同定を行った。最後に塗膜断面の薄片プレパラートを完成し、これを落射光並びに透過光の下で検鏡した。

4 調査結果

4-1 FT-IR分析

図118~120は漆塗膜のスペクトル図である。各図とも漆の特徴を呈することから、今回調査した資料3点とも、膠着剤の材質は漆と判断される。

4-2 EPMA分析

図121・122は電子顕微鏡画像とEDX分析のスペクトル図と表である。分析の結果、No.1内面、No.1外表面、No.2、No.3A面からHgが検出され、朱の混和が認められる(表46)。

4-3 断面観察

写真5は塗膜断面の顕微鏡写真である。塗膜断面の観察結果を表47に示す。概要を以下に述べる。

塗膜構造：下層から、下地、漆層が観察された。

下地：3点とも濃褐色を呈する柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地であった。

漆層：No.1とNo.2には下地の上に直接赤色漆1層が重なっていた。No.3外表面には下地の上に黄褐色を呈する透明漆が1層見られ、その上に赤色漆が1層重なっていた。No.3内面には下地の上に透明漆が1層見られた。この透明漆層の上面に近い部分はやや暗色に変色している。これは劣化によるものである。

顔料：3点ともに赤色顔料を混和した赤色漆層が見られた。No.1内外面、No.3外表面の赤色漆層には、比較的透明度が高く粒子形状が明瞭な朱が認められた。No.2の赤色漆層にはNo.1、No.3の朱よりも細かな朱が

混和されていた。

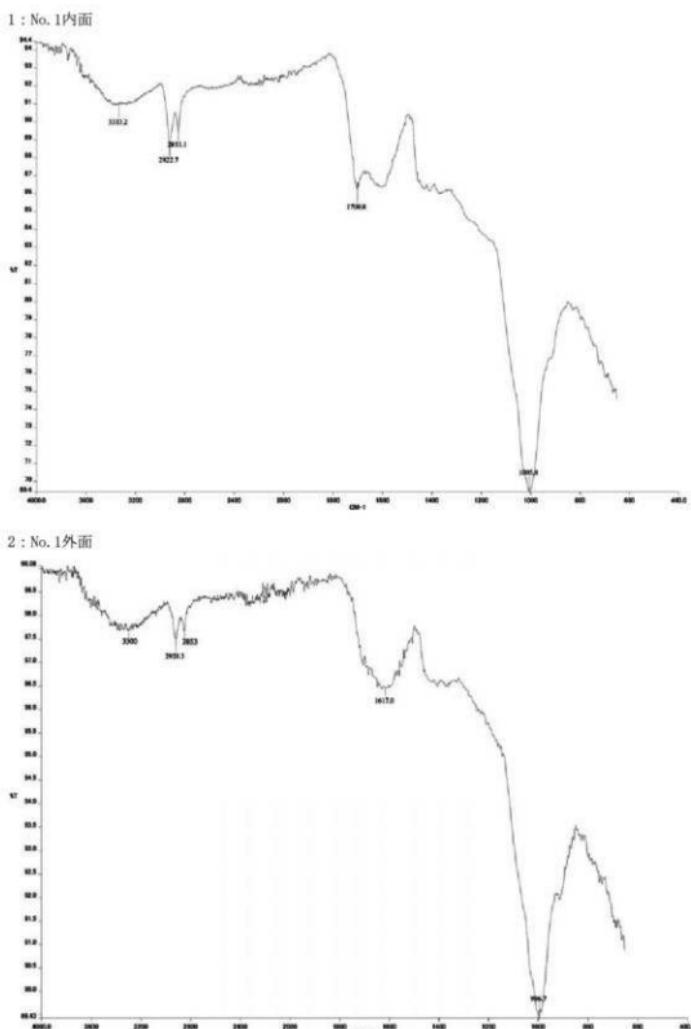
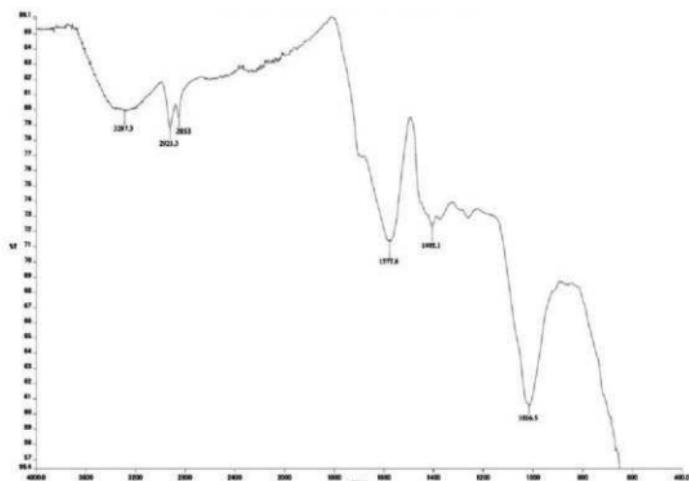


図118 漆塗膜のスペクトル図（1）

3 : No. 2



4 : No. 3 内面

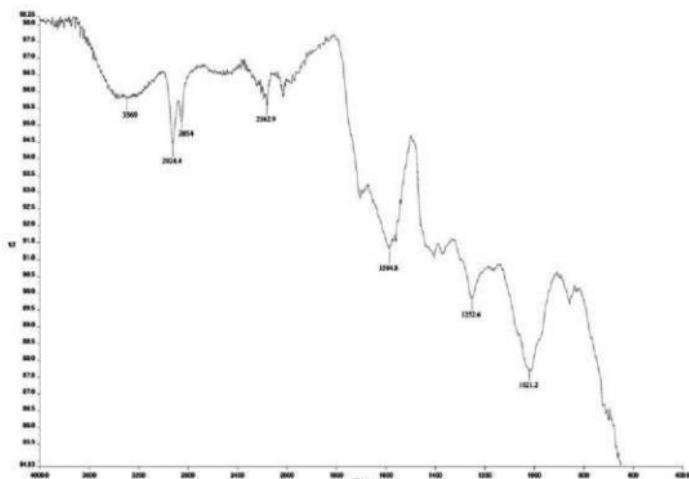


図119 漆塗膜のスペクトル図（2）

5 : No. 3外面

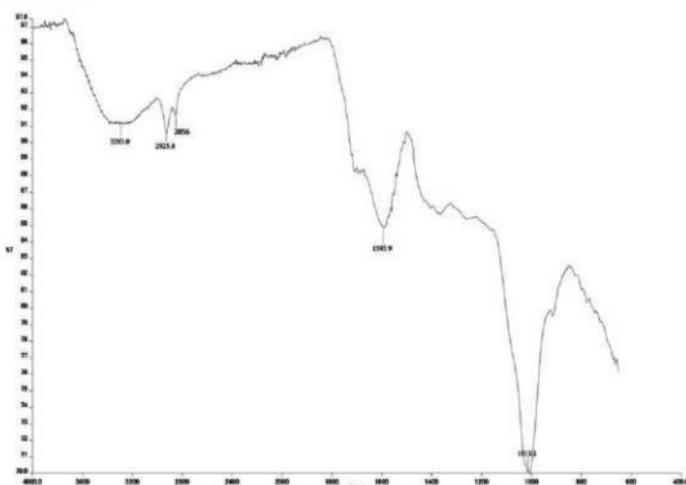
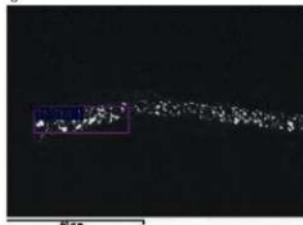


図 120 漆塗膜のスペクトル図（3）

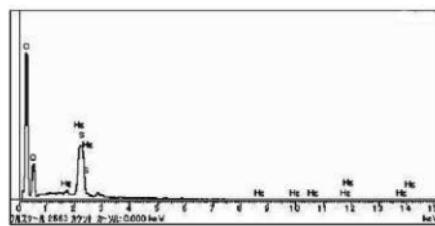
1



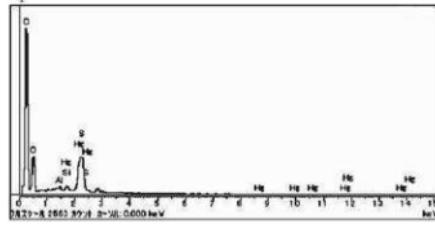
3



2



4



1 : No. 1 内面の計測箇所

2 : No. 1 内面のスペクトル

3 : No. 1 外面の計測箇所

4 : No. 1 外面のスペクトル

図 121 漆塗膜の電子顕微鏡画像と EDX 分析のスペクトル図（1）

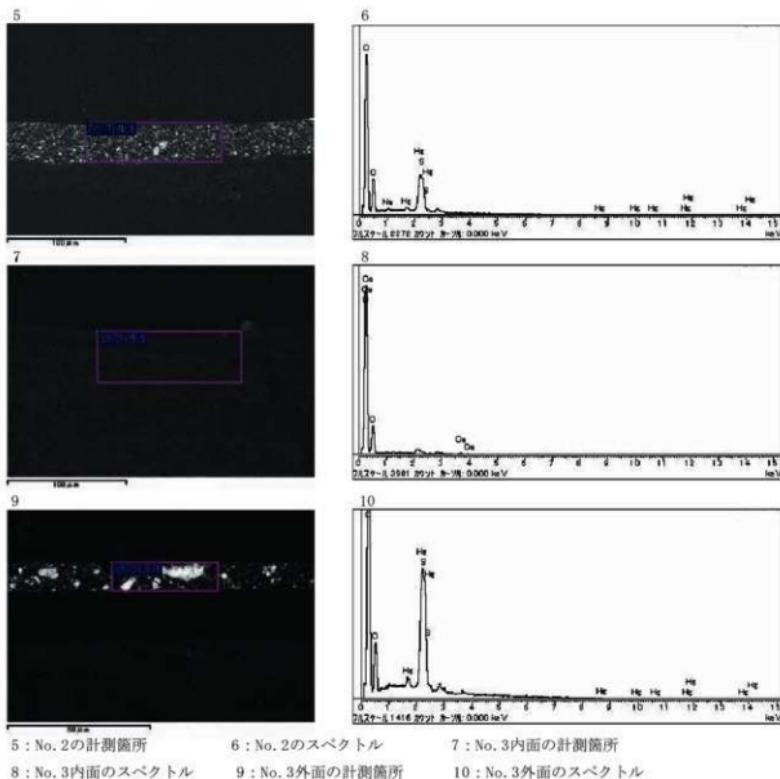


図 122 漆塗膜の電子顕微鏡画像と EDX 分析のスペクトル図 (2)

表 46 成分分析結果 (単位: wt%)

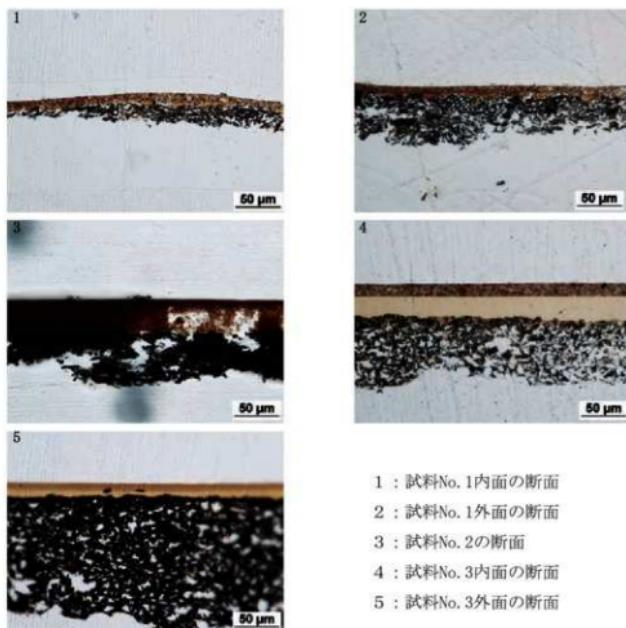
元素	No. 1内	No. 1外	No. 2	No. 3内	No. 3外
C	49.44	55.8	54.95	71.31	47.11
O	13.87	16.25	15.78	27.19	10.63
Na	-	-	0.36	-	-
Mg	-	-	-	-	-
Al	-	0.47	-	-	-
Si	-	0.52	-	-	-
S	4.43	3.5	3.3	-	4.82
Cl	-	-	-	-	-
K	-	-	-	-	-
Ca	-	-	-	1.51	-
Fe	-	-	-	-	-
Hg	32.25	23.46	25.62	-	37.43

表47 漆器の断面観察結果表

No.	器種	部位	写真 No.	塗膜構造(下層から)		
				下地	漆層構造	顔料
1	漆器	内面	1	柿渋	木炭粉	赤色漆1層
		外面	2	柿渋	木炭粉	赤色漆1層
2	漆膜	—	3	柿渋	木炭粉	赤色漆1層
3	椀	内面	4	柿渋	木炭粉	透明漆1層
		外面	5	柿渋	木炭粉	透明漆1層／赤色漆1層

5 総括

政田仙道上遺跡から出土した漆製品3点について、FT-IR分析、EPMA分析、塗膜構造調査を行った。No.1とNo.2は明確な木胎は遺存していない。3点とも下地は、柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地であった。下地の上に透明漆が1層と、その上に加飾による赤色漆1層の塗り重ねが認められるNo.3以外は、漆層は1層であった。また、赤色漆にはすべて顔料として朱が混和されていた。



1：試料No.1内面の断面
2：試料No.1外面の断面
3：試料No.2の断面
4：試料No.3内面の断面
5：試料No.3外面の断面

写真5 漆塗膜断面の顕微鏡写真

第5章 総括

第1節 遺物について

1 時期別の遺物量の変化について

本遺跡の出土遺物は大半が中世に属するため、ここでは中世遺物の時期別の遺物量の変化から、遺跡の消長について述べる。中世遺物のうち、山茶碗類、片口鉢、古瀬戸・大窯陶器、常滑産陶器、中国産陶磁器、土師器皿について、時期分類可能な個体を対象にして接合後破片数を計測した¹⁾。細別時期を特定できない遺物については、破片数を想定される時期の合計数で按分した数量で集計した。

まず山茶碗類について述べる。集計結果は表49と図123のとおりである。尾張型は第3型式から第10型式にかけて出土し、第5・6型式以外は少量である。東濃型は丸石3号窯式から生田2号窯式にかけて出土する。大畠大洞4号窯式から増加し、大洞東1号窯式でピークに達し、脇之島3号窯式から減少に転じる。尾張型山茶碗は、第6型式になると東濃型山茶碗に凌駕され、第7・8型式以降はほとんど認められないという傾向は、美濃の消費地における山茶碗の出土傾向と一致する²⁾。

次に古瀬戸・大窯陶器について述べる。集計結果は表50・51と図123のとおりである。古瀬戸・大窯は、古瀬戸戸前Ⅰ期から大窯第4段階後半にかけて認められるが、古瀬戸中Ⅳ期から増え始め、後Ⅳ期古段階から大きく増加し新段階でピークを迎え、大窯1段階から急激に減少する。また、用途別の破片数についても、段階毎に述べる（表52）³⁾。古瀬戸前期では供膳具1点、古瀬戸中期では供膳具4点、貯蔵具8点が認められる。美濃の多くの遺跡と同じように⁴⁾、壺・瓶類以外の器種は数点程度である。古瀬戸後期では、喫茶具22点、供膳具44点、調理具77.5点、神仏具7点が認められ、器種及び数量も豊富である。調理具や供膳具が中心だが、天目茶碗や装飾が施された桶なども出土している。大窯では、喫茶具8点、供膳具11点、調理具28点、神仏具1点が認められた。出土点数は大窯第1段階から第2段階にかけて著しく減少する。

常滑産陶器は、7・9・10型式の甕と、9又は10型式の片口鉢が出土した（表53）。

中国産陶磁器は少量だが、中世前期から後期にかけての各種型式が出土した。破片数は青磁が白磁を上回る（表54）。

当遺跡の土師器皿の分類別破片数を表55に示した。当遺跡ではC1類が最も多く、C2類、B1類、M4類と続き、B2-a類とB2-b類はごく少量である。本巣市域の中世後期土師器皿の様相については、資料の制約もあって明らかではないが、岐阜市域の土師器皿の各種の出現・ピークの時期は、B1類は美濃中世後期Ⅰ・Ⅱ期、B2-a類は同Ⅱ・Ⅲ期、B2-b類は同Ⅲ期、C1類・M4類は同Ⅰ期、C2類はⅡ・Ⅲ期で、同Ⅰ期では古瀬戸戸後Ⅲ～Ⅳ期古段階、同Ⅱ期では古瀬戸戸後Ⅳ期古及び新段階、同Ⅲ期では古瀬戸戸後Ⅳ期新段階から大窯第1段階の製品がそれぞれ共伴するという⁵⁾。このことから、当遺跡では古瀬戸戸後Ⅲ期から大窯第1段階にかけての時期に、土師器皿が大量に消費されたと考えられる。

当遺跡では尾張型山茶碗第5・6型式段階の遺構が存在せず、遺構が確認できる時期は大畠大洞4号窯式からである。その後、遺物量は増加し、15世紀後半にピークを迎えるが、大窯期に激減する。

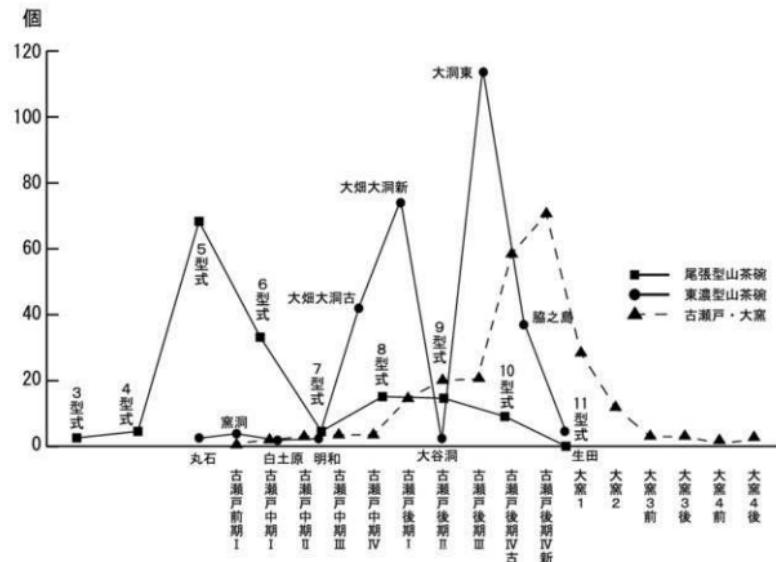


図 123 時期別個体数

表 48 編年対応表

西暦	時代呼称	土器様式・型式			
1000	平安時代	尾張型山茶碗	美濃須須窓	東濃型山茶碗	常滑窓
1100		白土系陶器 第3型式	唯窓	西坂 I	1.5型式
1200	鎌倉時代	第4型式	唯窓	矢戸上野 2	1.6型式
1300	(南北朝時代)	第5型式	区窓	谷造 2	2型式
1400		第6型式	区窓	白土原 1	3型式
1500	室町時代	第7型式	区窓	豊根 1	4型式
1600	安土・桃山時代	第8型式	区窓	明和 1	5型式
1700	江戸時代	第9型式	区窓	大谷洞 4	6型式
		第10型式	区窓	大谷洞 14	7型式
		第11型式	区窓	大原東 1	8型式
				脇之島 3 生田 2	9型式
					10型式
					11型式
					12型式
					古窓戸 大窓
					前1段階 前2段階 前3段階 前4段階 後1段階 後2段階 後3段階 後4段階
					第1段階 第2段階 第3段階 第4段階

表49 山茶碗の時期別破片数

地點名	器種	尾張型										東濃型							合計			
		3型式	4型式	5型式	6型式	7型式	8型式	9型式	10型式	小計	丸石3	窯洞1	白土原1	明和1	大烟大洞4古	大烟大洞4新	大谷洞14	大洞東1	脇之島3	生田2		
A	碗			9	7	1	2	2				2	1	3	6		7	4				
							1		5			27			3			1			30	
																		3				
	小碗			1								1									0	
	小皿				1	1						2						3			3	
	片口鉢						1		1	2											0	
	碗	2	3	48	20	3		1	6			1		2	20	49		100	29	5		
		1		1		1			1			103	2		17						235	
							16						1					5				
	B	小碗										0		2							2	
		小皿			9	3						12			2			3			369	
		片口鉢					1		1			3			9						14	
確定		2	4	67	31	4	4	3	8		1	2	1	2	25	57	0	110	33	5		
				1.0		2.0		1.0				2.0										
按分	0.5	0.5	1.0	1.0	0.5	10.5	11.5	1.0			150	1.0	1.5	0.5	0.0	17.4	17.4	1.4	4.4	4.4	0.0	284
																32.0			6.0		434	
總計		2.5	4.5	68.0	32.0	4.5	14.5	14.5	9.0			2.0	3.5	1.5	2.0	42.4	74.4	1.4	114.4	37.4	5.0	

※細別時期が確定した破片数を「確定」欄に記載した。細別時期を特定できない破片数を、想定される時期の合計数で按分した数量（小数第2位を四捨五入）を「按分」欄に記載した。「総計」欄には、細別時期が確定した破片数と按分した破片数を足した数量を記載した。古瀬戸・大窯・常滑陶器・土師器皿についても、同様の方法で計測を行った。

表50 古瀬戸・太窯の器種別破片数（1）

器種	用途	古漬戸前期				古漬戸中期				古漬戸後期				大室				合計	
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV古	IV新	1	2	3前	3後	4前
平瓶	供膳具									1		2		1					10
										1									
										1									
瓶	天目茶碗									3		2		8	5				40
										1				1					
										1									
折縁小皿	供膳具									5									3
										1		2							
										1				4					
縁無小皿	供膳具									1		1		3	1				12
										1		2							
										3									
丸皿	供膳具													1					2
丸皿か 縁反皿	供膳具													4					4
鉢	調理具									1		1			2				5
										1									

表51 古瀬戸・大窯の器種別破片数（2）

器種	用途	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大瀬戸				合計				
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV古	IV新	1	2	3前	3後	4前	4後		
椎	供膳具									5				1						14		
													2									
													6									
折線深皿	供膳具					1	1	1	2	1				1							8	
直線大皿	供膳具												1								1	
鉢	供膳具												1								1	
鉢付大皿	調理具												3	2							5	
													1	11	16	7	8			1		
														22						3		
														1								
椎鉢	調理具												2								91	
														9								
															9							
																1						
瓶	貯藏具										3		2								6	
瓶子	貯藏具											1									1	
招母焼茶道	貯藏具											3									3	
口広有耳壺	貯藏具											4									5	
瓶	四耳壺	貯藏具											1								5	
・	小壺・小瓶	貯藏具											1	3							3	
															1	1						
														1								
	瓶ふく	貯藏具											2								11	
	花瓶	神仏具									6		3									
	水注	供膳具										1									1	
	甕	貯藏具												1							1	
															1							
持形香炉	神仏具														1						1	
内瓦鍋	調理具													1							2	
釜	土瓶	調理具												1							1	
の	場合	神仏具												1	1						2	
の	釜・土瓶蓋	調理具													1						1	
の	仏	神仏具												1							2	
の	仏壇具	神仏具													1						2	
の	梵形容器	神仏具													1						1	
の	桶	その他の													1						1	
不	不明	不明												3	1						5	
不	明	確定	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	4.0	9.0	7.0	25.0	33.0	18.0	9.0	0.0	0.0	0.0	1.0	110.0	
不	明	複分	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	2.6	2.6	10.7	11.2	13.5	33.5	35.5	10.3	2.8	3.1	3.1	1.1	135.3
不	明	絶分	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1	3.1	3.6	3.6	14.7	20.2	29.5	58.5	68.5	28.3	11.8	3.1	3.1	1.1	2.1	245.3

表52 古瀬戸・大窯の用途別破片数

用途	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大窯				合計		
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV古	I	II	III	IV前			
偶鉄器	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.5	1.5	6.9	10.4	8.6	10.6	7.6	7.0	3.0	0.5	0.5	0.0	60.1
茶葉具	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	4.5	1.5	4.5	10.0	5.0	0.0	1.5	1.5	0.0	30.0
調理用具	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	1.5	33.5	39.5	14.7	8.2	0.9	0.9	1.9	104.8
鉢類	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	4.5	7.5	7.5	1.2	0.2	0.2	0.2	35.7	
神仏具	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	1.5	0.8	1.1	2.1	1.6	0.5	0.5	0.0	0.0	8.8	
その他の	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
不明	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.3	1.3	0.0	0.0	0.0	4.9	

表53 常滑産陶器の破片数

地 点 名	器 種	口縁部												底部・体部の 破片数
		3型式	4型式	5型式	6型式	7型式	8型式	9型式	10型式	11型式	12型式	不明	合計	
A 地 点	甕													75
	片口鉢							1					1	1
B 地 点	甕				1		1	1						3
	片口鉢						6						6	277
確定					1		1	1						10
按分							3.5	3.5						
総計					1		4.5	4.5					10	357

表54 中国産陶磁器の器種別破片数

種別	青磁							白磁				染付 皿	合 計		
	碗(龍泉窯系)							皿							
	型式	A 類	B 類	C 類	D 1 類	D 2 類	不 明	A 群	D 群	E 群	B 群				
A地点					1		1						2		
B地点	1	1	1	1	2	10	1	1	1	2	1	22			
合計	1	1	1	2	2	11	1	1	1	2	1	24			
				19					5						

表55 土師器皿の分類別破片数

地點名	M類				B類			C類		合計	
	1	2	3	4	1	2-a	2-b	1	2		
A 地点				1			1			13	
B 地点				5	22	54	15	5	228	73	402
			12			1			8	21	
確定			6	22	55	15	5	236	76	415	
按分	3.0	3.0	3.0	3.0	0.3	0.3	0.3	4.0	4.0	21	
総計	3.0	3.0	9.0	25.0	55.3	15.3	5.3	240.0	80.0	436	

近世以降の遺物は中世遺物に比べて少なく、遺構出土のものに限れば数点のみであり、本遺跡に見られる中世集落は、15世紀末から16世紀初頭にかけて衰退し、廃絶した可能性がある。岐阜県内では古瀬戸後IV期新段階から大窯第1段階にかけての時期に廃絶する遺跡は多く、「集落の廃絶が短期間で一時に起った可能性」が指摘されており⁶⁾、当遺跡も同様の傾向を示すと考えられる。

2 土師器皿について

出土遺物のうち最も多いものは土師器皿で、出土遺物全体の60.3%を占める。土師器皿は「清浄の象徴として伝統的な儀式や、宴会の膳等のハレの場で使われ」、「土師器皿の階層による使用の違いは、階層性の重要な指標である」とされる⁷⁾。福井県一乗谷における出土遺物全体に占める土師器皿の比率は、朝倉館が95%以上、武家屋敷が50%前後で、岐阜県内では、中世後期の岐阜市域では遺跡ごとの中世後期遺物に占める土師器皿の比率は、多くの場合90~95%以上を占めるという⁸⁾。また、御嵩町上恵土城跡と、隣接する浦畠遺跡では、出土遺物全体に占める土師器皿の比率はそれぞれ31%、

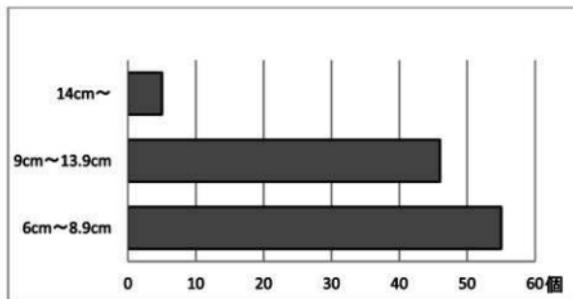


図124 土師器皿の口径分布

17.5%となっており、城館跡の方が高い比率を示す⁹⁾。こうした傾向があることから、土師器皿の比率が高い当遺跡は、ハレの場を意識できた階層の人々の居住空間であった可能性がある。

また、土師器皿の法量は使用階層を示すことが指摘されているため、土師器皿の出土比率に加えて、土師器皿の法量の比率にも注目したい。岐阜市域では中世後期の発掘成果について、土師器皿の法量分類について、各土師器皿を①小形品（径8.9cm以下）、②中形品（径9~13.9cm）、③大形品（径14cm以上）に区分し、この法量区分に従って遺跡・遺構ごとの各法量区分の占める比率を算出し、その傾向をA～C群に分類している。岐阜市域では、A群は法量③が40～50%を占めるもので守護・守護交代に関係する場、B群は法量③が10%以下で法量②が半分を占めるものでその周辺の屋敷群、C群は法量①がほとんどを占めるものでそれ以外の中世集落に、それぞれ対比できるという¹⁰⁾。これに基づき当遺跡でも分類を行った。ここでは分類可能な個体のうち、口径の計測が可能な個体の点数を用いた。法量①が51.9%、②が43.4%、③が4.7%となり、これは岐阜市域の分類でいうB群に近い様子を呈する（図124）。

3 中世遺物の分布状況について

今回の調査では、異なる遺構間で出土遺物が接合するものはなかった。また、遺構出土遺物と遺物包含層や表土からの出土遺物とで、接合関係をもつものも存在しなかった。このことを踏まえて、遺物の分布状況を把握するため、遺構からの出土遺物について各器種のグリッド毎の出土点数を図示した（図125～128）。

土師器皿

A地点では南西端部に集中する。B地点ではほぼ全域から出土するが、西側屋敷地内で密に分布する。

鍋・羽釜

A地点ではSE 1周辺で多く見られる。B地点では区画溝周辺と西側屋敷地に分布するが、東側屋敷地では出土していない。

山茶碗類

尾張型と東濃型の分布状況に特徴的な差異は確認できなかったため、山茶碗類全体の分布状況を図

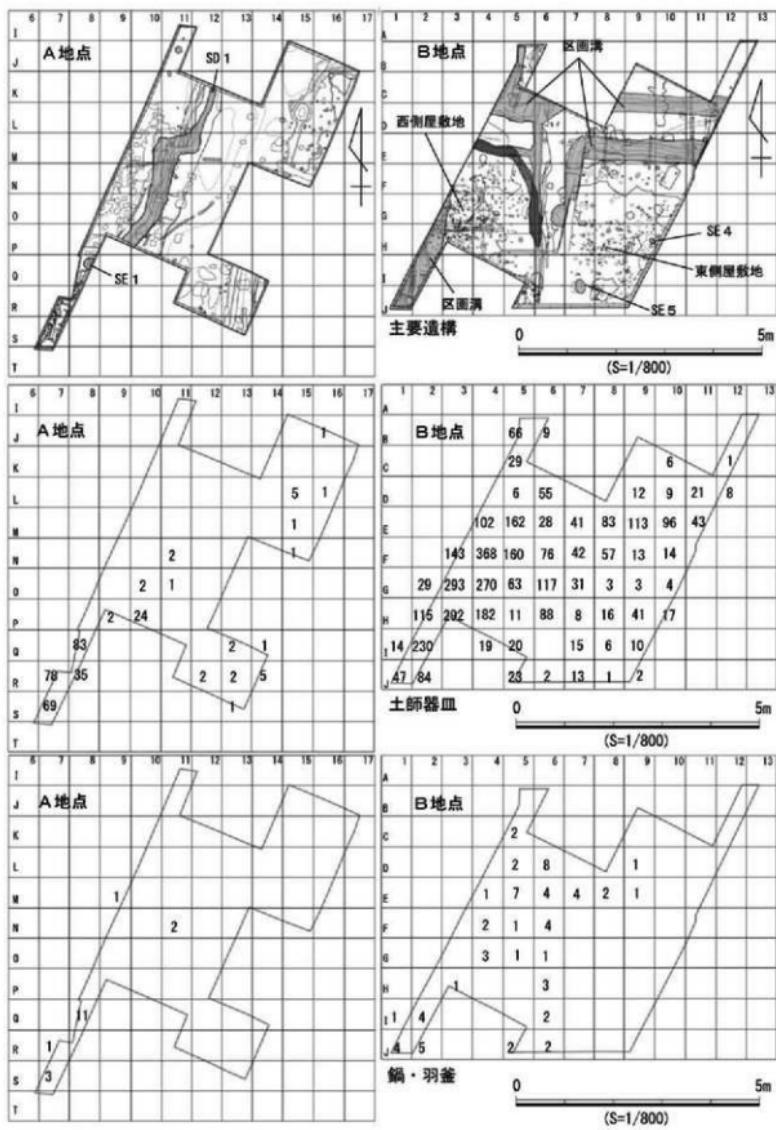


図125 遺物出土分布図（1）

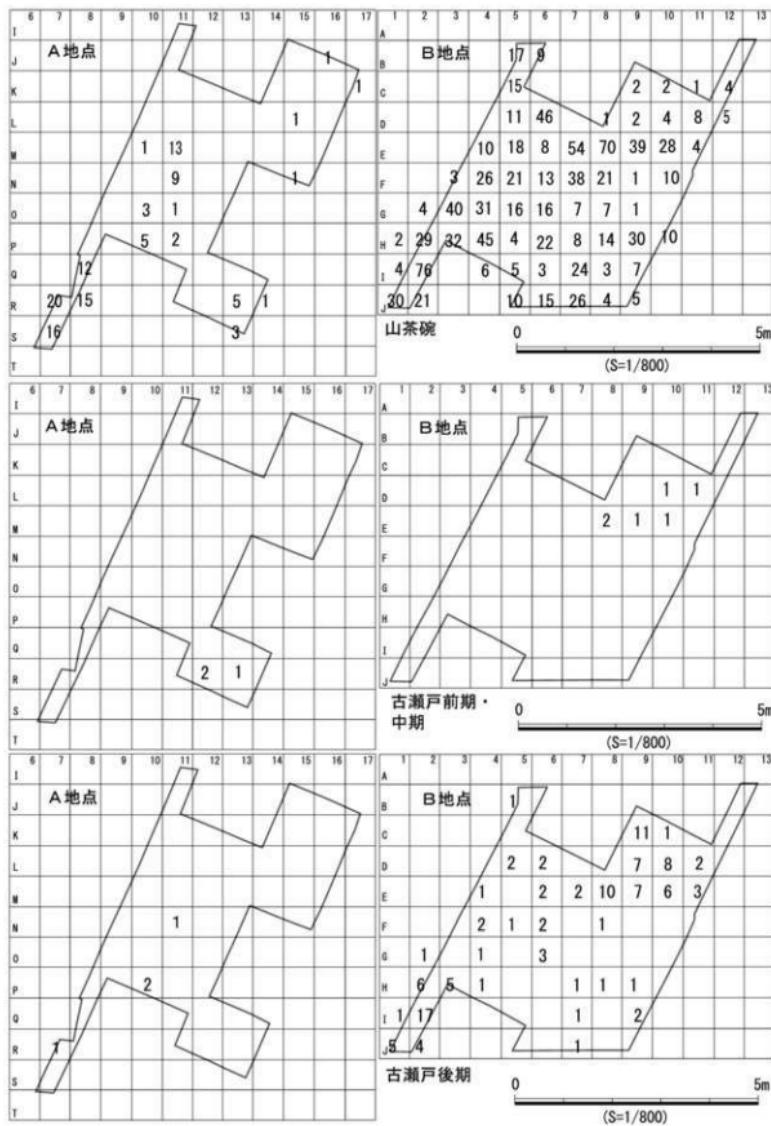


図126 遺物出土分布図（2）

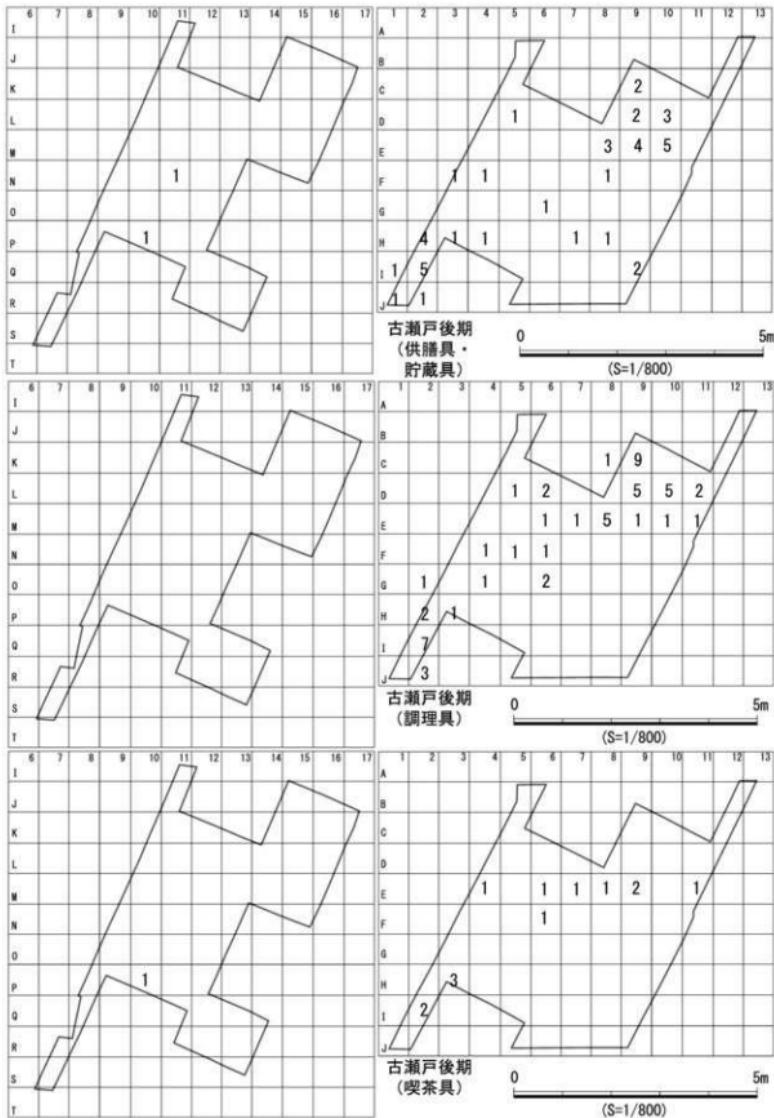


図127 遺物出土分布図（3）

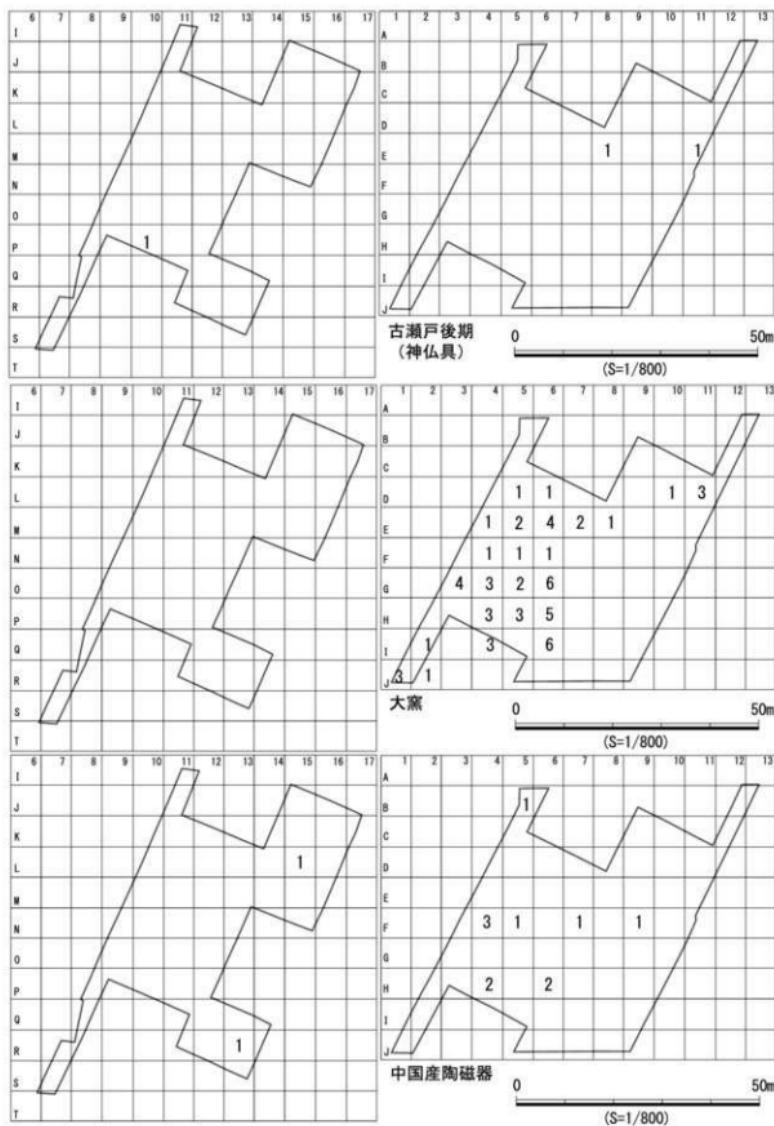


図128 遺物出土分布図 (4)

示した。A地点ではSD1周辺と南西端部に多く分布する。B地点では全域に分布するが、南西端部の区画溝周辺で特に多く、西側屋敷地内では建物周辺、東側屋敷地内ではSE4・5周辺に多い。

古瀬戸・大窯

瀬戸美濃産陶器の多数が古瀬戸後期に属するため、古瀬戸前・中期、古瀬戸後期、大窯に区分し、古瀬戸後期は用途別の分布も示した。古瀬戸前・中期は、A地点の南東部とB地点の北東部に分布する。古瀬戸後期は、A地点では少量が出土するのみである。B地点では区画溝周辺に集中し、東西の屋敷地間では大きな分布の差異は認められない。用途別に見ると、供膳具・貯蔵具は東西の屋敷地とともに分布するが、調理具は東側屋敷地からは出土していない。また、喫茶具は西側屋敷地では建物周辺から出土し、東側屋敷地では1点のみである。神仏具はSD21から出土した2点のみである。大窯はA地点では出土していない。B地点では区画溝周辺と西側屋敷地で確認できるが、東側屋敷地では出土していない。このことから、東西の屋敷地の衰退時期が異なり、東側屋敷地の衰退後も区画溝と西側屋敷地は機能していた可能性がある。

中国産陶磁器

B地点では、区画溝周辺と西側屋敷地に分布し、東側屋敷地からは出土していない。

以上を整理すると、A地点は遺構と遺物が全体的に少ないが、SE1以南では土師器皿、山茶碗類、鍋・羽釜がB地点の北西端部と同程度出土している。また、東側屋敷地は圃場整備時に遺構上部が削平を受けているため単純な比較はできないが、B地点の東西の屋敷地間では、土師器皿、鍋・羽釜、古瀬戸の調理具、大窯の出土状況が異なる。

第2節 遺構について

1 井戸について

当遺跡では5基の井戸を検出した。このうちSE1とSE5は縦板組隅柱横桟どめ式の木組井戸で、井戸枠の大半が残存する。両遺構とも井戸枠にコウヤマキが用いられる。岐阜・愛知・三重・静岡県（大井川以西）では井戸枠に用いられる樹種はヒノキ科・スギ・マツ属で80%を占め、コウヤマキを用いた井戸は1%に満たない¹¹⁾ため、SE1・5は樹種選択において特殊性をもつと言える。そこで、岐阜県内の他遺跡の井戸との比較を行った。岐阜県内の36遺跡、131基の井戸について集成を行い、木製の井戸枠を確認した25基のうち、板組の井戸枠をもつ6基を比較対象とした。表56は各井戸の概要をまとめたものである¹²⁾。井戸枠の構造については、宇野隆夫氏の分類¹³⁾を参照した。隅柱の有無は不明だが、立板組横桟どめの井戸は古墳中期（大垣市荒尾南遺跡）から確認でき、板組の井戸は近世まで継続して存在する。当遺跡と同時代の井戸は、大垣市曾根城跡のもののみである。樹種は6基全てが不明のため、比較はできなかった。構造は、美濃国分寺跡の井戸は掘方をもたないが、縦板組隅柱横桟どめ式の3基はいずれも隅柱の枘穴に横桟を固定しており、井戸枠の構造は当遺跡のものと同様と考えられる。当遺跡のSE5に見られる井戸枠の側板に方形の穴を開ける加工は、他の遺跡の井戸では確認できなかった。

表56 岐阜県内遺跡板組井戸

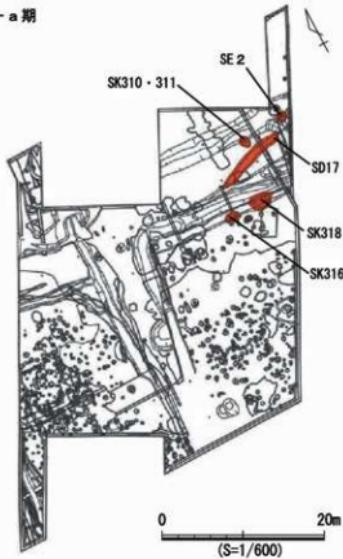
No.	遺跡名	遺構名	構造				規模・形状			時期	主な井戸枠部材の樹種
			地上施設	井戸枠	集水施設	浄水設備	掘方	井戸枠	深さ		
1	政田仙道上遺跡 (本巣市)	SE1	不明	縦板組隅柱横桟どめ	曲物	なし	径1.21～1.87mの 楕円形	1辺約0.7mの方形	1.22m	中世後期	コウヤマキ、サワラ
2	政田仙道上遺跡 (本巣市)	SE5	不明	縦板組隅柱横桟どめ	なし	なし	径1.5～2.21mの 楕円形	0.65×0.57mの方形	0.72m	中世後期	コウヤマキ、サワラ、ヒノキ
3	宮塚遺跡 (各務原市)	SK-1	不明	縦板組隅柱横桟どめ	不明	不明	径2.5～3mの楕円形	1辺1.2mの方形	2m以上	中世前期	不明
4	曾根城跡 (大垣市)	SE01	不明	縦板組隅柱横桟どめ	曲物(4個体積上げ)	碌敷	2×2.15mの方形	1辺約1.4mの方形	1.1m	中世後期	不明
5	美濃国分寺跡 (大垣市)	SE01	不明	縦板組隅柱横桟どめ	なし	なし	なし	1辺1.2mの方形	2.4m	古代(10～11世紀)	不明
6	荒尾南遺跡 (大垣市)	SE012	不明	縦板組横桟どめ(隅柱不明)	なし	なし	径1.64～1.95mの 楕円形	1辺約0.8mの方形	0.8m以上	古墳中期以降	不明
7	永保寺廬裡跡 (多治見市)	井戸03	不明	板組か	不明	不明	径2.4～2.9mの楕円形	-	1.7m以上	近世	不明
8	柿田遺跡 (可児市)	SE2	不明	横板井籠組	曲物	碌敷	1.6×2mの楕丸方 形	1辺約0.7mの方形	1.2m	中世前期	不明

2 遺構の変遷について

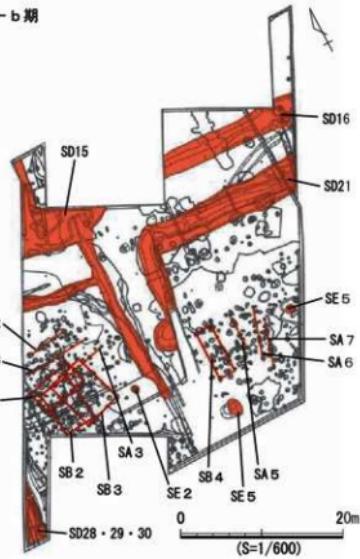
ここでは、B地点の主要遺構の変遷について述べる(図129)。A地点は14世紀から15世紀にかけての遺構が主体であるが、B地点の区画溝や屋敷地との関係は不明である。

(1) I期 古墳時代～古代

III-a期



III-b期



IV期



V期



図129 造構変遷図

古代以前の遺構は検出していないが、7世紀から9世紀初頭にかけての須恵器や、黒窓90号窓式から百代寺窓式併行までの灰釉陶器が少量出土する。当遺跡内には東山道推定ルートが存在するが、当該期に発掘区周辺で人々が活動していたことが想定できる。

(2) II期 中世前期

明確なこの時期の遺構は存在しないが、当該時期の遺物が一定量出土することから、この時期に発掘区周辺で人々が活動していたことが想定できる。

(3) III-a期 中世後期①(区画溝成立前)

区画溝が造られる以前の遺構と判断できるものは限られる。建物の有無は不明だが、区画溝より古い井戸(SE2)や土坑(SK318他)が存在し、区画溝成立以前に人が生活していたことが想定される。SK318から大洞東1号窓式の山茶碗、SE2の井戸枠内から大烟大洞4号窓式の山茶碗が出土した。

(4) III-b期 中世後期②(区画溝成立後)

SD15・16・21は、主軸方位が揃い、溝に挟まれた区域が空閑地になっていることから、同時期に存在した区画溝と考えられる。また、区画溝と重複する遺構は少なく、溝周辺にはほとんど遺構が存在しないことから、遺構の大半は溝の成立に伴って成立したと考えられる。区画溝に仕切られた西側の区画は、SD15を東側、SD28・29・30を西側の境界とする1辺約20mの屋敷地である。東側の区画は東端と南端の境界が不明である。西側の区画では3軒の掘立柱建物、3基の柵、1基の井戸を検出した。東側の区画では1軒の掘立柱建物、3基の柵、2基の井戸を検出した。建物と柵は、その主軸方位から区画溝成立後に建てられたと考えられる。西側の区画の3軒の建物は重複しており、少なくとも2度の作り替えを経ている。

(5) IV期 中世後期～近世初頭(区画溝埋没後)

屋敷地を伴う区画溝埋没後にSD19・23が掘られる。区画溝は出土遺物から、ほぼ同時期に埋没したと考えられる。区画溝の出土遺物の最新型式は大窓第4段階である。SB1・2と比べて、SB3の主軸方位はSD19と近いため、SB3はこの時期に造られた可能性がある。

(6) V期 近世以降

近世以降と明確に判断できる遺構はSD24～27とSK258がある。SD24～27はそれぞれ重複しており、明治時代の地籍図ではSD24～27の辺りに南北方向の水路が確認でき、中世以降、溝が踏襲されていると考えられる。遺構から出土した近世陶器は数点のみであり、包含層や表土からの近世以降の出土遺物は少なく、近世以降は集落として利用されなかつたことが推察できる。

3 発掘区周辺の字絵図について

近代における遺跡周辺の土地利用を知る史料として、明治21年作成の本巣市政田地内の字絵図がある。図130は発掘区周辺の字絵図をトレースし、遺跡範囲・発掘区・過去の調査位置等を重ねて作成した。また、図131は発掘区付近を拡大したものである。

発掘区内で確認した溝の中には、字絵図に描かれた区画と重なるものがあり、中世後期に造られた区画が近代まで踏襲されていた箇所があることが分かる(図131)。SD3・21は東西方向の区画と、SD19・27は南北方向の区画と、それぞれ対応する部分が確認できる。SD15とSD16は発掘区外でつながる可能性があり、東西・南北方向両方の区画と対応する。また、SD7とSD10は、主軸方位が字絵図の区画と若干異なるが、関連性が指摘できる。SD27周辺では南北方向の溝を7条確認しており、同じ位置に継

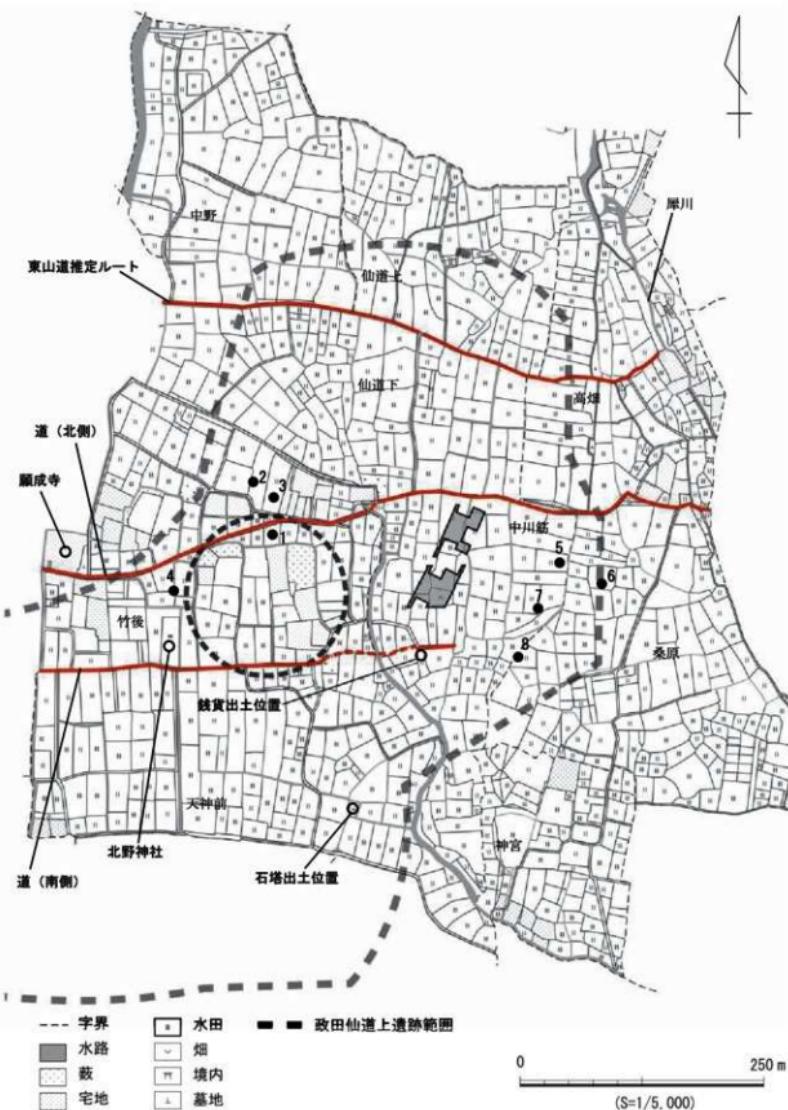


図 130 発掘区周辺の字絵図



図 131 字絵図の区画と溝の位置

続して溝が造り替えられてきたことが分かる。

発掘区西端から約 100m の位置に、水路に囲まれ、藪を有する箇所が確認できる（図 130 の破線円範囲）。詳細な範囲は不明だが、東西約 120m の方形区画の存在が想定される。区画の西側には、鎌倉時代創建の伝承をもつ北野神社が隣接し¹⁴⁾、北側と南側にそれぞれ東西方向の道が通る。領主などの居館があった可能性がある。本巣市教育委員会が発掘区周辺で実施した発掘調査の位置¹⁵⁾を図 130 中に●で示した。1 の位置の調査では、尾張型第 5 型式又は 6 型式の山茶碗が出土する遺構が確認されているが、発掘区の区画との関連は不明である。また、2 ~ 8 の位置で行われた調査では、遺構・遺物ともに確認されていない。発掘区南端から南へ約 50m の位置で、中世渡来銭を含む多量の銭貨が出土しているが、埋蔵時期は不明である¹⁶⁾。また、現在は願成寺にある応仁 2 (1467) 年の銘をもつ石塔は、昭和 50 年までは竹後の墓地にあったが、墓地廃止に伴い移動している¹⁷⁾。現時点では、これらのこと象と当発掘区の調査成果との関係は不明だが、今後の発掘区周辺の調査の進展に期待したい。

注

1) 山茶碗類は底部が残存している個体、土器盤皿は口縁部から底部までが残存し調整が観察可能な個体、中国産陶磁器と常滑産陶器、は全点を対象とした。古瀬戸・大窯陶器は、口縁部が残存する個体を中心に、分類に必要な部位が残存する個体を対象とした。鍋・羽釜は分類が不可能だったため、計測を行わなかった。

- 2) 小野木学2004「美濃の山茶碗・土師器皿と中国陶磁の共伴事例ー」『第23回 中世土器研究会 中世須恵器と山茶碗－編年と層年代の再検討－』
- 3) 用途は『財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター研究紀要』第17輯（財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター2011）の分類を参考にした。
- 4) 財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター2011によると、美濃地区では、古瀬戸前期から中Ⅱ期にかけての壺・瓶類以外の器種が報告された事例は、戸入村平遺跡（揖斐川町）、加納城跡・岐阜千疊敷遺跡・城之内遺跡（岐阜市）、野並遺跡（美濃加茂市）、喜田町東遺跡・野中遺跡・平田遺跡（多治見市）、大井城跡（恵那市）が挙げられるが、いずれも数点程度にとどまる。他に、芥見町屋遺跡（岐阜市）も挙げられるが、壺・瓶類以外の器種が古瀬戸前期から後期までほぼ連続して出土する（岐阜県文化財保護センター2012『芥見町屋遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 第124集））。
- 5) 井川祥子2006「美濃中世後期は時期別の分類と編年」『守護所と戦国城下町』、高志書院
- 6) 小野木学2004「美濃の中世集落再考」『守護所・戦国城下町を考える』第1分冊 シンポジウム資料集（第12回東海考古学フォーラム岐阜大会）、守護所シンポジウム@岐阜研究会世話人
- 7) 小野正敏1991「城館出土の陶磁器が表現するもの」『中世の城と考古学』、新人物往来社
- 8) 注4参照
- 9) 財団法人岐阜県教育文科財団2006『上恵土城跡・浦畠遺跡』（岐阜県教育文科財団文化財保護センター調査報告書 第101集）
- 10) 注4参照
- 11) 伊東隆夫・山田昌久2012『木の考古学』、海青社
- 12) 各遺構についての概要是、下記の報告書を参照した。
- 各務原市埋蔵文化財調査センター1994『宮塚A地区発掘調査報告書』（各務原市文化財調査報告書第15号）
- 岐阜県大垣市教育委員会2000『曾根城跡－第4次発掘調査－』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第9集）
- 岐阜県大垣市教育委員会2005『美濃国分寺跡－国分寺遺跡（伽藍南面隣接地の調査）－』（大垣市埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集）
- 岐阜県文化財保護センター2015『荒尾南遺跡B地区II』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 第131集）
- 財団法人岐阜県教育文科財団2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文科財団文化財保護センター調査報告書 第92集）
- 岐阜県多治見市教育委員会2007『永保寺庫裡跡発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第82号）
- 13) 宇野隆夫1982「井戸考」『史林』第65巻第5号
- 14) 真正町1975『真正町史 通史編』
- 15) 1の位置の調査成果は現時点では未報告のため、本巣市教育委員会から直接ご教示いただいた。2～8の位置の調査成果については、『本巣市市内遺跡発掘調査報告書平成22年度～26年度』（本巣市教育委員会2016）を参照した。
- 16) 平成27年度にセンター職員が、錢貨の一部を所有する方への聞き取り調査と錢貨計測を行った。昭和13・14年頃の土地改良の際に、土地所有者が発見した。錢貨の内容は、中世渡来銭34枚と近世銭6枚の他に、近代以降の日本銭8枚の計48枚である。他の錢貨が混入した可能性がある。
- 17) 注14参照

〈引用・参考文献〉

- 井川祥子2006「美濃中世後期土器器皿の分類と編年」『守護所と城下町』、高志書院
- 伊東隆夫・山田昌久2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』、海青社
- 宇野隆夫1982「井戸考」『史林』第65巻第5号
- 宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館
- 大野町教育委員会2009『大野町遺跡詳細分布調査報告書 資料（考古）編』
- 小野正敏1991「城館出土の陶磁器が表現するもの」『中世の城と考古学』、新人物往来社
- 小野木学2004「美濃の中世集落再考」『守護所・戦国城下町を考える』第1分冊 シンポジウム資料集（第12回東海考古学フォーラム岐阜大会）、守護所シンポジウム@岐阜研究会世話人
- 小野木学2004「美濃の山茶碗—土器器皿と中国陶磁の共伴事例一」『第23回 中世土器研究会 中世須恵器と山茶碗—編年と層年代の再検討—』
- 各務原市埋蔵文化財調査センター1994『宮塚A地区発掘調査報告書』（各務原市文化財調査報告書第15号）
- 鐘方正樹2003『ものが語る歴史シリーズ⑧ 井戸の考古学』、同成社
- 岐阜県大垣市教育委員会2000『曾根城跡－第4次発掘調査－』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第9集）
- 岐阜県大垣市教育委員会2005『美濃国分寺跡—国分寺遺跡（伽藍南面隣接地の調査）一』（大垣市埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集）
- 岐阜県教育委員会2002『岐阜県中世城館跡総合調査報告書 第1集（西濃地区・本巣郡）』
- 岐阜県教育委員会2007『改訂版 岐阜県遺跡地図』
- 岐阜県多治見市教育委員会2007『永保寺庫裡跡発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第82号）
- 岐阜県文化財保護センター2012『芥見町屋遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 第124集）
- 岐阜県文化財保護センター2015『荒尾南遺跡B地区II』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 第131集）
- 財団法人岐阜県教育文科財団2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文科財団文化財保護センター調査報告書 第92集）
- 財団法人岐阜県教育文科財団2006『上惠土城跡・浦畠遺跡』（岐阜県教育文科財団文化財保護センター調査報告書 第101集）
- 財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター2011『財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター研究紀要』第17輯
- 真正町1975『真正町史 通史編』
- 真正町教育委員会1988『宗慶大塚古墳集濠範囲確認調査概報』
- 永井久美男1994『中世の出土錢—出土錢の調査と分類—』、兵庫埋蔵錢調査会
- 中野晴久2012『愛知県史 別編 烟業3 中世・近世 常滑系』、愛知県史編さん委員会
- 日本貿易陶磁研究会1982『貿易陶磁研究 第2号』
- 藤澤良祐2007『愛知県史 別編 烟業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県史編さん委員会
- 本巣市教育委員会2011『本巣市埋蔵文化財試掘・確認調査報告書—平成18年度～21年度—』
- 本巣市教育委員会2016『本巣市詳細遺跡分布調査報告書 改訂版』
- 本巣市教育委員会2016『本巣市内遺跡発掘調査報告書平成22年度～26年度』

発掘区全景（1）図版1



平成27年度発掘区全景（南から）

図版2 発掘区全景（2）



平成 27 年度発掘区全景（北が上）



平成 29 年度発掘区近景（北東から）

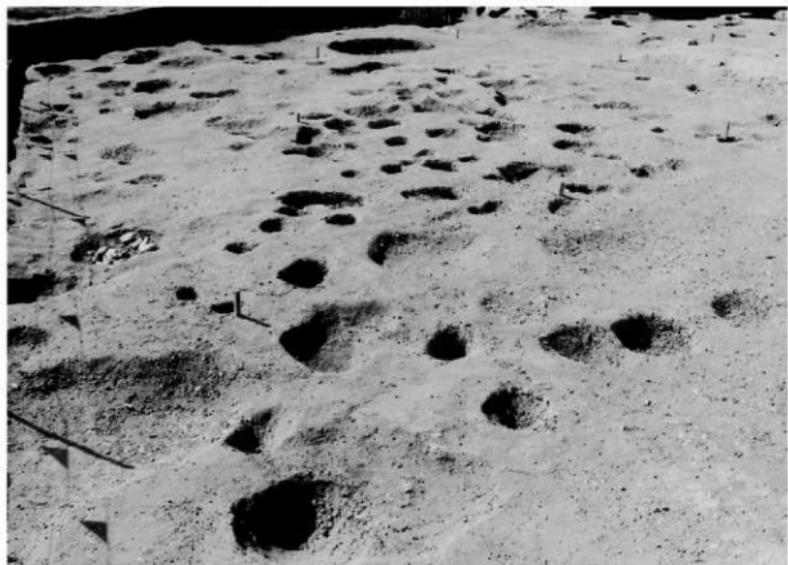


平成 29 年度発掘区近景（北から）

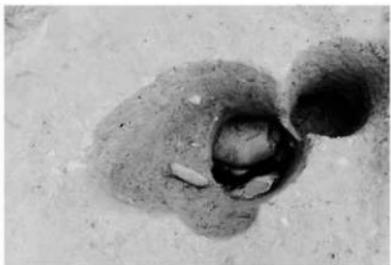
図版4 中世の遺構（1）



西側屋敷地近景（南東から）



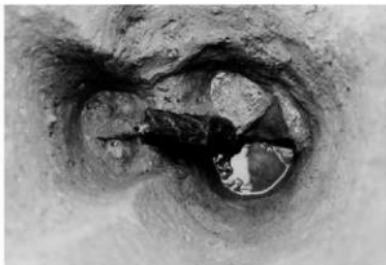
東側屋敷地近景（北から）



SB 1-P 1 完掘状況（南東から）



SB 1-P 6 完掘状況（南から）



SB 2-P 1 柱根出土状況（南から）



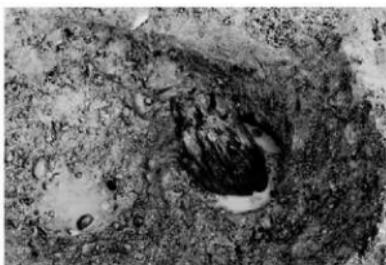
SB 3-P 3 銭貨出土状況（南から）



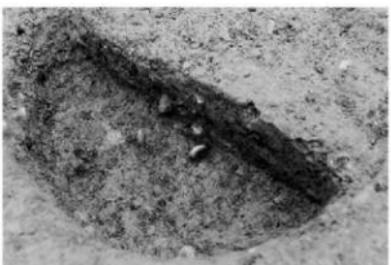
SB 3-P12 完掘状況（東から）



SP 6 遺物出土状況（南から）



SP 7 柱根出土状況（西から）

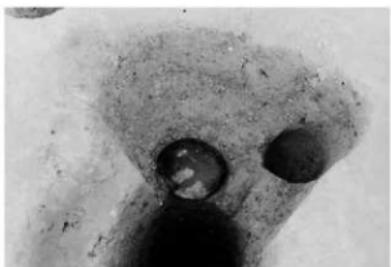


SP 8 銭貨出土状況（南西から）

図版6 中世の遺構（3）



SP26 完掘状況（南から）



SP47 完掘状況（南西から）



SP50 遺物出土状況（南から）



SP51 完掘状況（（西から）



SP57 土層断面（西から）



SP59 柱根出土状況（南から）



SP89 柱根出土状況（北から）



SP92 柱根出土状況（北から）



SD 1・2 完掘状況（北から）



SD 3 完掘状況（北西から）

図版8 中世の遺構（5）



SD9・10 完掘状況（北から）



SD12・13・14 完掘状況（南東から）



SD15 完掘状況（北から）



SD15 完掘状況（北東から）



SD15・19 完掘状況（南東から）



SD17 完掘状況（西から）



SD18 遺物出土状況（北から）



SD19 外縁部土師器皿出土状況（南東から）



SD23 完掘状況（北から）



SD16・21 完掘状況（東から）

図版 10 中世の遺構（7）・近世以降の遺構



SD21 完掘状況（南西から）



SD26・28 完掘状況（南から）



SE 1 井戸枠検出状況（北西から）



SE 1 井戸枠出土状況（北西から）



SE 1 竹材出土状況（南西から）



SE 1 曲物出土状況（西から）



SE 1 完掘状況（西から）

図版 12 中世の遺構（9）



SE 2 曲物出土状況（南から）



SE 2 挖方土層断面（南から）



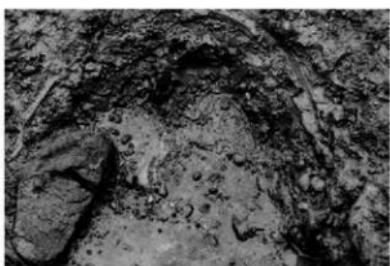
SE 3 磚出土状況（北東から）



SE 3 木片出土状況（北東から）



SE 3 完掘状況（北東から）



SE 3 完掘時木片出土状況（北東から）



SE 4 磚出土状況（北西から）



SE 4 井戸枠内土層断面（東から）



SE4 完掘状況（東から）



SE4 掘方土層断面（東から）



SE4 竹材出土状況（東から）



SE5 上層土層断面（南から）



SE5 編物出土状況（南から）

図版 14 中世の遺構 (11)



SE 5 井戸枠出土状況（南から）



SE 5・SK451 検出状況（北から）



SE 5 挖方・SK451 土層断面（北から）



SE 5 横桟出土状況（北から）



SE 5 南西隅柱・横桟接合状況（北から）



SE 5 井戸枠内土層断面（北から）

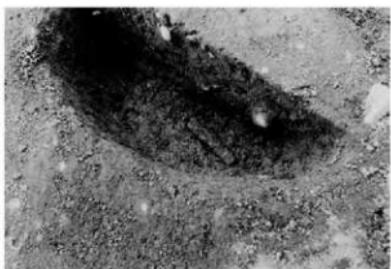


SE 5 完掘状況（北から）

図版 16 中世の遺構 (13)



SP78 砥出土状況（南から）



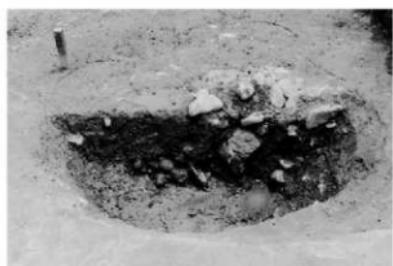
SP83 遺物出土状況（南から）



SK176 遺物出土状況（南西から）



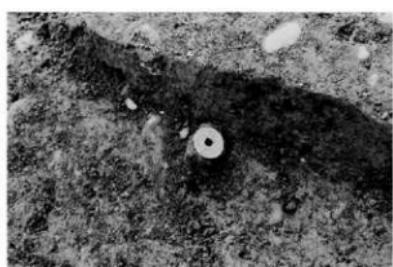
SK279 砥出土状況（北から）



SK285 土層断面（西から）



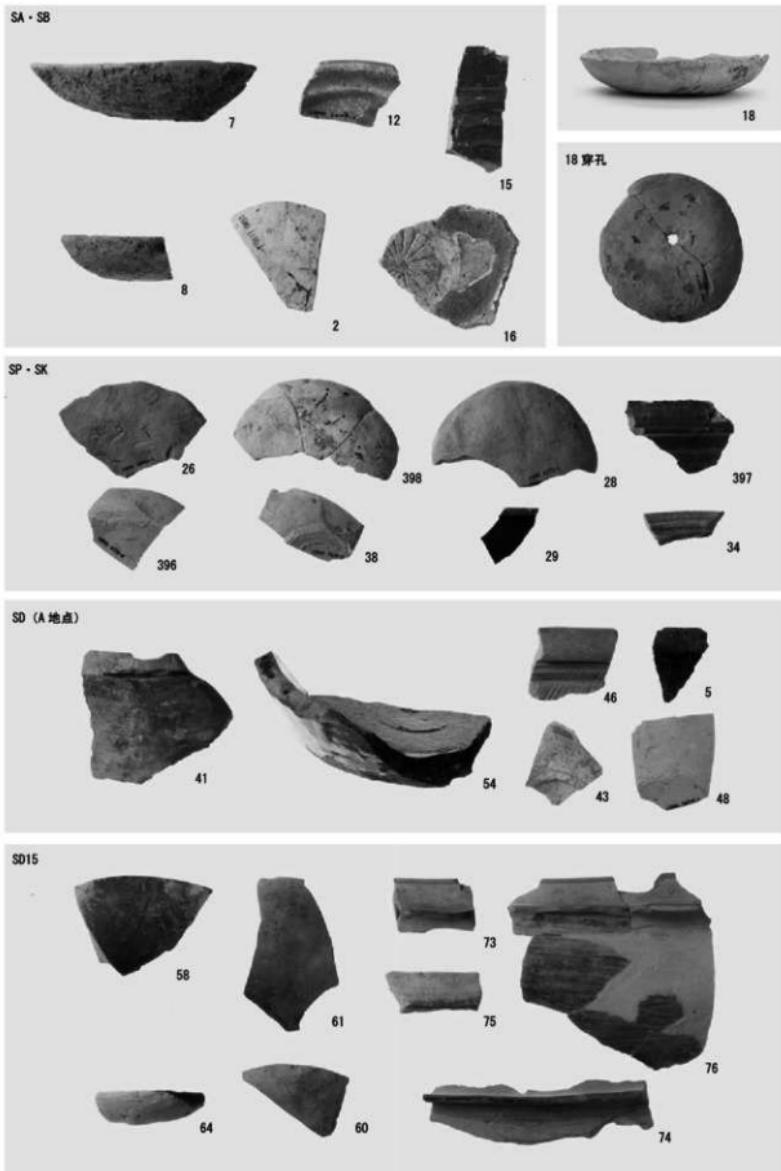
SK285 遺物出土状況（北西から）



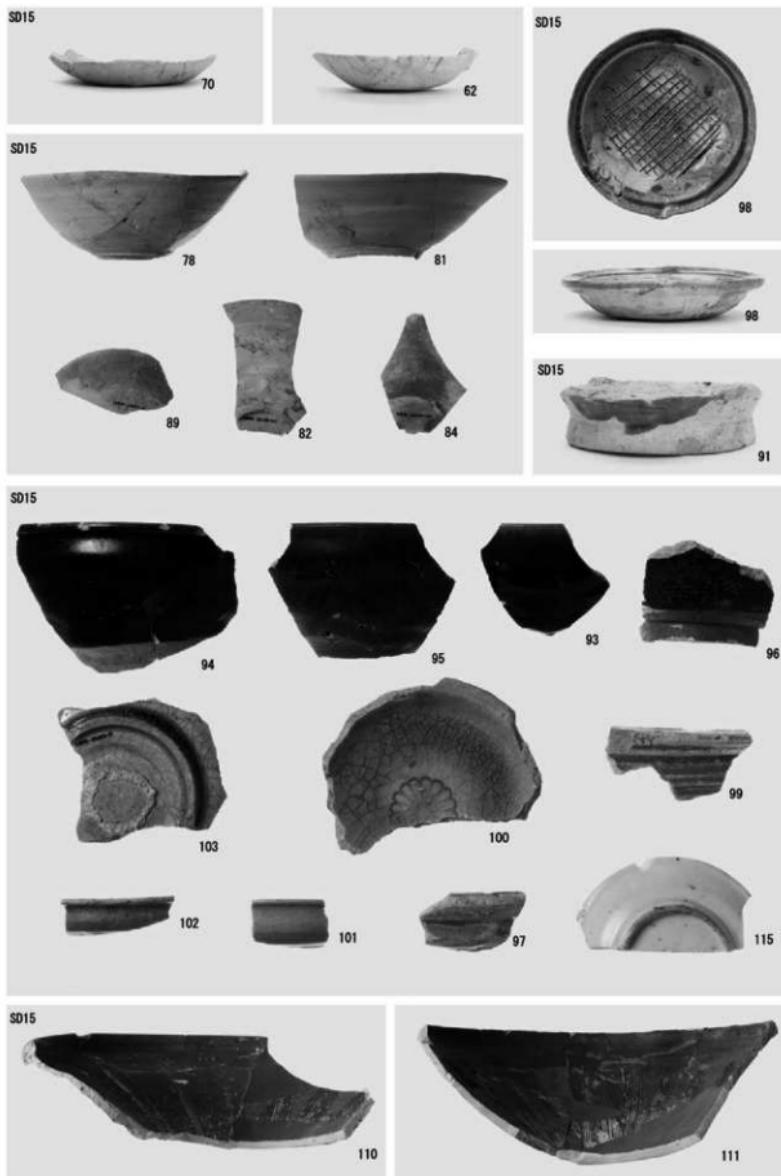
SK405 鉄貨出土状況（東から）



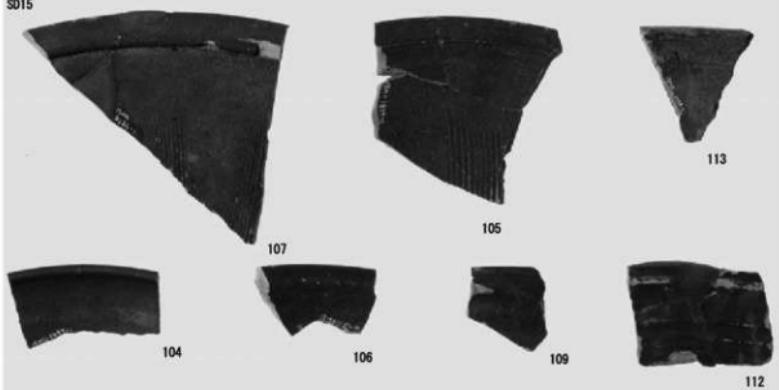
SK503 土層断面（西から）



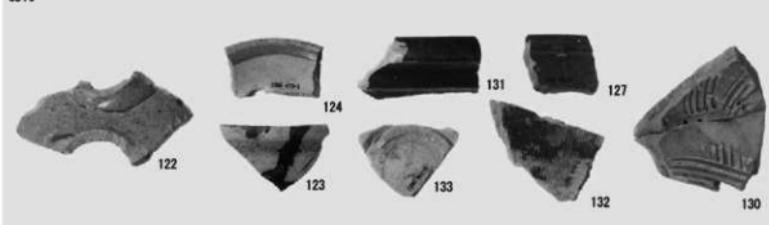
図版 18 出土遺物 (2)



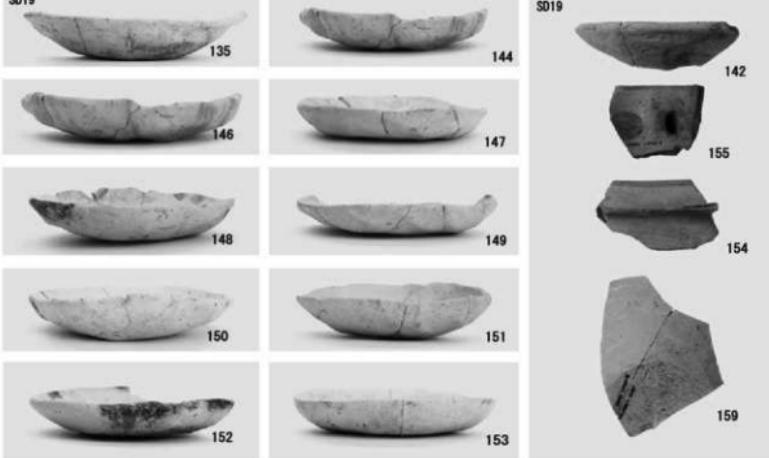
SD15



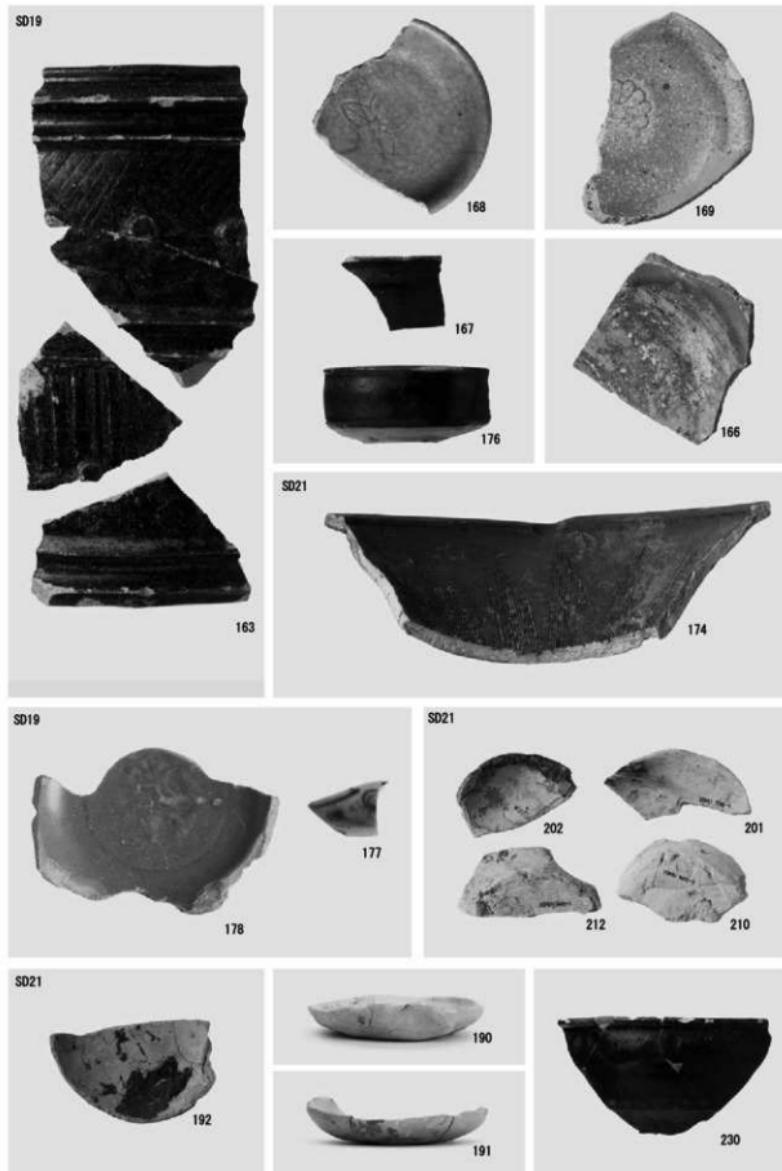
SD16

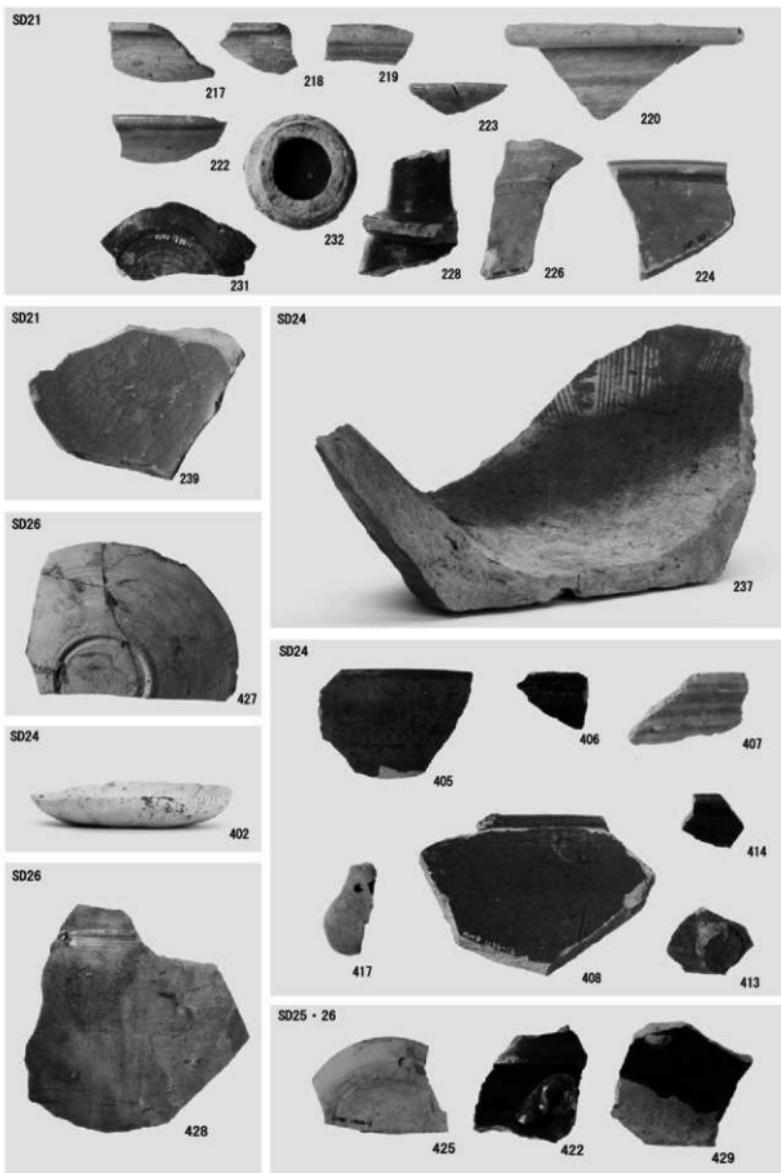


SD19

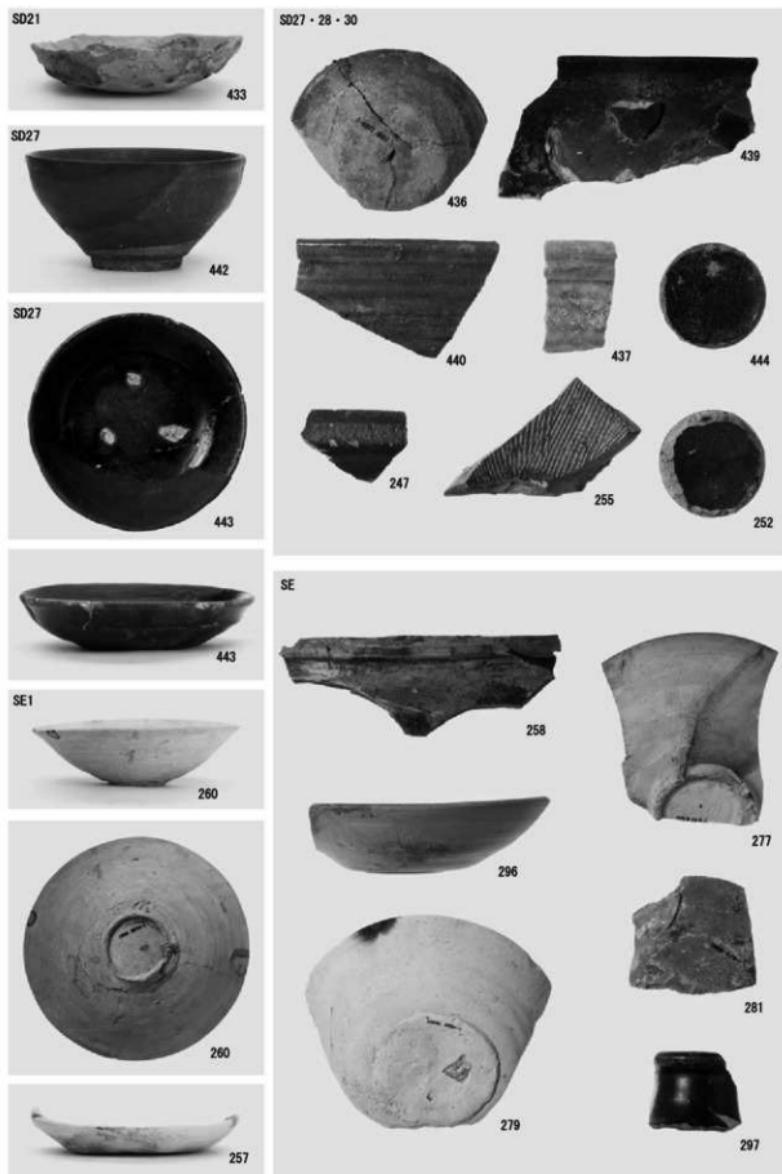


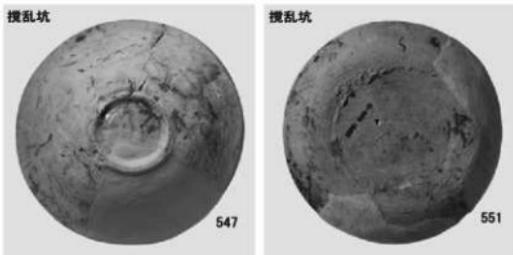
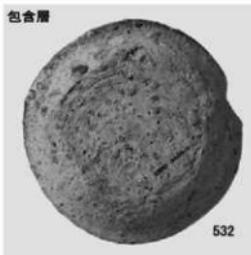
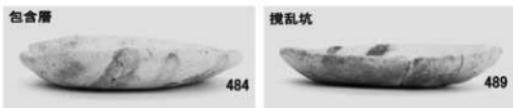
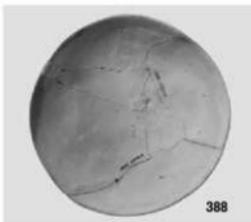
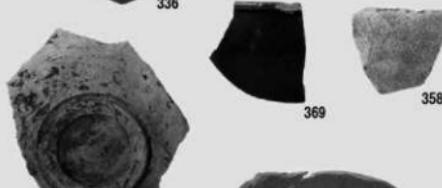
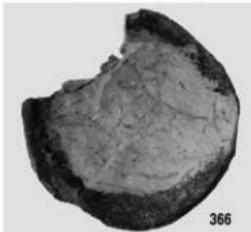
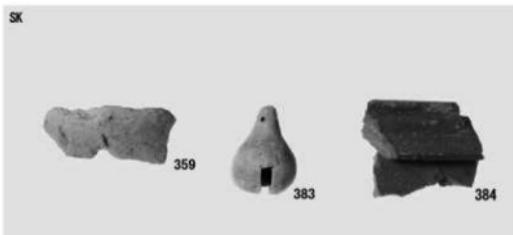
図版 20 出土遺物 (4)





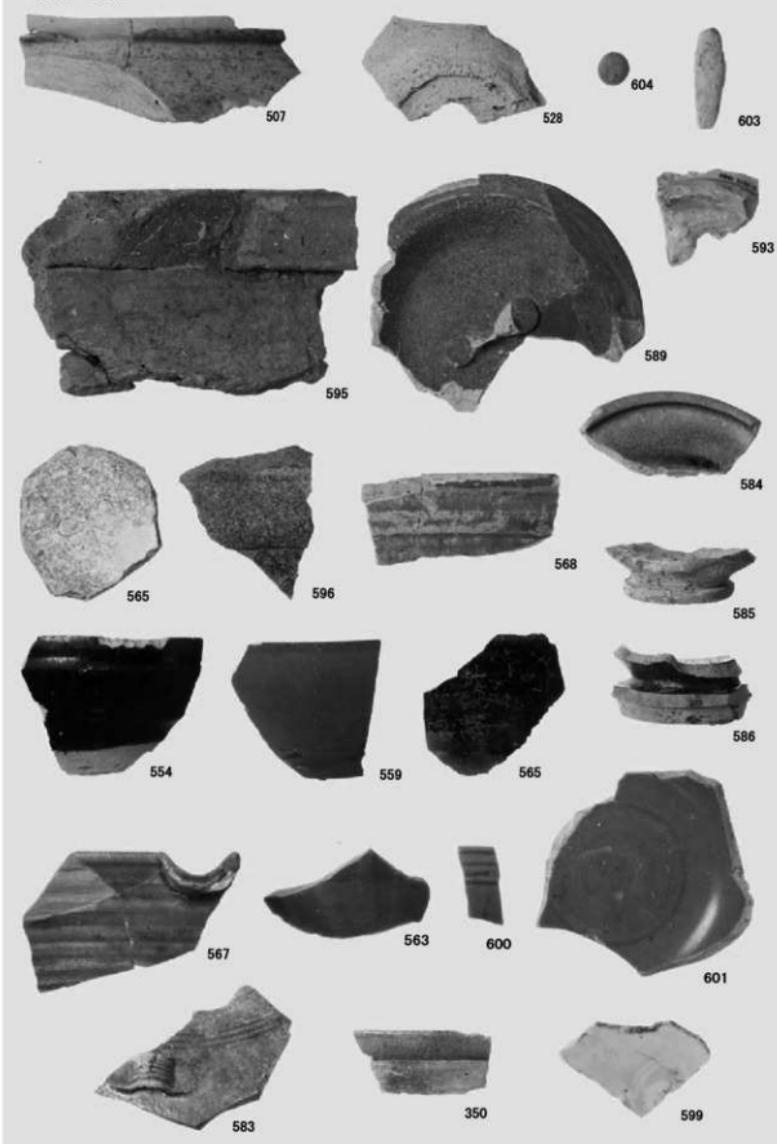
図版 22 出土遺物 (6)



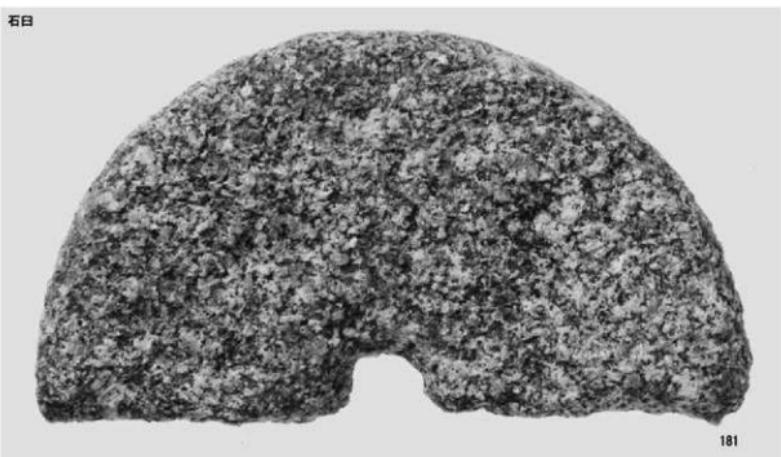


図版 24 出土遺物 (8)

SK・撲乱坑・包含層



石臼



381 表面

381 裏面

磁石



262



117



480



116



606



352



459

加工櫛・叩石



391



354

図版 26 出土遺物 (10)

金属製品



36



613



609



282



612



418



419



610



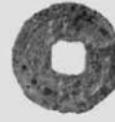
365



373



9



5



386



376



374



611



19



20



21



22



23



24



25



179



180



184



185

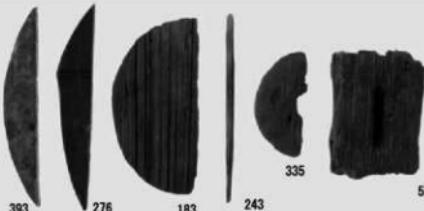


186

柱根



木製品



柱根



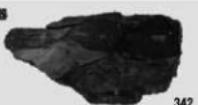
柱根・棒材



柱根



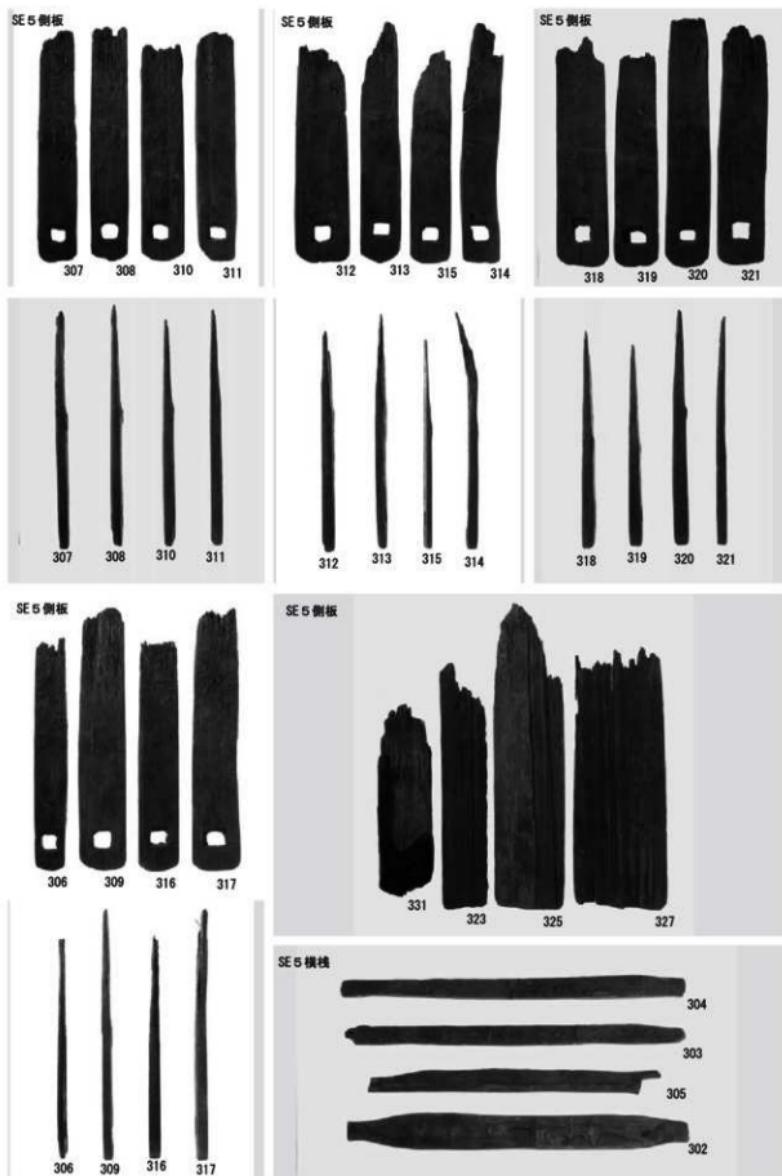
漆器



SE 1 横桿

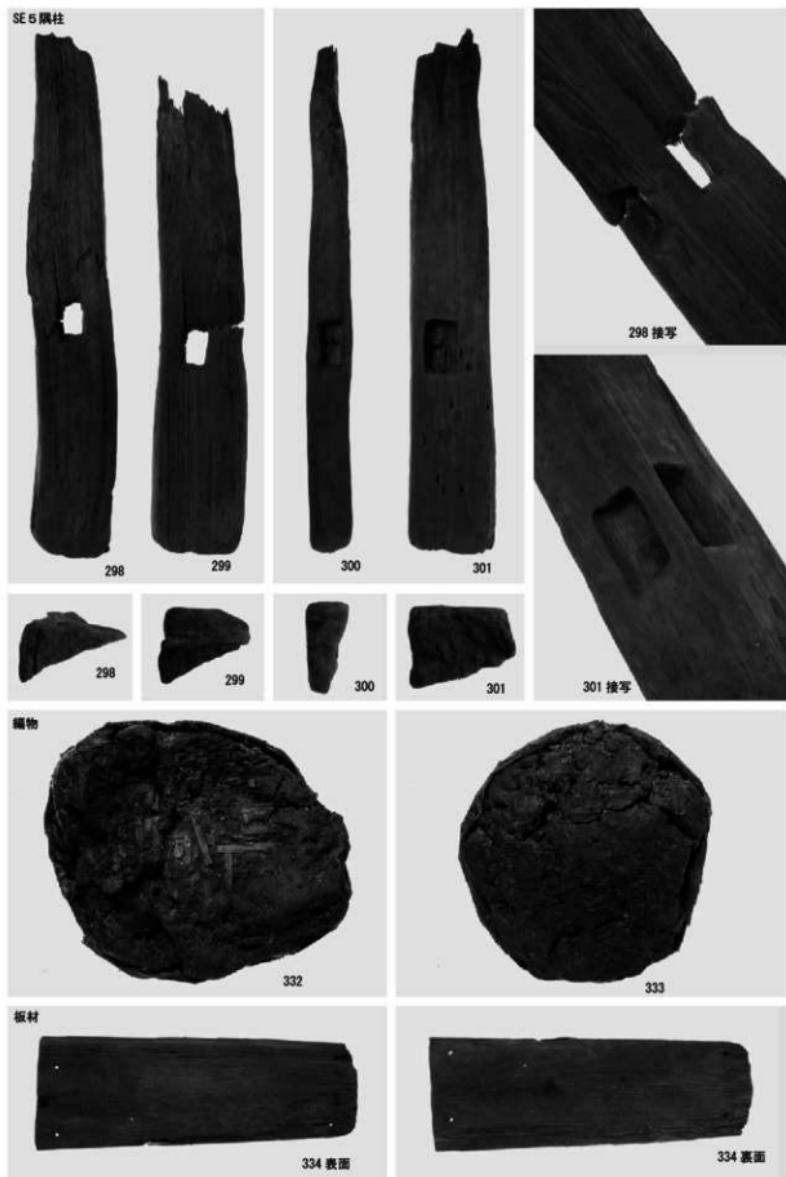


図版 28 出土遺物 (12)





図版 30 出土遺物 (14)



報 告 書 抄 錄

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第141集

政田仙道上遺跡

2019年2月28日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ